2011 年度　研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人文科学研究所
研究所・センター長名	小関　素明　(文学部・教授)

Ⅰ．研究実績の概要 (公開項目)

1．研究会活動の概要

人文科学研究所は現在、1．史料の収集・蓄積を重視した日本近代思想史研究、2．現在社会を解読するために哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索、3．グローバル化の問題点の検証とそれへの実践的な課題の模索、を共同研究の柱に掲げている。その目標のもとに以下の 5 つの研究所重点プロジェクト研究①「近代日本思想史―戦後憲法論議の再検討―」(代表：赤澤史朗)、②「暴力からの人間存在の回復」(代表：加國尚志)、③「間文化性における知の混沌と異化」(代表：谷徹)、④「グローバル化とアジアの観光」(代表：藤巻正己)、⑤「グローバル化と公共性」(代表：松下冽)と、2011 年度からは以下の 3 つの研究助成プロジェクト⑥「大学の自治の制度構想」(代表：中島茂樹)、⑦「戦後沖縄の基地・都市」(代表：加藤政洋)、⑧「人文科学方法論」(代表：筒井淳也)を設置した。

2．資料収集・調査活動

これに力をいれて取り組んだのは①と④である。①は 2009 年以来 3 年間にわたって外部研究者や院生の協力を得て、1950 年代の全国の地方新聞に掲載された憲法関連論説を収集し、それらを入念に分析した後に厳選し、最終年度である今年度に成果報告書(科学研究費調査報告書)として史料集『1950 年代の憲法論議』を刊行した。④はマレーシア、フィリピン、インドネシアにおけるエコツーリズムに関する現地調査を試みたほか、東日本大震災を直視するなかで、災害などを観光資源に転用するダークツーリズムがはらむ問題点にも関心を向けた。

3．学際研究への取り組み

いずれの研究会も通常の研究会の開催の中に人的・組織的な学際的交流を含んでいるが、それ以外にあえて特記すべき活動事項としては、②が Arne Zerbst 氏(ドイツ　ヴァイエルン科学院)を招請して国際講演会「芸術の哲学的構築ー思弁と直観の間のシェリングの『芸術哲学』」を開催したほか、国際ネットワーク作りに尽力した。③が香港、アメリカ、オーストリアから研究者を招聘し、第 3 回＆第 4 回間文化現象学シンポジウム(テーマ「精神と共存」)を開催した。⑤がランカスター大学ボブ・ジェソップ氏、元国連大学副学長の武者小路公秀氏とアジア諸国からの専門家を提言者として、国際シンポジウム「転換期の東アジア」を 2 日間に渡って開催し、充実した意見交換を行った。

4．社会貢献

②は土曜講座の連続講座(2011 年 4 月)「戦争からの人間存在の回復」の企画・実行を通じて、研究ネットワークの拡大と研究成果の社会的発信を行った。また、この講座での竹山博英氏の講演「アウシュヴィッツからの回復ープリーモ・レーヴィの場合」は、氏が監修した 2011 年度国際平和ミュージアム秋季特別展「プリーモ・レーヴィ―アウシュヴィッツを考えぬいた作家」の内容とも連動しており、同ミュージアムの展示活動にも貢献した。

④は東日本大震災以降、関心が高まった被災地ツーリズムへの実地調査を構想した。

5．若手研究者の支援

①～⑤のすべての研究会が博士後期課程の院生を中心とした若手研究者をメンバーに加え、学術報告や成果執筆の機会の提供や指導・研究資金の分与などを行っている。さらに若手研究者にワークショップの企画を委ねるなど研究者として自立するに際して必要な経験の機会を与えたプロジェクトも存在する。それらを含めた支援が博士論文完成を促し、その充実を助けたケースも存在する。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

[No.1 プロジェクト名：戦後憲法論議の再検討]

1. 赤澤史朗 「近年の象徴天皇制研究と歴史学」,『同時代史研究』4 号, pp. 62-68, (2011)

2. 小関素明 「明治維新「革命」論－権力の「原点」と普遍化の技法－」,『史創』, 史創研究会, 2 号, pp. 6-26, (2012)

3. 梶居佳広 「イギリスからみた「５０年代改憲論」－駐日大使報告・新聞論説を中心に―」,『立命館大学人文科学研究所紀要』第 97 号, pp. 1-36, (2012)

4. 頴原善徳 「八月革命説再考のための覚書」,『立命館大学人文科学研究所紀要』第 97 号, pp. 37-62, (2012)

5. 林尚之「近代日本の思想司法」,『立命館大学人文科学研究所紀要』第 97 号, pp. 63-90, (2012)

6. 城下賢一 「占領期の遺族厚生連盟とその政治的影響力」,『立命館大学人文科学研究所紀要』第 97 号, pp. 91-114, (2012)

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]

7. ウェルズ恵子 「笑いと回復のための語り―ゾラ・ニール・ハーストンの『騾馬と人間』を読む（ヴァナキュラー文化研究会:語りえない人々の語りに関する超域的研究）」,『立命館言語文化研究 』23(1), pp15-29, (2011)

[No.3 プロジェクト名：間文化性における知の混淆と異化]

8. 亀井大輔 「二つの痕跡の交差――デリダとレヴィナスのあいだで」,『倫理学研究』, 関西倫理学会, 第 41 号, pp. 102-112, (2011)

9. 青柳雅文 「内在的批判への道程――アドルノのイギリス滞在期間におけるフッサール研究――」,『現象学年報』, 日本現象学会, 第 27 号, pp. 97-104, (2011)

10. 池田裕輔「アンリとフィンクにおける現象概念の展開について」,『ミシェル･アンリ研究』第 1 号, pp. 115-135, (2011)

11. 池田裕輔 「前期フィンクにおける間主観性の現象学」,『立命館哲学』, 立命館大学哲学会, 第 23 集, pp. 39-66, (2012)

[No.5 プロジェクト名：グローバル化と公共性]

12. 西口清勝 “The East Asian Economies after the Global Economic Crisis and the Course Japan should take: Focusing on GMS(Greater Mekong Sub-Region) Development Plan,” Ritsmeikan International Affairs, Vol.10, pp. 1-36, (2011)

13. 松下冽 「民主的ローカル・ガヴァナンスとシナジー型『国家－市民社会』関係(下)―インド・ケーララ州が提起する課題」,『立命館国際研究』第 23 巻 3 号, pp. 63-105, (2011)

14. 松下冽 “Beyond the Neoliberal Globalization: Reflections on Democra- tizing Democracy and the Multilayered Structure of Governance”,『立命館国際研究』第 24 巻 1 号, pp. 127-146, (2011)

図書

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]

1. 竹山博英『プリーモ・レーヴィ　アウシュヴィッツを考えぬいた作家』, 言叢社, (2011)

2. ウェルズ恵子『バラク・オバマの言葉と文学：自伝が語る人種などの影響』, 共著, 彩流社, (2011)

②論文（査読なし）

雑誌論文

[No.1 プロジェクト名：戦後憲法論議の再検討]

1. 小関素明「近代日本における「共和主義」と民本主義（原論文は日本語。韓国語の翻訳あり）」,『東アジアにおける「共和」の受容と変容：思想と制度（掲載誌標題は韓国語）』, 高麗大学亜細亜問題研究所, pp. 101－129, (2011)

2. 林尚之「原子力時代における日本国憲法の「革命」-核問題と憲法全面改正論-」,『史創』, 史創研究会, 第 2 号, pp. 55-70, (2012)

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]
3.加國尚志　「沈黙と偶然-田辺元『マラルメ覚書』をめぐって」,『思想』, 岩波書店, No.1053,pp.57-74,(2012)
4.加國尚志　「メルロ＝ポンティ哲学における文学と両義性」,『立命館文学』,立命館人文学会, 第625号,pp.90-103 (2012)
5.黒岡佳柾　「ハイデガーと「行為」」,『立命館文学』,立命館人文学会, 第625号,pp.283-296,(2012)
6.小菊裕之　「実在と虚構のあいだにある「理念」-カント共通感覚論をめぐるアーレントとリオタール」,『立命館文学』,立命館人文学会, 第625号,pp.297-307,(2012)
[No.3 プロジェクト名：間文化性における知の混淆と異化]
7. Toru Tani, "Das Ich, der Andere und die Urtatsache", *Aufnahme und Antwort, Phänomenologie in Japan*, Königshausen & Neumann, pp.97-117, (2011)
8. Toru Tani, "Interkulturalität, Krisis und Phänomenologie", *Globalisierung des Denkens in Ost und West*, Verlag Traugott Bautz GmbH,S.83-101, (2011)
9. 谷徹　「身体と混血」,『西田哲学会年報』, 西田哲学会（燈影舎）, 第8号,pp.50-68,(2011)
10. 谷徹　「危機における生と生活世界」,『立命館文学』,立命館大学人文学会, 第625号,pp,66-78,(2012)
11. 亀井大輔　「歴史・出来事・正義—後期デリダへの一視点」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会,第625号,pp.115-126,(2011)
12. 亀井大輔　「哲学の言語と翻訳——デリダにおける翻訳の問題」,『科研費基盤研究（B)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』, pp.483-494, (2012)
13. 青柳雅文,「コルネリウスの思想とフランクフルト学派への影響」,『立命館文学』,立命館大学人文学会, 第625号,pp.261-270, (2012)
14.青柳雅文　「管理と逸脱——管理社会における間文化性」,『科研費基盤研究（B)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』, pp.288～301, (2012)
15. 佐藤勇一「出来た作品と完成した作品——ボードレール、マルロー、メルロ＝ポンティ——」,『立命館文学』,立命館大学人文学会, 第625号,pp.250-260, (2012)
16. 神田大輔　「フッサール現象学における〈厳密な学としての哲学〉という理念のなす要求について」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会,第625号,pp.236-249,(2012)
17. 田邉正俊　「ハイデガーにおける気づかい（Sorge）をめぐる一考察」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第625号,pp.271-282, (2012)
18. Yusuke Ikeda, "Vergegenwärtigung und Bild- Eugen Finks BeiträgezurPhänomenologie der Welt und Erneuerung des Phänomenbegriffes", *Philosophy, Culture, History*, Russian State University for the Humanities, pp.98-103, (2011)（※ドイツ語論文のロシア語訳が掲載されたが、便宜上ドイツ語原文の題目と、英語の書名を記す）
19. 池田裕輔　「世界、有限性、構成——三十年代フィンク思想の世界性概念、有限性の問題および構成概念についての考察」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第625号,pp.318-331,(2012)
20. Yusuke Ikeda, "Selbstgegebenheit und „Erleben des Erlebnisses" - eineVorgeschichte des Problems des „Erscheinensalssolchen"",『科研費基盤研究（B)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』,pp.197-205, (2012)
[No.4 プロジェクト名：グローバル化とアジアの観光]
21.藤巻正己　「特集　アジアのツーリズム空間の生成過程とトランスナショナルな人の移動：序言」,『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.1-7,(2012)
22.生田真人　「東南アジアの観光開発—タイとインドネシアの４地方都市を事例に—」『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.9-48,(2012)
23.井澤友美、「インドネシア・バリ州におけるサステイナブル・ツーリズムの実践—トリ・ヒタ・カラナをめぐる政策と政治—」『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.49-78,(2012)
24.江口信清　「コミュニティ・ベイスト・ツーリズムとしてのホームステイ事業—マレーシア・サバ州タンダサン・

シニシアン村の事例から―」,『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.79-106,(2012)
25.四本幸夫 「観光が注目される農村の社会的変化―フィリピン・イフガオ州キアンガン町ナガカダン村を事例にして―」,『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.107-140,(2012)
26.薬師寺浩之 「低開発国におけるバックパッカー観光客の責任ある行動に関する考察」,『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.141-172(2012)
27.大野哲也 「標準化する『放浪』―ネパール・カトマンズにおける日本人宿の形成過程から―」,『立命館大学人文科学研究所紀要』98号,pp.173-207,(2012)
28.Yukio Yotsumoto, "Profiles of Hawkers Working in Rizal Park, Manila, Philippines: Socio-Economic Status, Migration Motivations, and the Sale of Goods", *Ritsumeikan International Affairs*, Institute of International Relations and Area Studeis, vol.10,pp.303-320,(2011)
29.David Peaty, "Kilimanjaro Tourism and What It Means for Local Porters and for the Local Environment", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, Institute of Humanities, Human and Social Sciences, Vol. 4, pp.1-11,(2012)
30.Niti Wirudchawong, "Policy on Community Tourism Development in Thailand", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, Institute of Humanities, Human and Social Sciences, Vol. 4,pp.13-26,(2012)
31.Hiroyuki Yakushiji, "The Value of Craft Products Development for Pro-Poor Tourism Growth in Bhaktapur, Nepal", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, Institute of Humanities, Human and Social Sciences, Vol. 4,pp.27-51,(2012)
32.Yuji Yamamoto,"Preliminary Research on Nepalese Immigrants Workers in Penang: Gurukha Veterans ' Connection for Overseas Nepalese Workers", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, Institute of Humanities, Human and Social Sciences,Vol.4,pp.53-78, (2012)
[No.5 プロジェクト名：グローバル化と公共性]
33.中谷義和「『国家』への視座」,『立命館法学』第333・334号併合,pp.983-1034,(2011)
34.篠田武司「ワーク・ファミリー・バランスからみるスウェーデン・モデル」(塚田淑子編『スウェーデンのいま』,ノルディック出版,pp.1-15,(2011)
35.堀雅晴 「民主的ガバナンス・ネットワーク論:Eva Sørensen & Jacob Torfingのマルチ理論アプローチの場合」,『立命館法学』第333・334号,pp.1194-1286,(2011)
36.堀雅晴「ガバナンス論の到達点：ガバナンス研究の回顧と展望をめぐって」(新川達郎編『公的ガバナンスの動態研究』,ミネルヴァ書房,pp.50-78,(2011)
37.文京洙 「後日韓関係の歩みと相互認識」,『アジア・アフリカ研究』,アジア・アフリカ研究所,第51巻第1号,pp.10-27.(2011)
38.加藤雅俊 「福祉国家再編分析におけるアイデア・利益・制度(2)―制度変化の政治学的分析に向けて」,『北大法学論集』,pp1-48,(2011)

図書

[No.1 プロジェクト名：戦後憲法論議の再検討]
1. 赤澤史朗 「占領期日本のナショナリズム―山田風太郎の日記を通して」,市川正人・徐勝編『現代における人権と平和の法的探求』,日本評論社,pp.188-212,(2011)
[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]
2.谷徹 「暴力の現象学」, 『応用哲学を学ぶ人のために』(戸田山和久、出口康夫編),世界思想社,pp.136-147,(2011)
[No.4 プロジェクト名：グローバル化とアジアの観光]
3.江口信清・藤巻正己編 『災害と観光―地域観光学の可能性―2011年立命館地理学会シンポジウム記録』,立命館大学文学部地理学教室,53p,(2012)

[No.5 プロジェクト名：グローバル化と公共性]

4. 西口清勝著・劉暁民訳『現代東亜経済論－奇跡・危機・地域合作』, 厦門大学出版社, 中国、厦門, (2011)
5. 文京洙・川瀬俊治・菊池憲一・秋葉武ほか 5 名共編『危機の時代の市民活動―日韓社会的企業最前線』, 東方出版, 296p, (2011)

２）学会発表

①海外での発表

[No.3 プロジェクト名：間文化性における知の混淆と異化]

1. Toru Tani, "Life and the Life-world in Crisis", The Organization of Phenomenological Organizations, OPO VI World Conference on Phenomenology: Reason and Life, The Responsibility of Philosophy, IE Universidad, Segovia, Spain, 2011 年 9 月 20 日
2. Masafumi Aoyagi, "Phenomenological Antinomy and Holistic Idea -Adorno's Husserl-studies and influences from Cornelius", The Organization of Phenomenological Organizations, OPO VI World Conference on Phenomenology: Reason and Life, The Responsibility of Philosophy, IE Universidad, Segovia, Spain, 2011 年 9 月 20 日
3. Takuji Kobayashi, "The Rational Construction and the Life-World on Husserl's Phenomenology", The Organization of Phenomenological Organizations, OPO IV World Conference on Phenomenology: Reason and Life. The Responsibility of Philosophy, Segovia, Spain, 2011 年 9 月 20 日.
4. Yusuke Ikeda, "Die Verwandlung des Phänomenbegriffes im Hinblick auf die Tradition der Logik- Ein Vor-Fragen anhand des Weltbegriffes bei Kant und Husserl", Die Institution der Philosophie, University of Wuppertal, Germany, 2011 年 5 月 6 日
5. Yusuke Ikeda, " Phenomenology of intersubjectivity in the early Fink ", 5thSimposiaPhaenomenologicaAsiatica, Chinese University of Hong-Kong, Hong-Kong, 2011 年 8 月 4 日
6. Yusuke Ikeda, "Vergegenwärtigung und Bild - Eugen Finks Beiträge zur Phänomenologie der Welt und Erneuerung des Phänomenbegriffes", Philosophy, Culture, History, Russian State University for the Humanities, Moscow, Russian Federation, 2011 年 12 月 12 日
7. Yusuke Ikeda, "Phänomenologie der Welt und Phänomenbegriff in der frühen Philosophie Eugen Finks", Contemporary Problems on the Ontology, Saint Petersburg State University, Russian Federation, 2011 年 12 月 20 日

②国内での発表

[No.1 プロジェクト名：戦後憲法論議の再検討]

1. 梶居佳広「戦後憲法問題と新聞論説（1945-1957 年）」, 神奈川大学・プランゲ文庫研究会、神奈川大学, 2011 年 12 月 3 日
2. 吉田武弘 「住友陽文著『皇国日本のデモクラシー』」, 日本史研究会, 日本史研究会近現代史部会大会三日目書評会, 機関紙会館, 2011 年 10 月 10 日
3. 佐藤太久磨 「「大東亜国際法（学）」の構想力―その思想史的位置―」, 大阪歴史学会, 2011 年度大会, 神戸大学, 2011 年 6 月

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]

4. 黒岡佳柾 「「死」と他者との共同性に関する一考察――ハイデガー「時間の概念」論文を介して――」, 『関西倫理学会 2011 年度大会』, 関西倫理学会, 関西大学, 2011 年 10 月 29 日。
5. 黒岡佳柾 「ハイデガーと「大学」――「共に哲学する者」の共同性を巡って――」, 『第 33 回日本現象学会大会』、日本現象学会, 立命館大学, 2011 年 11 月 6 日

[No.3 プロジェクト名：間文化性における知の混淆と異化]

6. 谷徹 「間文化現象学――日中欧の文化的混血のなかで」, 第３回日中哲学フォーラム, 「日中の哲学者は現代と世界をどう捉えるか」（日本哲学会・中国社会科学院哲学研究所）, 慶應義塾大学（日吉キャンパス）, 2011 年 11 月 19 日
7. 小林琢自 「尾高朝雄と超越論的現象学――文化的対象性の現象学的考察」, 間文化現象学研究会, 「間文化現

象学プロジェクトワークショップ間文化性の未来に向けて―精神／共存から時間・歴史へ―」, 立命館大学, 2011年3月10日

8. 田邉正俊 「ケアリングの基礎づけをめぐる一考察――ハイデガーとメイヤロフを手がかりとして」, 日本現象学会, 第33回研究大会, 立命館大学, 2011年11月5日

9. 池田裕輔 「フィンクにおける超越論的仮象について」, 日本現象学会, 第33回研究大会, 立命館大学, 2011年11月6日

10. 池田裕輔 「前期フィンクにおける間主観性の現象学」, 立命館哲学会, 立命館大学, 2011年11月26日

３）省庁、学会、財団などの表彰

該当なし

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 科学研究費補助金 若手研究B (H23-25)「朝鮮戦争と日本の新聞論説」, 梶居佳広（代表）, 計351万円

2. 科学研究費補助金 若手研究 B (H23-25)「戦後日本政党政治における社会民主主義の位置―民社党の挑戦1960-71」, 城下賢一（代表）, 計270万円

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]

3. 科学研究費補助金（基盤C）(2010-2012)「メルロ＝ポンティ存在論における文学の位置づけ」, 加國尚志（研究代表）, 計70万円

[No.3 プロジェクト名：間文化性における知の混淆と異化]

4. 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (H20～24)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」, 谷徹（代表）, 計390万円

５）特許

①出願

該当なし

②取得

該当なし

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

該当なし

②講演会

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]

1. 竹山博英 「プリーモ・レーヴィ アウシュヴィッツを考えぬくこと」, 立命館大学国際平和ミュージアム, 2011年11月5日

2. 竹山博英 「アウシュヴィッツからの回復-プリーモ・レーヴィの場合」, 立命館大学土曜講座, 立命館大学末川記念会館, 2011年4月30日

③その他

[No2 プロジェクト名：暴力からの人間存在の回復]

1. 谷徹 「七九九年の河の流れ 鴨長明『方丈記』」 『現代思想 総特集 震災以後を生きるための50冊』7月臨時増刊号, 青土社, pp. 206-209, (2011)

以上

2011年度　研究所・センター事業報告書

研究所･センター名	国際地域研究所
研究所･センター長名	高橋伸彰

Ⅰ．研究実績の概要 (公開項目)

（対象とする研究領域・分野）

・本研究所の設立経緯に鑑みれば、国際関係学という学際的な学問領域における理論の蓄積と発展をベースにして、国際社会が直面しているグローバルな諸問題についての実態分析を試みたうえで、問題解決に向けた処方箋を提示・発信することがミッションである。その意味で、国際関係学の理論研究とグローバルな視点からの政治、経済および平和構築をめぐる諸問題の応用研究は、本研究所の両輪であり、両立すべき研究課題と言える。

・過去20余年にわたり活発な研究展開の中で、特に東アジアの地域研究に関しては内外から高い評価を得られるまでに至っている．また、国際地域研究の理論的基盤となる国際関係学に関しては、従来の「学際的」という領域規定に止まることなく、国際関係学を独立した「学問分野」として確立することを目標にした理論研究を行なう。

・さらに、新しい挑戦として日本研究を始める。2012年3月11日に東日本を襲った三陸沖を震源とするマグニチュード9の大地震は、我々が享受している文明の基盤がいかに脆く、また危険であるかを再認識する「転機」となった。大震災後の復興ヴィジョンを描く中で、近代以降の成長中心的な「発展」モデルを超えて、アジア発の持続的な「発展」モデルについて理論と実証の両面から研究を行う。

（2011年度重点プロジェクト）

・定評のある東アジア研究については､内外の研究機関との学術協力協定を活かしながら研究所として取り組むべき重要なテーマである。「日米中トライアングルの国際政治経済構造」は新しいステージの東アジア研究（例えば経済的な側面だけではなく環境的な視点も射程に入れた持続可能な発展の分析など）をスタートさせるうえで核となるプロジェクトである。

・また、国際地域研究の理論的基盤となる国際関係学に関しては、従来の「学際的」という領域規定に止まることなく、国際関係学を独立した「学問分野」として確立する理論研究が求められている。多様な既成の学問分野を総合することで成立していた従来の国際関係学を止揚し、国際関係学の専門性を深めることによって多様な学問分野との交通を図る研究を試みるために､「英国学派とポスト西洋型国際関係理論に関する批判的検討」および「20世紀国際関係史の中の｢冷戦｣の境界―冷戦史再検討の試み」を選択した。

・さらに、平和ミュージアムとの間で連携しながら平和研究を行なってきたという従来の経緯を尊重して、「平和･紛争研究プロジェクト(Peace and Conflict Studies Seminar)」を重点プロジェクトとして選択した。

（2011年度研究業績）

・論文、図書、学会発表、シンポジウム開催などの詳細な研究業績は別途公開されている通りであり、量的にも質的にも研究所のミッションを十全に反映する成果を収めることができた。その中でも、2011年12月17日から18日にかけて開催された「東アジアにおける人身取引と法制度・運用実態の総合的研究」プロジェクト、および2012年3月9日から10日にかけて開催された「ＡＳＥＡＮ・Ｄｉｖｉｄｅの克服とメコン川地域開発（GMS）」プロジェクトによる二つの国際シンポジウムをはじめ、各プロジェクトが内外から著名な研究者を招聘し、質の高い報告と活発な討議を通して、中身の濃いグローバルな研究交流に取り組んだことは本研究所ならではの研究成果であった。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

【英国学派国際関係理論研究会】

Satoko Kawamura, “GMO Trade in the Context of TRIPS: From the Perspective of an Autopoietic System Analysis,” Ritsumeikan International Affairs, Vol. 10, pp. 243-268,(2011)

Ceylan Tok Gul, 「Defending secularism: an analysis of the role of the military in the headscarf issue in Turkey」, 『立命館国際関係論集』,立命館大学国際関係学学会,11 号, pp.45–63(2011)

龍澤邦彦,「欧米の国際宇宙協力」,『Jaxa 宇宙活動研究会報告書』,(2011)

【平和・紛争研究会】

Surendra Bhandari and Jay Klaphake, “U.S. Trade Policy and the Doha Round Negotiations,” ” Ritsumeikan Annual Review of International Studies,” The International Studies Association of Ritsumeikan University, Vol.10, pp.71-93, (2011)

【メコン川開発研究会】

Nishiguchi,Kiyokatsu, ” The East Asian Economies after the Global Economic Crisis and the Course Japan Should Take: Focusing on GMS (Greater Mekong Subregion) Development Plan”, Ritsumeikan International Affairs, Vol.10, pp.7-42, (2011)

Watanabe Shou, Trends in Development and Isuues Related to IP Systems in Three GMS Countries: Cambodia, Lao PDR and Thailand, Ritsumeikan International Affairs, Vol.10, pp.95–118, (2011)

Matsuno Shuji, International Cross Border Economic Regions in East Asia: Greater Tumen Area (GTR) and Greater Mekong Sub-region (GMS), Ritsumeikan International Affairs, Vol.10, pp.143–158, (2011)

【途上国研究会】

松下洌「インド・ケーララにおけるガヴァナンス構築と社会運動（上）（中）――「政治社会-市民社会」関係の視点から――」『アジア・アフリカ研究』アジア・アフリカ研究所、51/2, pp. 1-31；51/04, pp. 27-47 (2011)

Jun Honna, “Japan and the Responsibility to Protect: Coping with Human Security Diplomacy,” The Pacific Review, Vol.25, No.1, March 2012, pp.95-112.

末近浩太「「テロ組織」が政党になるとき：第二共和制の成立と「ヒズブッラーのレバノン化」」『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会、24/1, pp. 67-100、(2011)

Masahiko Matsuda, “Intensification level of rice farming in Myanmar: Implication for its sustainable development” Environment, Development and Sustainability, 13/1, pp. 51-64, (2011)

山根健至,「忠誠と報奨の政軍関係：フィリピン・アロヨ大統領の国軍人事と政治の介入」,『東南アジア研究』, 京都大学東南アジア研究所, 48 巻 4 号, pp. 392-424, (2011)

【華人企業経営研究会】

韓金江、「中国企業の外国技術導入と対外 M&A による技術獲得」、『アジア経営研究』、17 号、pp.61-71、(2011)

向渝、「中国自動車企業の合弁パートナー選択と提携形成 ―広州汽車とホンダの乗用車合弁事業を通じた分析―」、『赤門マネジメント・レビュー』10 巻 10 号、pp. 701－752、(2011)

【北朝鮮問題研究会】

中戸祐夫「北朝鮮の対外行動に関する一考察－延坪島砲撃事件を事例としてー」『コリア研究』第 2, pp. 45-57, (2011)

図書

【英国学派国際関係理論研究会】

Ching-Chang Chen, “Useful Adversaries: How to Understand the Political Economy of Cross-Strait Security,” in Jean-Marc F et al. eds., New Thinking about the Taiwan Issue, London: Routledge,pp.48-70,(2011)

Ching-Chang Chen, “Is Japanese IR the next English School? in Ching-Chang Chen.et al., *Re-examination of 'Non-Western' International Relations Theories*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, pp.43-65,(2011)

Josuke Ikeda, " The ‘Westfailure’ Problem in International Relations Theory," in Ching-Chang Chen. et al., eds., *Re-examination of Non-Western International Relations Theories*, Kyoto: Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, pp.12-42,(2011)

Giorgiandrea Shani, "Identity Politics in the Global Sge," in Anthony Elliott ed., *The Rotledge Handbook of Identity Studies*, Routledge, pp.380-397,(2011)

【平和・紛争研究会】

Vidya Jain (ed.), *Peace, Non-violence and Gandhian Concerns*, Rawat Publications, (2011), Akihiko Kimijima "Global Constitutionalism and Japan's Constitutional Pacifism," pp. 178-201.

市川正人・徐勝編著『現代における人権と平和の法的探求――法のあり方と担い手論』、日本評論社、(2011),君島東彦「多面体としての憲法9条――1つの見取り図」、pp.173-187.

【メコン川開発研究会】

Matsuno, Shuji, Co-author in Jehoon Park and others eds., "Regionalism, Economic Integration and Security in Asia: A Political Economy Approach, Edward Elger, 181p. (2011)

②論文（査読なし）

雑誌論文

【日米中政治経済研究会】

関下稔「21世紀の多国籍企業概説—日—米—中トライアングル関係の経済的基軸を考える」『立命館国際地域研究』第34号、2011年10月、107-125頁。

関下稔「21世紀の多国籍企業の研究開発投資とその果実—USDIA2004とFDIUS2002の比較をもとに―」『立命館国際地域研究』第35号、2012年3月、

佐藤史郎「『核の倫理』の政治学」『社会と倫理』南山大学社会倫理研究所、2012年3月、53-72頁。

中川涼司「中国対外経済政策決定過程研究の新動向および米中経済交渉議題の変化」『立命館国際研究』第24巻第1号、2011年6月、101-126頁。

中川涼司「中国対外経済政策の新段階と政策決定主体、交渉チャネル、政策指向性の変化」『立命館国際地域研究』第34号、2011年10月、127-157頁。

【英国学派国際関係理論研究会】

Ching-Chang Chen, "Is Japanese IR the Next English School?" in Ching-Chang Chen, et al., eds., *Re-examination of Non-Western International Relations Theories*, Kyoto: Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, pp.43-65.(2011)

池田丈佑,「庇護から保護へ－他者救援をめぐる倫理の転換」,『社会と倫理』,25号, pp.241-254, (2011)

本名純,「ユドヨノと国軍の新たな関係」,『Indonesia Alternative Information』,No.126, pp.2-5.(2011)

【冷戦史再検討研究会】

益田実,「ヨーロッパ統合の歴史過程と東アジア ‒過去110年の経験は何を物語るか?」,『立命館国際地域研究』34号, pp. 37-58, (2011)

【日本経済研究会】

高橋伸彰『災後の復興に胚胎する脱成長の地域再生』生活経済政策2011.11月号

【メコン川開発研究会】

西口清勝、民政移管後のミャンマー、立命館経済学、60巻6号、2012年、55－72頁

仲上健一・濱崎宏則・野中淳子、「メコン河流域開発と気候変動への戦略的適応策」、『環境技術』第４０巻第９号、pp.13-18、(2011)

【EU研究会】

安江則子、「リスボン条約後のＥＵオンブズマンの制度と機能—国境を越えたオンブズマン・ネットワークの可能性」、『行政苦情救済＆オンブズマン』vol.22（日本オンブズマン学会誌６号）9－13頁、2011年７月

【華人企業経営研究会】

守政毅、「華人ビジネスネットワークの連結機能 ‐香港中華総商会を中心に‐」、『立命館経営学』、第50号第6巻、pp.1-21、(2012)

陳晋、「中国の市場変化と企業成長」、『立命館経営学』、第50号第1巻、pp.1-15、(2011)

【ヒューマン・トラフィキング研究会】

吉田美喜夫「外国人技能実習制度の今後について」労働法律旬報1748号（2011年7月下旬号）4－5頁

図書

【英国学派国際関係理論研究会】

Jun Honna, “Rebuilding: Lessons from Aceh,” in Jeff Kingston, ed., Tsunami: Japan’s Post-Fukushima Future, (2011), pp. 176-180.

安藤次男「新しい日米関係をどう作るか」大久保史郎他編『日本は変わるか!?』法律文化社、(2011)、52-66

安藤次男『現代アメリカ政治外交史』法律文化社、(2011)

【冷戦史再検討研究会】

妹尾哲志，『戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963～1975 年』，晃洋書房，296p. (2011)

妹尾哲志，山本健（分担執筆），『複数のヨーロッパ—欧州統合史のフロンティア』，北海道大学出版会，340p. (2011)

【平和・紛争研究会】

ベルタ・フォン・ズットナー著／山根和代ほか訳『武器を捨てよ（上・下)』、新日本出版社、上 286 頁、下 302 頁、(2011)

【EU 研究会】

安江則子編著、『ＥＵとフランス』法律文化社、全 217 頁、2012 年 1 月

【北朝鮮問題研究会】

Sachio Nakato, “Security Dynamics in Northeast Asia: Emerging Confrontation between U.S.-ROK-Japan vs. China-Russia-DPRK,” U.S.-China Relations and Korea Unification, Korea Institute for National Unification, pp. 37-61, (2011)

２）学会発表

①海外での発表

【英国学派国際関係理論研究会】

Ching-Chang Chen, “The "Loss" of Ryukyu Revisited: China's No Use of Compellence in the Sino-Japanese Border Dispute, 1879-1880,” International Workshop on Theorising Asia: The Development of Post-Western International Relations Theory. Jindal School of International Affairs, O.P. Global University, India, (24 Feb. 2011).

Giorgiandrea Shani, “The Promise of Post-Western IR: Religion, Identity and Human Security,” International Workshop on Theorising Asia: The Development of Post-Western International Relations Theory. Jindal School of International Affairs, O.P. Global University, India (24 Feb. 2011).

Giorgiandrea Shani, “Desecularizing Human Security”, International Relations Department Seminar, London School of Economics, London, U.K., (15 Nov.2011)

Giorgiandrea Shani, “Decolonizing Biopolitics: Race, Religion and the Limits of Poststructural IR,” British International Studies Association Workshop: Postcoloniality and the Limits of Poststructural International Relations. University ofAberdeen, U.K., (18 Nov.2011)

Josuke Ikeda, “The ‘Westfailure’ Problem in International Relations Theory: what was wrong with it and what to do about it,” International Workshop on Great Powers, World Order and International Society: History and Future, Jilin University, China, (4 Sep. 2011).

【冷戦史再検討研究会】

Tetsuji Senoo, The border issues of Germany during the Cold War: the meanings of Willy Brandt’s Ostpolitik Intellectual Exchange Conference and Seminar supported by the Japan Foundation, "The Meaning of Borders in the Age of Globalization: Europe and Asia", Subotica (Serbia), 13 September 2011

【メコン川開発研究会】

Matsuno, Shuji, “Unstable Cross Border Economic Cooperation among China, DPRK and Russia facing to a New Phase of the World Economy”, The North Korea Policy Forum, The Plaza Hotel, Seoul, Korea, April 12, 2011.

②国内での発表

【日米中政治経済研究会】

佐藤史郎「『核の倫理』の逆説—核兵器使用をめぐる倫理の国際政治学」、日本国際政治学会関西例会、関西学院大学、2011 年 12 月 3 日

【英国学派国際関係理論研究会】

Ching-Chang Chen, “Is Japanese IR the Next English School?” 2011 年度『日本政治学会』研究大会、岡山大学（2011 年 10

月8日)。
Josuke Ikeda, “Buddhism Building a Bridge Ui, Watsuji, and Nakamura on the idea of Inter-civilizationality,” 2011年度『日本政治学会』研究大会、岡山大学 (2011年10月8日)。
川村仁子「国際社会における『支配からの自由』の現代的意義:共和主義的視座からの考察」『南山大学社会倫理研究所2011年度第2回懇話会』南山大学、(2012年2月4日)。
Satoko Kawamura, “Progress in the Social System,” Ritsumeikan Uji 2012 International Student Forum (ISF), Ritumeikan Uji, (18 Feb. 2012).
安高啓朗「Economic Aspects of International Society」『英国学派研究会国際シンポジウム英国学派国際関係論と脱覇権の国際秩序』、立命館大学(2012年3月26日)。
【冷戦史再検討研究会】
山本健, 「ヨーロッパの年」の日欧関係、1973-74年」, 日本EU学会, 松山大学, 2011年11月6日
妹尾哲志,「ブラント政権の東方政策と独米関係、1969~1972年」, 日本国際政治学会2011年度研究大会, つくば国際会議場, 2011年11月13日
村上友章, 「戦後日本外交と冷戦史」, International Workshop on the Cold War History, 立命館大学, 2012年2月15日
【平和・紛争研究会】
シン・ヒョンオ、「韓国における平和的生存権論」、日本平和学会2011年度春季研究大会、新潟・新潟国際情報大学、2011年6月5日
野島大輔、「21世紀の『世界秩序の学習』――軍縮・不拡散教育の新たな展開を踏まえて」、日本平和学会2011年度秋季研究集会、広島・広島修道大学、2011年10月29日
Kazuyo Yamane, “Making Asia-Pacific Network of Museums for Peace,” Asia-Pacific Peace Research Association, 2011 Conference, Kyoto, Ritsumeikan University, October 14-16, 2011.
Surendra Bhandari, “Constitution-making as Post-Conflict Peace-building: the Case in Nepal,” Asia-Pacific Peace Research Association, 2011 Conference, Kyoto, Ritsumeikan University, October 14-16, 2011.
Albie Sharpe, “The Health, Development and Community-Building Filter: Setting up a research project in a post-conflict environment,” Asia-Pacific Peace Research Association, 2011 Conference, Kyoto, Ritsumeikan University, October 14-16, 2011.
Patporn Phoothong, “Politics of Recollection: A Case Study of Museums in Thailand,” Asia-Pacific Peace Research Association, 2011 Conference, Kyoto, Ritsumeikan University, October 14-16, 2011.
【メコン川開発研究会】
西口清勝、ASEAN域内経済協力の新展開とメコン川地域開発(GMS)、国際セミナー「ASEAN Divideの克服とメコン川地域開発(GMS)、2012年3月9日、立命館大学衣笠キャンパス、京都府
小山昌久、Beyond Land Linked Country, Lao PDR、国際セミナー「ASEAN Divideの克服とメコン川地域開発 (GMS)、2012年3月9日、立命館大学衣笠キャンパス、京都府
仲上健一、GMS開発とヴェトナムにおける環境保全、国際セミナー「ASEAN Divideの克服とメコン川地域開発 (GMS)、2012年3月9日、立命館大学衣笠キャンパス、京都府
守政毅、中国とGMS－華人ネットワークの検討を中心に－、国際セミナー「ASEAN Divideの克服とメコン川地域開発 (GMS)、2012年3月10日、立命館大学衣笠キャンパス、京都府
西澤信善、GMS開発と日本のアプローチ、国際セミナー「ASEAN Divideの克服とメコン川地域開発 (GMS)、2012年3月10日、立命館大学衣笠キャンパス、京都府
西口清勝、「『アジア共同体』か『ＡＰＥＣ共同体』か」、２１世紀東アジア青少年大交流計画「日中学術交流講演会」、立命館大学末川記念会館ホール、2011年7月28日.
【EU研究会】
龍澤邦彦「国際機構と国家主権の制限　EUの場合」憲法学会、2011年5月
【華人企業経営研究会】
守政毅、「華人ビジネスネットワークの連結機能」多国籍企業学会西部5月部会、近畿大学、2011年5月21日
陳晋・林松国、斯飛玲「中国電動二輪車メーカー「緑源」の成長戦略」中国経営管理学会第12回研究大会、日本大学、2011年6月4日

林松国「卸売市場牽引型の地域経済発展モデル―中国浙江省義烏市の発展事例―」 朝鮮族研究学会関西支部部会 2011年7月30日

向渝「中国自動車企業の合弁パートナー選択と提携形成」グローバル自動車研究会、2011年5月14日。

【北朝鮮問題研究会】

中戸祐夫「北朝鮮の攻撃的な対外行動対外行動に対する一考察－第2次核実験を事例として－」2011年度研究大会日本国際政治学会平和研究分科会、2011年11月12日

3）省庁、学会、財団などの表彰

4）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

奨学寄附金　財団法人人間自然科学研究所　（2011.10.1-10.31）

「アジア太平洋における平和研究の新たな課題」、君島東彦、計100万円　（平和・紛争研究会）

陳慶昌、若手研究B(2011-2012)「『中国の脅威』と『台湾人』の誕生：冷戦後の台湾の安全保障政策に関する一考察」研究代表者（英国学派国際関係理論研究会）

池田文佑、科学研究費補助金・若手研究B（2010-2011）「複合的人道危機に対する国際的救援をめぐる倫理学-国際関係論的研究」計156万円、研究代表者（英国学派国際関係理論研究会）

競争的研究費・科学研究費補助金基盤研究Ｂ（海外学術調査）、（H9-11）（日本学術振興会）、

「ＡＳＥＡＮ・Ｄｉｖｉｄｅの克服とメコン川地域開発（ＧＭＳ）に関する国際共同研究」、西口清勝（代表）、松野周治他７名（分担）、計１，７６８万円　（メコン川開発研究会）

競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　（H24－H26）（日本学術振興会）「東南アジアにおける人身取引問題のガバナンスの構造と市民社会の役割に関する研究」、山根健至（代表）、計299万円（途上国研究会）

受託研究　公益財団法人村田学術振興財団　第27回研究助成、株式会社村田製作所（2011年7月－2012年6月）「東南アジアにおける人身取引対策の重層的ガバナンスの研究～制度とアクターの相互関係とその機能：フィリピンの事例から」、山根健至、計65万円（途上国研究会）

競争的資金・科学研究費補助金基盤研究Ｃ（平成22年度から平成24年度）研究課題名「ＥＵエージェンシーのリスク分析機能に関する研究」安江則子（代表）（EU研究会）

競争的資金・科学研究費補助金若手研究Ｂ(H22～H24)(日本学術振興会)

「東アジア3カ国・地域の経済環境における華人企業の戦略構築に関する比較研究」、守政毅(代表)、計160万円（華人企業経営研究会）

5）特許

①出願

該当なし

②取得

該当なし

6）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

中川涼司「TPP交渉参加　構造的変化をとらえ議論を」『京都新聞』2011年11月5日（日米中政治経済研究）

②講演会

日中学術交流講演会「―中国社会科学院青年研究者代表団を迎えて―」2011年7月28日、末川記念会館講義室

立命館未来フォーラム（2012年10月22日水野和夫氏・12月2日神野直彦氏講演）（日本経済研究会、復興支援室共催）

陳晋「中国市場の変化と日系企業の戦略選択―欧米中韓企業の戦略との比較」関西経済連合会・立命館大学大学院共催『中国ビジネス講演会』、立命館大学大阪キャンパス、2011年6月2日（華人企業経営研究会）

諸成鎬（ジェ・ソンホ）氏（韓国・外交通商部元人権大使、中央大学教授）講演会「朝鮮半島情勢と南北関係展望」2011年6月

16日、恒心館721号室（北朝鮮問題研究会）
講演会「自由を求めた北朝鮮青年との対話「自由を求めて鴨緑江を越えた北朝鮮青年との対話」の開催について」2012年12月6日、恒心館731号室（北朝鮮問題研究会）

③その他

第5回東アジア専門家会議「東北アジア地域協力と中朝関係」(2011年7月22日、於立命館大学学而館)
第6回東アジア専門化会議（国地研･上海社会科学院共催）「日本震災後の日中経済関係」(2011年8月1日、於上海社会科学院)
中川涼司「TPPを巡る日本国内の議論と今後の展望」、中川亮平「震災後の日本経済」報告（日米中政治経済研究会）
シンポジウム「二つの訪朝団が見た平壌―中ロとの関係を強める経済動向を中心に―」創思館カンファレンスルーム、2011年11月7日（北朝鮮問題研究会、コリア研究センター共催）
国際会議「東アジアにおける人身取引の実態と課題」立命館大学創思館カンファレンスルーム、2011年12月10-11日（ヒューマン・トラフィキング研究会）
国際ワークショップ「冷戦の境界を求めて」立命館大学衣笠キャンパス学而館第2研究室2012年2月15日(冷戦史再検討研究会)
ＧＭＳ国際セミナー「ASEAN･Divideの克服とメコン川地域開発（ＧＭＳ）」立命館大学衣笠創思館カンファレンスルーム、2012年3月9-10日（メコン川開発研究会）
連合総研主催『「新たな豊かさ」を考える−「成長」か「脱成長」か』をテーマにしたシンポジウムにて「戦後日本における成長政策の批判的検証」について高橋伸彰報告。盛山和夫氏ほかと同テーマでパネルディスカッション。
立命館大学国際地域研究所・東京大学産学連携プロジェクト「21 世紀の日本の進路を考える会」合同ワークショップ「災後社会の長期的条件：資本主義システムの変容と日本」キャンパスプラザ京都、2012年3月10日（以上2件、日本経済研究会）
国際シンポジウム「英国学派国際関係論の現在と秩序・正義・共生」立命館大学朱雀303号室、2012年3月26日（英国学派国際関係理論研究会）

以上

2011 年度　研究所・センター事業報告書

研究所･センター名	国際言語文化研究所
研究所･センター長名	崎山　政毅（文学部･教授）

Ⅰ．研究実績の概要 (公開項目)

2011 年度，国際言語文化研究所（以下，言文研と略す）では ①秋季連続講座，②紀要発行，③研究所重点研究プログラム，④萌芽的および継続研究プロジェクト，⑤出版助成，⑥図書収集の 6 点を基軸として，2015 年度末までの「総合計画」に沿った活動を行い，下記の通り，当初の計画で予想されたものを上回る成果を挙げた。

① **連続講座**《グローバル・ヒストリーズ》第 2 弾は，2011 年 10 月の毎週金曜日 17：30 から末川記念会館第 3 会議室を会場に，「歴史のなかの感覚変容」をテーマに公開研究ワークショップを開催した。いずれの回も，アクチュアルな問題設定をめぐって参加者と報告者の議論が充実したものとなった。なおそれらの記録をもとにした成果は，報告者およびコメンテータらが執筆する論文として，本年度第 2 号の言文研紀要『立命館言語文化研究』(9 月末発行予定）に掲載される。

② **研究所紀要**『立命館言語文化研究』については，年度内に予定どおり，第 23 巻の第 1 号～第 4 号を，テーマごとの特集論集と投稿論文（査読付き）からなる研究ジャーナルとして刊行した。とくに海外から高名な研究者を招聘して開催した学術講演会の記録を論文化して公刊したこと，および先端総合学術研究科主催の国際学術ワークショップの成果を特集として掲載できたことは，本学の研究高度化および国際化にとって重要な一助となったと考える。

③ **研究所重点プロジェクト**では，運営委員会の審議を通じて厳選された，下記の計５プロジェクトに取り組んだ。

1) 環カリブ地域の言語圏横断的文学および文化の研究
2) 近赤外分光法(fNIRS)を用いた第 2 言語習得脳内メカニズムの解明
3) 国際正義共生研究会（カタストロフィと正義）
4) 在外日本人の強制移動における国家的枠組の比較研究：下記 5)プロジェクトとの連携を重視する
5) 在外日本人の非文字データ研究：上記 4)プロジェクトとの連携を重視する。

各プロジェクトとも，研究所総合計画との調和を意識的に求めながら，それぞれの年度目標を十分に達成し，言文研の今後の活動基盤となりうる実績を挙げた。いずれのプロジェクトも，「総合計画」のもとで若手の育成・活躍の場を整えながら，今年度以降の継続による研究の展開と深化をつうじて，立命館の人文・社会科学研究高度化に着実に寄与するものと総括できる。

④ **萌芽的および継続研究プロジェクト**は，言文研の特質を表して多様性に富むものが 9 つ計画され，いずれもがプロジェクトの目的を十分かつ適正に達成するものとなった。それらの中でも「国際日本文化研究会」・「ヴァナキュラー文化研究会」・「ヴィジュアリティ研究会」は，紀要や論集によって，若手研究者・後期課程院生らの業績を蓄積したのみならず，言文研を研究の場とするプロジェクトの活発な展開を社会的に明確に示すものとなった。

⑤ **出版助成**については，仲間裕子教授らの「21 世紀風景論研究会」は，日・独での論集の同時刊行および国際美学会・後援の学術ジャーナル（英語）の発行にとって大きな助力となった。なおそれらの刊行物は高い評価を得ていることを付記しておきたい。

⑥ **図書収集**については，従来の蓄積に加え（移民・比較文学)，研究所重点プロジェクトにもとづく新たなニーズにしたがって，本邦の他の研究機関では類例を見ないコレクション（カリブ地域関係）の収集が進みつつある。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 近藤宏,「鳥の声を聞く――パナマ東部先住民エンベラにおける動物をめぐる言説の諸相」,『生存学』, 生活書院, 4号, pp. 196-207, (2011)
2. Hideyuki Taura and Aoi Nasu, 'The Effects of Onset-Age and Exposure Duration on the L2 as Observed in Brain Activation: an fNIRS Study', *Studies in Language Science, 2,* 19-42, (2012).
3. 西成彦「『非国民』としての恥を越えて : 大城立裕『ノロエステ鉄道』を読む」,『生存学』第4号, pp. 139－150, (2011)
4. Fuminori Minamikawa, The Japanese American "Success Story" and the Intersection of Ethnicity, Race, and Class in the Post-Civil Rights Era, "Japanese Journal of American Studies" No. 22, pp. 193-212, (2011).
5. 河原典史, 「『前川家コレクション』にみる女性と子供たち：カナダ・バンクーバー島西岸の日本人」, 『京都民俗』, 京都民俗学会, 28号, pp. 111-130, (2011)
6. 佐藤量, 「1950年代中国の近代化と対日協力者：旅順工科大学出身中国人同窓会を事例に」『ソシオロジ』, ソシオロジ編集室, 56巻2号, pp. 39-55, (2011)
7. 石田智恵, 「所属をわずらう移民」, 『生存学』第4号, 生活書院, pp. 125-128, (2011)
8. 梁仁實,「帝国日本を浮遊する映画（人）たち（ただし, 原文はハングル）」,『国際高麗学会ソウル支部論文集』, 国際高麗学会ソウル支部, 14巻, pp. 95-120, (2012)
9. 大西仁, 「小宮山天香『聯島大王』論―明治二十年代における主体的日本人男性像の形成―」,『日本文藝学』48号, pp. 69-85, (2012)
10. 啓悟「「雑沓」系列の射程ー宮本百合子「雑沓」「海流」「道づれ」と社会主義リアリズム」『昭和文学研究』 昭和文学会　第64集　2012年3月
11. 佐々木祐「先住民集団の「発見」: 19－20 世紀ニカラグアにおけるエスニシティ編成に関する歴史民族誌」, 京都大学大学院文学研究科社会学専攻・博士学位神聖論文, 2011年10月（既に受理, 学位・博士（文学）授与済み)
12. 宮本直美「日本における音楽祭の変遷とオーセンティシティ」、『社会学評論』第62巻3号、2011年、375-391ページ。

図書

なし

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 中川成美, 「国際日本文化研究理論研究会：日本文学研究理論の構築―フランス―：はじめに」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23巻1号, p. 149, (2011)
2. 中川成美, 「文学的想像力へのみちー日本比較文学研究の状況と課題ー」,『日本比較文学会創立60周年記念論文集　越境する言の葉―世界と出会う日本文学』, 日本比較文学会編、彩流社、pp. 13-23、(2011)
3. 西成彦, 「カリブは周縁か：はじめに」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23巻2号, pp. 93-99, (2011)
4. 中村隆之, 「「高度必需」とは何か？――フランス海外県からポストコロニアル状況を考える――」, 「『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23巻2号, pp. 101-111, (2011)
5. 久野量一, 「キューバ, 肯定の詩学と否定の詩学」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23巻2号, pp. 113-120, (2011)
6. 鈴木慎一郎,「カリブ海のユートピア/ディストピア」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23巻2号, pp. 121-128, (2011)
7, 崎山政毅, 「前衛の機械――エストリデンティスモとメキシコにおけるラジオ放送」,『立命館文学』623号, pp.

32-48, (2011)

8. 崎山政毅,「低迷する社会闘争, 飛躍を狙う国家連合――ラテンアメリカの現状から」,『ピープルズ・プラン』57 号, pp. 76-85, , (2012)

9. Dumouchel, Paul, "Political violence and the idea of justice",『立命館言語文化研究』第 23 巻 4 号, pp. 109-115, (2012)

10. 後藤玲子,「民主主義の非決定性を逆手に取る――ポジショナル評価に配慮した社会的選択手続きの可能性――」,『立命館言語文化研究』23 巻 4 号, 立命館大学国際言語文化研究所, pp. 1-7, (2012)

11. 村上慎司,「デモクラシーにおける公共的理由／理性の基礎理論の試論」,『立命館言語文化研究』23 巻 4 号, 立命館大学国際言語文化研究所, pp. 65-76, (2012)

12. 河原典史,「カナダにおける日系ガーディナーの先駆者たち (3)：農業技術者であった中村親子」"The Year of Membership Roster 2011", pp. 22-29, 1 (2011)

13. 河原典史, 「水産報告書にみる 20 世紀初頭の北米西岸のサケ缶詰産業」, 『国際常民文化研究機構年報』, 神奈川大学日本常民文化研究所, 2 号, pp. 88-99, (2011)

14. 石田智恵, 「日本人の不在証明と不在の日系人」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在へのアプローチ (生存学研究センター報告 17)』, 立命館大学生存学研究センター, pp. 208-241, (2012)

15. 坂口満宏, 「戦後日本の移民問題」,『人権と部落問題』, 部落問題研究所, 第 811 号, pp. 6-15, (2011)

16. 坂口満宏, 「出移民研究の課題と方法-1930 年代の福島県を中心に-」, 『京都女子大学大学院文学研究科紀要 史学編』, 京都女子大学, 第 11 号, pp. 1-26, (2012)

17. 坂本利子,「南アフリカの真実和解委員会と女性たちの証言」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23 巻 2 号, pp. 83～92, (2011)

18. 池内靖子,「ジェンダー研究会シンポジウム：バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー――「女性国際戦犯法廷」10 年を迎えて―：はじめに」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23 巻 2 号, pp. 171～177, (2011)

19. 村本邦子,「戦時性暴力/日常の性暴力―南京ワークショップからの報告―」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23 巻 2 号, pp. 183～185, (2011)

20. (翻訳) 金　友子, YANG Hyunah (梁 鉉娥) (著), 「韓国人「軍慰安婦」問題について日本政府の責任を求めることは民族主義の発露なのか―体系的強かんの植民地系 (coloniality)―」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23 巻 2 号, pp. 229～245, (2011)

21. 岡野八代,「「慰安婦」問題と日本の民主化」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23 巻 2 号, pp. 247～259, (2011)

22. 李文茹,「植民地台湾における日本人農業移民ー坂口[illegible]子の移民三部作をめぐって」(韓国語),『日本研究』, 韓国：高麗大学校, 16 巻, pp. 129～163, (2011)

23. 池内靖子,「ジェーン・ジン・カイセン監督の映画『女と孤児と虎』――抗争の場をひらく声と語り」,『インパクション』180 号, pp. 206－210, (2011)

24. 大西仁,「他者を「飼い慣らす」想像力について-「賽徳克・巴萊」と『あまりに野蛮な』をめぐって-」,『葦の葉』, 日本文学協会近代部会, 324 号, pp. 1-3, (2011)

25. Fox, Charles E., 「『捨て石』としての小笠原？」,『立命館言語文化研究』第 23 巻 2 号, pp.61-70, (2011)

26. Fox, Charles E.,"Natives and others: prewar representations of the Ogasawara/Bonin Islands (Empire at the margins : Ogasawara (Bonin) Islands as the gateway to the South)",『立命館言語文化研究』第 22 巻 4 号, pp.53-68, (2011)

27. 石原俊「小笠原－硫黄島から日本を眺める――移動民から帝国臣民, そして難民へ」,『立命館言語文化研究』第 23 巻 2 号, pp. 27-38, (2011)

28. 森宣雄「歴史の外部と倫理――グローバル・ヒストリーの歴史哲学によせて」,『立命館言語文化研究』第 23 巻 2 号, pp. 39-60, (2011)

29. 内藤由直,「〈占領と開拓〉の問題系――「占領開拓期文化研究会」活動・成果報告――」,『立命館言語文化研

究』，立命館大学国際言語文化研究所，　23 巻 3 号，pp. 1-3，（2012）
30. 内藤由直，「犬田卯「開墾」の普通選挙批判――プロレタリア文学運動の方向転換に対する反措定――」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，　23 巻 3 号，pp. 5-19，（2012）
31. 禧美智章，「影絵アニメーション『煙突屋ペロー』とプロキノ――1930 年代の自主製作アニメーションの一考察――」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，　23 巻 3 号，pp. 21-33，（2012）
32. 雨宮幸明，「能勢克男の小型映画『疏水　流れに沿つて――』論――近代都市京都への映画的考察――」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，　23 巻 3 号，pp. 35-52，（2012）
33. 和田崇，「終戦直後の関西雑誌メディア」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，　23 巻 3 号，pp. 53-65，（2012）
34. 伊藤純，「小林多喜二全集の編纂過程――『貴司山治日記』にみるその表裏――」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，　23 巻 3 号，pp. 67-83，（2012）
35. 崎山政毅「低迷する社会闘争，飛躍を狙う国家連合――ラテンアメリカの現状から」，『ピープルズ・プラン』第 57 号，pp. 76-85，（2012）
36. 崎山政毅「前衛の機械――エストリデンティスモとメキシコにおけるラジオ放送」，『立命館文學』第 623 号，pp. 32-48，（2011）
37. 崎山政毅「《グローバル・ヒストリーズ》をめぐって――トランスアトランティック／トランスパシフィックな視点をもとに」，『立命館言語文化研究』第 23 巻 3 号，pp. 1-9，（2011）
38. 小長谷英代，「アメリカの「民俗」と「口承性」―バラッドにおける差異の構築とナショナリズム」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 3-14, (2011)
39. ウェルズ恵子，「ゾラ・ニール・ハーストンの『騾馬と人間』を読む」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 15-30, (2011)
40. 佐藤渉，「あるアボリジナル・コミュニティの文化運動―クリル・クリル儀礼とワーマン派絵画の誕生」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 31-46, (2011)
41. 荒このみ，「日系アメリカ人強制収容とアンセル・アダムズの写真記録」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 47-90, (2011)
42. 関口英里，「戦後日本のメディアイベントにおける消費文化の「語り」―東京オリンピックと日本万博を通して」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 91-102, (2011)
43. 田中寛「戦争被害と感情の記憶をめぐる省察―731 部隊遺跡保護運動が語る記憶の傷痕」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 103-126, (2011)
44. 江川ひかり「遊牧民女性の技と記憶―西北アナトリア，ヤージュ・ベディルの人びととの交流から」，『立命館言語文化研究』，立命館大学国際言語文化研究所，23 巻 1 号，pp. 127-139, (2011)
45. 崎山政毅，「前衛の機械――エストリデンティスモとメキシコにおけるラジオ放送」，『立命館文学』623 号，　pp. 32-48，（2011）
46. 崎山政毅，「低迷する社会闘争、飛躍を狙う国家連合――ラテンアメリカの現状から」，『ピープルズ・プラン』57 号，　pp.　76-85，（2012）

図書

1. 西 成彦『ターミナルライフ――終末期の風景』，作品社，（2011）
2. イェジー・コジンスキー，西 成彦訳『ペインティッド・バード』，松籟社，（2011）
3. Dumouchel, Paul, *Le sacrifice inutile essai sur la violence politique*, Paris, Flammarion,(2011)
4. Dumouchel, Paul, *Economia dell'invidia antropologia mimetica del capitalismo moderno*, Massa, Transeuropa edizioni, (2011)
5. 渡辺公三他６名（モース研究会）『マルセル・モースの世界』，平凡社，（2011）
6. 村上慎司他７名『労働再審６　労働と生存権』，大月書店，（2012）
7. （翻訳）後藤玲子監訳『正義への挑戦――アマルティア･センの新地平――』，晃洋書房，Gotoh R. and P. Dumouchel (eds.) Against Injustice-A New Economics of Amartya Sen, Cambridge: Cambridge University Press，(2011)

8. 宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編『世界の社会福祉年鑑 2011 年度版』, 旬報社, 425 頁, (2011)
9. 坂口満宏, 「出移民の記憶」, 日本移民学会編『移民研究と多文化共生』, 御茶の水書房, pp. 80-103, (2011)
10. 南川文里, 「世代の言葉でエスニシティを語る：日本人移民はいかに『日系アメリカ人』になったのか」, 日本移民学会編『移民研究と多文化共生』, 御茶の水書房, pp. 104-121, (2011)
11. 南川文里, 「移民, エスニシティ, 多文化社会」, 奥田宏司・佐藤誠・原毅彦・文京洙編『エティック国際関係学』, 東信堂, pp. 143-161, (2011)
12. 轟博志, 「湖南圏の陸上交通路：朝鮮時代の道路を中心として」, 李容相編『韓国鉄道の歴史と発展 1』, BG ブックギャラリー (韓国), (2011)
13. 梁仁實, 「解題　日本の映画ジャーナルと朝鮮映画をみる視線」, 韓国映像資料院編『日本語雑誌からみる朝鮮映画 2』, 現実文化研究出版社 (ソウル, 2011), 総ページ 375 (うち, pp. 329-344)
14. Yuko Nakama, "*Caspar David Friedrich und die Romantische Tradition, Moderne des Sehens und Denkens*", Reimer Verlag, Berlin,264p. (2011)
15. 要真理子 (前田茂と共著), 『イメージ (上) イメージとは何か』, ナカニシヤ出版, (2011)
16. 要真理子 (前田茂と共著), 『イメージ (下)　イメージと私たち』, ナカニシヤ出版, (2011)
17. 原毅彦　他 3 名編著『エティック国際関係学』, 東信堂, (2011)
18. 原毅彦　他 8 名著『人と表象』, 悠書房, (2011)
19. 宮本直美『宝塚ファンの社会学－－スターは劇場の外で作られる』、青弓社、(2011)
20. 宮本直美 他 15 名『上野千鶴子に挑む』、勁草書房、(2011)

2）学会発表

①海外での発表

1. SASAKI, Tasuku, "Una consideración sobre movimientos antisistémicos", Programa del IIº Seminario Internacional de reflexión y análisis "Planeta tierra: movimientos antisistémicos", Universidad de la Tierra/ SIESAS Sureste, San Cristóbal de las Casas, Chis., México, 2 de enero de 2012.
2. 'Japanese-English bilingual first language acquisition - two longitudinal studies' The 16th World Congress of Applied Linguistics (AILA2011). Beijing Foreign Studies University, Beijing in China. August 23-28, 2011.
3. 'Linguistic and narrative development in a Japanese-English bilingual's first language acquisition: a 14-year longitudinal case study' 8th International Symposium on Bilingualism (ISB8), University of Oslo, Norway, June 16, 2011.
4. Fuminori Minamikawa, "Vernacular Representation of Race and the Making of an Ethnoracial Community of Japanese in Los Angeles," International Workshop, Japanese and Asian Americans: Racializations and Their Resistances, University of California, Los Angeles, 2011 年 10 月 13 日.
5. 梁仁實, 「在朝日本人と映画」(ただし, 発表はハングル), 帝国日本の'朝鮮'想像と文化ディスコースの再構成, 東国大学ワークショップ, 2011 年 6 月 4 日
6. 梁仁實, 「帝国日本を浮遊する映画 (人) たち」(ただし, 発表はハングル), The 10th ISKS International Conference of Korean Studies, University of British Columbia(Vancuber, Canada), 2011 年 8 月 25 日
7. 梁仁實, 「戦前日本映画の内/外部にいた朝鮮 (人) 試論」, 日韓二か国学術交流事業「植民地期韓国映画と日本映画の交流について」, 韓国漢陽大学, 2012 年 2 月 21 日
8. 李文茹, 「〈わたし〉と台湾―戦後の坂口れい子の自伝小説をめぐって―」, 2011 年〈日本語・日本文學・日本文化學〉國際學術研討會―「超域的かつ包括的な日本語教育」を目指して―, 台湾中国文化大学大孝館 2Ｆ質撲廳, 2011 年 5 月 14 日
9. 李文茹, 「津島佑子『あまりに野蛮な』試論」, 日本語文学学会例会, 台北 YMCA, 2011 年 7 月 16 日
10. 李文茹, 「當代台灣與日本女性作家的「殖民地」台灣記憶書寫─論《風前塵埃》與《太過野蠻的》」, 第六回花蓮文学シンポジウム「溯源與奔流－花蓮文學百年」, 台湾仏教慈済大学中央キャンパス, 2011 年 9 月 24-25 日
11. Yuko Nakama, 「近くて遠い風景」(「美学と文化」, 第 1 回ポーランド－日本カンファレンス), ヤギェウォ大学, クラクフ (ポーランド), 2011 年 5 月 24 日 (招待講演)

12. Yuko Nakama, 「現代美術における自然と風景―日本と西洋における比較的視点」（芸術・デザイン理論と美学についての国際シンポジウム），アンタルヤ大学，アンタルヤ（トルコ），2011年10月19日（招待講演）
13. Yuko Nakama, 「フリードリヒの自然観における調和と乖離，および現代美術への影響」（「今日のヨーロッパのロマン主義研究の展望」会議），アルフリート・クルップ高等研究所，グライフスヴァルト（ドイツ），2011年11月25日（招待講演）
14. Kaori Maruyama, 「芸術としての日本の書：戦後の新しい書に向けて」（芸術・デザイン理論と美学についての国際シンポジウム），アンタルヤ大学，アンタルヤ（トルコ），2011年10月19日

②国内での発表

1. 佐々木祐「『二つのニカラグア』像の歴史的再検討：カリブ海岸部の事例を手掛かりとして」，日本ラテンアメリカ学会第32回定期大会，上智大学，2011年6月4日
2. 「バイリンガルの言語接触開始年齢と脳賦活様態：ブレインイメージング手法による一考察」第1言語としてのバイリンガリズム研究会(BiL1)第4回研究会，キャンパスプラザ京都，2011年5月14日
3. 'Effects of L2 Immersion Experiences on Translation Task Performance through a Brain-imaging Technique of Functional Near-Infrared Spectroscopy' The First Annual Brain Day Conference in Japan (FAB1) JALT: Connecting Brain Science with EFL. Konan University. 2011.7.10.
4. 「新国際学校における英語圏からの帰国生徒のCALP維持に関する一考察」母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会2011年度研究大会．立命館大学，2011年8月6日（招待講演）
5. 「千里国際学園（一条校とインター併設校）でのバイリンガル教育からの示唆」国際行動学会・立教大学英語教育研究所共催の「開かれた社会をめざして：文化・コミュニケーション及び教育の課題」 の第2シンポジウム「2つの言語を通して学ぶ―バイリンガル教育から得られる日本の英語教育への示唆」公開シンポジウムでの招待講演．立教大学池袋キャンパス．2011年10月29日
6. "L2 attrition and retention in Japanese returnees" 国際基督教大学教育研究所・シンポジウム「日本における言語喪失を考える」招待基調講演．国際基督教大学，2012年2月19日
7. 河原典史，「新京極通ができるまで―平安京から秀吉の京都改造を経て―」，2011年度京カレッジ京都力養成コース「京都学講座」，キャンパスプラザ京都，2011年6月5日
8. 石田智恵，「ニセイを名乗ること―アルゼンチン日本人移民社会の総称に関する考察」，日本移民学会第21回大会自由論題報告，JICA横浜，2011年6月 25日
9. 宮下敬志，「演出された『文明化』：アメリカ先住民教育における変身写真と変身パレードの転用」，日本アメリカ史学会，第8回年次大会，北九州市立大学，2011年9月18日
10. 河原典史，「20世紀初頭のカナダ西岸における日本人漁業者の漁場利用：日記と視察報告書からのアプローチ」，地域漁業学会，第53回大会，鹿児島大学，2011年11月6日
11. 宮下敬志，「ハンプトンから北海道へ：小谷部全一郎と先住民教育」文化史学会，2011年度大会，同志社大学，2011年12月3日
12. 宮下敬志，「先住民教育における変身技法の利用と変遷：シカゴ博・セントルイス博の事例などから」，立命館史学会，第34回大会，立命館大学，2011年12月11日
13. 佐藤量，「植民地都市大連の記憶地図：『たうんまっぷ大連』をめぐって」，「満州国」文学研究会，第21回定例会「植民地都市を掘り起こす：大連をめぐる記憶学」，日本女子大学，2011年12月17日
14. 飯塚隆藤，「近代淀川流域における河川舟運の盛衰過程」，第54回歴史地理学会，山口大学，2011年6月25日
15. 【R-GIRO研究プログラム定例研究会】
   1) 佐藤量，「2011年上海派遣についての報告」，京都私学会館，2011年4月23日
   2) 轟博志，「東洋拓殖の移住民募集方針について」，キャンパスプラザ京都，2011年7月16日
   3) 飯塚隆藤，「近代淀川流域における河川舟運の盛衰過程：Historical GIS の手法を用いて」，キャンパスプラザ京都，2011年7月16日
   4) 2011年度夏合宿（2012年度土曜講座に向けた，各担当地域の強制移動・引揚げに関する報告と討議），衣笠セミナーハウス，2011年9月13・14日参加者：米山（全体統括），佐藤（満洲），河原（朝鮮），南川（北

米），坂口（日本），和泉（北米），根川（南米），小川（ハワイ）

5) 河原典史，「カナダ・カンバーランド日系墓地に眠る人々」，キャンパスプラザ京都，2011 年 10 月 22 日

6) 南川文里，「在米日系社会と「部落」：文献紹介 Andrea Geiger, Subverting Exclusion: Transpacific Encounters with Race, Caste, and Borders, 1885-1928 (Yale UP, 2011)を中心に」，私学会館，2011 年 12 月 17 日

16. Yasuko Ikeuchi, "The Powers of Mourning and Violence in the Works of Performance by Soni", 国際演劇研究学会(IFTR)パネル報告，大阪大学，2011 年 8 月 11 日
17. 梁仁實，「1930 年代日本帝国内における文化「交流」:「春香伝」の受容を中心に」，立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座「歴史のなかの感覚変容」第 3 回「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容―日韓台の帝国／植民地近代」，立命館大学，2011 年 10 月 21 日
18. 大西仁，「1930 年代の台湾における小説」，立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座「歴史のなかの感覚変容」第 3 回「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容―日韓台の帝国／植民地近代」，立命館大学，2011 年 10 月 21 日
19. 李文茹，「毛断・文明・恋愛と植民地台湾：1930 年代の閩南語流行曲をめぐって」，立命館大学国際言語文化研究所連続公開講座「歴史のなかの感覚変容」第 3 回「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容―日韓台の帝国／植民地近代」，立命館大学，2011 年 10 月 21 日
20. 李文茹，「台湾という場所からみた原爆と原発」，原爆文学研究会設立 10 周年記念ｈん「原爆文学研究この 10 年，これからの 10 年，九州大学西新プラザ中会議室
21. 大西仁，「対外進出の担い手とは誰か－小宮山天香『聯島大王』をめぐって」，日本文芸学会，大阪・プール学院大学，2011 年 6 月 26 日
22. 田村剛，「風景の錯綜体としての"私の風景"」（国際フォーラム「風景の美学：伝統と現代」），立命館大学，2012 年 2 月 17 日
23. 住田翔子「ポール・ゴーギャンの自己構築と nostalgia の関係性についての一考察」美学会全国大会，東北大学，2011 年 10 月.

３）省庁，学会，財団などの表彰

なし

４）外部資金獲得（競争的研究費，共同研究，受託研究，奨学寄附金等）

1. 競争的研究費　科学研究助成費　基盤研究（C）(H21～H23)（日本学術振興会)「ラテンアメリカにおける視覚文化の政治学」崎山政毅（代表），計 497 万円
2. 競争的資金 立命館大学図書館 2011 年度研究共通資料費・大型 崎山政毅・代表「英国外交秘密文書マイクロフィルム：ラテンアメリカ 1819-1945」計 635 万円
3. 共同研究　京都大学人文科学研究所　公募研究プロジェクト「ヨーロッパと現代思想」，崎山政毅・研究分担者
4. 競争的研究費　後藤玲子・代表，社会安全財団，「精神疾患をもつ思春期の子どもの暴発から犯罪への転化を防ぐ<トリアージ・センター>の設計――「安全保障（human security）」と「社会保障(social security)」のリンケージ」
5. 競争的研究費　後藤玲子・研究代表，トヨタ財団，「ノマド型ネットワークボランティア組織にもとづく対人援助トリアージ・モデルの設計――精神疾患をもつ思春期の子どもへの緊急介入の仕組み」
6. 競争的研究費　後藤玲子・研究代表，科研費基盤研究(C)，「潜在能力アプローチの臨床的適用プログラムの設計」
7. 競争的研究費　渡辺公三・研究代表，科研費基盤研究（B）「マルセル・モース人類学の現代的再評価」
8. 競争的資金 立命館大学図書館研究共通資料・大型，2011 年度，「第二次世界大戦による在外日本人の強制退去・収容・送還と戦後日本の社会再建に関する研究」，米山裕（代表），計 299 万円
9. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究（B），(H22ー H23)，「近代日本の地方拠点都市の成長と人間主体の社会空間的活動に関する歴史地理学的研究」，山根拓(代表)，河原典史(分担），計 250 万円
10. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(C)，(H22ーH26)（日本学術振興会)，「カナダにおける日系ガーディナーの歴史的展開と他民族との関係性をめぐる研究」，河原典史(代表)，計 360 万円
11. 競争的資金 文部科学省研究拠点形成費等補助金，(H21ーH22)，「歴史都市・京都とその空間文化をめぐる人文学的知の協同」　千田稔（代表），河原典史（分担），計 1200 万円

12. 競争的資金 財団法人国土地理協会, (H23-24), 「カナダ・ブリティッシュコロンビア州における火災保険図をめぐる基礎的研究」, 河原典史 (代表), 76 万円
13. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究 (B), (H23ーH25)(日本学術振興会), 「アメリカ合衆国における多人種コミュニティ論の歴史社会学的構想」, 南川文里(代表), 計 200 万円
14. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究 (B), (H22ーH24)(日本学術振興会), 「先住民政策の国境を越えた転用に関する歴史研究 環太平洋地域の列強植民地を事例に」, 宮下敬志(代表), 計 300 万円
15. 競争的資金 立命館大学図書館 2011 年度研究共通資料費・大型「米国国立公文書館 (NARA) 所蔵資料米国シアトル上陸移民名簿：日系人・アジア系移民研究原資料 35mm microfilm 157 Reels」, 米山裕 (代表), 計 300 万円
16. 競争的資金 立命館大学図書館 2011 年度研究共通資料費・分野別「カーロス・モンテズーマ文書補完:Supplement to Papers of Carlos Montezuma, M.D. (35mm Microfilm)」, 宮下敬志(代表), 計 30 万円
17. 競争的資金 立命館大学図書館 2011 年度コア・データベース「EBSCO の歴史学全文データベース America: History & Life with fulltext および Historical Abstracts with fulltext」, 宮下敬志(代表), 計 143 万円
18. 競争的資金 財団法人日本科学協会笹川科学研究助成, (2011.6.15-2012.2.10), 「戦前上海における学校教育と対日協力者」, 佐藤量(代表), 30 万円
19. 競争的資金 科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 日本学術振興会特別研究員 (DC1), (H21ーH23), 「<日系人>カテゴリーの生成と動態―現代世界の人類学的研究」, 石田智恵(代表), 計 280 万円
20. 競争的資金 公益信託澁澤民族学振興基金 大学院生等に対する研究活動助成, 2012 年度. 「日本人移民の集団的同一性の継承の諸相と「日系人」 ――1960 年代以降のブエノスアイレスにおける人種・国民カテゴリーとの関係」石田智恵 (代表), 50 万円
21. 競争的資金 立命館アジア太平洋大学学術研究補助, 2011 年度, 「旧外地における陸上交通体系変容モデル開発」, 轟博志 (代表), 48 万円
22. 競争的資金 財団法人日本科学協会笹川科学研究助成, (2011.6.15-2012.2.10), 「戦前上海における学校教育と対日協力者」, 佐藤量(代表), 30 万円
23. 科研費基盤C一般 (H22～H24) 「帝国／植民地近代とジェンダー――日本・韓国・台湾を廻流する文化表象を中心に」池内靖子 (代表), 梁仁實 (分担), 340 万円
24. 共同研究 小笠原研究者円卓会議 (2010 年～)
25. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究Ｂ (一般) (H22～H25) (日本学術振興会)
「'認識‘と'構築‘の自然の風景像―21 世紀の風景論」, 仲間裕子 (代表), 計 1,420 万円
26. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究Ｂ (一般) (H20～H24) (日本学術振興会)
「モーションキャプチャーを利用したアフリカの舞踊に関する総合研究」, 遠藤保子 (代表), 仲間裕子 (分担), 計 1,911 万円
27. **競争的研究費** 宮本直美・代表・科研費基盤 (C)「芸術宗教と音楽の公共性に関する社会学的研究」(2011-2013)

５）特許

①出願

なし

②取得

なし

６）その他（報道発表，講演会等）

①報道発表

1. 崎山政毅「2011 年度上半期の 3 冊」,『図書新聞』3 ページ, 2011 年 8 月 1 日
2. 崎山政毅「2011 年度下半期の 3 冊」,『図書新聞』5 ページ, 2011 年 12 月 15 日
3. 「アマルティア・セン――社会的選択理論に福祉の視点を持ち込んだ――」,『エコノミスト』, 毎日新聞社, pp.56-57, 2011 年 12 月 27 日
4. 書評 アマルティア・セン著 大門毅監訳 東郷えりか訳『アイデンティティと暴力――運命は幻想である――』(勁草書

房),図書新聞,2011 年 10 月.

5. 書評　松井彰彦・川島聡・長瀬修編著『障害を問い直す』(東洋経済新報社)，『福祉労働』, 2011－12, 133.
6. 河原典史，中日新聞（福井版）「雄飛した福井人：先人たちの軌跡」，2012 年 1 月 1 日
7. 河原典史，熊本日日新聞　「玉名地域から戦前に多数渡航：カナダ移民　実像に迫る」，2012 年 3 月 27 日

②講演会

1. 崎山政毅・講演会「ラテンアメリカの民衆運動の現状」，ＮＰＯ法人社会運動研究センター「むすぶ」／社会運動ルネサンス研究所，於「むすぶ」研究会室，2011 年 6 月 28 日
2. 田浦秀幸，「脳科学から見たバイリンガルの言語発達: 千里国際学園ケーススタディー」千里国際学園創立 20 周年記念講演. 千里国際学園 2011 年 4 月 23 日（招待講演).
3. Hideyuki Taura, 'Bilingual Language Development from a Brain-Imaging Perspective: A Case Study at OsakaInternational School' Senri International 20th Anniversary Special Lecture. Senri International School. 2011 年 4 月 23 日　(招待講演).
4. 田浦秀幸，「帰国生教育の可能性と現場教員のできること一考察：千里国際学園での７年半の経験及び学術調査をもとに」京都教育大学附属桃山中学校平成 23 年度夏期教員研修会. 2011 年 8 月 8 日　(招待講演)
5. Hideyuki Taura, "Neuroscience and L2 teaching" 上海師範大学・招待特別講義. 2011 年 9 月 22 日上海師範大学（中国）.
6. 後藤玲子,「人権を守る人たちを守る法」，大阪精神保健福祉協会例会，エルおおさか，2011 年 10 月 8 日（基調講演)
7. 後藤玲子，"Securing Basic Well-being for All"（with Naoki Yoshihara），日本経済学会秋季大会，筑波大学，2011 年 10 月 30 日（報告)
8. 後藤玲子,「くらしと正義 2011」京都会議 2011，京都アスニー. 2011 年 11 月 19 日（招待講演)
9. 後藤玲子，"Basic Capability for All,"東アジアにおける環境配慮型の「成熟社会」へ向けたシナリオプロジェクト，総合地球環境学研究所，(招待講演)
10. 後藤玲子,「アメリカン・リベラリズムと生存権」，持続可能な福祉国家システムの歴史的・理論的研究プロジェクト，国際平和ミュージアム，2012 年 2 月 4 日（報告)
11. 後藤玲子，"Basic Capability for All," Hitotsubashi G-COE Conference Series of Choice, Games and Welfare:Equality and Welfare, March 16, 17, 2012, Mercury Tower, Hitotsubashi University.　(報告)
12. 南川文里「多民族社会の国際比較」阪神シニアカレッジ，尼崎市中小企業センター，2011 年 9 月 16 日
13. 河原典史，「カナダに渡った泉州の人びと：サケとニシンを追いかけて」，いずみさの歴史セミナー「海を知ろう」，泉佐野市歴史館いずみさの，2011 年 9 月 18 日.
14. 南川文里「現代アメリカの対立軸」国際理解ゼミナール，宝塚南口会館，2012 年 3 月 15 日
15. 西成彦代表，モナ・ベーカー特別講演「政治的行為のためのオルタナティブ・スペースとしての翻訳」，立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム，2011 年 11 月 1 日
16. 西成彦代表,「書物の終わり？ポスト文学時代の世界文学」，ディヴィッド・ダムロッシュ講演会，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第３会議室，2011 年 11 月 15 日
17. 田浦秀幸代表，"Harmonious bilingual development: what it is and how it can be fostered"，バイリンガリズム学術講演会・国際シンポジウム，立命館大学衣笠キャンパス研心館 631 教室
18. 池内靖子，シンポジウム報告（単独）"The Work of Three Women Artists: Korean Diaspora and the Politics of Translation"，デンマークの美術館 The Aarhus Art Building - Centre for ContemporaryArt，2011 年 11 月 3 日，デンマークの美術館 The Aarhus Art Building のシンポジウム "*Imagine – micro strategies and visions in contemporary art*" のゲストスピーカーとして招待。
19. 池内靖子，シンポジウム報告（単独） "Rethinking the Genderdized/Normalized/Nationalized Body: On Corporeal Expression in Butoh and Kim Manri's Performance Troupe *Gekidan Taihen*." オーストラリア，メルボルン大学におけるシンポジウム Symposium on Japan in the 1960s, "Understanding Japan's Dynamic Decade" (2011 年 12 月 15～17 日)にゲストスピーカーとして招待。

20. 崎山政毅代表，鈴木平報告「福音主義と科学・自然神学・自助の精神―デイヴィッド・リヴィングストンのアフリカ開発構想とその知的文脈」，社会思想史学会第36回大会，名古屋大学経済学部第2講義室，2011年10月29日
21. ウェルズ恵子代表，塩谷達也講演会（ゴスペル・ミニコンサート含む），立命館大学末川記念会館第3会議室，2011年6月10日
22. ウェルズ恵子代表，「失語症に見られることばの症状」，講師　吉田敬，立命館大学学而館第 2 研究会室，2011年3月24日

③その他

1. 2011年度国際言語文化研究所ヒストリーズ―国民国家から新たな共同性へ」第２シリーズ「歴史のなかの感覚変容」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第３会議室，2011年10月7日／14 日／21日／28日
2. 第１回環カリブ文化研究会，「バルバドス出身の作家　ジョージ・ラミングを考える」，立命館大学衣笠キャンパス学而館2F第2研究会室，2011年10月8日
3. 第2回環カリブ文化研究会，「カリブ海語圏横断文学史の可能性に向けて」，立命館大学衣笠キャンパス学而館2F第3研究会室，2012年3月9日
4. "SLA research through a lens of brain-imaging technique of functional near-infrared spectroscopy (fNIRS)" UBC (University of British Columbia) 夏期集中LLED489Cクラスでの招待特別講義. 2011.8.11 ブリテッシュコロンビ大学（カナダ・バンクーバー）
5. 後藤玲子代表，国際カンファレンス「カタストロフィと正義」，立命館大学衣笠キャンパス創思館1Fカンファレンスルーム，2012年3月21-22日／Co-organized by Paul Dumouchel and Reiko Gotoh, The 8th international conference "Catastrophe and Justice"―, Ritsumeikan University, Kyoto, March 21,22, 2012（オーガナイザー）
6. 日本人の国際移動研究会・2011年度定例研究会
   1. 轟博志「東洋拓殖の移住民募集方針について」キャンパスプラザ京都，2011年7月16日
   2. 飯塚隆藤「近代淀川流域における河川舟運の盛衰過程：Historical GIS の手法を用いて」キャンパスプラザ京都，2011年7月16日
   3. 2011年度夏合宿（2012年度土曜講座に向けた，各担当地域の強制移動・引揚げに関する報告と討議），衣笠セミナーハウス，2011年9月13・14日
      参加者：米山（全体統括），佐藤（満洲），河原（朝鮮），南川（北米），坂口（日本），和泉（北米），根川（南米），小川（ハワイ）
   4. 河原典史「カナダ・カンバーランド日系墓地に眠る人々」キャンパスプラザ京都，2011年10月22日
   5. 坂口満宏「出移民研究の課題と方法：1930年代の福島県を事例に」キャンパスプラザ京都，2011年11月19日
   6. 酒井一臣「島崎藤村の文明観　史料紹介『南米移民見聞録』」キャンパスプラザ京都，2011年11月19日
   7. 南川文里「在米日系社会と「部落」：文献紹介 Andrea Geiger, Subverting Exclusion: Transpacific Encounters with Race, Caste, and Borders, 1885-1928 (Yale UP, 2011)を中心に」私学会館，2011年12月17日
   8. 小川真和子「ハワイ準州の戦時中における食糧政策に関する史料紹介」私学会館，2011年12月17日
   9. 和泉真澄「日常と非日常の間で：ヒラリバー日系人収容所におけるハイスクール卒業アルバムの分析より」キャンパスプラザ京都，2012年1月21日
   10. 石田智恵「1980-90年代アルゼンチン日本人コミュニティの紛争と転化」キャンパスプラザ京都，2012年1月21日
7. 河原典史，「カナダに眠る美浜町のひと：町誌よもやま話143」，『広報みはま』，490，p.22，（2011）
8. 西成彦代表，Translation Studies 国際シンポジウム，「トランスレーション・コミュニティ―多元・多文化・多目的Ⅱ」，愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス41B，2011年11月6日
9. 西成彦代表，「トランスレーション・スタディーズ」刊行記念合評会，立命館大学衣笠キャンパス敬学館 266 教室

10. 田浦秀幸代表，バイリンガリズム学術講演会・ワークショップ，"Harmonious bilingual development: what it is and how it can be fostered"，立命館大学大阪キャンパス多目的室
11. 北出慶子代表，国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B6　異文化相互理解課程研究会，「異文化間相互学習に向けて」，立命館大学衣笠キャンパス敬学館 257 教室，2012 年 3 月 3 日
12. 高橋秀寿代表，第一回グローバル空間形成研究会，高橋秀寿「1980 年代ドイツにおける空間の実践と変容」，桜澤誠「戦後日本における慰霊空間の変容」学而館第二研究会室,」2011 年 10 月 13 日
13. 高橋秀寿代表，第二回グローバル空間形成研究会，大城直樹「言説から見る近年の琉球／沖縄のポジショナリティについて」，篠原雅武「空間と実生活」創思館 411，2012 年 1 月 28 日
14. 高橋秀寿代表，第三回グローバル空間形成研究会，加藤政洋「米軍統治下の沖縄における奄美出身者の境位」，平野千果子「「フランス語」という空間形成――植民地帝国の変遷とフランコフォニーの創設――」創思館 405，2012 年 3 月 3 日
15. 池内靖子代表　第一回ジェンダー研究会「フェミニズムとシティズンシップ」Ruth Lister(ラフバラ大学社会学部名誉教授)，2011 年 4 月 7 日
16. 池内靖子代表　第二回ジェンダー研究会「『女と孤児と虎』上映会とトーク」ジェーン・ジン・カイスン監督，ガストン・ソンディン・クラウスナー共同制作者　諒友館 829　2011 年 4 月 28 日
17. 池内靖子代表　第三回ジェンダー研究会「Kachin Life Stories」Cecilia SY Koh-Tangbau2011 年 6 月 20 日
18. 秋林こずえ代表　「女性・戦争・人権」学会　2011 年度年次大会「軍事化と女性に対する暴力ー現在の国際的な動きのなかでー」前田朗（東京造形大学），菊池恵介（同志社大学），清末愛砂（室蘭工業大学）朱雀キャンパス多目的室　2011 年 10 月 23 日
19. 池内靖子代表　ジェンダー研究会「戦争の記憶と表象」琴仙姫，「60～70 年代の美術と政治」嶋田美子末川記念会館 2 階第 3 会議室 2011 年 12 月 5 日
20. 池内靖子代表　第四回ジェンダー研究会「ジェンダーと安全保障②：日本と国際 NGO の動向（軍事主義とジェンダー暴力）」 渡辺美奈（女たちの戦争と平和資料館 WAM）朱雀キャンパス 214 教室　2012 年 3 月 9 日
21. 池内靖子代表　第五回ジェンダー研究会「ジェンダーと安全保障①：日本と国際 NGO の動向（武力紛争下の性暴力）」本山央子（アジア女性資料センター，ディレクター）朱雀キャンパス 213 教室　2012 年 3 月 20 日
22. 小笠原研究会の活動については，研究代表・チャールズ・E・フォックスによる制作、室谷雅彦による監督作品（小笠原に関するドキュメンタリー）"The Navy Generation" を，2010～2011 年にかけての「小笠原研究者円卓会議」での試作上映をもとに，2011 年夏季における現地調査の成果を加え，完成版へと編集した。
23. 鳥木圭太「多喜二・身体・リアリズム――「工場細胞」「オルグ」をめぐって」　２０１２小樽小林多喜二国際シンポジウム　小樽商科大学　2012 年 2 月 23 日
24. プロレタリア芸術研究会（代表・村田裕和）は，問題関心を共有する占領開拓期文化研究会と共同で研究会（全 8 回）および映画上映会（2012 年 3 月 12 日）を開催し，前述の研究成果を公表した。また，代表者の村田裕和は 2011 年度後期に学外研究を取得して，米国メリーランド大学プランゲ文庫における資料調査および資料収集・撮影をおこなったほか，研究会参加メンバーの和田崇は北海道小樽文学館において池田寿夫旧蔵資料の調査と撮影をおこなった。また，雨宮幸明は，岡山人民映画会（2011 年 11 月 4 日）にて，能勢克男撮影フィルムを上映した。同映画はひきつづきＤＶＤ出版を予定し編集作業を行っている。2012 年 2 月 13 日には友田義行・雨宮幸明が貴司山治撮影フィルム（個人蔵）の調査をおこなった。
25. 仲間裕子代表，国際シンポジウム，21 世紀の風景表象―風景の構造と自然の認識―」，立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム，2011 年 10 月 1 日
26. 仲間裕子代表，国際フォーラム，「風景の美学―伝統と現代」，立命館大学衣笠キャンパスアートリサーチ・センター多目的ルーム，2012 年 2 月 17 日
27. ウェルズ恵子代表，第 1 回研究報告会，大野藍梨「母系の語りの系譜―祖母は孫に何を語るのか―S.シュバルバツバルトと Z.N.ハーストンのテクスト比較分析を通して」，石田文子「英米児童向け書籍売れ筋傾向」，立命館大学学而館第 2 研究会室，2011 年 9 月 22 日
28. ウェルズ恵子代表，第 2 回研究報告会，二村洋輔「多言語国家マレーシアにおける文学状況」，立命館大学末川

記念会館第３会議室，2012 年１月 14 日

29. ウェルズ恵子代表，ウェルズ恵子「狼に変身する女たち―人間と動物―」立命館土曜講座（第 3001 回），2012 年１月 14 日

30. ウェルズ恵子代表，風呂本惇子「人種越境の物語―別の人間になれるのか―」立命館土曜講座（第 3002 回），2012 年１月 21 日

31. ウェルズ恵子代表，高橋義人「魔女は空を飛ぶ―異界の者へ―」立命館土曜講座（第 3003 回），2012 年１月 28 日

32. 2011 年度国際言語文化研究所ヒストリーズ―国民国家から新たな共同性へ」第２シリーズ「歴史のなかの感覚変容」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第３会議室，2011 年 10 月 14 日：「マンガの《現在》につながる道――マンガ・リテラシーの形成と変容」。「争点としてのマンガ」の中心的課題であるマンガ・リテラシーについて、京都国際マンガ・ミュージアムの吉村和真・研究主幹を報告者として招聘し、議論を行なった。

33. 文学部学際プログラム人文総合科学基礎講読において、マンガ作品をテクストとして使用した。ちなみに代表・西林は漆原友紀『蟲師』（講談社アフタヌーン・コミックス）、分担者・崎山は荒川弘『鋼の錬金術師』（スクエア・エニックス・ガンガン・コミックス）、同・宮本は二宮友子『のだめカンタービレ』（講談社 Kiss コミックス）、同・唐澤は浦沢直樹・作画／勝鹿北星・長崎尚志・脚本『マスター・キートン』（小学館ビッグコミック・コミックス）、同・中村は白土三平『忍者武芸帳』（小学館漫画文庫）その他を用いた。

以上

2011 年度　研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人間科学研究所
研究所・センター長名	松田　亮三

Ⅰ．研究実績の概要 (公開項目)

人間科学研究所の 2011 年度の研究実績は、以下の通りであった。

第 1 に、本研究所の最重要点課題である対人援助に関わる総合的研究の戦略的研究を推進した。特に、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を受け実施している全所的プロジェクト「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」では、高齢者・障害者支援、ニーズの多様化と支援の再構成、情報蓄積と移行システム構築、というテーマについて、6つのチーム(高齢者支援チーム／発達支援チーム／就労支援チーム／心理バリアチーム／ケア・コミュニティチーム／アーカイビングチーム)が取り組みをすすめた。2011 年度の成果は、著書 28 点、論文 106 点、学会発表 80 件、公開企画および公開講座 31 件であった。これらの成果の詳細は、ウエブで公開予定である。

第2に、これまで科研費等に申請した実績のある研究をもとに、対人援助とは関連しつつも、相対的に独立した人間科学の新しい研究領域を開拓するために、以下の研究プロジェクトを実施した。

①「災厄に向かう―災害と障害者・病者支援プロジェクト」では東日本大震災直後から情報を収集・掲載するウェブサイトを開設。障害者・病者の観点からの情報整理と発信、公開企画や研究会を行った。

②「高齢者支援プロジェクト」では施設高齢者の問題行動に関する事例検討を実施。幻視に起因する問題行動がみられるレビー小体型認知症者に対する検討であり、ここでまとめられた事例と介入研究の効果については，日本老年行動科学会年次大会において公表された。

③「不動の身体と通信研究プロジェクト」では四肢・発話障害者を対象とした福祉分野における ICT の更なる普及と活用のための諸条件を明らかにすることを目的とし、2011 年度にはパイロット研究として 1970 年度以降の ICT 支援の経緯に関する聞き取り調査や、ICT 支援の実態調査を行った。

④「騒音研究会プロジェクト」では教育研究場面における騒音の調査とそれを規定する要因について調査分析を行い、被験者が知的作業を遂行する際どういった音が騒音と知覚するかの測定を実施した。

⑤「モンスター研究会プロジェクト」では「障老病異」と生命倫理学におけるモンスター概念の関連性に関する歴史的社会的研究をテーマに、徹底した文献調査および研究会を重ねた。

⑥「図書館アクセシビリティプロジェクト」では読書障害学生支援における大学図書館の課題を研究テーマに、関連民間企業、支援学校教員、国会図書館担当者へヒヤリングを通じた調査活動を実施。また、テキストデータ作成の実証実験や、本学において「大学図書館アクセシビリティ研究会」を開催した。

⑦思春期・家族プロジェクトでは韓日若者支援に関する研究をテーマに、我が国で若者支援の中心的な実践者である佐賀県の谷口仁史氏(内閣総理大臣賞：平成 22 年度子ども・若者育成・子育て厚労省受賞者)、韓国から Yooja Salon(ニート・ひきこもりを対象とした社会的企業)代表の李忠韓氏らを招き公開シンポジウムを行った。

⑧「文化心理に関する複合的研究プロジェクト」では、1)複線径路・等至性モデルを用いた理論的研究と実践的指導について、ブラジルで講演・ワークショップなどの開催、2)状況と人間の国際比較研究として、追跡調査を行い、米国との状況規定性の比較を実施、3)法と心理の日韓比較研究として、日韓学生法と心理セミナーを開催、を行った。

⑨「子ども発達支援プロジェクト」では発達診断チェックリストの開発、発達課題に応じた療育プログラム開発、対人関係と想像性を育てる集団療育プログラムの開発、親の障害受容過程に関する事例研究を実施した。

以上、これら新規のプロジェクトの成果についても、研究所ウエブで公開予定である。第3に、次年度においては戦略形成支援事業の後継事業等の取得に向けた申請を行うことを展望し、今年度においてそれらの準備に向けた新たな研究の展開を検討した。また今後の研究発展を展望し、国際セミナー・シンポジウムを開始した。

第4に、研究成果の社会的発信を促進するため、各研究プロジェクトの課題・内容・成果がより分かりやすくなるように、研究所ウエブ(http://www.ritsumeihuman.com/)の再編を行った。この際、研究の国際化をすすめるため、日英両言語（一部は日本語のみ）でウエブを再構築した。一方、定期学術誌『立命館人間科学研究』を計画通り2回発行し、13編の論文を掲載した。

以上の取組について、立命館大学衣笠総合研究機構・研究所重点研究プログラム等の交付を受けて実施した。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 赤阪麻由・日高友郎・サトウタツヤ,「『見えない障害』とともに生きる当事者の講演による高校生の障害観の変容」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号,pp.49～62,(2011)
2. 秋葉武,「韓国における生協の生成」,『日本ボランティア学会　2010 年度学会誌』, 日本ボランティア学会,12 号,pp.90～105,(2011)
3. 天田城介（書評）,「支援」編集委員会(編)「『支援』vol.1」,『福祉社会学研究 9 号』, 生活書院.(2011)
4. 天田城介（書評）,「上野千鶴子『ケアの社会学――当事者主権の福祉社会へ』」,『家族研究年報』, 家族問題研究学会,36 号.(2011)
5. 天田城介,「『依存的な親子関係』に混迷する介護問題」,『訪問看護と介護』, 医学書院,17 巻 2 号,pp.113～118,(2011)
6. 荒井庸子・前田明日香・張鋭・井上洋平・荒木穂積・竹内謙彰,「舞鶴市における発達障害児の実態とニーズに関する調査研究 1)―保育所・幼稚園における「気になる子」の特別なニーズと発達支援―」,『立命館産業社会論集』, 立命館大学産業社会学部,47 巻,4 号,pp.99～121,(2011)
7. Araragi,Y.,&Kitaoka,A.,"Increment of the extinction illusion by long stimulation",Perception,Vol.40,no.5,pp.604～620,(2011)
8. 飯田奈美子,「在住外国人および医療観光目的の訪日外国人に対する医療通訳の現状と課題」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.47～57,(2011)
9. 石原豊一,「現代社会における若者の現実逃避的行動についての一考察―「自分探し」の延長線上のプロアスリート―」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.59～74,(2011)
10. 乾明紀・藤田綾・原田憲一,「京都造形芸術大学 2010 年度 教職員合同研修の成果と展望」,『京都造形芸術大学紀要【GENESIS】』,15 号,pp.104～116,(2011)
11. Ueda, S.,Kitaoka,A.,&Suga,T., " Wobbling appearance of a face induced by doubled parts " , Perception,Vol.40,no.6,pp.751～756,(2011)
12. Utsunomiya,H.,The influence of parental marital commitment on the identity formation of Japanese university students,"Social Behavior and Personality: An International Journal" Scientific Journal Publishers, Vol.39, No.10 pp. 1315～1323,(2011)
13. 沖裕貴・宮浦崇・井上史子,「一貫性構築のための 3 つのポリシー（DP・CP・AP）の策定方法－各大学の事例をもとに－」,『教育情報研究』,日本教育情報学会,26 巻 3 号,pp.17～30,(2011)
14. M.Oda ,"The Characteristics of the use of Twitter by Beginners -Study of the applicability to the e-healthcare-", IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics,IEEE,2011,pp.1268～1278,(2011)
15. 大月智恵・藤信子,「記憶の障害に対するワーキングメモリからのアプローチ―リーディングスパンテストを用いた事例―」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.37～46,(2011)

16. 大谷いづみ,「いのちの教育:臓器提供を『訓育』する装置?——カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』を『豚のPちゃん』の教育実践とともに読み解く」,『立命館産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会, 第 47 巻 1 号, pp.237～258,(2011)
17. 大野真由子,「難病者の「苦しみとの和解」の語りからみるストレングス・モデルの可能性—複合性局所疼痛性症候群患者の一事例を通して—」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.11～24,(2011)
18. 春日井敏之,「学校教育の現状と生活指導の課題」, 日本生活指導学会(編)『生活指導研究』,エイデル研究所,28 号, pp.8～26,(2011)
19. 京屋郁子,「カテゴリを明示的に区別しない特異で冗長な情報がカテゴリ化に与える影響, 認知心理学研究」,『認知心理学研究』,日本認知心理学会,9 巻 2 号,pp. 81-95,(2011)
20. 佐藤浩子,「医療的ケアを必要とする障害児・者の実態把握の必要性——東日本大震災における首都圏の事例から」,『Core Ethics』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科,8 号,pp.183～194,(2011)
21. 斎藤真緒,「男性介護者の介護実態と支援の課題－男性介護ネット第 1 回会員調査から－」,『産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会,47 巻 3 号,pp.111～127,(2011)
22. 崎山治男,「『心』を求める社会」,『社会学評論』,日本社会学会,61 巻 4 号,pp.440～454,(2011)
23. サトウタツヤ,「司法臨床の可能性;もう一つの法と心理学の接点をもとめて」,『法と心理』, 日本評論社,11 巻 1 号,pp.26～37,(2011)
24. 下野孝一・東山篤規,"Dual egocenter hypothesis on angular errors in manual pointing",Perception, ,Vol.40, no.7,pp.805～821,(2011)
25. 白井美穂・サトウタツヤ・北村英哉,「複線径路・等至性モデルからみる加害者の非人間化プロセス—「Demonize」と「Patientize」—」,『法と心理』,日本評論社,11 巻 1 号,pp.40～46,(2011)
26. 竹内謙彰,「高機能広汎性発達障害児のニーズ理解と 9, 10 歳の発達の節」,『心理科学』,30 巻 2 号, pp.11～22,(2011)
27. 竹内謙彰,「幼児が航空写真を空間表現として理解するプロセス－幼児の語りの再分析－」, 『立命館産業社会論集』,立命館大学産業社会学会,47 巻 2 号,pp.43～63,(2011)
28. 竹内謙彰・荒木穂積・荒木美知子・前田明日香・井上洋平・荒井庸子・黄辛隠・張鋭・Nguyen Thi Hoang Yen,「自閉症スペクトラム児とその家族のニーズについての日本・中国・ベトナム3カ国の比較調査研究」, 『立命館産業社会論集』,立命館大学産業社会学会,47 巻 1 号,pp.213～236,(2011)
29. 田野中恭子,「統合失調症の家族研究の変遷」, 『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.75～89,(2011)
30. 徳田完二,「メールカウンセリングに関する試論——『いま・ここで』型アプローチから宿題型アプローチへ——」, 『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号, pp.73～82,(2011)
31. 徳田完二,「心理的リラクセーション尺度(ERS)の利点と基準関連妥当性—大学生を対象とした調査から—」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.1～9,(2011)
32. 西田豊・服部雅史,「基準率無視および自然頻度の幻想:等確率性仮説に基づく実験的検討」,『認知科学』, 日本認知科学会,18 巻 1 号,pp. 173～189,(2011)
33. 破田野智己・斎藤進也・ 山田早紀 ・ 滑田明暢・木戸彩恵・ 若林宏輔 ・ 山崎優子・上村晃弘 ・ 稲葉光行 ・ サトウタツヤ,「政策決定過程の可視化と分析にむけて:議論過程のシミュレーションとその KTH キューブによる表現」,『立命館人間科学研究』, 24 号, pp.21～33,(2011)
34. Higashiyama, A., & Toga, M.,"Brightness and image definition of pictures viewed from between the legs", Attention, Perception, & Psychophysics, The Psychonomic Society,Vol.73,pp. 144～159,(2011)
35. 廣井亮一,「司法臨床の概念—わが国の家庭裁判所を踏まえて」,法と心理学会(編)『法と心理』,日本評論社,11 巻 1 号,pp.1～6, (2011)
36. 藤健一,「ハトの集団飼育場面における成員操作による各個体の体重および摂食行動の変容」,『立命館文學』, 立命館大学,620 号,pp.118～123,(2011)
37. 堀田義太郎, 「重度障害者用意思伝達装置の開発・供給と政策について」, 立命館大学生存学研究センター

（編）,『生存学』生活書院,5 号,pp.88-102,（2011）

38. 湊美智子・服部雅史,「音楽による気分誘導法の批判的検討」,『認知心理学研究』, 日本認知心理学会, 8 巻 2 号,pp. 89～98,（2011）
39. 峰島厚,「高齢期障害者の暮らしと発達」,『みんなのねがい』,全国障害者問題研究会,538 号, pp.33～36,（2011）
40. 峰島厚,「子ども・子育て新システムと障害者自立支援法」,『保育問題研究』,新読書社,250 号,pp. 36～51,（2011）
41. 峰島厚,「障害者の貧困問題」,『人権と部落問題』, 部落問題研究所,63 巻 3 号,pp.28～34,（2011）
42. 宮浦崇・山田勉・鳥居朋子・青山佳世,「大学における内部質保証の実現にむけた取り組み－自己点検・評価活動および教学改善活動の現状と課題」,『立命館高等教育研究』, 立命館大学教育開発推進機構,11 号,pp.151～166,（2011）
43. 村本邦子,「『外のグループ』と『内のグループ』を繋ぐ精神療法」,『集団精神療法』,日本集団精神療法学会,27 巻 2 号,pp.126～131,（2011）
44. 村本邦子,「治療的司法の観点から見た法と心理の協働」,『法と心理』,日本評論社,11 巻 1 号,pp. 7～13,（2011）
45. Kuniko MURAMOTO,“History and Current Approaches to Violence Towards Women in Japan”,『Feminism & Psychology』,SAGE,21 巻 4 号,pp. 509～514,（2011）
46. 山本耕平, Lee Insoo, 安藤佳珠子, 「ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって―若者問題に関する韓日間比較調査から―」, 『立命館産業社会論』,立命館大学産業社会学部, 46 巻 4 号,pp.21～42,（2011）
47. 山本博樹,「標識の示差性が支援する教科書の体系的な分かりやすさ――児童期後期における支援可能性」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号, pp.5～19,（2011）
48. 山本由美子,「現代フランスにおける医学的人工妊娠中絶（IMG）と「死産」の技法」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.25～36,（2011）
49. 由井秀樹,「非配偶者間人工授精によって出生した人のライフストーリー」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号, pp.35～48,（2011）
50. 若林宏輔・サトウタツヤ ,「同一の出来事を異なる方向から見た目撃者間の一方向的同調効果」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号, pp.21～33,（2011）
51. 櫻谷眞理子,「児童養護施設における生活指導・援助の課題」,『生活指導研究』, 日本生活指導学会, 28 号,pp.27～39,（2011）

図書

1. 北岡明佳（編）,『いちばんはじめに読む心理学の本⑤ 知覚心理学 ―心の入り口を科学する―』,ミネルヴァ書房,297p.（2011）
2. 北岡明佳（監修）・グループ・コロンブス（構成・文）,『トリックアート図鑑 1～4』, (株)あかね書房,48p.（2011）
3. 立岩真也,『考えなくてもいくらでもすることはあるしたまには考えた方がよいこともある』,河出書房新社編集部（編）『思想としての 3.11』,河出書房新社,106～120p.（2011）

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. Araki, H.“A Basic Perspective of Development of Remedial Education Program for Children with Autism Spectrum Disorder Trough Analysis of Historical Transitions”,Creating New Science for Human Services: An Anthology of Professor of Graduate School of Science for Human Services, Graduate School of Science for Human Services,2011,pp.1～20, (2011)
2. 秋葉武,「韓国の社会的企業――現状と言説の多様性――」,『協同の發見』,協同総合研究所,222 号,pp.23～31,（2011）
3. 天田城介, 「個室での人々の実践を読み解く」, 『医療福祉建築』, 社団法人日本医療福祉建築協会,173 号,pp.2～5, (2011)
4. 天田城介, 「体制の歴史を描くこと――近代日本社会における乞食のエコノミー」, 角崎洋平・松田有紀子（編）, 『生存学研究センター報告――歴史から現在への学際的アプローチ』,立命館大学生存学研究センター,17 号,pp.408～427,（2011）

5. 天田城介,「団塊世代の中産階級への老後の指南書」,『現代思想』,青土社,39 巻 17 号,pp.298～301,(2011)
6. 荒井庸子・荒木穂積・石井信子・猪口綾・松本結佳・富井奈菜美・竹内謙彰,「自閉症スペクトラム幼児の遊びの発達と教育的対応-1 歳 8 ヶ月から 4 歳 8 ヶ月のプレイセラピーの分析から-」,『立命館大学心理・教育相談センター年報』, 立命館大学心理・教育相談 センター,10 号,pp.32～50,(2011)
7. 荒木穂積(編),「平成 20 年度～22 年度 アジア・アフリカ学術基盤形成事業(日本学術振興会)東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究」,『平成 20 年度～22 年度 最終研究報告書』, 立命館大学人間科学研究所, 182p.(2011)
8. 石川眞理子・孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・高橋伸子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江,「サポータにおけるコミュ二ケーションの変化に関する研究―学習活動を支えることによる検討―」,日本老年行動科学会第 14 回大会プログラム抄録集,日本老年行動科学会,pp.59,(2011)
9. 大谷いづみ,「コミュニケーションの現在と未来――難病者・障害者へのコミュニケーション支援を手掛かりに」,『2011 年度「企画研究 SC」報告書』(2011)
10. 小澤亘,「多言語DAISYテキストの可能性:新たな教育支援ネットワークの創造に向けて」,『APT20 周年記念誌 多文化共生社会をめざして 20 年』,京都 YWCA・APT,pp.58～62,(2011)
11. 春日井敏之,「『お互いにつながって生きる』ための支援ネットワーク」,全国生活指導研究協議会(編)『生活指導』,全国生活指導研究協議会,693 号,pp.42～49, (2011)
12. 春日井敏之,「つまずいた子どもを支える先生－困難からの回復力とつながりの実感」,『児童心理』,金子書房,944 号, pp.97～102,(2011)
13. 春日井敏之,「学校行事と子どもが『つながって生きる権利』」,日本生活教育連盟(編)『生活教育』, 日本生活教育連盟,750 号,pp. 50～57,(2011)
14. 春日井敏之,「青年期の学びと生き方－学びや体験を意味付ける」,京都教育センター(編)『季刊ひろば』, 京都教育センター,169 号, pp.22～27,(2011)
15. 北岡明佳,「3D と錯視について」,『画像ラボ』,日本工業出版,22 巻 9 号,pp.14～18,(2011)
16. 北岡明佳,「色の錯視いろいろ (1)「目の色の恒常性」という錯視の絵」,『日本色彩学会誌』,日本色彩学会,35 巻 2 号,pp.118～119,(2011)
17. 北岡明佳,「色の錯視いろいろ (2)色の恒常性と 2 つの色フィルタ」,『日本色彩学会誌』,日本色彩学会,35 巻 3 号, pp.234～236,(2011)
18. 北岡明佳,「色の錯視いろいろ (3)『トーンの錯視』,『日本色彩学会誌』,35 巻 4 号,pp.344～345,(2011)
19. 栗原彬・天田城介, 「3.11 論――人間の復興のために」, 立命館大学生存学研究センター(編),『生存学』,生活書院,5 号,pp.38～64,(2011)
20. 斎藤真緒,「イギリスの介護者支援－仕事と介護との両立を中心に」,『ぽーれぽーれ』,認知症と家族の会,2012 年 2 月号,(2011)
21. 斎藤真緒,「現代的課題としての家族介護者支援」,『共同対人援助モデル研究 家族介護者支援の論理－男性介護者の介護実態と支援の課題』,4 号,pp.3～10,(2011)
22. 坂口佳江・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「3 年間の学習活動の遂行による認知障害を持つ高齢者の変化について」,対人援助学会第 3 回年次大会抄録集,対人援助学会,pp.15,(2011)
23. 佐藤浩子,「『ふくしま』で見棄てられた人たち――スロープがついていても使えない仮設住宅」, 『マスコミ市民』, NPO 法人マスコミ市民フォーラム,512 号,pp. 38～42,(2011)
24. 立岩真也,「社会派の行き先・6」, 『現代思想』, 青土社 ,39 号 5 巻(2011 年 4 月号),pp.24～36,(2011)
25. 立岩真也,「社会派の行き先・7」, 『現代思想』, 青土社 ,39 号 7 巻(2011 年 5 月号),pp.8～20,(2011)
26. 立岩真也,「社会派の行き先・8」, 『現代思想』, 青土社 ,39 号 8 巻(2011 年 6 月号),pp.8～19,(2011)
27. 立岩真也,「社会派の行き先・9」, 『現代思想』, 青土社 ,39 号 10 巻(2011 年 7 月号),pp.18～30,(2011)
28. 立岩真也,「社会派の行き先・10」, 『現代思想』, 青土社 ,39 号 11 巻(2011 年 8 月号),pp.14～25,(2011)
29. 立岩真也,「社会派の行き先・11」, 『現代思想』, 青土社 ,39 号 13 巻(2011 年 9 月号),pp.34～46,(2011)

30. 立岩真也,「社会派の行き先・12」,『現代思想』, 青土社 ,39 号 14 巻(2011 年 10 月号),pp.16～27,(2011)
31. 立岩真也,「社会派の行き先・13」,『現代思想』, 青土社 ,39 号 16 巻(2011 年 11 月号),pp.14～25,(2011)
32. 立岩真也,「社会派の行き先・14」,『現代思想』, 青土社 ,39 号 18 巻(2011 年 12 月号),pp.22～33,(2011)
33. 立岩真也, "On "the Social Model",『Ars Vivendi Journal』, 立命館大学生存学研究センター,1 号,pp.32～51,(2011)
34. 立岩真也,「まともな逃亡生活を支援することを支持する」,『別冊 Niche』, 批評社,3 号,pp61～70,(2011)
35. 立岩真也, 「技術水準に「健常者」が合わせるという方法もある」,坂本徳仁・櫻井悟史(編),『生存学研究センター報告:聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』, 立命館大学生存学研究センター,16 号,pp.223～249,(2011)
36. 立岩真也,「後方からの情報提供 ――障老病異とともに」,『おそい・はやい・ひくい・たかい』,ジャパンジャパンマシニスト社,62 号,pp29～33,(2011)
37. 立岩真也, 「人工呼吸器をつけた子の親の会＜バイバクの会＞の成り立ちと現在(第二部)」(公開インタビュー)『季刊福祉労働』,現代書館, 134 号,pp.8～31,(2011)
38. 立岩真也, 「人工呼吸器をつけた子の親の会＜バクバクの会＞の成り立ちと現在(第一部)」,『季刊福祉労働』,現代書館,133 号,pp.8～31,(2011)
39. 立岩真也・天田城介, 「障害と社会、その彼我をめぐる現代史・2」, 立命館大学生存学研究センター(編)『生存学』,生活書院, 4 号,pp.6～37,(2011)
40. 筒井淳也,「パネルデータの基礎的分析方法:NFRJ-08Panel の有効活用に向けて」,『家族社会学研究』, 日本家族社会学会,23 巻 1 号,pp. 96～102,(2011)
41. 筒井淳也,「親との関係良好性はどのように決まるか:NFRJ 個票データへのマルチレベル分析の適用」,『社会学評論』,日本社会学会,62 巻 3 号,pp.301～318,(2011)
42. 東山篤規・山﨑校,「自己誘導運動(ベクション)と身体姿勢の関係－ヘッド・マウンティッド・ディスプレイを用いて」,『日本心理学会 75 回大会発表論文集』,日本心理学会,pp.528,(2011)
43. 東山篤規・村上嵩至,「ミュラー効果に及ぼす視覚刺激の明るさの効果」,『関西心理学会,123 回大会発表論文集』,関西心理学会,pp.36,(2011)
44. 廣井亮一,「法化社会における家族臨床」,日本家族研究・家族療法学会(編)『家族療法研究』,金剛出版,28 巻 2 号,pp.72～77,(2011)
45. 藤健一,「ハトのオペラント行動における種々の穀類強化子の体重統制法を用いた機能の分析」,『動物心理学研究』,日本動物心理学会,61 巻 2 号,pp.206.(2011)
46. 松田亮三,「『終末期医療』の『配給』をめぐる議論に向けて―日英の対比から」, 立命館大学生存学研究センター(編)『生存学』, 生活書院,5 号,pp.195-205,(2011)
47. 松田亮三,「公衆衛生政策における現在知の集積・総合・共有―英国からの示唆」,『海外社会保障研究』, 国立社会保障・人口問題研究所,75 巻 9 号,pp.695～699,(2011)
48. 松田亮三,「熟議的・反省的医療政策に向けて」,『NIRA 研究報告書』,総合研究開発機構,pp.77-92
49. 松田亮三,「普遍主義的医療制度における公私混合供給の展開」,『海外社会保障研究』, 国立社会保障・人口問題研究所,178 号,pp.4～20,(2011)
50. 宮浦崇・鳥居朋子,「立命館大学における学生実態調査の特質に関する歴史的考察－1980 年代初頭に注目して」,『立命館百年史紀要』, 立命館百年史編纂委員会,19 号,p.19-49,(2011)
51. 村本邦子,"Women's trauma and resilience from an ecological viewpoint"Creating New Science for Services, Ritsumeikan University Graduate School of Science for Human Services, 2011,pp.73～84,(2011)
52. 村本邦子,「コミュニティ・エンパワメント～安心とつながりのコミュニティをつくる」,『女性ライフサイクル研究』,女性ライフサイクル研究所,21 号,pp.5～11,(2011)
53. 村本邦子,「子ども虐待と母性、家族、ジェンダー」,『女たちの 21 世紀』,アジア女性資料センター,68 号,pp.4～7,(2011)
54. 村本邦子,「戦時性暴力/日常の性暴力～南京ワークショップからの報告」,『立命館言語文化研究』, 立命館大学

国際言語文化研究所,23 巻 2 号,pp.183～185,(2011)

55. 山本耕平・斎藤真緒,「ひきこもり事例効果的アウトリーチ確立に関する研究」,『委託研究報告集』, 財団法人京都市ユースサービス協会他,pp.1～98,(2011)

図書

1. 秋葉武ほか(編),『危機の時代の市民活動：日韓社会的企業最前線』,東方出版,296p.(2011)
2. 天田城介,『老い衰えゆくことの発見』,角川学芸出版,254p.(2011)
3. 天田城介・村上潔・山本崇記(編),『差異の繋争点――現代の差別を読み解く』ハーベスト社,298p.(2011)
4. 天田城介(事典執筆),「自律」「PTSD」,大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編集委員『現代社会学事典』,弘文堂,(2011)
5. 荒木穂積,「保育困難から専門家への相談に至るまで」,秦野悦子・山﨑晃(編著)『保育の中での臨床発達支援シリーズ臨床発達心理学第 3 巻・理論と実践』,ミネルヴァ書房, pp.90-96, (2011 年)
6. 大川一郎・土田宣明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子(編),『シリーズ生涯発達心理学⑤　エピソードでつかむ老年心理学』,ミネルヴァ書房,291p.(2011)
7. 春日井敏之・伊藤美奈子(編),『よくわかる教育相談』,ミネルヴァ書房,210p.(2011)
8. 春日井敏之・西山久子ほか(編),『やってみよう！ピア・サポート』, ほんの森出版,135p.(2011)
9. 春日井敏之,「若者にとって生きること、学ぶことの意味とつながり－大学が問われていること」,大久保史郎・高橋伸彰(編)『日本は変わるか？－転換の可能性を探る』, 法律文化社、230p.(2011)
10. 春日井敏之,「大学での学び、生活と自己形成のために－学生支援とつながり方」,立命館大学障害学生支援室(編)『学生のチカラ－ピア・エデュケーションの視点でみる障害学生支援』, 立命館大学障害学生支援室,147p.(2011)
11. サトウタツヤ・渡邊芳之,『心理学・入門～心理学はこんなに面白い』,有斐閣,268p,(2011)
12. サトウタツヤ・渡邊芳之,『あなたはなぜ変われないのか: 性格は「モード」で変わる 心理学のかしこい使い方』,筑摩書房,315p.(2011)
13. James J.Gibson,"The Perception of the Visual World",東山篤規・破田野智美・村上嵩至(訳),『視覚ワールドの知覚』,新曜社,299p.(2011)
14. 高山一夫(共著),『医療の政治力学』,桐書房,254p.(2011)
15. 立岩真也・村上潔,『家族性分業論前哨』, 生活書院,356p.(2011)
16. 筒井淳也,「グラノベッター『転職』」,金井雅之・小林盾・渡邉大輔(編)『社会調査の応用：量的調査編：社会調査士 E・G 科目対応』, 弘文堂, 262p.(2011)
17. 津止正敏・斎藤真緒(編)『共同対人援助モデル研究　4　家族介護者支援の論理　－男性介護者の介護実態と支援の課題－』,立命館大学人間科学研究所,159p.(2011)
18. 中鹿直樹・佐伯大輔・桑原正修,『はじめての行動分析学実験：Visual Basic で学ぶ実験プロミング』,ナカニシヤ出版,140p.(2011)
19. 服部雅史(訳),子安増生・二宮克美(編)『キーワードコレクション認知心理学』新曜社,227p.(2011)
20. 林信弘(編),『西田幾多郎の純粋経験』,高菅出版,169p.(2011)
21. 東山篤規(訳),子安増生・二宮克美(編)『キーワードコレクション認知心理学』,新曜社,227p.(2011)
22. 日高友郎・滑田明暢・サトウタツヤ(編),『共同対人援助モデル研究　2　厚生心理学と質的研究法－当事者(性)と向き合う心理学を目指して－』,立命館大学人間科学研究所,122p.(2011)
23. 廣井亮一・生島浩・岡本吉生(編),『非行臨床の新潮流』,金剛出版,191p.(2011)
24. 藤健一・望月昭・武藤崇・青山謙二郎(編),『行動分析学アンソロジー2010』,星和書店,320p.(2011)
25. 松原洋子,「妊娠と出産をめぐる医療の危機と社会」,吉岡斉ほか(編),『新通史　日本の科学技術――世紀転換期の社会史 1995 年-2011 年〈第 3 巻〉』,原書房,442～453p.(2011)
26. 村本邦子,「臨床心理学的アプローチを生かしたロイヤリングを考える」,日本弁護士連合会(編)『現代法律実務の諸問題』,第一法規,平成 22 年度研修版,pp.925～934,(2011)
27. 村本邦子(編),『共同対人援助モデル研究　3　歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：国際セミナー

「南京を想い起こす 2011」の記録』,立命館大学人間科学研究所,427p.(2011)

28. 渡邉映子・佐藤泰正・大川一郎(編),『高齢者の心理』, おうふう, 226p.(2011)

２）学会発表

①海外での発表

1. 小澤亘(ATDO 濱田痲邑氏による代理報告),"Support network for foreign students' education by DAISY",International Daisy Congress 'Digital Books, Inclusion and the Market: New production perspectives', Brazil ・Sao Paulo,2011 年 11 月 5 日
2. Rieko KOJIMA, 「Experience of men who have attended the birth of their child at the Maternity Center, Poster」,25th European Health Psychology Conference,Greece・Creta Maris Conference Center,2011 年 9 月 22
3. Sato, Tatsuya,"The Real Futures of sign and promoter sign; What Trajectory Equifinality Model (TEM) implies for cultural psychology In Symposium New ways with(in) cultural psychology (Gulerce, Aydan orginizer)",12th European Congress of Psychology, Istanbul・Turkey,2011 年 7 月 6 日
4. Sato, Tatsuya,"Three modes of viewing the culture in the Psyche:How can we conceive the culture in psychology for an integrative theory?",12th European Congress of Psychology,Istanbul・Turkey,2011 年 7 月 7 日
5. Sato, T.,"Tendências históricas e contemporâneas no campo da Psicologia Jurídica no Japão",Os Programas de Pós-Graduação em Saúde Coletiva e em Psicologia da UFBA, Brazil・Universidade Federal da Bahia,2012 年 3 月 1 日
6. Sato, T., "Culture, Sign and TEM.", ブラジル・サンパウロ大学, 2012 年 3 月 2 日
7. Stevanov, J., Kitaoka, A., and Jankovic D ,"Rotating snakes" illusion: Changes in pattern layout affect perceived strength of illusory motion", The 34th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception, Toulouse, France, 2011 年 9 月 1 日
8. Takeuchi, Y., Araki, H., Araki, M., Maeda, A. Inoue, Y., Arai, Y., Huang, X., Zhang, R., Nguyen, T. H. Y.,"Research on special needs of children with autism spectrum disorders and their families in East Asia: Comparison among Japan, China and Vietnam",Asia Pacific Autism Conference.Perth, Australia・Burswood Resort,2011 年 9 月 8 日～10 日
9. Junya Tsutsui, "Comparative Analysis on the Attitude to Welfare States: with a Special Attention to Japan and Korea ",International Postgraduate and Academic Conference: " East Asia and Globalization in Comparison",Chung-Ang University,Seoul,South Korea,2012 年 2 月 23 日
10. Toga, Miyuki ,"The effects of word length and phonological similarity in an order reconstruction task at immediate and delayed retention intervals", The Psychonomic Society: The 52nd Annual Scientific Meeting, Seattle, WA・SHERATON SEATTLE HOTEL,2011 年 11 月 4 日
11. Utsunomiya,H.,"Attitudes toward marriage and parents' marital quality: the role of intimacy with the romantic partner",International Association for Relationship Research Mini-Conference, Tucson, U.S.A.・The Marriott University Park Hotel,2011 年 10 月 20 日～22 日
12. Akinobu Nameda, Kosuke Wakabayashi, Tomomi Hatano, Shinya Saito, Mitsuyuki Inaba and Tatsuya Sato,"2011 Towards Social Application and Sustainability of Digital Archives: The Case Study of 3D Visualization of Large-scale Documents of the Great Hanshin-Awaji Earthquake",The 3rd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities Conference,Taipei・Taiwan,2011 年 12 月 1 日
13. Higashiyama,A.,"Relaxation of bodily muscles facilitates roll vection", Annual Meeting ,34th European Conference on Visual Perception, France ・Toulouse,2011 年 8 月 31 日
14. Masayo Furui, Toru Furui, Kiyoharu Shiraishi, and Chihoko Aoki, "Disability Rights and the Great East Japan Earthquake" ,The 28th Annual Pacific Rim Conference on Disability and Diversity,Hawaii・Convention Center,2012 年 3 月 26 日
15. Hotta Yoshitaro, Hasegawa Yui, and Yamamoto Shinsuke, "Toward the bright future of communications by people with severe disabilities",International Conference (non-refereed International Workshop): Art and Assistive

Technology, Korea・Hongik University,2011 年 7 月 2 日

16. Boyarskaya, E., Hecht, H., and Kitaoka, A.,"When does the Monalisa effect break down?",The 34th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception,Toulouse,France,2011 年 9 月 1 日
17. Matsushima, Jun & Sato, Tatsuya,"A history of clinical psychology in Japan：continuity and discontinuity in clinical psychology between pre and post World War Ⅱ."12th European Congress of Psychology, Istanbul・Turkey,2011 年 7 月 5 日
18. 村本邦子,「铭记南京：世代相传的历史心理创伤的治疗修复及表达性艺术」,国際表現性心理学会,中国・蘇州大学,2011 年 8 月 6 日
19. 村本邦子・笠井綾,「历史创伤的修复与和解」,国際表現性心理学会,中国・蘇州大学,2011 年 8 月 9 日
20. Yuko Yasuda and Kuniko Muramoto ,"Couple relationships in infertility treatments: A narrative approach that organises the couple's experiences",International Society for Cultural and Activity Research Congress Roma,International Society for Cultural and Activity Research,Roma・Roma University,2011 年 9 月 8 日
21. YAMADA Saki, SATO Tatsuya, ″The Visualization of the Statement Analysis in a single defendant case and a multiple defendants case″,The 5th Japan － Korea Student Symposium,, Seoul,・Ewha Womans University,2011 年 9 月 26 日

②国内での発表

1. 青木千帆子,「東日本大震災後の障害者運動の動き――災害支援のなかでの障害者」,2011 年度日本女性学会大会,名古屋・名古屋市男女平等参画推進センター「つながれっとNAGOYA」, 2011 年 7 月 31 日
2. 青木千帆子・権藤眞由美,「『福祉避難所』成立の経緯」, 障害学会第 8 回大会,愛知県・愛知大学,2011 年 10 月 1 日
3. 秋葉武,「韓国における社会的企業のマネジメント」,日本経営診断学会,第44回全国大会,別府市・別府大学,2011 年 10 月 1 日
4. 朝野浩・木戸彩恵,「『当事者性』を主体とする『連携』の再考①」,対人援助学会,第 3 回年次大会,京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
5. 荒木美知子・前田明日香・荒井庸子・井上洋平・荒木穂積・竹内謙彰,「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(4)－事例の分析から:日本の場合－」,日本発達心理学会,第23回大会,名古屋・名古屋国際会議場,2012 年 3 月 9 日～11 日
6. 有松玲,「東日本大震災と障害者政策――不公平の公平性」, 障害学会第 8 回大会,愛知県・愛知大学, 2011 年 10 月 1 日
7. 石川眞理子・孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・高橋伸子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江,「サポータにおけるコミュニケーションの変化に関する研究―学習活動を支えることによる検討―」,日本老年行動科学会, 第 14 回大会, 青森県・青森市アラスカ会館,2011 年 10 月 9 日
8. 乾明紀,「協同学習を伴うプロジェクト型 PBL のための環境設定―相互依存型集団随伴性を活用したチーム運営―」,対人援助学会,第 3 回年次大会ポスターセッション, 京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
9. 宇都宮博,「成人初期における配偶者との関係性と親となることへの意識」,日本心理学会,第 75 回大会,東京都・日本大学, 2011 年 9 月 15 日～17 日
10. 尾田政臣・京屋郁子,「対比較法による対称性の選好に関する検討」,日本認知心理学会,第 9 回大会,東京都・学習院大学,2011 年 5 月 28 日～29 日
11. 尾田政臣・京屋郁子,「対比較法による矩形比率選好の検討」,日本心理学会,第 75 回大会, 東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
12. 上岡由季・藤原慎太郎・丸谷佳嗣・足達龍彦・井篠和之・董石・中間有紀・丸山優子・乾明紀,「キャリアデザイン・フォーラム中間報告」, 日本対人援助学会,第 3 回年次大会ポスターセッション, 京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
13. Kido,A., Wakabayashi,K., Hatano,T., Nameda,A., Saito,S., Inaba,M., & Sato,T.,"Visualizing and Analyzing Cultural Voices in Computer-Mediated Communication through Social Gaming Simulation",The Second International

Conference on Culture and Computing,Japan ・Kyoto University, 2011 年 10 月 21 日

14. 京屋郁子・尾田政臣,「カテゴリ化における事例数, 特徴数, カテゴリ構造の強さの効果」, 日本認知心理学会,第 9 回大会,東京都・学習院大学,2011 年 5 月 28 日～29 日
15. 京屋郁子・尾田政臣,「プロトタイプ学習と周辺事例学習によるカテゴリ化の違いについて」,日本心理学会,第 75 回大会, 東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
16. 京屋郁子・尾田政臣,「プロトタイプ学習と周辺事例学習によるカテゴリ化の違いについて」, 日本認知科学会,第 28 回大会,東京都・東京大学, 2011 年 9 月 23 日～25 日
17. 小嶋理恵子, 「妊娠・出産における男性の親への移行過程 」,第 37 回日本保健医療社会学会、大阪府・大阪大学,2011 年 5 月 21 日
18. Rieko KOJIMA,「Stories of Support Counselors for DV Offenders on Aspects of Perinatal Stage Conflicts」,10th International Family Nursing Conference,kyoto・Kyoto International Conference Center,2011 年 6 月 25 日～27 日
19. 坂口佳江・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「3 年間学習活動の遂行による認知障害を持つ高齢者の変化について」,日本対人援助学会,第 3 回年次大会, 京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
20. サトウタツヤ, 「"情報的正義"と心理学――刑事司法過程における公正な判断」, 法と心理学会,第12回大会ワークショップ, 名古屋・名古屋大学東山キャンパス, 2011 年 10 月 2 日
21. Sato, T."THE NARRATIVE PATHWAY TO AUTHENTIC CULTURE OF LIVING WELL", The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs 2012, Tokyo・The University of Tokyo,2012 年 2 月 5 日
22. サトウヤツヤ・呉宣児・高橋登・竹尾和子,「お金をめぐる規範の構造（北京）（3）－親の教育観と人間関係－」,日本発達心理学会,第 23 回大会発表,愛知県・名古屋国際会議場, 2012 年 3 月 10 日
23. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・石川眞理子・箱岩千代治・坂口佳江・高橋伸子,「健康高齢者の記憶と抑制に関する介入研究－3 年間の音読・計算活動を中心とした検討－」,日本心理学会,第 75 回大会, 東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
24. 高橋伸子・孫琴・吉田甫・土田宣明・石川眞理子・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江,「健康高齢者の記憶変化に関する 3 年間の追跡研究－短期記憶と作業記憶を中心とした検討－」,日本心理学会,第 75 回大会,東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
25. 高橋伸子・孫琴・吉田甫・土田宣明・石川眞理子・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江,「学習活動を支えるサポータに関する研究―抑うつ性およびアパシー傾向を中心とした検討―」,日本老年行動科学会,第 14 回大会,青森県・青森市アラスカ会館,2011 年 10 月 8 日～9 日
26. 高山一夫,「オバマ政権の新保険制度の導入」,日本医療経済学会,第 35 回研究大会報告, 岐阜県・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜,2011 年 9 月 10 日
27. 竹内謙彰・荒木穂積・前田明日香・荒井庸子・荒木美知子・井上洋平,「日本・中国・ベトナム 3 ヵ国における発達障害児とその家族の特別なニーズについての調査研究：自閉症スペクトラム障害と知的障害の比較を中心に」,日本特殊教育学会,第 49 回大会,青森県・弘前大学, 2011 年 9 月 23 日～25 日
28. 辻岡誠也・土田菜穂・森大典・尾西洋平・林炫廷・中鹿直樹・望月昭,「大学内模擬喫茶店舗における特別支援学校生徒の就労実習―ビデオモデリングによる「できること」の自己評価指導―」, 対人援助学会,第 3 回年次大会,京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
29. 筒井淳也,「日本の家事分担における性別分離：NFRJ08 による分析」,日本家族社会学会,第 21 回大会,神戸市・甲南大学, 2011 年 9 月 10 日
30. 都賀美有紀・星野祐司,「意味類似性と遅延が順序の記憶に及ぼす影響：再構成課題を用いた検討」,日本心理学会,第 75 回大会, 東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
31. 戸名久美子・濱口洋行・吉田甫・土田宣明・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江・津島健一郎・河岸かおり・中村嘉宏,「レビー小体型認知症様の幻視に起因する問題行動が減少した症例～京都支部事例検討会にて日本老年行動科学会方式で検討した症例の報告～」,日本老年行動科学会,第 14 回大会, 青森県・青森市アラスカ会館,2011 年 10 月 8 日～9 日

32. 中鹿直樹・望月昭・朝野浩・サトウタツヤ・吉岡昌子・寺崎幸子・木戸彩恵・堀田正基・井上学,「障がいのある個人の継続的支援について―障害児支援の強化に向けた福祉と特別支援教育における連携に関する調査―」, 対人援助学会,第 3 回年次大会,京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
33. 服部雅史・織田涼,「潜在ヒントによる洞察とメタ認知による妨害効果」, 日本認知心理学会,第 9 回大会,東京都・学習院大学,2011 年 5 月 28 日～29 日
34. 服部雅史,「定言的三段論法推論の確率サンプリング・モデル」,日本認知科学会,第 28 回大会,東京都・東京大学,2011 年 9 月 23 日～25 日
35. 林炫廷・太田隆士・中鹿直樹・望月昭,「障害のある人への継続的な就労支援を行うための「できること」についての情報構築―特別支援学校の教員と保護者の連携の下での「できますシート」の書式の検討―」, 対人援助学会,第 3 回年次大会, 京都市・立命館大学,2011 年 11 月 12 日
36. Hidaka, T., Mizuki, S., Fukuda, M., Akasaka, M., and Sato, T. "HOW ALS PATIENTS EXPERIENCE AND MAKE SENSE THE LIFE WITH ILLNESS", The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs,Tokyo・Japan, 2012 年 2 月 5 日
37. 廣井亮一,「家族支援における法と臨床－弁護士と臨床心理士の協働」,日本研究・家族療法学会,第 28 回大会,静岡市・静岡県コンベンションアーツセンター,2011 年 6 月 4 日
38. 廣井亮一,"Support toward Offenders with Intellectual Disability",16th World Congress of the International Society for Criminology, 神戸市・神戸国際会議場,2011 年 8 月 6 日
39. 廣井亮一,"Risk Management for juvenile Delinquents with Pervasive Developmental Disorders and Mental Disorders in Practice", 16th World Congress of the International Society for Criminology, 神戸市・神戸国際会議場, 2011 年 8 月 9 日
40. 廣井亮一,「官民協働刑務所における父親教育プログラムの実施に関する報告」,日本心理臨床学会,第 30 回大会,福岡市・福岡国際会議場他, 2011 年 9 月 2 日
41. 廣井亮一,「司法臨床の展開（第一報）―弁護士と臨床心理の協働」,法と心理学会,第 12 回大会,名古屋市・, 名古屋大学,2011 年 10 月 2 日
42. 廣井亮一,「家裁調査官と司法臨床」,法と精神・心理研究会,大分市,2011 年 12 月 5 日
43. 深谷弘和・山本耕平, 「自由記述にみる障害者福祉従事者のストレス・コーピング―年代差・職階差に注目して―」, 2010 年度関西社会福祉学会年次大会, 京都・佛教大学, 2011 年 3 月 12 日
44. Fukuda, M. and Sato, T. Individual Quality of Life in person with Duchenne Muscular Dystrophy: the transformations of QOL over time The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs ,Tokyo・Japan,2012 年 2 月 5 日
45. 藤健一,「定温度に設定した長期連続実験場面におけるハトの摂食・摂水行動の分析」,日本心理学会,第 75 回大会, 東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
46. 藤健一,「スキナーの累積記録器の変遷（1930-1960） Gerbrands Model C-1(1955)動作模型の製作」, 日本心理学会,第 75 回大会ワークショップ「国内における実験心理学機器及び関連史料のデジタルアーカイブ化の現状と問題点」,東京都・日本大学,2011 年 9 月 17 日
47. 藤健一,「"Skinner の問題箱（problem box: 1935）"動作模型の製作」関西心理学会,第 123 回大会, 亀岡市・京都学園大学,2011 年 11 月 6 日
48. 星野祐司,「リズムの聴取によって引き起こされた旋律の再認記憶」,日本心理学会,第 75 回大会, 東京都・日本大学,2011 年 9 月 15 日～17 日
49. 堀田義太郎・山本晋輔, 「情報通信技術（ICT）支援の諸特徴と制度化の課題」,第 25 回地域福祉学会、東京都・東洋大学. 2011 年 6 月 5 日
50. 前田明日香・荒木美知子・荒木穂積・竹内謙彰,「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(3)－自由記述の分析から：日本の場合－」,日本発達心理学会,第 23 回大会,名古屋・名古屋国際会議場,2012 年 3 月 9 日～11 日
51. 宮浦崇,「大学の教育情報化支援におけるピア・サポート体制の現状と課題－立命館大学の取り組みを中心に」,

日本教育情報学会,第27回年会,埼玉県・十文字学園女子大学,2011年8月20日

52. 宮田正子・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・吉村昌子・坂口佳江・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「学習活動による高齢者及びサポータの変化について—サポータの視点を中心とした検討—」,対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日
53. 村本邦子,「心理カウンセリングにおける被害者供述に対するアプローチ」,法と心理学会,第12回大会,名古屋市・名古屋大学,2011年10月2日
54. 望月昭・細野浩,「障がいのある個人の継続的支援のための地域連携」,対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日
55. 望月昭・中鹿直樹・イムヒョンジョン・乾明紀,「キャリアアップのための『アクティブ・シミュレーション』の場としての大学の活用」,対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日
56. 矢藤優子「行動計測機器を用いた幼児の描画研究−ベンダーゲシュタルトテストの分析−」日本心理学会,第75回大会,東京都・日本大学,2011年9月15日～17日
57. 吉田晃高, 松島京, 松浦崇,「子どもの教育と福祉をめぐる今日的課題－教育現場への福祉的視点の導入と活用に向けて－」, 関西教育学会,第63回大会,姫路市・近大姫路大学, 2011年11月13日
58. 吉村昌子・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「学習活動の遂行による高齢者の日常生活への変化について—3 年間の学習活動を終えた高齢者を中心とした検討—」,日本対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日
59. Lin Shuzhen・大川一郎・吉田甫・土田宣明・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子・箱岩千代治・中村嘉宏,「在宅高齢者を対象とした音読・計算活動の影響について－主観的評価における変化の検討」,日本心理学会,第75回大会,東京都・日本大学,2011年9月15日～17日

３）省庁、学会、財団などの表彰

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 受託研究　京都府舞鶴市　2011.10～2012.3
「発達障害児等支援都市モデル事業」　荒木穂積　￥1,155,000
2. 受託研究　京都府舞鶴市　2011.5～2012.3
「障害者の総合的な相談支援体制のあり方検討について」　峰島厚　￥400,000
3. 受託研究　京都府舞鶴市　2011.7～2012.3
「第3期障害福祉計画の策定に係るアンケート調査」　峰島厚　￥600,000
4. 受託研究　公益財団法人大学コンソーシアム京都　2011.9～2012.3
「家族介護者の仕事と介護が折り合う環境（ﾜｰｸ・ｹｱ・ﾗｲﾌ・ﾊﾞﾗﾝｽ）の実現に向けたニーズ分析と支援策の課題」
斎藤真緒　￥1,700,000
5. 共同研究　公益財団法人京都市ユースサービス協会
「ユースワーカー養成のための専門プログラム開発の研究」　野田正人　￥50,000
6. 奨学寄附金　株式会社公文教育研究会　吉田甫　￥500,000
7. 奨学寄附金　有限会社深田薬品　「教育研究助成」　対象者：佐藤達哉　￥150,000
8. 奨学寄附金　富士製薬工業株式会社　「教育研究助成」　対象者：佐藤達哉　￥30,000
9. 奨学寄附金　株式会社メルクセローノ　「教育研究助成」　対象者：佐藤達哉　￥100,000
10. 奨学寄附金　クラシエ薬品株式会社　「教育研究助成」　対象者：佐藤達哉　￥30,000
11. 奨学寄附金　特定非営利活動法人Fine　「教育研究助成」　対象者：佐藤達哉　￥190,000
12. 奨学寄附金　内田クリニック　「教育研究助成」　対象者：佐藤達哉　￥500,000
13. 奨学寄附金　公益財団法人日本生命財団　2010.4～2012.9　津止正敏　￥2,400,000
14. 補助金　文部科学省　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業　2010～2012
「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」　土田宣明　計￥69,000,000
15. 競争的資金　独立行政法人科学技術振興機構　2009.10～2012.9

「家庭内児童虐待防止に向けたヒューマンサービスの社会実装」　中村正　計￥16,250,000
16.競争的資金　科学研究費補助金　新学術領域研究（領域提案）　2011.4.1～2016.3.31
「三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築」　佐藤達哉（代表）　計￥13,400,000
17.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ａ　2010.4.1～2014.3.31
「新しい錯視群の多面的研究―実験心理学・脳機能画像・数理解析の手法を用いて」
北岡明佳（代表）計￥37,000,000
18.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ａ　2012.4.1～2016.3.31
「特別なニーズをもつ子どもへの教育・社会開発に関する比較研究」　黒田学（代表）　計￥39,100,000
19.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ　2012.4.1～2014.3.31
「障害者施設職員のメンタルヘルス予防対策の検討ー福祉現場の職階に視点をあてて」
峰島厚（代表）　計￥9,500,000
20.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ　2008.4.1～2012.3.31
「「患者の選択」をめぐる英国政策過程の分析：自由・効率・公平をめぐるダイナミズム」
松田亮三（代表）　計￥16,380,000
21.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2009.4.1～2013.3.31
「生命倫理学における安楽死・尊厳死論のキリスト的基盤に関する歴史的社会的研究」
大谷いづみ（代表）　￥3,400,000
22.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2009.4.1～2012.3.31
「ひきこもる若者の社会的支援策の研究-ケースコントロール・スタディを用いて」
山本耕平（代表）　計￥4,290,000
23.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2007.4.1～2014.3.31
「推論と判断における等確率ヒューリスティックと因果性」　服部雅史（代表）　計￥6,800,000
24.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2010.4.1～2013.3.31
「サイボーグ医療倫理の科学技術史的基盤に関する研究」　松原洋子（代表）　￥2,800,000
25.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2010.4.1～2013.3.31
「マルセル・モース人類学の現代的再評価」　渡辺公三（代表）　￥2,300,000
26.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2010.4.1～2013.3.31
「障害者の継続的就労を実現する継続支援ロジックと方法の開発」　望月昭（代表）　￥3,400,000
27.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2010.4.1～2013.3.31
「抑制機能の加齢変化とその可塑性―地域在住高齢者の縦断的調査を通して―」
土田宣明（代表）　￥2,700,000
28.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2010.4.1～2013.3.31
「発達障害当事者とその家族における発達支援ニーズに関する語りの発達心理学的研究」
竹内謙彰（代表）　￥2,300,000
29.競争的資金　科学研究費補助金　挑戦的萌芽研究　2009.4.1～2012.3.31
「ナラティブと対話的自己を取り入れた難病患者ライフのぶ厚い記述-厚生心理学の提唱」
佐藤達哉（代表）　合計￥3,200,000
30.競争的資金　科学研究費補助金　挑戦的萌芽研究　2011.4.1～2014.3.31
「多言語DAISYテキストに基づく「外国人児童学習支援」に向けたアクションリサーチ」
小澤亘（代表）　計￥3,380,000
31.競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ａ　2012.4.1～2013.3.31
「不妊夫婦の喪失と葛藤，その支援ー見えない選択径路を可視化する質的研究法の応用的展開」
安田裕子（代表）　￥3,380,000
32.競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　2008.4.1～2012.3.31
「戦後日本社会における〈老い〉と〈高齢化〉をめぐる表象と記憶の政治」　天田城介（代表）　計￥4,290,000

33. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　2008.4.1～2012.3.31
「行動計測機器「デジタルペン」を用いた幼児の描画プロセスの研究」　矢藤優子（代表）　計￥4,038,000
34. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　2009.4.1～2012.3.31
「ﾃﾞｭｱﾙ･ｷｬﾘｱ社会の条件としての「柔軟な結婚」についての実証研究」　筒井淳也（代表）　計￥2,990,000
35. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　2009.4.1～2012.3.31
「地域社会におけるNPOのｱﾄﾞﾎﾞｶｼｰ－－事業化をめぐって－－」　秋葉武（代表）　計￥2,210,000
36. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　2010.4.1～2014.3.31
「「投影ﾄﾞﾗﾏ法」の可能性－既存の表現療法技法との比較、グループでの実施も踏まえて」
岡本直子（代表）　￥1,800,000
37. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究Ｂ　2010.4.1～2013.3.31
「ジェンダーセンシティブな家族介護者支援の可能性－男性介護者調査から－」　斎藤真緒（代表）￥2,700,000
38. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2011.4.1～2014.3.31
「ケア包摂型コミュニティとボランタリーアソシエーションの構造相関性に関する臨床研究」
津止正敏（代表）　計￥4,940,000
39. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2011.4.1～2014.3.31
「死刑に対する態度を規定する要因の心理学的検討」　山崎優子（代表）　計￥4,680,000
40. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2011.4.1～2014.3.31
「前頭葉賦活課題による自閉症児の認知機能および行動改善に関する研究」　吉田甫（代表）　計￥5,070,000
41. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2011.4.1～2014.3.31
「高校「倫理」教科書の読解学習を支援する標識化の有効性に関する実証研究」　山本博樹（代表）　計￥5,070,000
42. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2011.4.1～2014.3.31
「障がいのある子どもを持つ家族へのメンタルサポートプログラムの開発」　谷晋二（代表）　計￥3,640,000
43. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｃ　2011.4.1～2015.3.31
「身体的姿勢によって変容する視空間の特性：斟酌理論に照らして」　東山篤規（代表）　計￥4,810,000
44. 日本学術振興会助成金　ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
「人生with病い」　佐藤達哉（代表）　￥344,000
45. 助成金　公益財団法人三菱財団　2011～2013「ひきこもる若者を対象とするピアアウトリーチ支援者養成に関する研究」　山本耕平（代表）　計￥3,700,000

５）特許

①出願

②取得

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

②講演会

1. 高橋伸子,「高齢者支援からみえてきたもの」,立命館土曜講座(第 3008 回),京都市・立命館大学衣笠キャンパス,2011年3月24日
2. 立岩真也,「異なる身体のもとでの交信」,重度訪問介護従業者養成研修,京都市・立命館大学,2011 年 10 月 30 日
3. 中鹿直樹,「障がい者就労支援からみえてきたもの」,立命館土曜講座(第 3007 回),京都市・立命館大学衣笠キャンパス,2011年3月17日
4. 星野祐司,「バリア研究:記憶の心理学からみえてきたもの」,立命館土曜講座(第 3006 回),京都市・立命館大学衣笠キャンパス,2011年3月10日

③その他

1. 青木千帆子,「災害と障がい者――私たちにとって本当に必要な福祉避難所とは」, 2012 年福島県北地区障がい福祉連絡協議会研修会,福島県・福島市保健福祉センター, 2012 年 2 月 19 日
2. 秋葉武, 「韓国の社会的企業」,アジア社会政策研究会,豊橋市,2011 年 8 月 21 日
3. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 10 月 15 日
4. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 11 月 19 日
5. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 12 月 17 日
6. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 2 月 18 日
7. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 3 月 17 日
8. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 4 月 16 日
9. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 5 月 21 日
10. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 6 月 18 日
11. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2011 年 9 月 17 日
12. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」,京都市・立命館大学,2012 年 1 月 21 日
13. 戦略的研究基盤形成支援事業研究チーム「発達支援チーム」(研究代表者:荒木穂積)(編),『特別な支援の必要な子どもと家族のニーズに関する実態調査研究――舞鶴市委託研究報告書――』,立命館大学人間科学研究所,pp.83,(2011)
14. 伊藤佳世子・佐藤浩子,「JDF 被災地障がい者支援センターふくしまでの仮設住宅調査のボランティアレポート」, 2011 年 7 月 20 日
15. 乾明紀, 「学生と連携した地域活性化の意義」, 京都丹波学生フォーラム, 亀岡市・京都学園大学, 2011 年 7 月 9 日
16. 乾明紀, 「プロジェクトに必要なものとは」, 京都府若手職員自主勉強会(たんぽぽの会), 京都市・京都府庁 NPO パートナーシップセンター, 2011 年 8 月 3 日
17. 乾明紀, 「アート系人材の育成」, ふるさと京都、夢・知恵・元気わくわく塾,京都市・京都府庁, 2011 年 9 月 16 日
18. 乾明紀・臼杵裕美子・門川大作・山崎亮・亀和田俊明・松野智義仁,「ポートフォリオ・カフェ」, 京都未来まつり 2011(京都市未来まちづくり 100 人委員会), 京都市・新風館, 2011 年 10 月 13 日
19. 乾明紀, 「可視化・巻き込み・変えていく」, 京都北東ロータリークラブ, 京都市・グランドプリンスホテル京都, 2011 年 11 月 30 日
20. 乾明紀, 「プロジェクト思考のススメ」, キャリアデザインフォーラムプレイベント―プロジェクトデザイン講座―, 京都市・立命館大学, 2011 年 12 月 11 日
21. 大谷いづみ,「『自分らしく、人間らしく』死にたい?――『安楽死・尊厳死』思想が内包するもの」,「難病患者・障害者の自宅療養を考える」学習会,東京都・ホテルグランドヒル市ヶ谷,2012 年 2 月 26 日
22. 北岡明佳,「三次元映像フォーラム」,The Symposium ＆Exhibition of Visual Illusion +S3D World 2012:Invitation to Visual Science～視覚と S3D が活かされる世界:視覚科学への誘(いざな)い,京都市・立命館大学,2012 年 3 月 17 日
23. 佐藤達哉,「病の経験と語り:分析手法としてのナラティブアプローチの可能性」,国際シンポジウム,京都市・立命館大学,2011 年 8 月 28 日
24. 佐藤達哉・村本邦子・荒木晃子,「生殖医療と里親・養親」,家族の＜創成と再統合＞シンポジウム,京都市・立命館大学,2011 年 9 月 3 日
25. 佐藤達哉,「震災・大学・放射能～福島大学教員をお招きして」,原子力と生存学研究会・特別企画,京都市・立命館大学,2012 年 3 月 29 日
26. 立岩真也, 「人工呼吸器をつけた子の親の会＜バクバクの会＞の成り立ちと現在」,人工呼吸器をつけた子の親の会〈バクバクの会〉の成り立ちと現在,公開インタビュー, 京都市・立命館大学朱雀キャンパス,2011 年 7 月 27 日
27. 立岩真也,「悲惨から新しい社会をと、言わない」, フォーラム「マイノリティ/他者の人文学――3.11 以降に問い直す」,兵庫県・神戸大学, 2011 年 7 月 29 日

28. 土田宣明・孫,「和やかな雰囲気で楽しく学べ、たっぷり話せる30分での脳トレ」,公開シンポジウム「みんなの脳を鍛える,京都市・立命館大学,2011年2月26日
29. Junya Tsutsui ,"Work-Life Conflicts in the Public Sector Employment", International Sociological Association Research Committee on Family(RC06),Research Seminar,Kyoto・Kyoto University,2011年9月12日
30. Junya Tsutsui,"East Asian Welfare Model and Its Discontents",International Symposium: East Asia in Transition,京都市・立命館大学,2012年3月24日
31. 津止正敏,男性介護研究会,京都市・立命館大学,2011年4月28日
32. 津止正敏,「お話「母との暮らし」で伝えたかったこと」,男性介護研究会,京都市・立命館大学,2011年7月23日
33. 津止正敏,「つながる力！「ケアメン」コミュニティ,男性介護研究会,京都市・立命館大学,2012年3月4日〜5日
34. （協力）中村正,「私のなかのあななたち、だから私はひとりになれる『ハチミツとクローバー』」,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ9,京都市・立命館大学,2011年5月14日
35. （協力）中村正,「私のなかのあななたち、だから私はひとりになれる『ニライカナイからの手紙』」,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ9,京都市・立命館大学,2011年6月25日
36. （協力）中村正,「私のなかのあななたち、だから私はひとりになれる『百万円と苦虫女』」,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ9,京都市・立命館大学,2011年7月23日
37. 中村正,「子どもの育ちを促進していくためのアタッチメント理論と実践方法について」,虐待とアタッチメント（愛着）, 大阪府・大阪市男女共同参画センター,2011年9月24日
38. 中村正,「児童相談の過去・現在・未来」,ジェノグラム研修会,京都市・立命館大学,2012年1月14日〜15日
39. 中村正, JST 実装プログラム「スター・ペアレンティング研修会」,大阪府・大阪府立男女共同参画・青少年センター,2012年2月18日〜19日
40. 中村正,「たたかず甘やかさず子育てする方法」,スター・ペアレンティング研修会,大阪府・大阪府立男女共同参画・青少年センター,2012年2月18日〜19日
41. 中村正, JST 実装プログラム「こどもの現場の変え方」,大阪市・子育ていろいろ相談センター,2012年3月3日
42. 野田正人・中村正・斎藤真緒,「ユース・スタディーズ事始め！」,ユースワーカー養成公開研究会,京都市・立命館大学,2011年11月23日
43. 堀田義太郎・長谷川唯・山本晋輔,「重度障害者・難病者コミュニケーション支援について」,重度訪問介護従業者養成研修, 京都・立命館大学,2011年2月2日
44. 松田亮三,「保健医療における選択:イギリスと日本における論争と経験」,比較ケア制度・政策研究セミナー,立命館大学,2012年3月28日
45. 松原洋子,「書籍デジタルデータ提供と読書障害学生支援—著作権法第37条第3項への対応と今後の課題」,障害のある学生支援に関する担当者会議,京都市・大学コンソーシアム京都キャンパスプラザ京都,2011年7月13日
46. 峰島厚,「知的障害児入所施設における最低基準の機能実態に関する調査研究」,障害児入所施設研究会平成23年度報告書,みずほ福祉助成財団,163p.(2011)
47. 望月昭・坂本真紀,「『見本合わせ課題』から考える特別支援教育」,ワークショップ「学校を「より楽しく」するための応用行動分析,京都市・立命館大学,2011年2月18日
48. 望月昭・上田陽子, ファースト・ステップ・ジョブグループ「ひきこもり当事者本人に対しての家族の対応を学ぶ連続講座」,京都市・立命館大学,2011年6月11日
49. 望月昭・上田陽子, ファースト・ステップ・ジョブグループ「ひきこもり当事者本人に対しての家族の対応を学ぶ連続講座」,京都市・立命館大学,2011年6月25日
50. 望月昭・本間正人・乾明紀, 「対話:本間正人×望月昭-学習学という視点と可能性」,R-GIRO プロジェクト「対人援助学の展開としての学習学の創造」,第1回公開研究会,京都市・立命館大学, 2011年12月18日
51. 山本耕平,「ひきこもりの社会的要因ー韓日比較検討の視座ー」,韓日ひきこもり研究会,韓国ソウル・ハジャセンター,2011年8月24日
52. 山本耕平,「韓日若者支援の現状と課題」,公開シンポジウム,京都市・立命館大学,2011年2月20日

53. 吉田甫・土田宣明，高齢者支援チーム「脳をきたえる『音読・計算』サポーター説明会」,京都市・立命館大学,2011年4月23日
54. 吉田甫・土田宣明，高齢者支援チーム「脳をきたえる『音読・計算』新規サポーター研修」,京都市・立命館大学,2011年5月9日～11日
55. 吉田甫・土田宣明，高齢者支援チーム「脳をきたえる『音読・計算』学習者説明会,京都市・立命館大学,2011年5月21日
56. 吉田甫・土田宣明，高齢者支援チーム「脳をきたえる『音読・計算』卒業・修了式」,京都市・立命館大学,2012年2月13日
57. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『チチカット・フォーリーズ』」,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編，京都市・立命館大学, 2011年11月5日
58. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『最後の手紙』」,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編，京都市・立命館大学, 2011年11月5日
59. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『福祉』」，朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編，京都市・立命館大学, 2011年11月6日
60. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『法と秩序』」，朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編，京都市・立命館大学,2011年11月6日
61. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『ボクシング・ジム』」，朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編，京都市・立命館大学,2011年11月7日
62. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『監督講演』」，朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編，京都市・立命館大学,2011年11月8日

以上

2011年度　研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	アート・リサーチセンター
研究所・センター長名	矢野　桂司（文学部・教授）

Ⅰ. 研究実績の概要 (公開項目)

本年度アート・リサーチセンターは、今後のセンターの活動方針の柱となるものとして以下の4プロジェクトを選定し集中的に取り組んだ。この4プロジェクトは研究所総合計画(5ヵ年)で集中的に重点化する研究分野やプロジェクトとして挙げているものに該当し、それぞれが学際的かつ有機的に連携し本センターの研究活動を発展させるとともに国際化を推進した。以下、本年度の研究実績の概要について重点プロジェクトごとに記述する。

プロジェクトNo.1: デジタル・ヒューマニティーズ教育研究プログラムの確立

プロジェクトNo.1は、本センターを受け皿として、2007年からスタートした文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)での学術研究・教育の後継・発展的展開を企図し選定したものである。本年度の目標とその達成については、以下のとおりである。

・新しい大学院教育プログラムの立ち上げ:すでに2014年度に本学文学研究科に文化情報学専攻が設置されることが決定し目標達成が確実となった。更に文科省「博士課程教育リーディングプログラム」に公募準備中。

・叢書の刊行:グローバルCOEの研究成果として3冊の叢書を刊行、シリーズ本全6冊として完成させた。

プロジェクトNo.2: デジタル・ミュージアム研究開発プロジェクト

プロジェクトNo.2は、萌芽的なプロジェクトという意味で選定した。本研究は、文部科学省の提案するデジタル・ミュージアムの構想に沿うものである上に、これまで文理連携の理念を実現すべく、本センターが構築してきた様々なデジタル・コンテンツやデジタル技術を利活用して、国内外の博物館・美術館との連携を模索しようとするものである。2011年度の申請時に計画した研究の取り組みは、大きく、(1)祇園祭開催中のデジタル・アーカイブと、(2)祇園祭終了後のデジタル・アーカイブに分けられるが、これらは、概ね予定通り実施できた。

プロジェクトNo.3: ホワイトスペースを活用した文化コンテンツの放送 –通信連携型ハイブリッド・プラットフォーム

プロジェクトNo.3は、先端的プロジェクトという意味で選定した。データ放送連動のエリアワンセグ放送を活用した文化的情報、文化的コンテンツの配信プラットフォームと連動させることで、放送–通信連携型文化的コンテンツ配信のハイブリッド・プラットフォームを構築することを最終目標においている。その内、本年度は、以下の到達目標を設定し、実施した。

・インフラ構築:実験試験局免許を取得後、定期配信を開始した。実用的な学内外受信エリアを確保できた。

・テストコンテンツの制作と配信:実験放送の通常番組スケジュールに組み込んで定期的に配信できた。

・防災活用:地域住民に、ワンセグ放送での災害情報提供について、イベントでの実演を交えながら紹介した。

プロジェクトNo.4: 表象研究におけるデジタル資源活用のための応用手法開発

プロジェクトNo.4は、潜在掘り起し型プロジェクトという意味で選定した。イメージ・データベースという学術的武器をフルに活用できる潜在的人材を掘り起し、大量のデジタル文化資源を有効に応用・活用していくため、以下のように多面的に取り組んだ。(1)定期的な研究会を実施、(2)海外博物館への若手研究者のインターン型派遣、(3)若手研究者派遣の開拓と調査、(4)若手研究者らのデジタル技術活用のインフラ整備とシステム開発支援、(5)若手研究者が開発・構築するイメージDBのコンテンツ作成支援、(6)デジタル資源活用事例の蓄積。学部・大学院講義での資源活用、等。上記の研究活動を受けた学会発表・論文執筆は論文26本、口頭発表60件にのぼる。

Ⅱ．研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 安東正純，山村浩之，満福講次，塚本章宏，磯田弦，仲田晋，田中覚「津波被災地域における復興支援のための３次元町並みモデルの自動生成」第 16 回バーチャルリアリティ学会大会論文集，バーチャルリアリティ学会，pp.542-545，2011 年 9 月 20-22 日
2. 井坪将，木村文則，前田亮「古典史料からの相対的な人物関係の時間的変化の推定と可視化」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，情報処理学会，2011-8，pp.29-36，2011 年 12 月 10 日
3. 尾鼻崇「『GAME&WATCH』のビデオゲーム史的視座―ルール・サウンド・インターフェイス―」*Core Ethics*，立命館大学大学院先端総合学術研究科，vol.8，pp.87-100，2012 年 3 月
4. 金子貴昭「板本に表れる板木の構成―紙質・匡郭―」『アート・リサーチ』，立命館大学アート・リサーチセンター，12 号，pp33-64，2012 年 3 月
5. 亀田和子「《蘭亭図》の図像解釈学―『楊模』と『庾蘊』のイメージを中心に―」，『アート・リサーチ』，立命館大学アート・リサーチセンター，12 号，pp.3-22，2012 年 3 月 31 日
6. 加茂瑞穂「財団法人京染会蔵友禅協会図案について―明治期の友禅図案」服飾文化学会誌〈論文編〉，服飾文化学会，vol.12，pp.59-69，2012 年 3 月
7. 桐村喬「日本の六大都市における小地域人口統計資料の収集とデータベース化―近現代都市の歴史 GIS の構築に向けて―」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，情報処理学会，2011-8，pp.169-176，2011 年 12 月 11 日
8. 桐村喬，中谷友樹，矢野桂司「市区町村の区域に関する時空間的な地理情報データベースの開発―Municipality Map Maker for Web―」GIS－理論と応用，地理情報システム学会，vol.19 no.2，pp.83-92，2011 年 12 月
9. 楠井清文「植民地朝鮮に対する『観光のまなざし』の形成―立命館大学国際平和ミュージアム所蔵絵葉書と文化人の紀行文を中心に―」『アート・リサーチ』，立命館大学アート・リサーチセンター，12 号，pp.31-43，2012 年 3 月
10. 阪田真己子，倉坂幸佳「舞楽『陵王』における「間」のとり方に関する基礎的研究」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，情報処理学会，2011-8，pp269-274，2011 年 12 月
11. 高柳亜紀，土田勝，鳥居悠人，河内雄大，中田悠葵，田中士郎，脇田航，田中弘美，矢野桂司，川西隆仁，柏野邦夫，大和淳司「超高精細分光撮影による祇園祭・山鉾懸装品のデジタルアーカイブ（第二報）」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，情報処理学会，2011-8，pp.99-104，2011 年 12 月 10 日
12. 塚本章宏，中村琢巳「歴史的建造物の被災履歴と火災図を統合した『天明の京都大火』被災範囲の復原」歴史都市防災論文集，立命館大学 歴史都市防災研究センター，vol.5，pp.95-102，2011 年 7 月
13. 中村琢巳，塚本章宏「『天明の京都大火』において焼失を免れた歴史的建造物の特性」歴史都市防災論文集，立命館大学 歴史都市防災研究センター，vol.5，pp.103-110，2011 年 7 月
14. 中谷友樹，瀬戸寿一，長尾諭，矢野桂司，板谷直子「東日本大震災による文化遺産の被災状況について ―― 文化財被災地理情報データベースの利用」歴史都市防災論文集，立命館大学 歴史都市防災研究センター，vol.5，pp.201-208，立命館大学びわこ・くさつキャンパス（草津市），2011 年 7 月 2 日
15. 中谷友樹「地理統計に基づくがん死亡の社会経済的格差の評価 ― 市区町村別がん死亡と地理的剥奪指標との関連性―」 統計数理，統計数理研究所，第 59 巻　第 2 号，pp.239-265，2011 年 12 月
16. 破田野智己，斎藤進也，山田早紀，滑田明暢，木戸彩恵，若林宏輔，山崎優子，上村晃弘，稲葉光行，サトウタツヤ「政策決定過程の可視化と分析にむけて―議論過程のシミュレーションとその KTH キューブによる表現―」立命館人間科学研究，立命館大学人間科学研究所，No.24，pp.63-72，2011 年 12 月
17. 原次良，脇田航，田中弘美「実物体指向浮世絵展示システム」第 16 回日本バーチャルリアリティ学会大会論文

集, 日本バーチャルリアリティ学会, 21D-1(CD-ROM), 2011年9月21日

18. 久山岳夫, Biligsaikhan Batjargal, 木村文則, 前田亮「浮世絵を対象とした異種データベースの多言語統合アクセス手法の提案」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 情報処理学会, 2011-8, pp.275-280, 2011年12月11日
19. 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「室内音響指標を用いた残響指標RSR-Dnに基づく残響下音声認識性能の予測」電子情報通信学会論文誌(D), 電子情報通信学会, J94-D No.4, pp.712-720, 2011年4月
20. 本多健一「近世後期の都市祭礼における空間構造—京都の今宮祭を事例に—」人文地理, 人文地理学会, 64巻1号, pp.1-18, 2012年2月
21. 前田耕作, 細井浩一「映画産業における寡占の形成と衰退—日米における〈撮影所システムの黄金時代〉の比較を通じて—」『アート・リサーチ』, 立命館大学アート・リサーチセンター, 12号, pp.3-15, 2012年3月
22. 松葉涼子「役者似顔春本『姿名鏡』—役者似顔の考証と出版の背景—」『アート・リサーチ』, 立命館大学アート・リサーチセンター, 12号, pp.65-80, 2012年3月
23. 松本文子, 瀬戸寿一「京町家の滅失要因についての分析—第Ⅲ期京町家まちづくり調査結果から—」環境情報科学論文集, 25, pp.425-430, 2011年11月
24. 満福講次, 山本真嗣, 平部敬士, 磯田弦, 塚本章宏, 仲田晋, 田中覚「3次元都市モデルの自動生成とGoogle Earthでの可視化」第16回バーチャルリアリティ学会大会論文集,日本バーチャルリアリティ学会, pp.456-459, 2011年9月20-22日
25. 満福講次, 山本真嗣, 平部敬士, 磯田弦, 塚本章宏, 長谷川恭子, 仲田晋, 田中覚「3次元都市モデルの自動生成—Google Earth 上で江戸時代京都の可視化—」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 情報処理学会, 2011-8, pp.299-306, 2011年12月10-11日
26. 村中亮夫, 中谷友樹, 埴淵知哉「社会地区類型に着目した花粉症有病率の地域差」GIS－理論と応用, 地理情報システム学会, vol.19 no.2, pp.127-137, 2011年12月
27. 山本真嗣, 長谷川恭子, 仲田晋, 田中覚「祇園祭・船鉾の3次元CGモデル作成とその利用」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 情報処理学会, 2011-8, pp.243-248, 2011年12月10-11日
28. 山本真紗子「百貨店の図案創出における日本美術研究成果の影響—中井宗太郎と髙島屋百選会の事例から—」*Core Ethics*, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, vol.8, pp.411-422, 2012年3月
29. 吉村衛, 木村文則, 前田亮「古文テキスト解析のための文字Nグラムの出現確率を利用した単語分割」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 情報処理学会, 2011-8, pp.261-268, 2011年12月11日
30. 脇田航, 田中弘美「同一力覚デバイスによるテクスチャベースの摩擦力計測・モデル化・提示システムの開発」電子情報通信学会論文誌(D), 電子情報通信学会, J94-D No.5, pp.814-820, 2011年8月27日
31. 脇田航, 田中弘美「立体的織物文化財の多感覚デジタルアーカイブ」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 情報処理学会, 2011-8, pp.293-298, 2011年12月10日
32. Naomi Akaishi, Toshikazu Seto, Keiji Yano, and Yukihiro Fukushima, ‘Digitalization of “Large-scale Maps of Kyoto City”’, *The 3rd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities,* National Taiwan University, pp.3-16, 1-2 December 2011
33. Biligsaikhan Batjargal, Fuminori Kimura, and Akira Maeda, ‘Metadata-related Challenges for Realizing Federated Searching System for Japanese Humanities Databases’, *Proceedings of The 11th International Conference on Dublin Core and Metadata Applications (DC-2011)*, 6273/2010, pp.80-85, 22 September 2011
34. Biligsaikhan Batjargal, Fuminori Kimura, and Akira Maeda, ‘Realizing Bilingual and Parallel Access to Ukiyo-e Databases in the World’, *Proceedings of The 2nd International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2011)*, pp.165-166, 22 October 2011
35. Monika Bincsik, Shinya Maezaki, and Kenji Hattori, ‘Digital archive project to catalogue exported Japanese decorative arts’, *International Journal of Humanities and Arts Computing*, Edinburgh University Press, vol.6 Issue1-2, pp.42-56, March 2012

36. Worawat Choensawat, Woong Choi, and Kozaburo Hachimura, 'Similarity Retrieval of Motion Capture Data Based on Derivative Features', *Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics*, vol.16 No.1, pp.13-23, January 2012
37. Worawat Choensawat, Sachie Takahashi, Minako Nakamura, and Kozaburo Hachimura, 'A Labanotation Editing Tool for Description and Reproduction of Stylized Traditional Dance Body Motion', *Digital Humanities 2011*, pp.296-300, 19-22 June 2011
38. Worawat Choensawat, Sachie Takahashi, Minako Nakamura, and Kozaburo Hachimura, 'The Use of Labanotation fro Choreographing a Noh-Play', *Proceedings of The 2nd International Conference on Culture and Computing (Culture Computing 2011)*, pp.167-168, 20-22 October 2011
39. Worawat Choensawat, and Koazaburo Hachimura, 'Generating Stylized Dance Motion from Labanotation by Using an Autonomous Dance Avatar', *International Conference on Computer Graphics Theory and Applications*, pp.535-542, 24-26 February 2012
40. Worawat Choensawat, Sachie Takahashi, Minako Nakamura, and Kozaburo Hachimura, 'The Use of Labanotation for Choreographing a Noh-Play', *Proceedings of The 2nd International Conference on Culture and Computing (Culture Computing 2011),* pp.167-168, 22 October 2011
41. Takahiro Fukumori, Masanori Morise, Takanobu Nishiura, Yoichi Yamashita, and Hiroaki Nanjo 'The estimation of optimum subtraction parameters for iterative spectral subtraction towards musical tone reduction', *Proceedings of Inter-noise2011*, I-INCE, PaperID: Mon-P-21, 5 September 2011
42. Tomoya Hanibuchi, Katsunori Kondo, Tomoki Nakaya, Kokoro Shirai, Hiroshi Hirai, and Ichiro Kawachi, 'Does walkable mean sociable? Neighborhood determinants of social capital among older adults in Japan', *Health & Place*, vol.18 Issue 2, pp.229-239, 2011年
43. Tomoya Hanibuchi, Katsunori Kondo, Tomoki Nakaya, Miyoko Nakade, Toshiyuki Ojima, Hiroshi Hirai, and Ichiro Kawachi, 'Neighborhood food environment and body mass index among Japanese older adults: Results from the Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES)', *International Journal of Health Geographics*, vol.10, 43, 9p., 21 July 2011
44. Tomoya Hanibuchi, Ichiro Kawachi, Tomoki Nakaya, Hiroshi Hirai, and Katsunori Kondo, 'Neighborhood built environment and physical activity of Japanese older adults: Results from the Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES)', *BMC Public Health*, vol.11, 657, 12p., 19 August 2011
45. Keisuke Horii, Takahiro Fukumori, Masanori Morise, Takanobu Nishiura, and Yoichi Yamashita 'Multiple-nulls-steering beamformer based on both talkers and noises localization', *Proceedings of Inter-noise2011*, I-INCE, PaperID:Mon-P-19, 5 September 2011
46. Keisuke Horii, Takahiro Fukumori, Masanori Morise, Takanobu Nishiura, and Yoichi Yamashita, 'Musical tone reduction based on auditory sense for spectral subtraction', *Proceedings of Inter-noise2011*, I-INCE, PaperID: Mon-P-22, 5 September 2011
47. Mitsuyuki Inaba, Michiru Tamai, Koichi Hosoi, Ruck Thawonmas, Masayuki Uemura, and Akinori Nakamura, 'Implementing Situated Learning of Japanese Traditional Culture in 3D Metaverse,' *Proceedings of Digital Humanities Australia 2012*, p.64, 26-28 March 2012
48. Shigeru Inoue, Yumiko Ohya, Yuko Odagiri, Tomoko Takamiya, Masamitsu Kamada, Shinpei Okada, Kohichiro Oka, Yoshinori Kitabatake, James F. Sallis, Tomoki Nakaya, and Teruichi Shimomitsu, 'Perceived neighborhood environment and walking for specific purposes among Japanese elderly', *Journal of Epidemiology*, vol.21(6), pp.481-490, November 2011
49. Aki Ishigami, 'Poetry and Palimpsest in Suzuki Harunobu's *Eight Modern Views of Interiors (Furyu Zashiki Hakkei)*', *Andon*, Society for Japanese Arts, vol.90, pp.5-21, June 2011
50. Sho Itsubo, Takahiko Osaki, Fuminori Kimura, Taro Tezuka, and Akira Maeda, 'Visualization of

Co-occurrence Relationships Using the Historical Persons and Locational Names from Historical Documents', *Conference Abstracts of Digital Humanities 2011*, pp.326-329, 20 June 2011

51. Ayae Kido, Kosuke Wakabayashi, Tomomi Hatano, Shinya Saito, Akinobu Nameda, Mitsuyuki Inaba, and Tatsuya Sato, 'Visualizing and Analyzing Cultural Voices in Computer-Mediated Communication through Social Gaming Simulation', *Proceedings of The 2nd International Conference on Cultural and Computing (Cultural and Computing 2011),* pp.181-182, 20-22 October 2011
52. Fuminori Kimura, Mamoru Yoshimura, and Akira Maeda, 'Term Extraction from Japanese Ancient Writings Using Probability of Character N-grams', *Proceedings of The 2nd International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2011)*, pp.183-184, 22 October 2011
53. Liang Li, Woong Choi, Yuichiro Hara, Kazuyuki Izuno, Keiji Yano, and Kozaburo Hachimura, 'Reproduction of rolling and vibration for virtual Yamahoko Parade experiencing system,' *VRSJ the 16th Annual Conference*, THE VIRTUAL REALITY SOCIETY OF JAPAN, pp. 470-473, 20-22 September 2011
54. Shinya Maezaki, 'Meiji Ceramics for the Japanese Domestic Market: Sencha and Japanese Literati Taste', *Transactions of Oriental ceramic Society*, vol.74, pp.47-58, July 2011
55. Masato Nakayama, Takanobu Nishiura, Yoichi Yamashita, and Noboru Nakasako 'Parallel beamformer based on both talkers and noises localization', *Proceedings of Inter-noise2011*, I-INCE, PaperID: Mon-P-19, 5 September 2011
56. Akinobu Nameda, Kosuke Wakabayashi, Tomomi Hatano, Shinya Saito, Mitsuyuki Inaba, and Tatsuya Sato, 'Towards social application and sustainability of digital archives: The case study of 3D visualization of large-scale documents of the great Hanshin-Awaji earthquake,' *The 3rd International Conference of Digital Archives adn Digital Humanities,* pp.17-25, 1-2 December 2011
57. Mamiko Sakata, and Keita Miyamoto, 'Process in Establishing Communication in Collaborative Creation', *The 14th International Conference on Human-Computer Interaction (HCII2011)*,, Virtual Graghics and Mixed Reality LNCS, 6774, pp.315-324, Springer, 9-14 July 2011
58. Mamiko Sakata, and Sachika Kurasaka ' Basic Study in Ma Timing in Gagaku -Between the Dancer and the Ryuteki Player in Bugaku Dance "Ryo-Ou" ', *Proceedings of The 2nd International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2011)*, pp.185-186, 20-22 October 2011
59. Wang Sheng, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata, and Satoshi Tanaka, 'Virtual 3D model of court-noble house "Reizei-ke" ', *The 7th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2011)*, CD-ROM, 13 October 2011
60. Kingkarn Sookhanaphibarn, Ruck Thawonmas, Frank Rinaldo, and Kuan-Ta Chen, 'Spatiotemporal Analysis of Circulation Behaviors Using Path And Residing Time displaY (PARTY)', *2011 Workshop on Digital Media and Digital Content Management (DMDCM)*, pp.284-291, 15-17 May 2011
61. Kingkarn Sookhanaphibarn, Ruck Thawonmas, and Frank Rinaldo, 'Visualization of Visitor Circulation in Arts and Cultural Exhibition', *Abstracts of Digital Humanities 2011* (*DH2011*), pp.365-368, 19-22 June 2011
62. Michiru Tamai, Mitsuyuki Inaba, Koichi Hosoi, Ruck Thawonmas, Masayuki Uemura, and Akinori Nakamura, 'Constructing a Platform for Situated Learning of Japanese Traditional Culture in the 3D Metaverse', *Osaka Symposium on Digital Humanities 2011*, pp.7-8, 13 September 2011
63. Michiru Tamai, Mitsuyuki Inaba, Koichi Hosoi, Ruck Thawonmas, Masayuki Uemura, and Akinori Nakamura, 'Constructing Situated Learning Platform for Japanese Language and Culture in 3D Metaverse,' *The 2nd International Conference on Cultural and Computing (Cultural and Computing 2011)*, pp.189-190, 20-22 October 2011
64. Ruck Thawonmas, and Akira Fukumoto, 'Frame Extraction Based on Displacement Amount for Automatic Comic

Generation from Metaverse Museum Visit Log', *Intelligent Interactive Multimedia Systems and Services (KES IIMSS 2011), Smart Innovation, Systems and Technologie*, vol.11, pp.153-162, 20-22 July 2011

65. Ruck Thawonmas, and Tomonori Shuda, 'Frame Selection for Automatic Comic Generation from Museum Playlog in Metaverse', *IADIS International Conference Game and Entertainment Technologies 2011*, pp.43-50, 22-24 July 2011
66. Alejandro Toledo, Kingkarn Sookhanapibarn, Ruck Thawonmas, and Frank Rinaldo, 'Visual Recommendations from Japanese Historical Diary', *Proceedings of The 2nd International Conference on Culture and Computing* (*Culture Computing 2011*), pp.191-192, 20-22 October 2011
67. Alejandro Toledo, Kingkarn Sookhanapibarn, Ruck Thawonmas, and Frank Rinaldo, 'Evolutionary Computation for Label Layout on Unused Space of Stacked Graphs', *ISRN Artificial Intelligence*, vol.2012, ID139603, 10p., 22 December 2011
68. Alejandro Toledo, Kingkarn Sookhanapibarn, Ruck Thawonmas, and Frank Rinaldo 'Personalized recommendation in interactive visual analysis of stacked graphs', *ISRN Artificial Intelligence*, vol.2012, ID389540, 8p., 2 November 2011
69. Makoto Uemura, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata, and Satoshi Tanaka, 'Particle-based transparent visualization of 3D inner structure of Funeboko in Gion Festival', *International Conference on Culture and Computing (Culture and Computing 2011)*, CD-ROM, 20-22 October 2011
70. Wataru Wakita, Katsuhito Akahane, Masaharu Isshiki, and Hiromi T. Tanaka, 'A Realtime and Direct-touch Interaction System for the 3D Cultural Artifact Exhibition', *The 14th International Conference on Human-Computer Interaction (HCII2011)*, Virtual Graghics and Mixed Reality, LNCS vol.6774, pp.197-205, Springer, 14 July 2011
71. Wataru Wakita, Jiro Hara, and Hiromi T. Tanaka, 'A Real Object Oriented Ukiyo-e Exhibition Interface', *The 6th International Workshop on Haptic and Audio Interaction Design, HAID 2011*, USB, 25-26 August 2011
72. Wataru Wakita, Katsuhito Akahane, Masaharu Isshiki, and Hiromi T. Tanaka, 'A Multi-scale and Multimodal Direct Interaction System for the 3D Cultural Artifact Exhibition' *The 6th International Workshop on Haptic and Audio Interaction Design, HAID 2011*, USB, 25-26 August 2011
73. Wataru Wakita, and Hiromi T. Tanaka, 'A Real Object Oriented Haptic Rendering Method' *The 6th International Workshop on Haptic and Audio Interaction Design, HAID 2011*, USB, 25-26 August 2011
74. Shinya Yasumoto, Andrew P Jones, Tomoki Nakaya, and Keiji Yano, 'The use of a virtual city model for assessing equity in access to views', *Computers, Environment and Urban Systems,* vol.35(6), pp.464-473, 201111月
75. Shinya Yasumoto, Andrew P Jones, Keiji Yano, and Tomoki Nakaya, 'Virtual city models for assessing environmental equity of access to sunlight:, A case study of Kyoto, Japan' *International Journal of Geographical Information Science*, vol.26(1), pp.1-13, 10 February 2012

図書

1. 河角龍典「GISを用いた平城京の古地形の定量的復原と市街地の立地分析」HGIS研究協議会編『歴史GISの地平―景観・環境・地域構造の復原に向けて―』勉誠出版, pp.209-219, 2012年3月
2. Monika Bincsik, 'Circulation of Japanese lacquer objects in eighteenth-century Europe - Market price of the craftsmanship and the canon of the Grand Arts', Shayne Rivers ed., "*East Asian Lacquer: Material Culture, Science and Conservation*", East Asian Lacquer, Archetype Books, pp.31-41, 2011
3. Shinya Saito, Shin Ohno, and Mitsuyuki Inaba, 'A Platform for Visualizing and Sharing Collective Cultural Information', Jieh Hsiang ed., "*From Preservation to Knowledge Creation: The Way to Digital*

Humanities" , NTU Press, pp.169-182, November 2011

4. Toshikazu Seto, Takafusa Iizuka, Ayako Matsumoto, Takashi Kirimura, Keiji Yano, Tomoki Nakaya, and Yuzuru Isoda, 'Transition of Urban Landscape with Kyo-machiya in Virtual Kyoto', Jieh Hsiang ed., "*Digital Humanities: New Approaches on Historical Studies*", NTU Press, pp.73-92, December 2011

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 相川清明，秋葉友良，伊藤慶明，河原達也，中川聖一，南條浩輝，西崎博光，胡新輝，松井知子，山下洋一「音声ドキュメント処理ワーキンググループ活動報告」，『情報処理学会研究報告』，情報処理学会， Vol.2011-SLP-89 No.4, pp.1-6, 2011 年 12 月 19 日
2. 青木和人，武田幸司，矢野桂司，中谷友樹「ネットワークトポロジによる地価モデルを適用した固定資産税評価の試み」『第 20 回地理情報システム学会講演論文集』，地理情報システム学会，vol.20，CD-ROM，鹿児島大学（鹿児島市），2011 年 10 月 15 日
3. 彬子女王「大英博物館所蔵アンダーソン・コレクションの可能性」，『豊饒の日本美術―小林忠先生古稀記念論集』藝華書院，pp.392-97，2012 年 3 月
4. 出光佐千子「池大雅の瀟湘八景図研究―織り込まれた四季の意味」，『鹿島美術研究年報別冊』，鹿島美術財団，第 28 号，pp.141-152，2011 年 11 月
5. 出光佐千子「館蔵品紹介 立原杏所筆『七絶詩』・春沙筆「遊小魚図」の鑑賞―南宋の文人・陸游に擬えて」，『出光美術館館報』，出光美術館，157 号，pp.36-43，2012 年 2 月
6. 出光佐千子「池大雅による光の描写と黄檗美術―黄檗山萬福寺蔵『書画禅冊葉』の体験」，『出光美術館研究紀要』，出光美術館，17 号，pp.73-92，2012 年 3 月
7. 出光佐千子「池大雅と立原杏所の理想郷―杏所に流れる大雅風の検証」，『豊饒の日本美術』，小林忠先生古稀記念編集委員会，pp.268-273，2012 年 3 月
8. 上島理恵子「平安貴族社会における政務執行体制の一側面―六勝寺奉行を中心に―」，『立命館文学』，624 号，pp.181-194，2012 年 1 月
9. 上村雅之，河村吉章，サイトウ・アキヒロ，尾鼻崇，吉田寛「〈老化〉するゲーム文化―ビデオゲームの三つのエイジングをめぐって」立命館大学生存学研究センター編『生存学』，vol.4，生活書院，pp.5-25，2011 年 6 月
10. 小川純平，林田亘平，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「マルチステージ環境音識別法を用いた非日常音検出に関する検討」，『2011 年秋季研究発表会講演論文集』，日本音響学会，2-Q-15，pp.101-102，2011 年 9 月 20 日
11. 小川純平，林田亘平，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「音源・擬音語モデルを併用した 2 段階環境音識別に基づく非日常音検出の検討」，『日本音響学会聴覚研究会』，日本音響学会聴覚研究会，vol.41 No.7，pp.571-576，2011 年 10 月 1 日
12. 小川純平，林田亘平，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「残響モデルを用いたマルチステージ環境音識別法に基づく非日常音識別の検討」，『2012 年春季研究発表会講演論文集』，日本音響学会，pp.17-18，神奈川大学（横浜市），2012 年 3 月 13 日
13. 金子貴昭「近世出版機構における板木の役割―白板の機能―」，『2011 年度秋季研究発表会予稿集』，日本出版学会，pp.18-24，2011 年 11 月
14. 木立雅朗「須恵器窯の歩き方―篠窯跡群分布調査のために―」，『立命館文学』，立命館大学人文学会，624 号，pp.25-40，2012 年 1 月
15. 木村一信「南方徴用作家の言説―阿部知二、井伏鱒二、高見順」，『帝国日本の移動と東アジアの植民地文学』，高麗大学校日本研究センター，pp.365-375，2011 年 11 月
16. 桐村喬「長期的な都市内人口変動における戦災の影響―東京と京都の比較―」，『第 20 回地理情報システム学

会講演論文集』, 地理情報システム学会, vol.20, 6p.(CD-ROM), 2011 年 10 月 16 日

17. 倉谷泰弘, 林田亘平, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「音源位置推定のための到来音響パワー差に基づく局所探索法の検討」, 『2011 年秋季研究発表会講演論文集』, 日本音響学会, 1-P-9, pp.729-730, 2011 年 9 月 20 日
18. 坂部裕美子「歌舞伎公演出演傾向の世代間比較」, 『年次大会予稿集:2011』, 文化経済学会<日本>, pp.80-81, 2011 年 7 月 3 日
19. 坂部裕美子「相撲番付にみる角界の構造変遷」, 『2011 年度統計関連学会連合大会論文集』, 統計関連学会, p.130, 2011 年 9 月 6 日
20. 佐古愛己「勧賞叙位の一考察―東宮・中宮関連の勧賞を事例として―」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624 号, pp.195-206, 2012 年 1 月
21. 鹿内菜穂, 澤田美砂子, 八村広三郎「点光源映像を用いた舞踊動作の識別と印象評価」,『日本認知心理学会第 9 回大会発表論文集』, 日本認知心理学会, pp.93, 2011 年 10 月 2 日
22. 鹿内菜穂, 八村広三郎「相手意識がダンスの同期・非同期動作に及ぼす影響」,『日本心理学会第 75 回大会発表論文集』, 日本心理学会, pp.666, 2011 年 9 月 15 日
23. 鹿内菜穂, 八村広三郎「ダンスのアップダウン動作における二者間の身体動作特徴」,『人文科学とコンピュータ研究会報告』, 情報処理学会, 2011-CH-90(5), pp.1-4, 2011 年 5 月 14 日
24. 鹿内菜穂, 八村広三郎, 澤田美砂子「舞踊の感情表現における感性情報の評価―ビデオ映像と点光源映像を用いた主観的評価実験―」『人文科学とコンピュータ研究会報告』, 情報処理学会, 2011-CH-92(2), pp.1-8, 2011 年 5 月 14 日
25. 杉橋隆夫「鎌倉右大将家と征夷大将軍・補考」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624 号, pp.512-520, 2012 年 1 月
26. 瀬戸寿一「災害対応におけるボランタリーな地理空間情報の時空間的推移 ― 東日本大震災クライシス・マッピング・プロジェクトを事例に, 『第 20 回地理情報システム学会講演論文集』, 地理情報システム学会, vol.20, 4p.(CD-ROM), 2011 年 10 月 15 日
27. 田中誠「康永三年における室町幕府引付方改編について」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624 号, pp.424-434, 2012 年 1 月
28. 谷昇「興福寺・和泉国司紛争と後鳥羽上皇―建久九年初度熊野御幸をめぐって―」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624 号, pp.293-305, 2012 年 1 月
29. 丹野匡貴, 阪田真己子「漫才におけるオープンコミュニケーションの定量化―観客の有無による非言語行動の比較―」『ヒューマンインタフェースシンポジウム 2011 論文集』, ヒューマンインタフェース学会, pp.785-788, 2011 年 9 月
30. 張建立「中日喫茶法概説」,『中国社会科学報』, 中国社会科学雑誌社, 193 号, p.24, 2011 年 6 月 2 日
31. 塚本章宏「17 世紀京都で作成された測量図の精度」,『第 20 回地理情報システム学会講演論文集』, 地理情報システム学会, vol.20, P-23(CD-ROM), 2011 年 10 月 15-16 日
32. 中谷友樹, 瀬戸寿一, 長尾諭, 矢野桂司, 板谷(谷)直子「東日本大震災による文化遺産の被災状況について文化財被災地理情報データベースの利用」,『歴史都市防災論文集』, 立命館大学 歴史都市防災研究センター, Vol.5, pp.201-208, 2011 年 7 月
33. 中谷友樹「2009-10 年のインフルエンザ A(H1N1)2009pdm 流行時のインフルエンザ感染・不安・予防接種の経験と社会経済的地位―JGSS-2010 による分析―」,『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』, 大阪商業大学, 第 12 集, pp.11-27, 2012 年 3 月
34. 中山雅人, 西浦敬信, 山下洋一, 中迫昇「話者と音源の位置推定に基づく複数死角制御型ビームフォーマの基礎的検討」,『電子情報通信学会技術研究報告』, 電子情報通信学会, SP2011-19, pp.107-112, 2011 年 5 月 13 日
35. 滑川敦子「鎌倉幕府行列の成立と『随兵』の創出」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624 号, pp.329-345,

2012年1月
36. 花岡和聖, 中谷友樹, 矢野桂司「移動データの地理的視覚化―立命館大学衣笠キャンパスへの通学移動を事例に―」,『立命館地理学』, 立命館地理学会, 23号, pp.91-101, 2011年11月
37. 花田卓司「観応・文和年間における室町幕府軍事体制の転換」, 『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624号, pp.435-448, 2012年1月
38. 林田亘平, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「多重解像度走査に基づく実時間音源位置推定の検討」, 『2011年秋季研究発表会講演論文集』, 日本音響学会, 1-4-4, pp.609-610, 2011年9月20日
39. ビンチク・モニカ, 前崎信也「日本工芸データベース―在外コレクション所蔵作品を中心とする画像データベース構築について」」,『人文科学とコンピュータ研究会報告』, 情報処理学会, 2011-CH-90(8), pp.77-84, 2011年5月14日
40. 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「残響環境下音声認識における発話位置・話者依存性の分析評価」, 『電子情報通信学会技術研究報告』, 電子情報通信学会, SP2011-10, pp.55-60, 2011年5月12日
41. 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「残響下音声認識における話者依存尺度の検討」, 『2011年秋季研究発表会講演論文集』, 日本音響学会, 1-10-3, pp.7-8, 2011年9月20日
42. 細井浩一, 福田一史, 浅田恵佑「大学アーカイブズの応用研究：仮想空間〈バーチャル広小路〉の構築と運用」立命館百年史紀要, 立命館百年史編纂室, 20号, pp.7-26, 2012年3月
43. 堀井圭祐, 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「帯域分割型スペクトル減算に基づくミュージカルノイズ低減手法の検討」,『電子情報通信学会技術研究報告』, 電子情報通信学会, SP2011-1, pp.1-6, 2011年5月12日
44. 堀井圭祐, 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「帯域分割型スペクトル減算によるミュージカルノイズ低減のための減算係数最適化の検討」, 『2011年秋季研究発表会講演論文集』, 日本音響学会, 2-Q-22, pp.125-126, 2011年9月21日
45. 堀井圭祐, 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「減算係数重み付けスペクトル減算によるミュージカルノイズ低減の検討」, 『日本音響学会聴覚研究会』,日本音響学会聴覚研究会, vol.41 No.7,pp.577-582, 2011年10月1日
46. 松永徹, 趙國, 山下洋一「音響情報のベクトル量子化に基づいた音声検索語検出」, 『2011年秋季研究発表会講演論文集』, 日本音響学会, 3-10-2, pp.271-272, 2011年9月22日
47. 満福講次, 平部敬士, 長谷川恭子, 仲田晋, 田中覚「江戸時代京都の3次元としモデルの自動生成とGoogle Earthでの可視化」,『第39回可視化情報シンポジウム講演論文集』, 可視化情報学会, Vol.31 No.1, pp.289-292, 2011年7月18-19日
48. 三上聡太「堀田昇一『モルヒネ』論―朝鮮モルヒネ政策を告発した作家―」,『日本研究』, 高麗大学校日本研究センター, Vol.16, pp.207-221, 2011年8月
49. 村中亮夫, 瀬戸寿一, 谷端郷, 中谷友樹「2次元/3次元電子地図による安全安心情報の配信システムに対するユーザビリティの意識構造分析」,『第20回地理情報システム学会講演論文集』, 地理情報システム学会, vol.20, 4p.(CD-ROM), 2011年10月15日
50. 桃崎有一郎「観応擾乱・正平一統前後の幕府執政『鎌倉殿』と東西幕府」,『年報中世史研究』, 中世史研究会, 36号, pp.33-60, 2011年5月
51. 桃崎有一郎「鎌倉殿昇進拝賀の成立・継承と公武関係」,『日本歴史』, 吉川弘文館, 8月号(759), pp.17-34, 2011年8月
52. 桃崎有一郎「『西宮記』に見る平安中期慶申（拝賀・奏慶・慶賀）の形態と特質」, 『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 624号, pp.74-94, 2012年1月
53. 矢野桂司, 赤石直美, 瀬戸寿一, 福島幸宏「1927年『京都市明細図』のGISデータベース」,『第20回地理情報システム学会講演論文集』, 地理情報システム学会, vol.20, 4p. (CD-ROM), 2011年10月16日
54. 山村浩之, 安東正純, 満福講次, 平部敬士, 塚本章宏, 磯田弦, 仲田晋, 田中覚, 矢野桂司「津波被災地域に

おける復興支援のための３次元都市モデル自動生成ツールの開発」情報処理学会，第 74 回全国大会講演論文集，pp.2-253-254，2012 年 3 月 6-8 日

55. 脇田航，赤羽克人，一色正晴，田中弘美「立体的織物文化財のリアルタイムかつ直接的 VR 展示システム」，『信学技報』，電子情報通信学会，Vol.111 No.235，MVE2011-51，pp.109-114，2011 年 10 月 14 日
56. Monika Bincsik，‘Golden Sun, Silver Moon-Precious metals in Japanese art’，*“Ikebana International”*，Vol.55，pp.13-24，March 2011
57. Kazumasa Hanaoka，‘Estimating spatial distributions of earnings at the small area level in Japan: A spatial microsimulation approach’，*“Journal of City Planning Institute of Japan”*，The City Planning Institute of Japan，Vol.46 No.2，pp.142-148，October 2011
58. Ayako Matsumoto，Toshikazu Seto，Takafusa Iizuka，Mei-Po Kwan，and Keiji Yano，‘What can be obtained from presentation text?: Qualitative GIS analysis into cultural landscape’，*Supporting Digital Humanities 2011*，USB，18 November 2011
59. Keiko Suzuki，‘Mt. Fuji in Edo Art, and Culture’，*“Mount Fuji: Hokusai and Hiroshige”*，Manggha Museum of Japanese Art and Technology，pp.43-58，January 2012
60. Aki Takayanagi，Masaru Tsuchida，Yoshiyuki Sakaguchi，and Hiromi T. Tanaka，‘Reflection Analysis of Woven Fabric Using Multiband Imaging Camera’，*Proceedings of The 7th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR 2011)*，CD-ROM，13-14 October 2011
61. Wataru Wakita，Jiro Hara，and Hiromi T. Tanaka，‘A Real Object Oriented Ukiyo-e Exhibition Interface’ *Proceedings of The 7th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2011)*，CD-ROM，14 October 2011
62. Yoichi Yamashita，Toru Matsunaga，and Kook Cho，‘YLAB@RU at Spoken Term Detection Task in NTCIR9-SpokenDoc’，*Proceedings of the 9th NTCIR Workshop Meeting (NTCIR-9)*，pp.287-290，9 December 2011
63. Keiji Yano，Toshikazu Seto，Ayako Matsumoto，Naomi Akaishi，and Dai Kawahara，‘Restoring Streetscape in the Past on Virtual Kyoto’，*IGU Regional Geographic Conference UGI 2011*，9p.（CD-ROM），14-18 November 2011

図書

1. 赤間 亮「春画が教える江戸歌舞伎のホント」『浮世絵入門　恋する春画』 新潮社，pp.50-55，2011 年 6 月
2. 赤間 亮「国文学研究とデジタルアーカイブ」『都留文科大学国語国文学会会報』，119 号，pp.1-12，2011 年 10 月
3. 赤間 亮「江戸後期浮世絵の共作見立揃物ー「東海道五十三対」の意義をめぐって」『論究日本文学（立命館大学)』，95 号，pp.1-16，2011 年 12 月
4. 彬子女王「風俗画と京都―京都商品陳列所の公式カタログに描かれた風俗画を中心に―」松本郁代，出光佐千子，彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ―虚実をうつす機知―』思文閣出版，pp.411-431，2012 年 3 月 30 日
5. 彬子女王「19 世紀英国における円山四条派理解について―英国人蒐集家が京都の画師に寄せた思い―」冨田美香，木立雅朗，松本郁代，杉橋隆夫編『京都イメージ―文化資源と京都文化―』ナカニシヤ出版，pp.44-57，2012 年 3 月 30 日，Princess Aliko of Mikasa，‘The Art of the Maruyama-Shijō School in 19th century Britain: British Collectors on Kyoto Painters’，Mika Tomita，Masaaki Kidachi，Ikuyo Matsumoto，and Takao Sugihashi eds.，“*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*”，Nakanishiya Shuppan，pp.164-175，30 March 2012
6. 浅田恵佑，細井浩一「コミュニケーション支援環境としての仮想空間とその応用」 稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版，pp.127-157，2012 年 3 月 30 日，Keisuke Asada，and Koichi Hosoi，‘A Metaverse as a Communication Support Environment and its Applications’，Mitsuyuki Inaba

ed., “*Digital Humanities Research and Web Technology*”, Nakanishiya Shuppan, pp.293-319, 30 March 2012

7. 石上阿希「西川祐信の絵本と江戸の艶本」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ―虚実をうつす機知―』思文閣出版, pp.255-281, 2012年3月30日
8. 出光佐千子「文人たちの談笑サロンへの招待―大雅の咲い・蕪村の嗤い」出光佐千子, 黒田泰三編『大雅・蕪村・玉堂と仙厓 ―「笑」のこころ』出光美術館, pp.6-8, 2011年9月
9. 出光佐千子「池大雅筆『瀟湘八景図』研究―詩画一致の鑑賞方法から―」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ―虚実をうつす機知―』思文閣出版, pp. 313-346, 2012年3月30日
10. 出光佐千子, 黒田泰三『大雅・蕪村・玉堂と仙厓 ―「笑」のこころ』出光美術館, 126p., 2011年9月
11. 稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, 346p., 2012 年 3 月 30 日, Mitsuyuki Inaba ed., “*Digital Humanities Research and Web Technology*”, Nakanishiya Shuppan, 346p., 30 March 2012
12. 稲葉光行「人文科学における e-リサーチのための Web 環境」稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, pp.1-24, 2012年3月30日, Mitsuyuki Inaba, ‘Web Environment for e-Research in Humanities’, Mitsuyuki Inaba ed., “*Digital Humanities Research and Web Technology*”, Nakanishiya Shuppan, pp.175-196, 30 March 2012
13. 稲葉光行「テキストマイニング」末田清子, 田崎勝也, 猿橋順子, 抱井尚子編『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版, pp.199- 213, 2011年7月
14. 上田学『日本映画草創期の興行と観客』早稲田大学出版部, 250p., 2012年3月
15. 上田学「映画館の〈誕生〉」岩本憲児編『日本映画史叢書 15　日本映画の誕生』森話社, pp.179-208, 2011 年10月
16. 大矢敦子「俄興行がもたらした映画受容の場への影響」冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ―文化資源と京都文化―』ナカニシヤ出版, pp.88-102, 2012年3月30日, Atsuko Oya, ‘The Influence of *Niwaka* Improvisational Entertainment on Movie Theatres: a Case Study on Kyoto’s Shinkyōgoku District’, Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto, and Takao Sugihashi eds., “*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*”, Nakanishiya Shuppan, pp.209-222, 30 March 2012
17. 尾鼻崇, 上村雅之「遊びしてのビデオゲーム研究：『ゲームプレイ』のビジュアライゼーションとアーカイビング」稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, pp.68-87, 2012年3月30日, Takashi Obana, and Masayuki Uemura ‘Study of Video Game as Play: The Visualization and Archiving of “Game Play”’, Mitsuyuki Inaba ed., “*Digital Humanities Research and Web Technology*”, Nakanishiya Shuppan, pp.236-255, 30 March 2012
18. 尾鼻崇, 上村雅之「ゲーム・スタディーズのための研究基盤創生：ビデオゲームソフトウェア付属取扱説明書のオンラインデータベース構築」稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, pp.88-108, 2012 年 3 月 30 日, Takashi Obana, and Masayuki Uemura, ‘The Creation of Reserch Infrastructure for game Status Building online database of user’s guides provided with video game software’, Mitsuyuki Inaba ed., “*Digital Humanities Research and Web Technology*”, Nakanishiya Shuppan, pp.256-273, 30 March 2012
19. 抱井尚子, 稲葉光行「ミックス法」末田清子, 田崎勝也, 猿橋順子, 抱井尚子編『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版, pp.226-244, 2011年7月
20. 川嶋將生「中世における稲荷信仰の隆盛」『伏見稲荷大社御鎮座千三百年史』伏見稲荷大社, pp.117-178, 2011 年10月
21. 川嶋將生「全体概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.1-6, 2012年2月
22. 川嶋將生「１章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.7-9, 2012年2月
23. 川嶋將生「武家の台頭」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.10-27, 2012年2月

24. 川嶋將生「甲賀上郡・下郡」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.28-46, 2012年2月
25. 川嶋將生「2章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.83-85, 2012年2月
26. 川嶋將生「3章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.187-189, 2012年2月
27. 川嶋將生「4章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.321-323, 2012年2月
28. 川嶋將生「文芸と芸能の展開」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.448-470, 2012年2月
29. 川嶋將生「喝食の額髪―『銀杏の葉』型額髪の意味をめぐって」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ―虚実をうつす機知―』思文閣出版, pp163-180, 2012年3月30日
30. 川嶋將生「古筆と極め―その歴史的意義」冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ―文化資源と京都文化―』ナカニシヤ出版, pp1-13, 2012年3月30日, Masao Kawashima, '*Kohitsu* and *Kiwame* -Their Historical Meanings', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi eds., "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*", Nakanishiya Shuppan, pp.119-131, 30 March 2012
31. 木立雅朗「『韓国併合』を祝賀した友禅染」冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ―文化資源と京都文化―』ナカニシヤ印刷, pp.58-73, 2012年3月30日, Masaaki Kidachi, 'Yuzen Dyeing Works that Celebrated Japa's Annexation of Korea', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi eds., "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*", Nakanishiya Shuppan, pp.176-194, 30 March 2012
32. 木村一信監修『外地の人々―〈外地〉日本語文学選』亀鳴屋, 360p., 2011年5月
33. 木村一信「南方徴用作家の言説―阿部知二、井伏鱒二、高見順」高麗大学校日本研究センター『帝国日本の移動と東アジアの植民地文学』, pp.365-375, 2011年11月
34. キンカーン・スックハナピバーン, ラック ターウォンマット, 稲葉光行「仮想環境での鑑賞者の観覧行動 に対する視覚的分析ツール～セカンドライフにおける仮想展示の事例研究～」稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究とWeb技術』ナカニシヤ出版, pp.158-174, 2012年3月30日, Kingkarn Sookhanaphibarn, Ruck Thawonmas, and Mitsuyuki Inaba, 'Virtual Analytics Tool for Visitor Circulation in Virtual Environments: A Case Study from a Gallery in Second Life', Mitsuyuki Inaba ed., "*Digital Humanities Research and Web Technology*", Nakanishiya Shuppan, pp.158-174, 30 March 2012
35. 斎藤進也 「Web技術と視覚表現：ｅ-リサーチの視点から」稲葉光行編 『デジタル・ヒューマニティーズ研究とWeb技術』ナカニシヤ出版, pp.25-44, 2012年3月30日, Shinya Saito, 'Web Technology and Visual Expression: From a point of View of e-Research', Mitsuyuki Inaba ed., "*Digital Humanities Research and Web Technology*", Nakanishiya Shuppan, pp.197-214, 30 March 2012
36. 佐古愛己『平安貴族社会の秩序と昇進』思文閣出版, 500p., 2012年2月
37. 佐古愛己「平安貴族の『雅』と『武』」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『立命館大学京都文化講座 京都の公家と武家』白川書院, pp.4-25, 2011年7月
38. 佐古愛己「『兵範記』平信範 ―筆忠実な能吏が描いた激動期の摂関家―」元木泰雄, 松薗斉編『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房, pp.38-51, 2011年11月
39. 杉橋隆夫『日本文化の源流を求めて 3』文理閣, 220p., 2012年3月
40. 杉橋隆夫「京都の朝廷と関東の府」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『立命館大学京都文化講座 京都の公家と武家』白川書院, pp.26-45, 2011年7月
41. 鈴木桂子「浮世絵にみる他者の構築 ―『唐人』という視点から考える」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風

俗絵画の文化学Ⅱ—虚実をうつす機知—』思文閣出版, pp.206-230, 2012年3月30日

42. 田中弘美, 脇田航, 尹新, 土田勝, 坂口義之「有形文化財の視触覚モデリングと呈示」八村広三郎,田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.108-134, 2012年3月30日, Hiromi T. Tanaka, Wataru Wakita, Xin Yin, Masaru Rsuchida, and Yoshiyuki Sakaguchi, 'Visuo-haptic Modeling and Presentation of Tangible Cultural Properties', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.280-309, 30 March 2012
43. 田中誠「中世平安京の都市構造— GISを用いた貴族の移動経路分析」冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, pp.14-27, 2012年3月30日, Makoto Tanaka, 'Urban Construction in Medieval *Heian-Kyō*: Analysis of Nobility Transit Routes Using GIS', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi eds., "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*", Nakanishiya Shuppan, pp.132-145, 30 March 2012
44. 玉井未知留, 稲葉光行, 細井浩一, Ruck Thawonmas, 上村雅之, 中村彰憲「3Dメタバースを用いた日本語・日本文化学習環境の構築」稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, pp.108-126, 2012年3月30日, Michiru Tamai, Mitsuyuki Inaba, Koichi Hosoi, Ruck Thawonmas, Masayuki Uemura, and Akinori Nakamura 'Constructing Japanese Language/Culture Learning Environment Using 3D Metaverse', Mitsuyuki Inaba ed., "*Digital Humanities Research and Web Technology*", Nakanishiya Shuppan, pp.252-268, 30 March 2012
45. 趙國, 西浦敬信, 山下洋一「複数のマイクロホンを用いた目的音源の位置同定」八村広三郎,田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.53-72, 2012年3月30日, Kook Cho, Takanobu Nishiura, and Yoichi Yamashita, 'Localization of Target Sound Sources Using Multiple icrophones', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.206-220, 30 March 2012
46. 張建立「わびの営為—日本的ルサンチマンの具現化」王勇編『東亜文化的伝承與揚棄』中国書籍出版社, pp.380-390, 2011年7月1日
47. 冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, 248p., 2012年3月30日, Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto, and Takao Sugihashi eds., "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*", Nakanishiya Shuppan, 248p., 30 March 2012
48. 冨田美香「戦間期日本における小型映画文化の様相—映画都市京都のもう一つの顔—」冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, pp.103-118, 2012年3月30日, Mika Tomita, 'Aspects of Small-Gauge Film in Interwar Japan: Another Face of the "Cinema City" Kyoto', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi eds., *"Urban Images of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Resources*", Nakanishiya Shuppan, pp.223-240, 30 March 2012
49. 中谷友樹「国レベルのがん死亡と地理的剥奪指標がんの社会格差」祖父江友孝・片野田耕太・味木和喜子・津熊秀明・井岡亜希子編『がん統計白書』篠原出版新社, pp.245-256, 2012年
50. 長谷川恭子, 植村誠, 仲田晋, 田中覚「祇園祭・船鉾の可視化」八村広三郎, 田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.38-52, 2012年3月30日, Kyoko hasegawa, Makoto Uemura, Susumu Nakata, and Satoshi Tanaka, 'Visualization of the Funeboko float from the Gion Festival', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.206-220, 30 March 2012
51. 八村広三郎, 田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, 343p., 2012年3月30日, Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, 343p., 30 March 2012
52. 八村広三郎「デジタル・アーカイブ技術の現状と課題」八村広三郎, 田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.1-15, 2012年3月30日, Kozaburo Hachimura, 'The Current Status and Issues

of Digital Archiving Technology', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka, "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.169-183, 30 March 2012

53. 八村広三郎, 田中弘美「デジタル・ミュージアムの実現に向けて」八村広三郎, 田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.16-37, 2012年3月30日, Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka, 'Towards the Realization of the Digital Museum', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.184-205, 30 March 2012
54. 八村広三郎, 李亮, 崔雄, 福森隆寛, 西浦敬信, 矢野桂司「祇園祭バーチャル山鉾巡行の実現」八村広三郎, 田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.88-107, 2012年3月30日, Kozaburo Hachimura, Liang Li, Woong Choi, Takahiro Fukumori, Takanobu Nishiura, and Keiji Yano, 'Generating Virtual Yamahoko Parade of the Gion Festival', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.259-279, 30 March 2012
55. 花岡和聖「地形図と空中写真からみる横須賀の景観変遷」上杉和央編『軍港都市史研究 2　景観編』清文堂出版, pp.13-40, 2012年3月
56. 花岡和聖「明治後期から大正期にかけての海軍志願兵志願者の出身地」上杉和央編『軍港都市史研究 2　景観編』清文堂出版, pp.203-231, 2012年3月
57. 福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信「祇園祭音場のデジタル・アーカイブに向けた高臨場録再生」八村広三郎,田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.73-87, 2012年3月30日, Takahiro Fukumori, Masanori Morise, and Takanobu Nishiura, 'High-Realistic Recordings and Reproductions for Creating a Digital Archive of the Sound Fields of the Gion Festival', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka eds., "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.242-258, 30 March 2012
58. 細井浩一, 中村彰憲, 上村雅之, 福田一史, 大野晋「ビデオゲームアーカイブと集合知：ゲームアーカイブ・プロジェクトの活動と成果」稲葉光行編 『デジタル・ヒューマニティーズ研究とWeb技術』 ナカニシヤ出版, pp.45-67, 2012年3月30日, 2012年3月30日, Koichi Hosoi, Akinori Nakamura, Masayuki Uemura, Kazushi Fukuda, and Shin Ohno, 'Video Game Archive and Collective Knowledge: Practice and Achievement of Game Archive Project', Mitsuyuki Inaba ed., "*Digital Humanities Research and Web Technology*", pp.215-235, Nakanishiya Shuppan, 30 March 2012
59. 前田亮, 木村文則, Batjargal Biligsaikhan「デジタル図書館・アーカイブへの言語・時代・文化横断型の情報アクセス」八村広三郎, 田中弘美編『デジタルアーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.150-168, 2012年3月30日, Akira Maeda, Fuminori Kimura, and Biligsaikhan Batjargal, 'Cross-Lingual, Cross-Chronological, and Cross-Cultural Information Access to Digital Libraries and Archives', Kozaburo Hachimura, and Hiromi T. Tanaka eds., "*New Developments on Digital Archives*", Nakanishiya Shuppan, pp.324-342, 30 March 2012
60. 松葉涼子「江戸役者絵本の出版」R. Keller Kimbrough, and Satoko Shimazaki eds., "*Publishing the Stage: Print and Performance in Early Modern Japan*", Center for Asian Studies University of Colorado Boulder, pp.87-105, 2011年5月
61. 松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ―虚実をうつす機知―』思文閣出版, 450p., 2012年3月30日
62. 松本郁代「中世密教における神の位相―密教王としての天皇即位と『大日本国』」伊藤聡編『中世神話と神祇・神道世界』竹林舎, pp.83-104, 2011年4月
63. 松本郁代「仏教的世界観における都と天皇―中世日本の世界認識」冨田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ―文化資源と京都文化―』ナカニシヤ出版, pp.28-43, 2012年3月30日, Ikuyo Matsumoto, 'Emperor and Capital in the Buddhist Worldview: The Perception of the World in medieval Japan', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto, and Takao Sugihashi eds., "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*", Nakanishiya Shuppan, pp.146-163, 30 March 2012

64. 松本郁代「虚実をうつす機知―文化学の射程」松本郁代・出光佐千子，彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ―虚実をうつす機知―』思文閣出版，pp.3-19，2012年3月30日
65. 村中亮夫「地形図と空中写真からみる呉の景観の変遷」上杉和央編『軍港都市史研究 2 景観編』清文堂出版，pp.45-79，2012年3月
66. 村中亮夫「軍港都市における景観保全に対する住民の意識構造」上杉和央編『軍港都市史研究 2 景観編』清文堂出版，pp.369-391，2012年3月
67. 村中亮夫「コラム　観光客の旅行費用にみる軍港都市のレクリエーション価値」上杉和央編『軍港都市史研究 2 景観編』清文堂出版，pp.392-396，2012年3月
68. 矢野桂司「GIS 革命と地理情報科学」小林茂，宮澤仁編『グローバル化時代の人文地理学』pp.44-58，放送大学教育振興会，2012年3月
69. 矢野桂司「グローバル化と人口移動」小林茂，宮澤仁編『グローバル化時代の人文地理学』pp.123-140，放送大学教育振興会，2012年3月
70. 矢野桂司「都市システムと世界都市」小林茂，宮澤仁編『グローバル化時代の人文地理学』pp.141-156，放送大学教育振興会，2012年3月
71. 山本真紗子「立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の整理作業」冨田美香，木立雅朗，松本郁代，杉橋隆夫編『京都イメージ―文化資源と京都文化―』ナカニシヤ出版，pp.74-87，2012年3月30日，Masako Yamamoto，'Sorting of the Collection of Yuzen Designs and RelatedMaterials at Ritsumeikan University's Art Research Center'，Mika Tomita，Masaaki Kidachi，Ikuyo Matsumoto，and Takao Sugihashi eds.，"*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Rosources*"，Nakanishiya Shuppan，pp.195-208，30 March 2012
72. 和田晴吾，広瀬和雄編『講座日本の考古学 第7巻 古墳時代〈上〉』青木書店，787p.，2011年12月
73. 和田晴吾「古墳時代研究小史」和田晴吾，広瀬和雄編『講座日本の考古学　第7巻　古墳時代〈上〉』青木書店，pp.54- 99，2011年12月
74. 和田晴吾「考古学の魅力」ほか，和田晴吾，矢野健一，木立雅朗，高正龍，下垣仁志『考古学・文化遺産を学ぶ』立命館大学文学部日本史研究学域，p.1，pp.6-7，pp.40-42，p.49，p.61，2012年3月30日
75. 和田晴吾，下垣仁志「重要な研究課題と参考文献－弥生・古墳・飛鳥時代」，和田晴吾，矢野健一，木立雅朗，高正龍，下垣仁志『考古学・文化遺産を学ぶ』立命館大学文学部日本史研究学域，pp.25-29，2012年3月30日
76. Ryo Akama，'Satirical and Humorous Pictures of Chushingura'，"Ukiyo-e Caricatures"，Wienna University，pp.41-58，December 2011
77. Princess Akiko of Mikasa，'The Art of Copying: Reproductions of Japanese Masterpieces in the British Museum'，Michelle Huang ed.，*"Beyond Boundaries: East & West Cross-cultural Encounters"*，pp.74-85，November 2011
78. Biligsaikhan Batjargal，Garmaabazar Khaltarkhuu，Fuminori Kimura，and Akira Maeda，'Chapter 2: Integrated Information Access Technology for Digital Libraries: Access across Languages，Periods，and Cultures'，Kuo Hung Huang ed.，"*Digital Libraries- Methods and Applications*"，pp.23-44，April 2011
79. Kazuko Kameda-Madar，'Transmission of Meanings: A Study of Shen Wai Shen (Body Outside Body) by Xu Bing 徐冰' *Xu Bing and Cotemporary Chinese Art: Cultural and Philosophical Reflections*，eds，Hsingyuan Tsao and Roger Ames，State University of New York Press，pp.147-173，September 2011
80. Shinya Maezaki，'New Horizons of Ceramic Sculpture'，Andreas Marks ed.，"*Fukami: Purity of Form*"，The Clark Center for Japanese Art & Culture，pp.18-25，April 2011
81. Shinya Maezaki，'Creating a Digital Database of Japanese Ceramics in Western Collections'，Jieh Hsiang ed.，"*From Presearvation to Knowledge Creation: The Way to Digital Humanities*"，NTU Press，pp.211-216，November 2011
82. Shinya Maezaki，'Chapter 8: A Legacy of Matsubayashi Tsurunosuke in St Ives: Introduction of the Art

of Japanese Ceramic Making to the British Studio Pottery', Michelle Ying Ling Huang ed., "*East & West Cross-Cultural Encounter*", Cambridge Scholars Publishing, pp.110-121, December 2011

83. Shinya Saito, Shin Ohno, and Mitsuyuki Inaba, 'Structures and Evolution of Digital Humanities: An Empirical Research based on Correspondence Analysis and Co-word Analysis', Jieh Hsiang ed., "*From Preservation to Knowledge Creation: The Way to Digital Humanities*", NTU Press, pp.169-182, November 2011
84. Ruck Thawonmas, 首田大仁「メタバース内の美術館への訪問ログからの訪問時間に基づいた漫画の自動生成」八村広三郎,田中弘美編『デジタル・アーカイブの新展開』ナカニシヤ出版, pp.135-149, 2012年3月30日, Ruck Thawonmas, and Tomonori Shuda, 'Automatic Comic Generation Based on Visiting Time from Metaverse-Museum Visiting Logs', Kozaburo Hachimura, and Tiromi T. Tanaka, "*New Developments in Digital Archives*", Nakanishita Shuppan, pp.310-323, 30 March 2012
85. Mika Tomita, 'LES REPRESENTATIONS DU JAPON DANS LA COPRODUCTION NIPPO-GERMANIQUE BUSHIDO DAS EISERNE GESETZ (1924-1925, HEINZ KARL HEILAND ET KAKO ZANMU, TOA KINEMA)', Maillard, Christine, Murakami-Giroux, Sakae, ed., "*Devenir l'Autre. Expérience et Récit du Changement de Culture entre le Japon et l'Occident*" Arles: Éditions Philippe Picquier, pp.75-88, October 2011
86. Akiko Yano, 'Capturing the Body: Ryûkôsai's Notes on 'Realism' in Representing Actors on Stage', Keller Kimbrough, and Satoko Shimazaki eds., "*Publishing the Stage; Print and Performance in Early Modern Japan*", pp.117-136, Center for Asian Studies, University of Colorado Boulder, 20 July 2011
87. Wang Xiaoguang, and Mitsuyuki Inaba, 'A Platform for Visualizing and Sharing Collective Cultural Information', Jieh Hsiang ed., "*From Preservation to Knowledge Creation: The Way to Digital Humanities*", NTU Press, pp.169-182, November 2011

２）学会発表

①海外での発表

1. Ryo Akama, 'Trends in Studies Using Digital Images', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS),* タリン（エストニア）, タリン大学, 2011年8月24日
2. Ryo Akama, 'Digital Revolution: New Challenges in the ARC Digitization Model', *EAJRS2011,* 英国、Newcastle University, 2011年9月8日
3. Ryo Akama, 'Digital Revolution on the Education of Japanese Art and Culture: The Digital Age Provides Epoch-making New Opportunitiesfor the Young Scholar'. *Harvard-Ritsumeikan Symposium on Digital Humanities,* ケンブリッジ市(米国)、Harvard University, 2012年3月3日
4. 上田学「映画草創期に韓国皇帝・皇太子を撮影した映画について」二国間交流事業共同研究「植民地期の韓国映画と日本映画の交流について」, ソウル市(韓国),漢陽大学, 2012年2月
5. 川嶋將生「前近代の日本における穢れの認識」ワークショップ「日本における社会認識と国際性—前近代を中心に—」, ロサンゼルス (USA), 南カリフォルニア大学, 2012年3月9日
6. 【審査付き】田中誠, 河原梓水「平安貴族と自然環境—平安京における『道』と貴族社会」*The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS),* タリン（エストニア）, タリン大学, 2011年8月26日
7. 冨田美香「帝国日本の小型映画文化と朝鮮での受容」2011年度二国間交流事業共同研究「植民地期の韓国映画と日本映画の交流について」研究会, ソウル（韓国）, 漢陽大学, 2012年2月21日
8. 三上聡太「高見順—〈戦後〉としての阿片問題—」日韓学術フォーラム, プサン市（韓国）,東西大学, 2011年8月21日
9. Naomi Akaishi, Toshikazu Seto, Keiji Yano, and Yukihiro Fukushima, 'Digitalization of "Large-scale Maps of Kyoto City"', *3rd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities*, Taipei(Taiwan), National Taiwan University, 1 December 2011

10. Princess Akiko of Mikasa, 'What is the History of Japanese Art?: Displaying Japanese Antiquities at the British Museum', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 24-27 August 2011
11. Michael Batty, Kazumasa Hanaoka , Tomoki Nakaya, Oliver O' Brien, and Keiji Yano, 'Space-Time dynamics of the Japanese urban system', *2011 AAG Annual Meeting*, Seattle(USA), Sheraton Seattle Hotel, 15 April 2011
12. 【審査付き】Monika Bincsik, 'Lacquer Depicted in Ukiyo-e — Ukiyo-e Reflected in Lacquer', *2011 Association for Asian Studies Annual Conference* (Panel organizer for "*The Location of the Motif or How to Popularize Ideas: Late Edo Period Visual Language Shared In Ukiyo-e, Decorative Arts and the Theatre*"), Honolulu (Hawaii), The Hawai'i Convention Center, 1 April 2011
13. 【審査付き】Monika Bincsik, 'Golden styles of Japanese calligraphy paper and lacquer art: the technical development of gold leaf and metal powder application', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 24 August 2011
14. 【審査付き】Takuji Hanada, 'GIS を利用した中世京都合戦の分析：GIS Analysis of Medieval Battles in Kyoto', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 26 August 2011
15. Kazumasa Hanaoka, Tomoki Nakaya, Keiji Yano, and Takashi Kirimura, 'Microsimulating Spatio-temporal Commuting Behavior of University Students in Kyoto City, Japan', *2011 AAG Annual Meeting*, Seattle(USA), Sheraton Seattle Hotel, 14 April 2011
16. Kazumasa Hanaoka, 'A spatio-temporal analysis on applicants for enlisted soldiers in Modern Japan during 1897-1921', *17th European Colloquium on Quantitative and Theoretical Geography*, Athens(Greece), harokopio University, 2-5 September 2011
17. Tomoya Hanibuchi, Tomoki Nakaya, Katsunori Kondo, Kokoro Shirai, Hiroshi Hirai, and Ichiro Kawachi, 'Exploring neighborhood determinants of social capital', *The 14th International Medical Geography Symposium*, Durham(UK), Durham University, 15 July 2011
18. 【審査付き】Mitsuyuki Inaba, Michiru Tamai, Koichi Hosoi, Ruck Thawonmas, Masayuki Uemura, and Akinori Nakamura, 'Implementing Situated Learning of Japanese Traditional Culture in 3D Metaverse,' *Digital Humanities Australia 2012*, Canberra(Australia), Australian National University, 28-30 March 2012
19. 【審査付き】Aki Ishigai, 'How did Nishikawa Sukenobu's Shunpon Depict Various Castes?: A Case Study of *Iro hiinagata* (1711)', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 26 August 2011
20. Aki Ishigami, 'Erotic Kibyoshi Illustrated Comic Fiction', *SHUNGA in its Social and Cultural Context*', London(UK), School of Oriental and African Studies (SOAS), 20 May 2011
21. 【審査付き】Aki Ishigami, 'The World of Erotic Illustrated Comic Fiction: Shunga and the Kibyōshi', *Association for Asian Studies 2012 Annual conference*, Tronto(Canada), Sheraton Centre Tronto Hotel, 15 March 2012
22. Takashi Kirimura, 'Changes in the Structure of Residential Areas in 20th-Century Tokyo', *2012 AAG Annual Meeting*, New York(USA), Hilton New York and Sheraton New York Hotel & Towers, 24 February 2012
23. Liang Li, Akira Asano, and Chie Muraki Asano, 'Mathematical morphology and human texture perception', *The 7th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2011)*, Beijing(China), Peking University, OS1-1, 13-14 October 2011
24. Liang Li, Keiji Yano, Woong Choi, Kozaburo Hachimura, and Takanobu Nishiura, 'The digital museum of Gion Festival using Virtual Kyoto,' *2012 AAG Annual Meeting*, New York(USA), Hilton New York and Sheraton New York Hotel & Towers, 24-28 February 2012

25. 【審査付き】 Liang Li, Chulapong Panichkriangkrai, Chihiro Tsunoda, and Kozaburo Hachimura, 'A binarization approach for Ukiyo-e Rakkan extraction', *The 10th IAPR International Workshop on Document Analysis Systems (DAS2012)*, Gold Coast(Australia), Griffith University, 27-29 March 2012 (Poster)
26. 【審査付き】Liang Li, Woong Choi, Yuichiro Hara, Kazuyuki Izuno, Keiji Yano, and Kozaburo Hachimura, 'Vibration reproduction for a virtual Yamahoko Parade system,' *IEEE Virtual Reality 2012 (IEEE VR 2012)*, Orange County(USA), University of California, 4-8 March 2012 (Poster)
27. 【審査付き】Shinya Maezaki, 'Weaving bamboo into the history of Japanese art: The present state of Japanese bamboo art research', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies(EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 25 August 2011
28. 【審査付き】Ryoko Matsuba, 'The Eight Views in Edo Japan: Transmission of the Pictorial Subjects', *2011 Association for Asian Studies Annual Conference*, Honolulu(USA), The Hawai'i Convention Center, 2 April 2011
29. 【審査付き】Ryoko Matsuba, 'The private lives of kabuki actors as revealed in prints and illustrated books', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies(EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 26 August 2011
30. Ayako Matsumoto, Naomi Akaishi, Toshikazu Seto, Takafusa Iizuka, and Keiji Yano, 'Spatial Temporal Analysis on the Transition of Street Landscape with Kyo-machiya', *2011 AAG Annual Meeting*, Seattle(USA), Sheraton Seattle Hotel, 16 April 2011
31. Ayako Matsumoto, Toshikazu Seto, Naomi Akaishi, Takafusa Iizuka, Mei-Po Kwan, and Keiji Yano, 'Geo-Narrative analysis into the oral presentation texts about the cultural landscape consist of Kyo-machiya in Japan', *2012 AAG Annual Meeting*, New York(USA), Hilton New York and Sheraton New York Hotel & Towers, 25 February 2012
32. Tomoki Nakaya, and Kazumasa Hanaoka, 'Reading space-time clusters of outbreaks on a set of historical disease maps: Analysing an early effort to detect clusters of typhoid fever cases in Kyoto, 1928-9', *2011 AAG Annual Meeting*, Seattle(USA), Sheraton Seattle Hotel, 15 April 2011
33. Tomoki Nakaya, and Tomoya Hanibuchi, 'Japanese league of healthy and unhealthy neighbourhoods: geodemographic profiling of Japanese population health', *The 14th International Medical Geography Symposium*, Durham(UK), Durham University, 14 July 2011
34. Yuichiro Nishimura, and Toshikazu Seto, 'The Emergence of Neogeographers in the Great East Japan Earthquake 2011: Crisis Mapping Project Using Free and Open Source Software for Geospatial', *2012 AAG Annual Meeting*, New York(USA), Hilton New York and Sheraton New York Hotel & Towers, 24-28 February 2012
35. Shin Ohno, Akinori Nakamura, 'Theoretical Overview and Implementation of Game Preservation at Ritsumeikan University', *The 2011 Joint PCA/ACA National Conference*, Texas(USA), The San Antonio Marriott Hotel, 22 April 2011
36. Atsuko Oya, 'Onoe Matsunosuke and Materials Related to the Film, Chushingura (The Royal Forty-seven Ronin) in the Makino Mamoru Collection', *The Makino Collection at Columbia: the Present and Future of an Archive*, New York(USA), EALAC Lounge of Kent Hall, Columbia University, 11 November 2011
37. 【審査付き】Chulapong Panichkriangkrai, Liang Li, and Kozaburo Hachimura, 'Character segmentation for Japanese woodblock printed historical books', *The 10th IAPR International Workshop on Document Analysis Systems (DAS2012)*, Gold Coast(Australia), Griffith University, 27-29 March 2012 (Poster)
38. Toshikazu Seto, Akio Muranaka, Go Tanibata, and Tomoki Nakaya, 'Possibilities of Combining Web Mapping Systems with Resident Participation for Community Safety and Security - ', *The RGS-IBG Annual International Conference 2011*, Lomdon(UK), Imperial College of London, 1 September 2011

39. 【審査付き】Nao Shikanai, and Kozaburo Hachimura, ‘Relations between Kansei Information and Movement Characteristics in Point-light Displays of Dance’, *The 14th International Conference on Human-Computer Interaction (HCII2011)*, Florida(USA), Hilton Orlando Bonnet Creek, 9-14 July 2011 (poster)
40. 【審査付き】Nao Shikanai, and Kozaburo Hachimura, ‘Comparing Movements of Interpersonal Up-down Dance Coordination by using Motion Capture’ *Supporting Digital Humanities 2011*, Copenhagen(Denmark), University of Copenhagen, 17 November 2011
41. 【審査付き】Keiko Suzuki, ‘Kimono in the Twentieth Century: Selling "Japan," to the West,’ *Material Culture, Craft & Community: Negotiating Objects Across Time & Place*, Alberta (Canada), University of Alberta, 21 May 2011
42. Keiko Suzuki, ‘Toward the Further International Development of the Study of Japanese Arts and Cultures’, *Harvard-Ritsumeikan Symposium on Digital Humanities*, Cambridge (USA), Harvard University, 3 March 2012
43. 【審査付き】Mika Tomita, ‘Aspects of the Place and the Memory in "Ballad Film", in 1930s’, *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)*, Tallinn(Estonia), Tallinn University, 26 August 2011
44. Mika Tomita, ‘Aspects of Small-Gauge Film Culture in Prewar Japan’, *The Makino Collection at Columbia: the Present and Future of an Archive,* EALAC Lounge of Kent Hall, Columbia University (New York, USA), 11 November 2011
45. Akihiro Tsukamoto, ‘Location of the Edo-Period Kyoto Lacquer Workshops: GIS Analysis Based on Historical Sources’, *2011 Association for Asian Studies Annual Conference*, Honolulu(USA), Hawai'i Convention Center, 31 March-3April 2011
46. Akihiro Tsukamoto, ‘Precision Research of Surveyed Maps of Kyoto in the 17th Century: Toward Further Development of Historical GIS’, *RGS-IBG Annual International Conference 2011,* London(UK), Imperial College London, 31 August-2 September 2011
47. Akihiro Tsukamoto, and Takumi Nakamura, ‘Analysis of the Great Tenmei Fire in Kyoto: Based on Illegal Journalistic Prints and Survived Buildings’, *2012 AAG Annual Meeting*, New York(USA), Hilton New York and Sheraton New York Hotel & Towers, 24-28 February 2012
48. Manabu Ueda, ‘Modern Cities and Filmmaking in Japan Around 1910: Differences Between Tokyo and Kyoto’, *CJS's Winter 2012 Noon Lecture Series,* Ann Arbor (USA), University of Michigan, 8 March 2012
49. Akiko Yano ‘Worship, Legend and Humour in Medieval Japan: The Background for "The Phallic Contest" Handscrolls’, *Shunga: Erotic Art in a Comparative Context*, School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London, Brunei Gallery (London, UK), 21-20 May 2011
50. 【審査付き】Akiko Yano, ‘*Yôbutsu-kurabe* (a phallus competition) Handscrolls’ Place in the History of *Shunga’, The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies(EAJS),* Tallinn(Estonia), Tallinn University, 24 August 2011
51. Keiji Yano, Toshikazu Seto, Takafusa Iizuka, Ayako Matsumoto, Takashi Kirimura, Tomoki Nakaya, and Yuzuru Isoda, ‘Space-time change of urban landscape with Kyo-machiya in Virtual Kyoto’, *2011 AAG Annual Meeting*, Seattle(USA), Sheraton Seattle Hotel, 15 April 2011
52. Keiji Yano, and Takashi Kirimura, ‘Residential Concentrations of Global International Migrants in Tokyo’, *2012 AAG Annual Meeting*, New York(USA), Hilton New York and Sheraton New York Hotel & Towers, 27 February 2012
53. Shinya Yasumoto, Andy Jones, Keiji Yano, and Tomoki Nakaya, ‘Virtual city models for assessing environmental equity of access to sunlight: A case study of Kyoto, Japan’, *The RGS-IBG Annual International Conference 2011*, London(UK), Imperial College of London, 2 September 2011

54. 【審査付き】Wataru Wakita, and Hiromi T. Tanaka, ‘3D Digital Archive of the Large 3D Woven Cultural Artifact’, *The 13th IEEE International Conference on Computer Vision(ICCV2011)*, Barcelona(Spain), Fira de Barcelona, 9 November 2011
55. 【審査付き】Wataru Wakita, Jiro Hara, and Hiromi T. Tanaka, ‘A Real Object Oriented VisuoHaptic Interaction System for Anisotropic Reflection Rendering of Ukiyo-e’, *The 13th IEEE International Conference on Computer Vision (ICCV2011)*, Barcelona(Spain), Fira de Barcelona, 10 November 2011
56. 【審査付き】Wataru Wakita, Yasuhiro Nishiwaki, Yoshiyuki Sakaguchi, and Hiromi T. Tanaka, ‘Realtime Anisotropic Reflection Rendering of the Noh Costume under Burning Torches’, *The 13th IEEE International Conference on Computer Vision (ICCV2011)*, Barcelona(Spain), Fira de Barcelona, 11 November 2011

②国内での発表

1. 赤石直美，瀬戸寿一，矢野桂司，福島幸宏「『京都市明細図』のGISデータベース構築と近代京都の都市的土地利用」日本地理学会，2011年日本地理学会秋季学術大会，大分市・大分大学，2011年9月23日
2. 赤石直美，瀬戸寿一，矢野桂司，福島幸宏「近代京都GISデータベースを用いた土地利用・土地所有の比較分析」人文地理学会，2011年度人文地理学会大会，豊島区・立教大学，2011年11月13日
3. 赤石直美，瀬戸寿一，矢野桂司，西川祐子，福島幸宏「『京都市明細図』を用いた占領期京都研究の可能性」日本地理学会，2012年日本地理学会春季学術大会，八王子市・首都大学東京，2012年3月28-30日
4. 赤石直美，山本真紗子「Distribution of dyeing and weaving manufacturers from “Large-scale Maps of Kyoto City”：『京都市明細図』からみた染織業の分布」，文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)，第2回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム *(DH-JAC2011)*，京都市・立命館大学，2011年11月19-20日（ポスター）
5. 赤間亮「江戸後期の競作見立揃物「東海道五十三対」の意義」，役者絵研究会，京都市・早稲田大学演劇博物館，2011年10月2日
6. 赤間亮「古典籍におけるデジタル「画像」時代のメタデータ」日文研共同研究会「デジタル環境が創成する古典画像資料研究の新時代」京都市・国際日本文化研究センター，2011年11月25日
7. 赤間亮「風俗絵本「役者絵本」の行方」風俗画研究会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011.12.24
8. 赤間亮「和本デジタルアーカイブと国際和本リテラシー」 板本・板木をめぐる研究集会「和本エンタテインメントー和本の魅力を再検討するー」，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2012.2.5
9. 赤間亮「竹内道敬文庫のデジタル化と国立音大目録データを活用した歌舞伎WEB年表との連動システム」，京都市立芸術大学伝統音楽研究センター共同研究会「歌舞伎の地方(じかた)—伝承と演出，歴史と現在—」，京都市・京都市立芸術大学伝統音楽研究センター共同研究室，2012年3月23日
10. 彬子女王「大英博物館における『日本美術史』の形成—20世紀初頭の変革を中心として—」第64回美術史学会全国大会，京都市・同志社女子大学新島記念講堂，2011年5月
11. 彬子女王「文化財の現在・過去・未来—モノの記憶を遺す方法—」 国際シンポジウム「文化財の現在・過去・未来—モノの記憶を残す方法—」，京都市・立命館大学朱雀キャンパス，2011年12月18日
12. 安東正純，山村浩之，満福講次，塚本章宏，磯田弦，仲田晋，田中覚「津波被災地域における復興支援のための3次元町並みモデルの自動生成」日本バーチャルリアリティ学会，第16回日本バーチャルリアリティ学会大会，函館市・公立はこだて未来大学，2011年9月20-22日
13. 飯塚隆藤「近代淀川流域における河川舟運の盛衰過程」歴史地理学会，第54回歴史地理学会大会，山口市・山口大学，2011年6月25～26日
14. 飯塚隆藤「近代淀川流域の河川舟運の変遷—GISを用いて」第3回1日中　水・水のえん，京都市・京町家さいりん館，2011年11月12日
15. 池松直樹「鎌倉後期における恩賞給付システムと鎮西支配—蒙古合戦勲功賞を中心に—」，第44回日本古文書学会大会，渋谷区・國學院大學渋谷キャンパス，2011年9月25日
16. 石上阿希「西川祐信研究史の紹介」第1回西川祐信研究会，京都市・国際日本文化研究センター，2011年12

月 17 日

17. 石上阿希「祐信絵本から江戸春本へ」第１回西川祐信研究会，京都市・国際日本文化研究センター，2011 年 12 月 18 日
18. 稲葉光行「子どもを中心とした街づくりのための活動システムの構築」 活動理論学会，第 1 回研究会，吹田市・関西大学，2011 年 8 月 6 日
19. 上田学「最初期の旧劇映画と京都の都市空間―興行街の存立を手がかりに」日本映像学会，第 37 回大会，札幌市・北海道大学，2011 年 5 月 28-29 日
20. 上田学「寄席から映画館へ―近代の寄席における視覚文化とその分離―」プロジェクト研究「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」，京都市・京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター，2011 年 8 月
21. 上田学，大矢敦子 「Making Databases of Film Distribution Records in the Meiji and Taisho Periods: A Case Study of Shinkyogoku and Nishijin, Kyoto（「明治大正期の映画興行記録のデータベース化―京都新京極・西陣の事例」)」，文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学），第 2 回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム *(DH-JAC2011)*，京都市・立命館大学，2011 年 11 月 19-20 日（ポスター）
22. 上村雅之，尾鼻崇，立命館大学映像学部上村・尾鼻ゼミ学生「市販玩具を利用した新たな遊びの創作とその映像化の試み」立命館大学ゲーム研究センター，第 3 回定例研究会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011 年 6 月 28 日
23. 【審査付き】上村雅之，尾鼻崇「テレビゲームとはなにか ―『ゲームプレイ』の記録と分析を通じて」CESA, *CEDEC2011*，横浜市・パシフィコ横浜，2010 年 9 月
24. 大西秀紀「歌舞伎 SP レコードの発売状況について」国際演劇学会,児玉竜一，内山美樹子，大西秀紀，飯島満『日本演劇に関する映像・音声資料』，大阪市・大阪大学，2011 年 8 月 11 日
25. 大西秀紀「ニットー長時間レコードの上方落語」，大阪芸能懇話会，大阪市・難波生涯学習センター，2012 年 1 月 29 日
26. 【審査付き】大森雅之，片岡宏隆，木谷紀子，八重樫文，サイトウ・アキヒロ，細井浩一「ゲーム要素を用いた教材開発と学校での実践事例：得点力学習 DS シリーズとゲームニクス」日本デジタルゲーム学会，2011 年度年次大会，京都市・立命館大学衣笠キャンパス，2012 年 2 月 26 日
27. 大矢敦子「Theatrical Attractions in Films of the Onoe Matsunosuke Troupe（尾上松之助一派の映画に見られる演劇のアトラクション性)」，文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)，第 2 回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム *(DH-JAC2011)*，京都市・立命館大学，2011 年 11 月 20 日
28. 尾鼻崇「ビデオゲーム展―電子化された『遊び』の世界　事業報告」 立命館大学ゲーム研究センター，第一回定例研究会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011 年 4 月
29. 【審査付き】尾鼻崇，上村雅之「ゲームにとって取扱説明書とはなにか ―『ゲームプレイ』の記録と分析を通じて」CESA, *CEDEC2011*，横浜市・パシフィコ横浜，2011 年 9 月 6-8 日
30. 尾鼻崇「家庭用ビデオゲーム黎明期の『ゲームマニュアル』のデジタル・アーカイブ構築とその活用に関する総合的研究」,中山隼雄科学技術文化財団，第 18 回研究成果発表会，千代田区・海運クラブ国際会議場，2011 年 10 月 24 日
31. 【審査付き】尾鼻崇「ゲームオーディオ機能論」デジタルゲーム学会，2011 年度年次大会，京都市・立命館大学衣笠キャンパス，2012 年 2 月 26 日
32. 金子貴昭「二枚におろされた板木―袋綴じと粘葉装」立命館大学日本文学会，第 55 回立命館大学日本文学会大会，京都市・立命館大学衣笠キャンパス， 2011 年 6 月 12 日
33. 金子貴昭「板木を意識して板本を観る―付・板木デジタルアーカイブの紹介―」文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)・日本文化研究班，板木・板本をめぐる研究集会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2012 年 2 月 5 日

34. 【審査付き】加茂瑞穂「Transformations of the ‘Whose sleeves?’(Tagasode) Motif in Various Art Forms：An Interdisciplinary Study of Art, Literature and Design」国際日本学会　第七回研究発表大会，京都市・京都女子大学，2011 年 10 月 29 日
35. 川嶋將生「喝食の額髪―『銀杏の葉』型額髪の文化史上の意義を求めて」世界人権問題研究センター，世界人権問題研究センター第 2 部会，京都市・世界人権問題研究センター，2011 年 5 月 18 日
36. 川嶋將生「祇園祭―山鉾が辿った道」デジタルミュージアム，地域伝統文化研究会，京都市・立命館大学朱雀キャンパス，2011 年 7 月 16 日
37. 河角龍典，小野映介「伊勢平野中部における完新世後半の海岸低地の形成過程」日本地理学会，2012 年日本地理学会春季学術大会，八王子市・首都大学東京，2012 年 3 月 28-30 日
38. 木立雅朗「研究の現状と課題―問題提起と用語整理―」窯跡研究会，窯跡研究会第 3 回シンポジウム，京都市・同志社大学今出川キャンパス，2011 年 12 月 10 日
39. 【審査付き】木立雅朗，米田浩之，堀口智彦，御山亮済「現代京焼窯跡の考古学的検討―京都市五条坂・道仙化学製陶所窯跡の発掘調査と民俗調査―」日本考古学協会，一般社団法人日本考古学協会第 77 回総会研究発表，渋谷区・國學院大学渋谷キャンパス，2011 年 5 月 29 日（ポスター）
40. 桐村喬「1990 年代後半以降の京阪神大都市圏における居住地域構造の変容―ジオデモグラフィクスを用いた検討―」人文地理学会，都市圏研究部会，第 39 回研究会，千代田区・法政大学 2011 年 5 月 28 日
41. 桐村喬「長期的な小地域人口の分布の変化からみた都市の居住地域構造の変遷―1908 年から 2005 年の東京の事例―」日本地理学会，2011 年日本地理学会秋季学術大会，大分市・大分大学，2011 年 9 月 23-24 日（ポスター）
42. 桐村喬「六大都市における小地域人口統計データベースの利用可能性―都市の居住地域構造研究との関連を中心に―」日本地理学会，2012 年日本地理学会春季学術大会，八王子市・首都大学東京，2012 年 3 月 28-30 日
43. 楠井清文「〈外地〉文学研究の新たな方向性―デジタル・ヒューマニティーズを経由して―」文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学）日本文化研究班，シンポジウム「〈外地〉文学への射程」，京都市・立命館大学国際平和ミュージアム，2012 年 1 月 21 日
44. 倉谷泰弘，林田亘平，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「高 SNR 周波数帯域の到来音響パワー差・時間差に基づく探索範囲選択型音源位置推定の検討」日本音響学会，2012 年春季研究発表会講演論文集，横浜市・神奈川大学，2012 年 3 月 13 日
45. 鹿内菜穂，八村広三郎「ダンスのアップダウン動作における二者間の身体動作特徴」情報処理学会，人文科学とコンピュータ研究会，京都市・同志社大学，2011 年 5 月 21 日
46. 鹿内菜穂，澤田美砂子，八村広三郎「点光源映像を用いた舞踊動作の識別と印象評価」日本認知心理学会，豊島区・学習院大学，2011 年 5 月 28 日
47. 鹿内菜穂，八村広三郎「相手意識がダンスの同期・非同期動作に及ぼす影響」日本心理学会，日本心理学会第 75 回大会，世田谷区・日本大学，2011 年 9 月 15 日
48. 鹿内菜穂，八村広三郎，澤田美砂子「舞踊の感情表現における感性情報の評価―ビデオ映像と点光源映像を用いた主観的評価実験―」情報処理学会，人文科学とコンピュータ研究会，立川市・国立国語研究所，2011 年 10 月 8 日
49. 周萍「『太平記忠臣講釈』と『水滸伝』」近世文学会，2011 年度春季大会，世田谷区・日本大学，2011 年 6 月 11 日
50. 周萍「水滸伝に見立てた歌川国貞の絵」役者絵研究会，新宿区・早稲田大学演劇博物館，2011 年 10 月 2 日
51. 周萍「水滸伝関係作品の研究におけるデータベースの利用について」，文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学），第 2 回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム *(DH-JAC2011)*，京都市・立命館大学，2011 年 11 月 20 日
52. 周萍「水滸伝イメージデータベースの構築」アート・ドキュテーション学会，第 1 回知識・芸術・文化情報学研究会，大阪市・立命館大学大阪キャンパス，2012 年 1 月 21 日

53. 【審査付き】鈴木桂子, ‘Selling “Japan” to the West: Kimono Culture in the Twentieth Century’, 国際日本学会（IAJS）, 第7回研究発表大会, 京都市・京都女子大学, 2011年10月29日
54. 鈴木桂子「『キモノ』文化が海外を廻る：輸出品、アロハ、スカジャンの一考察」文化ファッション研究機構, シンポジウム『20世紀における「きもの」の国際化—日本化と脱日本化—』, 渋谷区・文化学園大学, 2012年2月18日
55. 瀬戸寿一「FOSS4G とソーシャルメディアの融合による災害情報支援プラットフォーム—『sinsai.info』の活動と課題」地理情報システム学会, 第20回研究発表大会, 鹿児島市・鹿児島大学, 2011年10月16日
56. 玉田浩之「占領期京都研究の可能性」, 立命館大学歴史都市防災研究センター, 占領期京都を考えるワークショップ, 京都市・flowing KARASUMA（旧北國銀行）, 2012年3月16日
57. 【審査付き】塚本章宏, 松葉涼子「近世京都の諸師諸芸・諸職名匠データベースの構築に向けて, 日本地理学会, 2012年春季学術大会, 八王子市・首都大学東京, 2012年3月28-30日（ポスター）
58. 塚本章宏, 鳴海邦匡, 平井松午「GISを用いた鳥取藩の測量法と測量図に関する分析」国絵図研究会, 鳥取市・鳥取県立博物館, 2011年9月25日
59. 塚本章宏, 松葉涼子「近世京都の諸師諸芸・諸職名匠データベースの構築に向けて」日本地理学会, 2012年春季学術大会, 八王子市・首都大学東京, 2012年3月28-30日
60. 當山日出夫, 石井行雄「園城寺『弥勒経疏』の訓点について—角筆・白点・朱点をめぐって—」第104回訓点語学会, 京都市・京都大学, 2011年5月22日
61. 當山日出夫「文字史研究における文字データベース利活用について」日本語学会2011年度春季大会ワークショップ字研究における画像データベースの利活用, 神戸市・神戸大学, 2011年5月28日
62. 當山日出夫「古典籍学術資料のデジタル出版—園城寺の事例について—」第1回知識・芸術・文化情報学研究会, 大阪市・立命館大学大阪キャンパス, 2012年1月21日
63. 當山日出夫「日本における『白氏文集』「長恨歌」の漢字字体—写本から版本へ—」国立国語研究所 理論・構造研究系プロジェクト研究成果合同発表会, 立川市・国立国語研究所, 2012年2月19日（ポスター）
64. 鳥居悠人, 中村友哉, 坂口嘉之, 田中弘美「二色性反射モデルの一般化に基づく織物の鏡面反射成分の解析」, 第14回 画像認識・理解シンポジウム(*MIRU2011*), 金沢市・金沢市文化ホール, 2011年7月20-22日
65. 中野皓太, 森勢将雅, 西浦敬信, 山下洋一「音場再現を目的とした時間領域差分法における指向性制御の提案」日本音響学会, 2012年春季研究発表会, 横浜市・神奈川大学, 2012年3月13日
66. 中谷友樹 「日本近代期疾病地図の空間分析—1920 年代の京都市腸チフス地図の検討を中心に—」日本人口学会, 第63回大会企画セッション「感染症と人口」, 京都市・京都大学, 2011年6月12日
67. 中谷友樹、瀬戸寿一, 長尾諭, 矢野桂司, 板谷（牛谷）直子「東日本大震災による文化遺産の被災状況について文化財被災地理情報データベースの利用」立命館大学 歴史都市防災研究センター, 歴史都市防災シンポジウム'11, 草津市・立命館大学びわこ・くさつキャンパス, 2011年7月2日
68. 滑川敦子「鎌倉幕府行列の成立と『随兵』の創出」鎌倉時代研究会, 京都市・京都大学文学部古文書室, 2011年12月19日
69. 鳴海邦匡, 塚本章宏「『鳥取城下全図』の作成技術について」日本地理学会, 2011年日本地理学会秋季学術大会, 大分市・大分大学, 2011年9月24日
70. 西本光志, 宮本圭太, 阪田真己子「三者間の共同創作活動におけるコミュニケーション—作品の創作性への影響—」日本認知科学会, 第28回大会, 文京区・東京大学, 2011年9月23日
71. 【審査付き】花田卓司「南北朝期の戦功注進」史学会, 第109回史学会大会, 文京区・東京大学, 2011年11月6日
72. 埴淵知哉, 村中亮夫, 花岡和聖, 中谷友樹「社会調査における回収率の地域差—JGSS累積データ2000-2006の回収状況データを用いた分析」大阪商業大学JGSS研究センター, JGSS研究発表会2011, 東大阪市・大阪商業大学, 2011年6月25日
73. 埴淵知哉, 村中亮夫, 花岡和聖, 中谷友樹「社会調査の回収率とその地理的傾向」日本地理学会, 2011年日本

地理学会秋季学術大会，大分市・大分大学，2011 年 9 月 23 日

74. 埴淵知哉，中谷友樹「大都市圏における近隣環境と居住者の歩行時間の関連」日本公衆衛生学会，第 70 回日本公衆衛生学会総会，秋田市・秋田アトリオン，2011 年 10 月 2 日
75. 林田亘平，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「実時間音源位置推定のための周波数領域における多重解像度走査の提案」日本音響学会，2012 年春季研究発表会講演論文集，横浜市・神奈川大学，2012 年 3 月 15 日
76. ビンチク・モニカ，前崎信也「台湾 e ラーニング・デジタルアーカイブプログラム（TELDAP）について」アート・ドキュメンテーション学会，関西地区部会研究会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011 年 5 月 14 日
77. ビンチク・モニカ，前崎信也「日本工芸データベース—在外コレクション所蔵作品を中心とする画像データベース構築について」情報処理学会，第 90 回人文科学とコンピュータ研究発表会，京都市・同志社大学室町キャンパス,2011 年 5 月 20 日
78. ビンチク・モニカ，加茂瑞穂，塚本章宏，松葉涼子「モチーフの位置・アイディアの大衆化—江戸時代の浮世絵、工芸、芸能において共有された視覚言語—」，文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学），第 2 回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム（*DH-JAC2011*），京都市・立命館大学，2011 年 11 月 20 日
79. 福森隆寛，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「発話速度を用いた残響下音声認識の話者依存度推定法の検討」日本音響学会，2012 年春季研究発表会，横浜市・神奈川大学，2012 年 3 月 13 日
80. 堀井圭祐，福森隆寛，森勢将雅，西浦敬信，山下洋一「オクターブバンド分割型スペクトル減算によるミュージカルノイズ低減の検討」日本音響学会，2012 年春季研究発表会，横浜市・神奈川大学，2012 年 3 月 13 日
81. 本多健一「中近世京都における氏子区域の諸問題—都市祭礼に立ち現れる非日常的な空間をめぐって—」人文地理学会，第 126 回歴史地理研究部会，豊島区・立教大学，2011 年 11 月 13 日
82. 前崎信也「デジタルカメラを用いた文化財撮影—陶磁器—」立命館大学デジタル・ミュージアム第二回人材育成ワークショップ，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011 年 12 月 5 日
83. 松永徹，趙國，山下洋一「音声ドキュメントの音響情報セグメント量子化を用いた音声検索語検出」情報処理学会 SLP 研究会,第 6 回音声ドキュメント処理ワークショップ，豊橋市・豊橋技術科学大学，2012 年 3 月 2 日
84. 村中亮夫「軍港都市における景観保全に対する地域住民の意識構造」日本地理学会，2011 年日本地理学会秋季学術大会，大分市・大分大学，2011 年 9 月
85. 村中亮夫，瀬戸寿一，谷端郷，中谷友樹「2 次元/3 次元電子地図による安全安心情報の配信システムに対するユーザビリティの意識構造分析」地理情報システム学会，第 20 回研究発表大会，鹿児島市・鹿児島大学，2011 年 10 月 15 日
86. 安江枝里子，森田匡俊，桐村喬「戦後の京都市の景観行政の変化—都市景観の構成要素に注目して—」人文地理学会，2011 年人文地理学会大会，豊島区・立教大学，2011 年 11 月 13 日
87. 山本真紗子「明治時代の日本人美術商の海外進出」日本人の国際移動研究会，京都市・京都キャンパスプラザ，2011 年 6 月 18 日
88. 山本真紗子「近代京都の『風俗』画？—舞妓と大原女—」風俗画研究会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011 年 7 月 30 日
89. 山本真紗子「立命館大学所蔵近代染織資料の整理作業」文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニ ティーズ拠点」（立命館大学）京都文化研究班，展覧会「近代をのこす、つたえる」関連研究会，京都市・立命館大学アート・リサーチセンター，2011 年 10 月 20 日
90. 脇田航，原次良，田中弘美「手にとって浮世絵の光と影の技を鑑賞する」ナレッジキャピタルトライアル 2011，大阪市・堂島リバーフォーラム，2011 年 8 月 26-28 日（デモ展示）
91. 【審査付き】Ryo Akama, and Keiko Suzuki ‘Constructing e-Research Platforms for Japanese Cultural Heritage’, Japanese Association for Digital Humanities, *Osaka Symposium on Digital Humanities 2011*, Osaka (Japan), Osaka University, 14 September 2011

92. 【審査付き】Biligsaikhan Batjargal, Fuminori Kimura, and Akira Maeda, 'Accessing Multiple Japanese Humanities Databases Using English Queries', Japanese Association for Digital Humanities, *Osaka Symposium on Digital Humanities 2011*, Osaka (Japan), Osaka University, 13 September 2011
93. Monika Bincsik, 'Lacquer Depicted in Ukiyo-e — Ukiyo-e Reflected in Lacquer', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto (Japan), Ritsumeikan University, 21 November 2011
94. Tomoya Hanibuchi, Tomoki Nakaya, and Chiyoe Murata, 'Socio-economic status and self-rated health in East Asia: a comparison of China, Japan, South Korea and Taiwan', *EASS Conference 2011*, Higashi-Osaka (Japan), JGSS Research Center at Osaka University of Commerce, 19 May 2011,
95. 【審査付き】Mitsuyuk Inaba, Ryo Akama, Kozaburo Hachimura, Keiji Yano, Mika Tomita, and Keiko Suzuki, 'Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures,' Japanese Association for Digital Humanities, *Osaka Symposium on Digital Humanities 2011*, Osaka(Japan), Osaka University, 14 September 2011
96. Mitsuyuki Inaba, 'Collaborative activities for transcultural learning', *The 7th International Symposium "New Learning Challenges (NLC2011)"*, Osaka(Japan), Kansai University, 30-31 July 2011
97. 【審査付き】Takaaki Kaneko, 'Digital Archiving of Printing Blocks and Bibliography Based on It', *Research Foundations for Understanding Books and Reading in a Digital Age: Text and Beyond*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 18 November 2011
98. Takaaki Kaneko 'Construction of a Printing Block Digital Archive and its Use in Studies of Early Modern Publishing', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 20 November 2011
99. Takaaki Kaneko 'Construction of a Printing Block Digital Archive and its Use in Studies of Early Modern Publishing', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011 (Poster)
100. Tatsunori Kawasumi, Takanori Hashimoto, Yutaka Takase, and Keiji Yano, 'Construction of Virtual Nagaoka-kyo 3D map and landscape simulation', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011 (Poster)
101. Tatsunori Kawasumi, 'GIS-Based Landscape Visualization and Visibility Analysis of the Mountain View in Heian-Kyo, a Capital City of Ancient Japan', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011(Poster)
102. Takashi Kirimura, 'Social Atlas of Kyoto in the 20th Century', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011 (Poster)
103. Liang Li, Woong Choi, Yuichiro Hara, Kazuyuki Izuno, Keiji Yano, and Kozaburo Hachimura, 'Vibration reproduction for a virtual Yamahoko Parade system,' *International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture*, Shiga(Japan), Ritsumeikan University, 21 January 2012
104. Liang Li, Woong Choi, Keiji Yano, and Kozaburo Hachimura, 'Virtual Yamahoko Parade in Kyoto Gion Festival,' *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011 (Poster/Exhibition)
105. 【審査付き】Ryoko Matsuba, 'The Concept of Reproduction on the Kabuki Stage', *Asian Studies Conference Japan*, Tokyo(Japan), International Christian University, 25 June 2011
106. Ryoko Matsuba, 'The Eight Views in Edo Japan: Transmission of the Pictorial Subjects', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*,

Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 20 November 2011

107. Minako Nakamura, Worawat Choensawat, Sachie Takahashi, and Kozaburo Hachimura, ‘The evaluation of LabanEditor3, an interactive graphical editor, from a choreologist's perspective : the case study of Noh Play and Classical Ballet’, *International Symposium of Human Body Motion Analysis with Motion Capture,*, Shiga(Japan), Ritsumeikan University, 21 January 2012
108. Mamiko Sakata, ‘Quantification of Open Communications Structure in Duo-Comic Acts *Manzai*’ *International Symposium of Human Body Motion Analysis with Motion Capture,* Shiga(Japan), Ritsumeikan University, 21 January 2012
109. Toshikazu Seto, Ayako Matsumoto, Takafusa Iizuka, and Yano Keiji, ‘GIS-based Monitoring Systems for Kyo-machiya in Kyoto City: Application of the Results of "Kyo-machiya Community Building Surveys"’, *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011 (Poster)
110. 【審査付き】Nao Shikanai, and Kozaburo Hachimura, ‘Effects of Facial Expressions on Recognizing Emotions in Dance Movements’, *12th International Multisensory Research Forum*, Fukuoka(Japan), ACROS Fukuoka, 17 October 2011
111. Nao Shikanai, and Kozaburo Hachimura, ‘Comparing Timing of Interpersonal Up-down Dance Coordination by using Motion Capture’, *International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture*, Shiga(Japan), Ritsumeikan University, 21 January 2012
112. 【審査付き】Kingkarn Sookhanaphibarn, Ruck Thawonmas, and Frank Rinaldo, ‘Eigenplaces for Segmenting Exhibition Space’, *The 4th Annual Asian GAME-ON Conference on Simulation and AI in Computer Games (GAMEON ASIA 2012)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 24-25 February 2012
113. 【審査付き】Keiko Suzuki, ‘Constructing a Global DH Hub for the Study of Japanese Arts and Cultures’, Japanese Association for Digital Humanities, *Osaka Symposium on Digital Humanities 2011*, Osaka (Japan), Osaka University, 14 September 2011
114. Akihiro Tsukamoto, ‘Location of the Edo-Period Kyoto Lacquer Workshops: GIS Analysis Based on Historical Sources’, *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011
115. Akihiro Tsukamoto, ‘A Historical GIS Analysis of the Landscape Compositions: A Case Study of Folding Screens "Rakuchu-Rakugai-zu"’, *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011
116. Akihiro Tsukamoto, ‘Spatial Distortions in Historical Maps’, *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011
117. Akihiro Tsukamoto, ‘Precision Research of Surveyed Maps of Kyoto in the 17th Century: Toward Further Development of Historical GIS’, *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Kyoto(Japan), Ritsumeikan University, 19-20 November 2011

３）省庁、学会、財団などの表彰

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 競争的資金　グローバル COE プログラム　（文部科学省）
   「日本文化ﾃﾞｼﾞﾀﾙ･ﾋｭｰﾏﾆﾃｨｰｽﾞ拠点」, 川嶋將生, (2011.4.1～2012.3.31), 計 12,1091,000 円
2. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ（H20～23）（日本学術振興会）
   「大英博物館蔵日本版画・浮世絵の総合カタロギング」赤間亮（代表）,H23 直接経費 2,600,000 円
3. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ（H21～23）（日本学術振興会）

「GIS を活用した歴史都市京都の「デジタル地誌学」」矢野桂司（代表）,H23 直接経費 3,900,000 円

4. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究 B（H22～26）（日本学術振興会）
「メタバースを利用した日本文化に関する「状況学習」の支援環境に関する総合的研究」稲葉光行（代表），
H23 直接経費 2,100,000 円
5. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究 C（H20～24）（日本学術振興会）
「小型映画文化のアーカイヴ構築にむけた基礎的研究」冨田美香（代表）,H23 直接経費 500,000 円
6. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究 C（H22～23）（日本学術振興会）
「中国コンテンツ産業における産業クラスター形成と産業振興政策に関する比較事例」中村彰憲（代表），
H23 直接経費 1,085,000 円
7. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究 C（H23～25）（日本学術振興会）
「メタバースにおける移動分析・行動分析・体験集約による体験学習支援」THAWONMAS Ruck（代表），
H23 直接経費 1,400,000 円
8. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究 C（H23～25）（日本学術振興会）
「音環境理解に基づく危険検知・警報システムの構築」西浦敬信（代表）,H23 直接経費 1,400,000 円
9. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究 C（H23～25）（日本学術振興会）
「デジタル環境下における版本書誌記述法の標準化」赤間亮（代表）,H23 直接経費 1,500,000 円
10. 競争的資金　科学研究費補助金　研究スタート支援（H23）（日本学術振興会）
「板木デジタルアーカイブ拡充と板木書誌学の確立」金子貴昭（代表）,H23 直接経費 1,200,000 円
11. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究 B（H23～24）（日本学術振興会）
「20 世紀初頭における日本陶芸技術の西漸に関する研究」前崎信也（代表）,H23 直接経費 600,000 円
12. 競争的資金　科学研究費補助金　若手研究 B（H23～24）（日本学術振興会）
「浮世絵師西川祐信の基礎的研究―上方と江戸の文化交流を中心として―」石上阿希（代表），
H23 直接経費 1,100,000 円
13. 補助金　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）
「芸術・文化分野の資料デジタル化を軸とした研究資源共有化研究」，赤間亮，（2009.4.1～2014.3.31），
計 8,000,000 円
14. 補助金　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）
「京都における工芸文化の総合的研究」，木立雅朗，（2010.4.1～2015.3.31），計 14,000,000 円
15. 補助金　研究者海外派遣基金助成金＜大航海プログラム＞（日本学術振興会）
「組織的な若手研究者等課外派遣プログラム平成 21 年公募　文化遺産と芸術作品を防御するための若手研究者国際育成推進プログラム」，鐘ヶ江秀彦（＊歴史都市防災研究センターと共同採択），（2010.2.1～2013.1.31），
計 28,521,000 円
16. 受託事業　研究者海外派遣基金助成金　若手研究者インターナショナル・トレーニングプログラム（ITP）
（日本学術振興会）「組織的な若手研究者等課外派遣プログラム　平成 21 年公募 文化遺産と芸術作品を防御するための若手研究者国際育成推進プログラム」，鐘ヶ江秀彦（＊歴史都市防災研究センターと共同採択），
(2010.2.1～2013.1.31)，計 17,030,000 円
17. 受託研究　特定非営利活動法人古材文化の会　（2011.8.11～2012.3.31）
「奈良県における町屋及び民家のデータベース構築」，矢野桂司，計 350,000 円
18. 受託研究　国立音楽大学付属図書館　（2011.11.25～2012.3.31）
「国立音楽大学付属図書館所蔵近世邦楽資料のデジタル化と研究活用」，赤間亮，計 865,801 円
19. 受託事業　大英博物館への研究員派遣　（2010.8.1～2012.3.31）赤間亮，計 4,000,000 円
20. 奨学寄付金　㈱四航コンサルタント，　矢野桂司，計 1,000,000 円
21. 奨学寄付金　マーザ・アニメーションプラネット㈱，細井浩一，　計 1,750,000 円
22. 奨学寄付金　㈱ハウスセゾン，細井浩一，計 800,000 円

23. 奨学寄付金 ㈱モールスリー, 細井浩一, 計 1,500,000 円
24. 奨学寄付金 (株)ﾅｯｸｲﾒｰｼﾞﾃｸﾉﾛｼﾞｰ, 八村広三郎, 計 300,000 円

５）特許

①出願

②取得

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

1. 彬子女王「彬子女王殿下が御企画―『モノの記憶を残す方法』立命館大学でシンポ」, 神社新報, 9 面, 2012 年 1 月 1 日
2. 大西秀紀「歴史を切り取った SPレコード　レーベルなど展示」京都新聞, 2011 年 9 月 1 日朝刊
3. 木立雅朗, 山本真紗子「和柄の魅力　西陣、友禅　モダンの美　立命大展示　明治からの図案修復」京都新聞, 37 面, 2011 年 10 月 18 日朝刊
4. 木立雅朗「近代をのこす、つたえる　立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の整理と活用」, KBS 京都ニュース, 2011 年 10 月 17 日
5. 木立雅朗「古都のベールに挑む―異色考古学者のまなざし―」, TBS JNN ルポルタージュ報道の魂, 2012 年 1 月 8 日
6. 玉田浩之「高峰博士 二つの『施設迎賓館』、『日本』を伝える室内装飾」, 北國新聞, 2012 年 2 月 9 日
7. 中谷友樹「夜の明るさ、経済発展と関係」, NIKKEI プラス 1 （日本経済新聞）, s2 面, 2011 年 8 月 13 日

②講演会

1. 川嶋將生「室町時代の文化―庭園の美」, ゴールデン・エイジ・アカデミー『古典に親しむ』, 京都市生涯学習総合センター（京都市）, 2011 年 11 月 25 日
2. 木村一信「〈外地〉日本語文学について」, 武庫川女子大学国文学会公開学術講演会, 武庫川女子大学(西宮市), 2011 年 11 月 30 日
3. 阪田真己子「新規劇的身体論のすすめ」, (社)日本機械学会関西支部地域技術活動活性化懇話会第 148 回技術交流サロン, 吉野ゴム工業株式会社（大阪市）, 2011 年 11 月
4. 杉橋隆夫「日本中世の政治と法制」,立命館大阪オフィス講座, 立命館大阪キャンパス(大阪市), 2011 年 10 月 12 日
5. 杉橋隆夫「近江源氏と佐々木道誉」, 立命館びわこ講座, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス（草津市）, 2011 年 10 月 15 日
6. 杉橋隆夫「京都と武権政府―平清盛から徳川慶喜まで―」, 第 20 回アカデミック京都ウオッチング, 立命館大学朱雀キャンパス（京都市）, 2011 年 11 月 20 日
7. 杉橋隆夫「承久の乱―後鳥羽上皇の挫折と関東の進出―」, ゴールデン・エイジ・アカデミー, 京都市生涯学習センター（京都市）, 2012 年 1 月 13 日
8. 冨田美香「日本の剣劇映画縦断 戦前編―侠、情、アクションー」, 韓国映像資料院 韓国映画史研究所　月例フォーラム「武侠叙事の横断と東アジアの想像」(韓国), 2012 年 3 月 22 日
9. 冨田美香「日本の剣劇映画縦断 戦後編―侠、情、アクションー」韓国映像資料院　韓国映画史研究所　月例フォーラム「武侠叙事の横断と東アジアの想像」(韓国), 2012 年 3 月 23 日
10. 中谷友樹「地理疫学とがん登録」, 地域がん登録全国協議会第 20 回学術集会, 千葉大学（千葉市）, 2011 年 9 月 15 日
11. 八村広三郎「情報技術と人文科学の新しい出会い：デジタル・ヒューマニティーズ」NUA 第 37 回研究会, 立命館大学びわこくさつキャンパス（草津市）, 2011 年 11 月
12. 八村広三郎「情報技術と人文科学の新しい出会い：―デジタル・アーカイブ, デジタル・ヒューマニティーズ

そしてデジタル・キュレーション―」, デジタル・キュレーションシンポジウム, 印刷博物館(文京区), 2011年12月

13. 八村広三郎「情報技術と人文科学―デジタル・ヒューマニティーズの世界動向」, シンポジウム「文化財の整備と活用～デジタル文化財が果たす役割と未来像2012」一般財団法人デジタル文化財創出機構(文京区), 2012年2月
14. 松田毅, 村山武彦, 毛利一平, 中谷友樹「横浜市鶴見区旧朝日石綿工場周辺の健康被害に関する研究調査報告」, アスベスト被害の深層を問う集い:調査研究・伝達方法・国際協力, 神戸大学(神戸市), 2011年6月26日
15. 和田晴吾「秋常山古墳群の歴史的意義」, 石川県能美市, 能美市教育委員会「国指定史跡秋常山古墳群保存整備完成記念シンポジウム 秋常山古墳群―1600年の時を越えて―」, 寺井地区公民館(能美市), 2011年9月25日
16. Monika Bincsik, '*Developing the "Japanese Lacquers in Western Collection" database*', Victoria and Albert Museum, Asian Art Department (London, UK), 18 October 2011
17. Akira Maeda, 'Integrated Information Access and Analysis of Japanese Humanities Databases', *Seminar talk for New Directions in Digital Humanities*, Department of Digital Humanities, King's College London (London, U.K.), 15 December 2011
18. Mika Tomita, 'Aspects of "Self" and "Other" in the Japanese Small-Gauge Film Culture during Imperial Era', *International Symposium on Japanese Studies "Self and Other in Japan: Mutual Representations"*, Center for Japanese Studies, University of Bucharest (Bucharest, Romania), 4 March, 2012.

③その他

以上

2011年度　研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	地域情報研究センター
研究所・センター長名	鐘ヶ江 秀彦 （政策科学部・教授）

Ⅰ. 研究実績の概要 (公開項目)

地域情報研究センター（以下：地情研）では、新キャンパス展開も視野に入れた研究所展開へのあり方の模索に向けた議論を継続して行った。その際の核となる調査研究の軸を確定するために、本年度は、以下に示したように、地域情報センターの総合計画に位置づけられた項目について、スタートアップや進展に応じて傾斜配分をつけつつ、以下の4重点プロジェクトを推進した。また、重点プロジェクトの学術的成果を社会に広く発信するため、紀要を発行し、インターネットを通じて国際的に情報を発信した。

1. 地域復興計画研究フォーラム

本重点プロジェクトでは、阪神大震災や東日本大震災といった自然災害による大災害が、日本のあらゆる分野へ重大な影響を及ぼす複合的な課題であるととらえ、学際的な研究者で対話を重ね続ける場を地域情報研究センターが支援し、日本の復興へのひとつの貢献を模索することを目的とした。

プロジェクトが扱おうとする研究テーマや問題関心は広範にわたるため、立ち上げ初年度である今年度は、東日本大震災の復興問題を大きな共通テーマとして設定し、その出発点として、主に政策科学部における教育改善および各種研究プロジェクトの方向性について、合計6回のフォーラムを開催し議論を進めた。

2. 二酸化炭素削減に向けた地域社会の主体に基づくカーボン・マイナス研究プロジェクト

本重点プロジェクトでは、炭素貯留技術を土台とし、成果物である“クールベジタブル”の認証を主眼とした、自律的な地域社会システムの開発に目途をつけ、その成果を、国際学会や地情研紀要等によって広く発信することを目標とした。成果として以下のようなものが挙げられる。1) 竹材の伐採、 炭化および農地埋設までの LC-CO_2 による隔離炭素量の推定と経済コスト評価を行った。2) 農地が有する炭素クレジットの保証と流通および炭素貯留野菜ブランド規格の制定に一定の目途をつけた。 3)炭素貯留野菜の消費者による選好評価を行い、ブランド浸透の可能性と効果的な訴求手段について検討を行った。

3. 一村一品などの地域振興政策の開始・展開・評価にかかわる研究プロジェクト

これまでの地域情報研究センターのリエゾン型研究における行政評価や一村一品運動政策の研究成果を踏まえて、研究課題「一村一品などの地域振興政策の開始・展開・評価にかかわる研究」を、若手研究者の育成、研究の国際化への寄与を視野において進めた。リーダーの村山皓を除く6名のメンバーは、すべて立命館大学政策科学研究科への留学生もしくは留学経験者である。このプロジェクトでの海外リサーチは、彼らにとってここでの研究課題についての研究推進と同時に彼ら自身の研究課題での進展にも役立った。加えて、メンバーのうち4名は、タイのタマサート大学の修士課程出身者および研究機関の研究者であり、このプロジェクトはタマサート大学との研究連携強化の位置づけで進められた点も、研究の国際化への寄与につながっている。

4. 地域情報・地域政策・地域の頑強性に関する安心安全分野の国際研修・研究支援プログラム

2011年10月24日から11月18日にかけ、Staff Enhancement PHRDP-III Bappenas 2011 のプログラムを実施した。本プログラムは、インドネシア政府の政策担当者を受け入れ、以下の3点を目的として実施し、研究成果をあげた。

1. To improve knowledge and skill of government officers who involve in planning task in the context of globalization by directly experiencing with the Japanese environment work.

2. To develop a proposed activity (action plan/working paper) in their workplaces that can be learned from Japanese cases.

3. To initiate network between Japanese and Indonesia institutions to improve directly and indirectly planning quality in Indonesia.

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

1）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 孫京美,「政策実施過程における地方政府の官僚機構の行動戦略—韓国の江原道の新農漁村建設運動施策の展開を事例に」,『政策科学』, 立命館大学政策科学会, 19 巻 3 号, (2012)

図書

無し

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. Warangkana KORKIETPITAK, "The Shift of Japan's Foreign Assistance in the Promotion of the One Tambon One Product (OTOP) Movement during the Period of the Thaksin Government"『創地共望』立命館大学地域情報研究センター, 1 巻 1 号, pp.1～17, (2012)
2. 西出崇,「福井県若狭町における次世代定住に関する若年層への意識調査 概要報告」『創地共望』立命館大学地域情報研究センター, 1 巻 1 号, pp. 55～75, (2012)

図書

無し

2）学会発表

①海外での発表

1. 柴田 晃,「Carbon Minus Project through Biochar and Carbon Sequestered Vegetable COOL VEGE towards rural development」, The 1st International Symposium on Biochar, Kangwon National University (Incheon, Korea), 2011 年 12 月 8 日
2. 村山 皓,「The Original OVOP and the Developing OVOP for the Global market」APEC, the 33rd Small and Medium Enterprise Working Group (SMEWG), APEC Global "One Village One Product" Seminar-Success Factors of OVOP Targeting Global Market-, Bangkok, Thailand , 2011 年 12 月 14 日.

②国内での発表

1. 柴田 晃,「亀岡カーボンマイナスプロジェクト研究課題報告」, 第 9 回木質炭化学会大会, 秋田県・秋田ビューホテル, 2011 年 6 月 2 日
2. 柴田 晃,「Country Report: the case of Kameoka Kyoto Japan」, 2nd Asia Pacific Biochar Conference, 立命館大学朱雀キャンパス, 2011 年 9 月 17 日
3. 藤井 康代 他,「The Effects of Biochar on Cultivated Plants: in Case of Kameoka Field」, 2nd Asia Pacific Biochar Conference, 立命館大学朱雀キャンパス, 2011 年 9 月 17 日
4. 関谷 諒・田靡 裕祐,「A study of LCA Analysis in Kameoka Carbon minus project」, 日本環境共生学会第 14 回（秋季）学術大会, 立命館大学朱雀キャンパス, 2011 年 9 月 18 日

3）省庁、学会、財団などの表彰

無し

4）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 競争的資金　科学研究費補助金 基盤研究 B（一般）(H22～H24)（日本学術振興会）「逆都市化における頑強性を高めるコンパクトシティ政策シミュレーションに関する研究」鐘ヶ江秀彦（代表）9,432 千円

2. 競争的資金　科学研究費補助金 基盤研究 B（一般）（H22～H24）（日本学術振興会）「未利用木質バイオマスを用いた炭素貯留野菜による CO2 削減社会スキームの提案と評価」柴田晃（代表）19,856 千円
3. 平成 23 年度生産環境総合対策事業推進補助金（農林水産省）「営農活動よる炭素貯留量調査」柴田晃（代表）5,819 千円
4. 受託研究 亀岡市（2011.11.18～2012.3.31）「亀岡カーボンマイナスプロジェクトに係る調査研究」柴田晃 500 千円
5. 受託研究 株式会社ソフト 99 コーポレーション（2011.10.28～2011.12.31）「機能性薄膜技術の新市場展開プロセスの考察」服部利幸 250 千円
6. 受託研究 若狭町次世代定住促進協議会（2011.9.27～2012.2.29）「若狭町定住意識調査」西出崇 158,550 円
7. 競争的資金 二国間交流事業共同研究・セミナー　インドネシアとの共同研究（DGHE）（H24～H26）（日本学術振興会）「観光地における避難準備へ向けた大学・地域連携による情報マネジメントモデルの開発」鐘ヶ江秀彦（代表）7,500 千円（歴史都市防災研究センターと共同管理）

５）特許

①出願

無し

②取得

無し

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

無し

②講演会

1. 柴田　晃・熊澤　輝一，立命館土曜講座（第 2966 回）「炭を使った環境にやさしい農作物　クールベジタブル」，京都市北区・立命館大学，2011 年 2 月 19 日
2. 小川　眞，立命館土曜講座（第 2967 回）「木が枯れる、それでも植えよう」，京都市北区・立命館大学，2011 年 2 月 26 日
3. 熊澤輝一，「地域づくり運動・活動からみた環境のガバナンス」大阪大学高度副プログラム・グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）サステイナビリティ学教育プログラム，大阪大学吹田キャンパス，2011 年 5 月 11 日
4. 鐘ヶ江秀彦，熊澤輝一「農山村部にクールベジタブル農法を核とした炭素隔離による地域活性化と地球環境変動緩和策に関する人間・社会次元における社会実験研究」立命館大学 ライスボールセミナー，2011 年 5 月 17 日
5. 柴田　晃，「亀岡カーボンマイナスプロジェクト」平成 23 年度第一回五日市炭素貯留協議会研究会，あるき野ルピア会議室，2011 年 6 月 22 日
6. 鐘ヶ江　秀彦，「亀岡市保津地区におけるクールベジタブル農法を核にした炭素隔離と地域発展の取り組み」，立命館大学 明日の農と食を考える研究会 2011 年度第 1 回オープン研究会，京都テルサ，2011 年 7 月 8 日
7. 柴田 晃，「亀岡クールベジタブルー炭による農地炭素貯留野菜で地域に活力を！」，立命館大学土曜講座，立命館大学衣笠キャンパス，2012 年 2 月 25 日

③その他

無し

以上

2011 年度　研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	白川静記念東洋文字文化研究所
研究所・センター長名	加地　伸行（衣笠総合研究機構・特別招聘教授）

Ⅰ．研究実績の概要 (公開項目)

本研究所は、東洋文字文化の分野における学術研究の振興と高度化を図り、また同分野に関して広く社会一般を対象とした教育と普及を行うことを目的とし事業を展開している。2011 年度についても、**文化事業**と**学術研究事業**を二つの柱とし事業展開を行った。

■学術研究事業

学術研究事業においては当研究所研究者による継続的な研究活動をもとに、研究所紀要の発行等の事業を実施した。また、2011 年度より財団法人日本漢字能力検定協会からの奨学寄附金（600 万円）の受入れによる研究体制の強化を行い、当研究所の研究者に加え学外の研究者との連携強化による研究活動の展開も実施してきた。合わせて、東洋文字文化分野における若手研究者への積極的な支援を目的とし本学若手研究者への研究費の配分も実施した。尚、これらの研究成果については、紀要等の研究所が発行する媒体において、随時、発表していく。

主な研究テーマは次の通りである。

芳村　弘道（本学文学部教授）　「唐代文学・文献学」
上野　隆三（本学文学部教授）　「中国明清白話小説の研究」
萩原　正樹（本学文学部教授）　「森川竹磎の伝記と作品の研究」
松本　保宣（本学文学部教授）　「中国唐代政治制度史」
高島　敏夫（本学文学部非常勤講師）　「甲骨文の文字構造の研究」
村田　進　（本学文学部非常勤講師）　「前漢思想史研究」
董　　偉華（本学文学研究科博士後期四年）「『広韻』の版本系統に対する再考察」
木村　秀海（関西学院大学文学部教授）　「衆人新解　―衆人爲邑人説―」
松井　嘉徳（京都女子大学文学部教授）　「周王の称号‐　王・天子、あるいは天王」

※　研究業績については「Ⅱ研究業績」を参照。

以上

■文化事業

文化事業の積極的展開は本研究所の大きな特徴であり 2011 年度においても、前年度に引き続き活発な事業展開を行ってきた。東洋文字文化に関する研究、普及および教育活動の奨励支援を目的とした「立命館白川静記念東洋文字文化賞」の表彰、漢字の成り立ち等について学習する体験型講座「漢字探検隊」の開催、「漢字講座」をはじめとする地方自治体及び学校・各種団体等との連携事業、研究所・本学 HP 及び一般向けの広報物『白川研究所便り』による積極的広報を実施した。さらには「立命館土曜講座」を白川研担当企画『白川静の世界』として全８回を５月・６月の２ヶ月間にわたって実施し『京都太秦物語』の映画上映、内田樹神戸女学院大学名誉教授による公開講演会など多数の参加者を集めた。また、昨年度に引き続き産経新聞社との共催で「第２回創作漢字コンテスト」を実施し産経新聞紙面をはじめとするメディアで取り上げられるなど社会的に大きな関心を集めた。2012 年度も第３回創作漢字コンテスト９月に実施予定である。

2011 年度の文化事業における新たな展開として「漢字教育士資格認定講座」の開講を行った。本講座は白川文字学に基づく漢字教育の社会的普及び漢字教育者の養成を目的とし、本研究所の定める所定の講座の受講したものに対して、「漢字教育士」の資格認定を行う制度である。現在、本学文学部、放送大学、福井県教育委員会、財団法人日本漢字能力検定協会の４機関において講座を開始している。

さらに、被災地慰問事業についても本年度の特徴的事業である。東日本大震災復興のため社会貢献プロジェクトとして「私たちの提案・漢字で元気に」と題し、福島市において「漢字あそび大会」の開催、宮城県角田市の小学校において「漢字講座」の開催と教材の贈呈を行った。この取り組みについては、2012 年度も引き続き継続していく予定である。

2012 年度においても、2011 年度の事業実績に基づきの学術研究事業及び文化事業の継続的、積極的展開を研究所として図っていく。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 萩原正樹, 「蕪城秋雪及其《香草墨縁》」, 『詞学』, 26 号, pp225-250, （2011 年 12 月）
2. 張仲謀、萩原正樹訳(翻訳), 「関中金鸞校訂本『詩余図譜』考」, 『風絮』, 8 号, pp58-65, （2012 年 3 月）

図書

なし

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 芳村弘道, 「董康『書舶庸譚』九巻本譯注（四）」, 『立命館白川靜記念東洋文字文化研究紀要』, 5 号, pp25-40, （2011 年 6 月）
2. 芳村弘道, 「納税者であった白居易」, 『新釈漢文大系季報』, 111 巻, pp1-2（2011 年 6 月）
3. 萩原正樹, 「森川竹磎年譜稿(上)」, 『学林』, 53・54 巻, pp484-524, （2011 年 12 月）
4. 高島敏夫, 「讀「釈師」―白川文字學の原點に還る(4)」, 『白川静記念東洋文字文化研究所紀要』, 5 号, pp1-14, （2011 年 6 月）
5. 石井真美子, 「研究ノート：『銀雀山 墓竹簡〔貳〕』と『銀雀山 簡釋 』の相違」, 『立命館白川靜記念東洋文字文化研究紀要』, 5 号, pp15-24, （2011 年 6 月）
6.. 石井久雄, 「古今和歌集元永本における漢字」, 『立命館白川靜記念東洋文字文化研究紀要』, 5 号, pp1-23（横書き）, （2011 年 6 月）

図書

1. 加地伸行, 『沈黙の宗教 ―儒教』, 筑摩書房, （2011 年 4 月）
2. 松本保宣　鄧小南・曹家斉・平田茂樹主編, 「从朝堂至宫门―唐代直诉方式之变迁―」, 『文书· 政令· 信息沟通―以唐宋时期为主―』, 上冊, 北京大学出版社, （2012 年 1 月）
3. 芳村弘道（編著), 南丹市立博物館所蔵　小出文庫漢籍古書分類目録, 南丹市立博物館, （2012 年 3 月）
4. 芳村弘道、萩原正樹、池田智幸、鈴木俊哉（共著), 「立命館大学文学部中国文学専攻所蔵村上哲見先生旧蔵詞学文献目録」, 中国芸文研究会, （2011 年 11 月）

２）学会発表

①海外での発表

1. 芳村弘道, 《選詩演義》考異―《選詩演義》所用《文選》的版本問題, 《文選》與中国文學傳統國際學術研討會, 南京大学, 2011 年 8 月

②国内での発表

1. 松本保宣, 「隋唐皇帝の居所と宮城構造の変容」, 東アジア比較都城史研究会, 第 3 回共同研究会, 山口大学, 2012 年 1 月 7 日

３）省庁、学会、財団などの表彰

なし

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 奨学寄附金　財団法人日本漢字能力検定協会
   加地伸行（代表), 計 600 万円（直接経費 540 万円、間接経費 60 万円）
2. 受託事業　財団法人日本漢字能力検定協会（2011 年～2012 年）
   「漢字教育士資格認定講座の実施」, 計 500 万円

５）特許

①出願

なし

②取得

なし

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

1.「白川静香の漢字学」，北海道新聞　日曜Navi，1-2面，2012年4月8日

2.「第2回創作漢字コンテスト　さりげない工夫　柔軟な視点」，産経新聞，9面，2011年5月31日

3.漢字探検隊関連記事

1)「漢字探検隊-京都市動物園」，京都新聞，2011年5月下旬

2)「漢字探検隊-福岡北九州市到津の森公園」，西日本新聞，2011年9月下旬

3)「漢字探検隊-茨木県つくば市」，茨城新聞，2011年10月下旬

4)「漢字探検隊-福島」，福島民報，福島民友，2011年9月24日

4.「白川静漢字抄」，日刊県民福井，2012年4月～（連載開始）

②講演会

1.立命館土曜講座，「白川静の世界」，京都・立命館大学衣笠キャンパス，連続企画全8回

1)芳村弘道（文学部教授），「白川静の人と学問と生涯と」，2011年5月7日（第2975回）

2)萩原正樹（文学部教授），「白川静の中国文学論」，2011年5月14日（第2976回）

3)冨田美香（映像学部准教授），映画「京都太秦物語」上映・解説（第5回白川賞授賞式開催），2011年5月21日（第2977回）

4)津崎幸博（漢字教育工学学会理事），「白川文字学」，2011年5月28日（第2978回）

5)大川俊隆（大阪産業大学教養部教授），「白川静と民俗学と」，2011年6月4日（第2979回）

6)内田樹（神戸女学院大学名誉教授），特別講演会「私が白川静先生から学んだこと」，2011年6月11日

7)佐藤一好（大阪教育大学教育学部教授），「白川静の『孔子伝』」，2011年6月18日（第2980回）

8)矢羽野隆男（四天王寺大学人文社会学部教授），「白川静の漢字教育」2011年6月25日（第2981回）

③その他

＜刊行物＞

1.『白川研究所便り第6号』，白川静香記念東洋文字文化研究所，2011年5月20日

・「中島敦の文学と白川静先生と（その二）」，立命館大学特別招聘教授／プール学院大学学長　木村　一信
・「白川静生誕100周年記念フォーラムと白鶴美術館記念講演会の報告」研究員　高島　敏夫
・「『入門講座　白川静の世界』全三巻の刊行について」　運営委員　萩原　正樹
・「漢字教育士資格認定講座の開講について」　研究所長　加地　伸行
・「第四回立命館白川静記念東洋文字文化賞の選考について」
・「「白川静文庫開設記念展」を終えて」　副研究所長　芳村　弘道
・「2010年度　活動報告」　文化事業担当　久保　裕之

＜社会貢献事業＞

1.第5回立命館白川静記念東洋文字文化賞

1)立命館白川静記念東洋文字文化賞教育普及賞

受 賞 者：森岡　隆（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）

対象業績：書道史研究

2)受 賞 者：書論研究会（代表：杉村　邦彦）

対象業績：学術機関誌『書論』の刊行を通じた、書論や書に関する諸文献の研究

2.第2回創作漢字コンテスト，共催：産経新聞，2011年5月，

（参考URL：http://www.sankeisquare.com/event/kanjicontest_2nd/index.html）

3.漢字探検隊

1)第25回京都漢字探検隊「動物園で漢字と出合う」，京都市動物園，2011年5月28日

2)第26回京都漢字探検隊「匠もびっくり漢字の技」，京都市伝統産業ふれあい館，2011年7月9日

3)第27回京都漢字探検隊「植物園で漢字と出合う」，京都市府立植物園，2011年10月15日

4)第28回京都漢字探検隊「神とつながる漢字」，京都市北野天満宮，2011年12月10日

5)第 29 回京都漢字探検隊「医療・健康と漢字」, 京都市眼科・外科医療博物館, 2012 年 2 月 19 日
6)第 1 回草津漢字探検隊「漢字ジェスチャー大会」, 滋賀県草津市 BKC エポック, 2011 年 10 月 23 日
7)第 2 回草津漢字探検隊「植物園で漢字と出会う」, 滋賀県草津市立水生植物公園みずの森, 2011 年 11 月 5 日
8)福岡漢字探検隊「漢字に見る科学の眼」, 福岡県久留米市青少年科学館, 2011 年 9 月 17 日
9)福岡漢字探検隊「鳥類・動物と漢字」, 福岡県久留米市鳥類センター, 2011 年 9 月 17 日
10)福岡漢字探検隊「神様とつながる漢字」, 福岡県太宰府市太宰府天満宮, 2011 年 9 月 18 日
11)福岡漢字探検隊「動物園で漢字と出合う」, 福岡県北九州市到津の森公園, 2011 年 9 月 18 日
（以下は共催事業）
12)広島漢字探検隊, 広島市安佐動物公園, 2011 年 5 月 23 日
13)第 13 回東京漢字探検隊「江戸で漢字と出合う」, 東京都墨田区江戸東京博物館, 2011 年 7 月 23 日
14)第 14 回東京漢字探検隊「動物園で漢字と出合う」, 東京都台東区恩賜上野動物園, 2011 年 10 月 29 日
15)文京こどもアカデミア, 東京都文京区アカデミア文京, 2011 年 7 月 24 日
16)第 1 回つくば漢字探検隊「漢字ジェスチャー大会」, 茨木県つくば市つくばサイエンスインフォメーションセンター, 2011 年 9 月 25 日
17)第 2 回つくば漢字探検隊「植物園で漢字と出合う」, 茨城県つくば市筑波実験植物園, 2011 年 10 月 30 日
18)第 1 回大人講座「白川静と東洋文字文化の世界」, 茨木県つくば市つくばサイエンスインフォメーションセンター, 2011 年 9 月 25 日
19)第 2 回大人講座「白川静と東洋文字文化の世界」, 茨木県つくば市つくばサイエンスインフォメーションセンター, 2011 年 10 月 30 日
20)第 3 回大人講座「白川静と東洋文字文化の世界」, 茨木県つくば市つくばサイエンスインフォメーションセンター, 2011 年 12 月 4 日

4. 東日本大震災復興プロジェクト「私たちの提案・漢字で元気に」
1)「漢字あそび大会」, 福島県福島市, 共催：福島大学, 2011 年 9 月 23、24 日
2)「漢字講座」(合わせて小学校に教材を贈呈), 宮城県角田市小学校, 2011 年 9 月

以上

2011 年度　研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
研究センター長名	勝村　誠　(政策科学部・教授)

Ⅰ. 研究実績の概要 (公開項目)

①月例研究会: 第39回は、裵姈美(立命館大学コリア研究センター専任研究員)による「1920年代における『内鮮融和』と在日朝鮮人留学生」、第 40 回は、洪性翕(韓国全南大学校人類学科教授)による「始華湖:開発と住民の生活」、第 41 回は第 2 回産業社会学部共同研究会として、朱恩佑(韓国中央大学社会学科副教授)による「Neo-liberal Korean Society in Films & TV」、第 42 回は鄭鍾賢(京都大学人文科学研究所外国人研究員)による「植民地期(1910～1945)、京都帝国大学の朝鮮‘留’学生研究」、第 43 回は科研プロジェクト「貧困女性の市民事業研究会」と共同研究会として、宋榮錫(韓国仁川平和医療生協事務局長)による「韓国の医療生協と社会的企業」、第 44 回は鄭炳浩(立命館大学文学部特別招聘准教授)による「韓国近代文学史の構築過程と親日(二重言語)文学」、第 45 回は柳東民 (韓国忠南大学経済学部教授)の「金大中の大衆経済論」と、李建範 (韓国韓神大学経営学部教授)の「韓国金融産業の現況」、第 46 回は李建濟(立命館大学コリア研究センター客員研究員)による「植民地朝鮮における李箱(イ・サン)の詩作様相―有機的世界と無機的世界の交流過程を中心に」という、報告と議論がなされた。その内容は、歴史・文学・経済・社会・文化など、多様な学問分野にわたっており、2 度の共同研究を通じて、センターの研究活動のネットワークを広げることができた。

②国際シンポジウム: 2011 年度は、本学で 2 度、海外で 1 度の国際シンポジウムが行われた。まず、第11 回 RiCKS 国際シンポジウム「北朝鮮は崩壊するのか―韓国政府の対北政策を問う」(於立命館大学衣笠キャンパス創思館)では、提携機関の韓国東国大学北韓学研究所との共催で行われ、センターからは中戸祐夫、森類臣、文京洙、大久保史郎、徐勝が各報告者・討論者・司会者として参加した。次の 12 回 RiCKS 国際シンポジウム「植民地期における朝鮮人の生と死」)(於立命館大学衣笠キャンパス充光館)では、ソウル大学学際間融合研究事業団との共催で行われ、センター(学内)からは金泰勲、李美於、庵逧由香、徐勝が各報告者・討論者・司会者を務めた。このシンポジウムは、人文学と医学の学際間学術交流が行われた点において意義深い。最後に、13 回国際シンポジウム「脱分断・統一・平和の新しい想像力」(於韓国ソウル大学シンヤン人文学術情報館)では、韓国ソウル大学統一平和研究院・HK 平和人文学研究団、韓国東国大学北韓学研究所/SSK 脱分断研究チームとの共催(後援:韓国研究財団)で行われ、中戸祐夫、徐勝、綛田芳憲が参加した。このシンポジウムを通じては、従来の提携機関との交流を基礎にし、さらなる交流の輪を広めることができた。

③次世代研究者フォーラム: 第6回を迎えたRiCKS次世代研究者フォーラムは、「東アジアの中の日本と朝鮮半島」を全体テーマにし、徐勝の記念講演から始まった。8 月 2 日～4 日の間、日本・韓国・中国・アメリカ・スペインの研究者が報告者や討論者、協力教授として参加し(報告者 18 名)、報告と相互討論を通じて、分野と国境、世代を超えた学術交流が行われた。

④『コリア研究』第 3 号発行:3 本の特集論文(「韓国の平和主義」)、2 本の投稿論文、3 本の特別機構、2 本の研究紹介、2 本の研究ノート、6 分野の韓国の新刊紹介などを載せた第 3 号は、世界 100 個所に至る関連機関に送付された。

⑤その他: 5 月には、韓国の最新ドキュメンタリー「오월(五月)愛」鑑賞会、6 月には韓国国会図書館と相互利用協定締結と、ライスボールセミナー「東北アジア・朝鮮半島と日本の疎通と協働－平和構築の視点から」(主催:グローバルイノベーション研究機構)での報告、立命館大学「国際平和セミナー・韓国プログラム」、アジアの平和と歴史教育連帯(韓国)、子供と教科書京都ネット21との共催した「学生のための日韓歴史教科書問題入門講座」、10月には財団法人ワンコリアフェスティバル・韓国東西大学と共催した財団法人ワンコリアフェスティバル設立記念シンポジウム「 東アジア共同体の未来に向けて一市民・地域交流を中心に一」、立命館大学国際地域研究所と共催した特別研究会「二つの訪朝団が見た平壌―中ロとの関係を強める経済動向を中心に―」、2 月には研究の国際的発信プロジェクト「刑法史の比較研究　日本・韓国・ドイツにおける刑法による過去の克服(共同研究)」と共催した日韓共同研究会をそれぞれ開催した。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 山下高行,"Indeterminate nationalism represented in the last twentieth century Olympic Games, the 1998 Nagano Winter Olympics, The International Journal of the History of Sport; (Vol.28, Number 16) Special Issue: The Triple Asian Olympics: Asia Rising-The Pursuit of National Identity, International Recognition and Global Esteem, Routledge 2011, pp.2323—2338.
2. 森類臣, 「『ハンギョレ新聞』創刊における国民株方式の分析」, 『コリア研究』, 立命館大学コリア研究センター, 第 3 号, pp. 121～134, (2012 年 3 月)

図書

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 倉田玲, 「自由刑と選挙権―オーストラリア選挙法の新局面（下）」, 『立命館法学』337 号, pp. 38～76, (2011 年 3 号
2. 徐勝「東アジア平和定着のための日本の役割」, 『8・15 と東アジア平和体制の構築―‘危機’と‘葛藤’を超えて』2011 萬海学術セミナー資料, 民族問題研究所, pp. 21～28 (2011 年 8 月)
3. 徐勝, 「東アジア平和定着と日本の役割」, シンポジウム「8.15 と東アジア平和体制構築―‘危機’と‘葛藤’ を超えて」資料集, 萬海財団, 韓国・麟諦, 2011 年 8 月 13 日
4. 徐勝「済州島海軍基地設置反対運動を通して見る韓国の平和運動」, 市川正人・徐勝編著, 『現代における人権と平和の法的探究――法のあり方と担い手論』, 日本評論社, 2011 年 9 月, pp. 213－227
5. 倉田玲, 「責任主体としての個―公務員の賠償責任と合衆国の最高法規」, 市川正人・徐勝編著『現代における人権と平和の法的探究――法のあり方と担い手論』, 日本評論社, 2011 年 9 月, pp. 121～141
6. 徐勝, 「東アジアと朝鮮半島のの安全保障神話―平和主義の視点から」, 12th WORLD KOREAN FORUM(WKF) in Four Points by Sheraton Hotel, Darling Harbour, Sydney, Australia 'East-Asia Community in Multi Polar Era', 2011 年 6 月, p114-124
7. Kang-Kook Lee, 2011. How Can Foreign Aid Buy Economic Growth? Revisiting the Growth Effects of Foreign Aid. Journal of Korea's Development Cooperation. Vol. 2, No. 3.
8. Kang-Kook Lee, 2011. 'The Post-Crisis Changes in the Financial System in Korea', in The Financial Crisis and Asian Developing Countries, ed. by Yilmaz, Akyuz. Third World Network.
9. 桂島宣弘, 「明清王朝交替と東アジアの思想史」, 『東アジアの思想と文化』, 東アジア思想文化研究会, 4 号, pp. 37～45, (2012 年 03 月)
10. 勝村誠, 「日韓自治体交流の現状と課題について－職員相互派遣の可能性の展望」, 『環東海レビュー』, 韓東大学校環東海経済文化研究所, 第 8 巻第 1 号, pp. 23～48, (2012 年 4 月)
11. 勝村誠【論文翻訳】, 「植民地期の朝鮮アナキストによる共産主義批判２」, 『トスキナア』, 第 15 号, pp. 65～71, (2012 年 4 月)
12. 勝村誠, 「丹波マンガン記念館と強制動員の記憶」, 『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書 2012 年』, pp53～54, (2012 年 3 月)

図書

1. 市川正人・徐勝編／若尾典子, 長岡徹, 木下智史, ロバート・G・ヴォーン、倉田原志、多田一路、倉田玲、韓寅燮、君島東彦、赤澤史朗、徐勝 (pp. 213～227)、金昌禄、ジェフリー・ラバーズ、市川正人共著『現代における人権と平和の法的探究――法のあり方と担い手論』, 日本評論社, 2011 年 9 月
2. キム・ジョンリョル著、森類臣訳「韓国検察庁における取調べ録画制度の概観」、指宿信編・日本弁護士連合会編

集協力『取調べ可視化へ！―新たな刑事司法の展開―』、日本評論社、175-191p.（2011）
3.権学俊「戦時下植民地朝鮮における身体管理と規律化に関する一考察」,有賀郁敏・山下高行編著『現代スポーツ論の射程－歴史・理論・科学』,文理閣,pp. 68-94,（2011）
4. 山下高行「ジョン・ハーグリーヴス再論―英国スポーツの社会史的展開とグローバリゼーション研究―」有賀郁[illegible],山下高行共編著,『現代スポーツ論の射程』,文理閣,pp350～377,（2011）
5.Kangkook Lee," Changes of Emerging Market Countries, in Changes of the Global Economy after the Global Financial Crisis" edited by Park. B. et al, Korea Institute for International Economic Policy (KIEP).(2012,Korean)
6.山下高行,「スポーツと階級関係」(pp.46～47),「マルクス主義」(pp.178～179) 井上俊、菊幸一編『よくわかるスポーツ文化論』,ミネルヴァ書房,（2011年11月）
7.庵逧由香監訳,『日本の朝鮮植民地支配と植民地的近代』,明石書店,（2012年）
8.森類臣共訳（共訳者：川瀬俊司）,『不屈のハンギョレ新聞』,現代人文社,（2012年）
9.文京洙ほか「危機の時代の市民活動」編集委員会『危機の時代の市民活動―日韓「社会的企業」最前線』,東方出版,（2012）
10.鄭雅英ほか在日済州人の生活誌を記録する会,『在日済州人の生活誌１　安住の地を探して』,ソニン,2012年(韓国語)
11.中戸祐夫,"Security Dynamics in Northeast Asia: Emerging Confrontation between U.S.-ROK-Japan vs. China-Russia-DPRK," U.S.-China Relations and Korea Unification,Korea Institute for National Unification,pp37～61,（2011）
12.倉田玲（市川正人・倉田原志編）,『「平等――子どもを仕分ける法律の限界」「外国人の人権――政治献金一切禁止の不思議」市川正人・倉田原志(編)『憲法入門――憲法原理とその実現』,法律文化社,pp.24～35,97～110,(2012年)

２）学会発表

①海外での発表

1.徐勝,「立命館大学国際平和ミュージアムの成立と性格―市民平和運動と'韓国併合100年展'を通して」,第1回国際博物館フォーラム Yeongwol Yonsei Forum　第2分科会 War and Peace, and the Museum,韓国寧越,2011年5月23日
2.徐勝,「東アジアと朝鮮半島のの安全保障神話―平和主義の視点から」12th WORLD KOREAN FORUM(WKF)　in Four Points by Sheraton Hotel, Darling Harbour, Sydney, Australia 'East-Asia Community in Multi Polar Era',2011年6月21日
3. 徐勝,「東アジア平和定着と日本の役割」シンポジウム「8.15と東アジア平和体制構築―'危機'と'葛藤'を超えて」萬海財団,韓国・麟蹄,2011年8月13日
4.Kang-Kook Lee, "Growth" revisited : revival in international aid, Workshop on Development Effectiveness "Growth and Aid", by Korea Exim Bank , Seoul, Korea.　September 29, 2011
5.Kangkook Lee,"Financial Cooperation in East Asia: the CMIM and Future Prospects,　'East Asian Integration: Food, Fuel and Financial Securities,' " International Conference by NIDA (National Institute of Development Administration) of Thailand,Bangkok・Thailand (2012年2月24日)
6.裵姈美,「日帝下における在日朝鮮人留学生運動：1910～1930」,『東アジアの近代的覚醒と学生独立民権運動』,韓国全南大学校学制独立運動研究団,全南大学校社会科学大学教授会議室,2011年12月2日

②国内での発表

1.庵逧由香,「朝鮮における総動員計画と強制連行」,強制動員真相究明全国研究集会報告,神戸・神戸学生青年センター,2011年5月29日
2.森類臣,「日本メディアによる『北朝鮮』報道の論理―韓国哨戒艦沈没事件・延坪島砲撃事件の新聞報道分析を中心に―」,国際高麗学会日本支部第15回学術大会,2011年6月5日
3.中戸祐夫,「アメリカの対北政策」,第11回RiCKS国際シンポジウム「北朝鮮は崩壊するのか―韓国政府の対北政

策を検証する」,立命館大学創思館カンファレンスルーム、2011 年 6 月 10 日
4. 森類臣,「日本メディアの『北朝鮮報道』を検証する」同上
5. 裵姈美,『他者の特攻―朝鮮人特攻兵の記憶・言説・実像』(山口隆,社会評論社,2010 年)書評,朝鮮史研究会関西部会例会,大阪河合塾,2011 年 7 月 30 日
6. 桂島宣弘,「植民地朝鮮と宗教」共同パネル報告(磯前順一、金泰勲、裵貴得、沈熙燦、桂島宣弘),日本宗教学会, 大会名称,関西学院大学, 2011 年 9 月 4 日
7. 中戸祐夫,「韓国から見る南北関係」,「東アジア『共生』学創成の学際的融合研究(CEAKS)安全保障セミナー:東アジア分断国家における『共生』とは」, 富山大学極東地域研究センター, 2011 年 9 月 13 日
8. 徐勝,「東アジアにおける植民地主義」,「『東アジア歴史・人権・平和宣言』発表大会～植民地主義克服のためのダーバン宣言から 10 年～」シンポジウム, 明治大学リバティータワー, 2011 年 10 月 2 日
9. 中戸祐夫,「米国産牛肉市場開放の政治経済学―米国の市場開放圧力に対する日韓の対応比較」『北東アジア学会第 17 回学術研究大会』北海学園大学, 2011 年 10 月 2 日
10. 鄭雅英,「在日済州島出身者と学校教育」,朝鮮史研究会第 48 回大会,立命館大学創思館カンファレンスルーム,2011 年 10 月 23 日
11. 中戸祐夫,「北朝鮮の攻撃的な対外行動対外行動に対する一考察―第 2 次核実験を事例として―」,2011 年度研究大会日本国際政治学会平和研究分科会,2011 年 11 月 12 日
12. 中戸祐夫,「日本の対北朝鮮対応型関与(responsive engagement)再考―自主外交論、属国論、核保有論を超えて―」分断・統一・平和の新しい想像力,2011 年 12 月 13 日

３)省庁、学会、財団などの表彰

1. 徐勝、2011 年 6 月 27 日, 財団法人「真実の力」による第 1 回人権賞受賞, 於韓国ソウル市チョンダン洞フランジェスク教育会館

４)外部資金獲得(競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等)

1. 科学研究費補助金基盤研究(C)(H23～25)(日本学術振興会)
「東アジアにおける翻訳語ネットワークの形成と近代学術知に関する思想史的研究」, 桂島宣弘(代表), 1,500,000 円
2. 科学研究費補助金基盤研究(C)(H21～23)(日本学術振興会)
「韓国における市民的公共性の新たな展開としての市民事業に関する研究」,文京洙(代表),600,000 円
3. 科学研究費補助金基盤研究(C)(H22～H24)(日本学術振興会)
「朝鮮総動員体制」の構造分析のための基盤研究」,庵逧由香(代表),700,000 円
4. 奨学寄附金　3,000,000 円(三越土地株式会社)
5. 奨学寄附金　100,000 円(中村徳宣)

５)特許

①出願

②取得

６)その他(報道発表、講演会等)

①報道発表

1. 徐勝, 沖縄タイムス, 2011 年 5 月 3 日「『獄中 19 年』著書の徐勝さん、今日憲法講演会」
2. 徐勝, 沖縄タイムス, 2011 年 5 月 3 日「沖縄に平和ゾーン構築を　『獄中 19 年』の徐勝さん」
3. 徐勝, 琉球新報, 2011 年 5 月 4 日「徐さん憲法講演『対話と交流で平和』　沖台韓の連帯強調」
4. 徐勝, 統一ニュース, 2011 年 6 月 23 日「第 1 回‘真実の力’人権賞に徐勝教授選定」
5. 徐勝, 中央日報, 2011 年 6 月 24 日「‘真実の力’人権賞に人権運動家の徐勝教授」
6. 徐勝, ハンギョレ, 2011 年 6 月 27 日「徐勝教授‘真実の力財団’人権賞」
7. 徐勝, メディアタウン, 2011 年 6 月 27 日「‘真実の力’人権賞に人権運動家の徐勝教授」

8. 徐勝, KOREA PRESS AGENCY, 2011 年 6 月 27 日「‘真実の力　人権賞’受賞する徐勝先生」
9. 徐勝, KOREA PRESS AGENCY, 2011 年 6 月 27 日「徐勝先生、“自由と民主主義は選択ではなく権利”」
10. 徐勝, メディアタウン, 2011 年 6 月 28 日「真実の力人権賞受賞する徐勝教授」
11. 勝村誠, 統一新聞, 3 面, 2011 年 7 月 13 日（「『図録・評伝　安重根』出版京都講演会」）
12. 徐勝, 京郷新聞, 2011 年 8 月 15 日「姜萬吉“南北が若いしてこそ東アジア共同体が可能”‘8・15 東北アジア平和’特別座談」
13. 徐勝, 琉球新報, 9 月 27 日「北京でクロビッツ展・シンポジウム　東アジア交流で議論」

②講演会

1. 徐勝, 「沖縄と朝鮮半島、台湾海峡を結ぶ平和のトライアングルをつくろう」, 憲法講演会, 那覇市民会館大ホール, 2011 年 5 月 3 日
2. 徐勝「文明の支配に終焉を！　人間の解放へ！」アムネスティ創立 50 周年記念講演, 市谷私学会館, 2011 年 6 月 7 日
3. 勝村誠, 「安重根の東洋平和論」, 『図録・評伝　安重根』出版記念講演会, 龍谷大学アバンティ響都ホール, 2011 年 6 月 29 日
4. 勝村誠, 「韓国と日本の政治弾圧と治安維持法をめぐる動向」, 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都府本部第 26 回総会, ラボール京都（京都労働者総合会館）, 2011 年 7 月 23 日
5. 徐勝, 「東アジアの中の日本と韓国－中心から周辺へ」, RiCKS 次世代研究者フォーラム基調講演, 立命館大学西園寺記念館, 2011 年 8 月 2 日
6. 桂島宣弘, 「トランスナショナル・ヒストリーと東アジア」, 台湾・国立台湾大学人文社会高等研究院, 2011 年 8 月 12 日
7. 徐勝, 「沖縄と朝鮮半島―植民地を超えて」, ソウル大学校医学史研究室, 韓国ソウル大学医学部, 2011 年 8 月 14 日
8. 徐勝, 「人権賞と私の歴程」プルン歴史アカデミー特別講演会, 韓国ソウル, 2011 年 8 月 31 日
9. 徐勝, 「第 1 回〈真実の力〉人権賞を受賞して」, 隣国と日本のことを考えて見る半日セミナー, 涵徳亭（後楽園）, 2011 年 9 月 11 日
10. 森類臣, 「日本メディアによる『北朝鮮』報道を検証する」, 京都自由大学一般講座, 2011 年 9 月 30 日
11. 森類臣, 「日本メディアにおける「北朝鮮」報道の問題点」, 日朝関係史講座、2011 年 10 月 7 日
12. 桂島宣弘, 「トランスナショナル・ヒストリーと中国」中国・中国南開大学日本研究院, 2011 年 10 月 20 日
13. 勝村誠, 「東アジア地域における歴史認識問題へのアプローチ―ささやかな経験にもとづく展望―」, 財団法人ワンコリアフェスティバル設立記念シンポジウム, 立命館大学朱雀キャンパス, 2011 年 10 月 22 日
14. 文京洙, 「済州島四・三事件と現代韓国」, 伊藤塾東京校, 2011 年 4 月 4 日
15. 桂島宣弘, 「明清王朝交替と東アジアの思想史」, 台湾大学文学院・立命館大学文学部学術交流シンポジウム, 立命館大学, 2012 年 03 月 22 日
16. 徐勝, 「韓国民主化運動と韓日関係、そして私：韓国民主主義と東アジアの将来」韓神大学校日本地域学科招請講演, 韓神大学校ソンアム館, 2011 年 11 月 8 日
17. 徐勝, 「私の生―東アジアの平和のために」, 建国大学校統一人文学研究団主催碩学招請講演, 建国大学校新千年館, 2012 年 4 月 26 日

③その他

1. 徐勝, 開会辞・コメンテーター, 「シンポジウム「植民地時代のソウルを歩き、植民地責任を考える」京都自由大学・京畿道市民フォーラム・韓国東国大学校正覚院・東国大学校日本研究所・歴史批評社共催, 京都自由大学 2011 年日韓 NGO 交流会, 2011 年 5 月 28
2. 徐勝, コメンテーター, 魯迅生誕 130 周年・新興版画運動 80 周年記念　「琉球・佐喜眞美術館コレクション　ケーテ・コルヴィッツ展」シンポジウム, 中国・北京魯迅博物館, 2011 年 9 月 17 日
3. 徐勝, パネルディスカッション, 「東アジアにおける脱植民地主義」, 「東アジア歴史・人権・平和宣言」発表大会報告原稿作成, 明治大学, 2011 年 10 月 2 日
4. 桂島宣弘, パネル座長, 「帝国日本の「学知」と植民地朝鮮――朝鮮総督府の植民地朝鮮研究を中心に」, 朝鮮史研

究会第48回大会, 立命館大学創思館401, 2011年10月23日

5. 徐勝, 2012陜川非核・平和大会共同大会長, 大会開催, 韓国陜川, 2012年3月23～24日

●シンポジウム／コメンテーター

1. 山下高行, 『「政治とスポーツ」: スポーツをめぐるポリティクスを再考する』 日本スポーツ社会学会第21回大会（熊本大学） 2012年03月18日

2. 山下高行, 『国際シンポジウム：転換期の東アジア East Asia in Transition』主催立命館大学人文科学研究所 2012年3月24日

3. 裵姈美, 『植民地研究の最前線 第3回研究会』, 同志社大学コリア研究センター・韓国高麗大学校民族文化研究院, 同志社大学今出川キャンパス徳照館, 2012年2月21日

●死刑映画週間／アフタトーク

1. 裵姈美, 韓国映画「私たちの幸せな時間」トーク, 京都にんじんの会, 京都シネマ, 2012年4月9日

以上

2011 年度　研究センター事業報告書

研究センター名	金融･法･税務研究センター
研究センター長名	大垣　尚司（法学研究科･教授）

Ⅰ．研究実績の概要（公開項目)

① 実務講座「税法連続公開東京講座」の実施

東京キャンパスで開講（全５回)、受講者数：22 名（主に税理士等の実務家)

全体テーマを「税理士のための親族・相続法」とし、〈1〉相続法を中心に親族・相続法の基礎知識、〈2〉増加が予想される相続税課税について、全５回の講座を開催。講師は研究者と実務家（税理士・弁護士）複数名が担当し、講師陣によるパネルディスカッションと議論を中心に講義をおこなった。講義の場では双方向の鋭い意見交換がなされ、講師と受講生が共に議論し、共に学ぶ場という新しい講座スタイルが特色になっている。2012 年度においても継続実施の予定である。

② QOL 金融に対する高度先端金融技術の開発

本センター主導で設立した一般社団法人移住・住みかえ支援機構を通じて実践的な仕組み開発を継続実施。単なる研究ではなく実務を伴うため、同機構には大垣（センター長）が無報酬の役員として開発に従事し、必要な人的支援や経費は同機構において負担する仕組みをとっている。2011 年度は活動費として機構において以下の３件の補助金（合計 3300 万円）を獲得（いずれも研究機関単独での申請は不可)。

これに基づいて、サービス付き高齢者向け住宅に関する一括借上げ＋介護報酬請求権譲渡＋ｱｶｳﾝﾄｱｸﾞﾘｹﾞｰｼｮﾝを活用した介護事業者の信用力審査システムの開発による統合的なリスク管理モデルを立ち上げ、住宅金融支援機構と提携して新しい公的融資の仕組みを構築した（2011 年９月より実施済)。

事　業　名	期　間	金　額
1. 住宅・建築物の先導的計画技術の開発及び技術基盤の強化に関する事業・・・「長期優良住宅に対する市場・消費者ニーズを踏まえた長寿命住宅の建築促進・維持保全強化に資する住宅産業の将来像ならびに民間住宅事業者の新たな事業モデル提案」	平成 23 年４月 ～平成 24 年３月	総額 1,500 万円
2. 長期優良住宅等推進環境整備事業（空き家等活用推進事業)・・・「郊外ニュータウンにおける空き家の賃貸資産化促進事業」	平成 23 年４月 ～平成 24 年３月	総額 603 万円
3. サービス付き高齢者向け住宅に対する融資のあり方に係る調査事業	平成 23 年８月 ～平成 24 年３月	総額約 1,197 万円

2012 年度には、定額家賃保証を活用した新しい住宅の取得手法に関するモデル事業を行うほか、地域の空き家対策にかかる新スキームの提言を実施の予定。

③ 『金融と法』東京講座（法学研究科と共同開講）を軸とした高度専門職業人教育の充実と、これと密接に連関した大学院法学研究科前期博士課程の東京展開に対する協調・支援

2010 年度より法学研究科と共同で前期博士課程の東京展開の検討し、東京圏の校友のアンケートによるニーズ調査などを行った。最終的に法学研究科が東京キャンパスでの修士学位取得プログラムの開設を断念したため、2012 年度以降も従前通りディプロマコースでの展開となった。しかし、この間の準備作業をふまえ、今後法学研究科と協力してビジネス系の法学科目の開設なども検討していく予定である。本年度は、社会人向けの民法カリキュラムを『金融から学ぶ民事法入門』（勁草書房、2012）として教科書化し、これに基づい

て２単位相当程度の民法の講義（前期）を新設した。またセンター独自の試みとして実務家向けに２単位相当の信託法の選択講義（後期）を新設し、東京講座の受講者以外にも外部開放の予定である。

なお、前期博士課程との連絡を意識した結果、リーマンショック以降の展開を踏まえた金融面でのカリキュラム調整が十分でなかったため、2012 年度においては、2013 年度にむけたカリキュラムの充実に向けた検討を実施の予定である。

④ 東日本震災に関わる研究推進プロジェクトへの応募

法学部と共同で研究代表者として東日本震災に関わる研究推進プロジェクトへの申請を行った。関連の研究業績として、『復興住宅証書試論』を発表した。その後、将来における住宅ローンにかかる二重債務問題を緩和するため、住宅ローンに対して激甚災害免除特約を付した場合のリスクカバーの手法構築を行い、プライシングを行って実務提案を企図したが、地震にかかる想起確率の大幅な見直しが行われることになったため、いったん作業を中断し、2012 年度以降にあらためて設計に着手する予定である。

なお、法学部側の事情により同プロジェクトの予算は使用せず、関連の費用は本センターの予算で賄った。2012 年度における本センターの研究予算については企業支援のめどがついていることから本年度に関するプロジェクトの継続申請はセンターとしては実施しない。

⑤ 金融のアジア展開にかかる端緒的研究への着手

研究協力を得られる企業とのコンタクトを行い、韓国における住宅金融にかかる調査・開発について SBI モーゲージ株式会社からの協力を打診中。

⑥ ＡＢＬ（Asset-Based Lending）にかかる研究

センター研究員に加え他大学の民法、倒産法の学者、ＡＢＬ実務に造詣の深い弁護士を招き研究会を実施。現状の論点整理を行うと共に、自己信託を活用した新たな仕組みの可能性について検討。

Ⅱ．研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 大垣尚司,「低金利から安心へ　住宅ローン競争軸の転換」,『金融財政事情』, きんざい, 2927 号, pp. 47-50, (2011)
2. 大垣尚司, 「判決に寄せて 情報提供に係る注意義務の内容を規定する要素（シンジケートローンを招聘したアレンジャーがその招聘に応じて当該シンジケートローンに参加して借受人に対する貸付を実行した貸付人に対して損害賠償責任を負う場合[名古屋高判平成 23.4.14]）」,『金融法務事情』, きんざい, 1921 号, pp. 58-61 (2011)
3. 大垣尚司,「復興住宅証書試論」,『立命館法学』, 335 号, pp. 336-374, (2011)
4. 大垣尚司,「金融ビジネスとしてのサービサー業」,『法律のひろば』, ぎょうせい, pp. 55-62, （2011 年 7 月）
5. 大垣尚司,「体験的 PMI のコツ」,『M&A 専門月刊誌マール』, 203 号, (2011 年 9 月)
6. 望月爾,「納税者の権利の確立を目指して」,『法と民主主義』, 日本民主法律家協会, 461 号, pp. 93 (2011 年 8 月)
7. 望月爾,「一時所得－取得時効」,『別冊ジュリスト租税判例百選』, 有斐閣, 207 号, pp. 87, （2011）
8. 望月爾,「グローバル・タックスと国際連帯税」, 立命館大学法学部＆法科大学院 GATEWAY (2011 年 10 月)
9. 望月爾,「納税者権利保護法の国際モデル-Duncan Bentley 教授のモデル法の紹介を中心に-」, 水野武夫先生古稀記念論文集『行政と国民の権利』, pp. 761-784, （2011 年 12 月）
10. 小山泰史,「流動動産譲渡担保に基づく物上代位――最１小決平成 22・12・2 を契機として」,『NBL』, 商事法務, 950 号, pp. 25-33 (2011 年 4 月)

11 小山泰史,「構成部分の変動する集合動産を目的とする集合物譲渡担保の効力は、譲渡担保の目的である集合動産を構成するに至った動産が滅失した場合いその損害をてん補するために譲渡担保権設定者に支払われる損害保険金に係る請求権に及ぶか」,『判例評論』,判例時報社,632 号(判例時報 2120 号),pp.162-166(2011 年 10 月)

12 小山泰史,「自動車の売買代金の立替払いをした者が販売会社に留保されていた自動車の所有権の移転を受けたが、購入者に係る再生手続が開始した時点で上記自動車につき所有者としての登録を受けていないときに、留保した所有権を別除権として行使することの可否」,『金融法務事情』,きんざい,1929 号,pp.56-59(2011 年 9 月)

13. 本山敦,「親族法上の諸問題(特集 災害時における民事法の機能とあり方)」,『ジュリスト』,有斐閣, 1434 号,pp.4-10, (2011 年 12 月)

14. 本山 敦, 羽生 香織,「家族法判例総評 : 2011 年「第 2 期」」,『戸籍時報』,日本加除出版, 676 号, pp.43-57, (2011 年 11 月)

15. 本山敦,「家族法最新判例ノート第 2 期(第 4 回)兄弟間の殺人と欠格の宥恕[広島家呉支審平成 22.10.5]」,『月報司法書士』, 日本司法書士会連合会,476 号, pp.61-69, (2011 年 10 月)

16. 本山 敦, 青竹 美佳,「家族法判例総評--2011 年「第 1 期」」,『戸籍時報』, 日本加除出版,671 号,pp.33-46, (2011 年 7 月)

17. 本山敦,「家族法最新判例ノート第 2 期(第 1 回)「相続させる」旨の遺言と代襲相続の可否[最三小判平成 23.2.22]」,『月報司法書士』,日本司法書士会連合会, 473 号, pp.70-74, (2011 年 7 月)

18. 本山敦,「ロー・ジャーナル ふたつの家族法改正(その 1)家事事件手続法」,『法学セミナー』,日本評論社, 56 巻 7 号, pp.48-49, (2011 年 7 月)

19. 本山敦,「民事法判例研究 「相続させる」旨の遺言と受益相続人の先死[最三判平成 23.2.22]」,『金融・商事判例』,経済法令研究会, 1367 号, pp.8-13, (2011 年 6 月)

20. 本山敦,「96 年要綱から現在まで(特集 家族法改正 提案から 15 年を経て)」,『月報司法書士』,日本司法書士会連合会, 470 号, pp.3-6, (2011 年 4 月)

21. 岸本雄次郎,「詐害行為と執行免脱財産創出(特集 信託の世界)」,『月報司法書士』,日本司法書士会連合会,473 号, pp.9-16, (2011 年 7 月)

図書

1. 大垣尚司, 『金融から学ぶ民事法入門』, 勁草書房, 384p,(2012 年 3 月)

2. 小山泰史, 第 22 講「不動産譲渡担保」(pp.342-358)・第 23 講「集合動産・集合債権の譲渡担保」(pp.359-386)
平井一雄・清水元編著,『基本講座民法1(総則・物権)』,432p,信山社,(2011 年 11 月)

3. 岸本雄次郎,『大岡裁きの法律学』,日本評論社,276p,(2011 年 6 月)

２)学会発表

３)省庁、学会、財団などの表彰

４)外部資金獲得(競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等)

[Ⅰ. 研究実績の概要-②]に記載の通り

５)特許

６)その他(報道発表、講演会等)

①報道発表

1. 大垣尚司 日本経済新聞 2011 年 5 月 16 日朝刊, 「住み替え支援、信託活用で-新しい日本へ 復興の見取り図5(経済教室)」

②講演会

③その他

1. 科研費基盤(C)「グローバル・タックスの導入に向けての法的課題」 第 3 回グローバル・タックス研究会報告, 2011 年 12 月 28 日,立命館大学衣笠キャンパス

以上

2011年度　研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	西　成彦

Ⅰ．研究実績の概要 (公開項目)

1．研究計画の概要について

本センターではグローバル COE「生存学」創成拠点の推進機関として、以下の企画Ⅰ～Ⅲを、互いに連関させつつ、センターの研究者（GCOE 事業推進担当者）と院生・PD の緊密な連携のもとで実施してきた。これまでに整えた研究態勢のもと、GCOE 最終年度である 2011 年度は、成果発信はもとより、国際的な学会や媒体での報告、執筆や国際的研究協力関係の強化を行なうことにした。また、生存学研究センターの機能の充実、特に HP での発信力強化により、グローバル COE プログラム終了後、本センターが生存学を継続的に発展させるための基盤強化をめざした。

Ⅰ「集積と考究」

身体および障老病異を巡り、とくに近代・現代に起こったこと、言われ考えられてきたことを集積し、全容を明らかにし、公開し、考察する。GCOE 採択後取り組んできた身体関係の書籍アーカイブの構築と書籍情報データベース化をさらにすすめ、院生研究会の成果の報告書や書籍での刊行、HP での英語・韓国語・中国語による情報発信を続けて行なう。

Ⅱ「学問の組換」

差異と変容を経験している人・その人と共にいる人が研究に参加し科学を利用し、学問を作る回路と仕組みを作る。一例として「電子書籍普及に伴う読書バリアフリー化」（立命館グローバル・イノベーション研究機構プロジェクト）と連携しながら、視覚障害をはじめとする読書障害者の書籍アクセシビリティ研究を、当事者である院生の参加を得て実施する。

Ⅲ「連帯と構築」

このままの世界では生き難い人たちがどう生きていくかを考え、示す。各々の学問領域で成果を発表しつつ具体的な案を提示する。大学と社会の連携、また諸問題に取り組むための国際連携を推進する。特に、アジアとの国際連携をより実質的なものとする。

2．研究成果の概要について

本センターでは、当初の研究活動計画に沿い、以下のような事業を行った。

Ⅰ　集積と考究

一般には入手困難な患者会機関誌等の収集とデータベース化・ウェブ公開を進めた。また、生存学関連の書籍情報や解説を約 1900 冊追加（現在約 9100 冊）。本拠点 HP は目標を超え年間アクセス約 1100 万に達した。教員、PD、院生らによる単著・共編著は 15 点刊行された。また、院生と本センター客員研究員が編者となった『生存学センター報告』第 16 号および 17 号、雑誌『生存学』（生活書院刊行）vol.4 および vol. 5 が刊行され院生が

多数寄稿し研究成果を公開した。また英文ウェブジャーナルであるArs Vivendi Journalを2号刊行し、リーズ大学障害学センターがリンクしている。日英によるメールマガジン発行、mixiやtwitterでの活動情報の告知など、多様な媒体による情報発信を行った。

II　学問の組換

坂本 徳仁・櫻井 悟史 編　2011年7月22日　『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』，生存学研究センター報告16を刊行。また、R-GIRO「電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究」と連携して電子書籍アクセシビリティの学会発表および産学官共同シンポジウムを実施、また人間科学研究所の「図書館アクセシビリティグループ」と連携して図書館におけるテキストデータ化に関する実験を実施した。また、意思伝達装置をオープンソースで制作しアートパフォーマンスにつなげた「アイライター」製作者と国際ワークショップを韓国で開催、インタビューと解題を『生存学』vol.5に掲載した。

III　連帯と構築

2011年3月11日の東日本大震災直後から、障害者と震災に関する特設サイトを本拠点HPに設置し情報発信を行った。また障害者の被災と生存の問題に関する一連の企画を実施し、一部インターネット中継も実施した。国際学会での報告も行なっている。2011年11月には第2回障害学国際研究セミナーを、また2012年3月には本拠点基幹研究科の先端総合学術研究科主催で国際シンポジウム「カタストロフィと正義」をいずれも衣笠キャンパスで開催、本拠点に関係する教員、院生が数多く報告し参加した。

さらに以下の活動を実施した

◯国際連携の進展

本センターの研究者交流にもとづく海外機関との連携も進み、韓国国際障害学学術会（韓国）、京畿道支援技術研究支援センター（韓国）、クラーク大学（アメリカ）との研究協力に関する協定を締結した。また、サレルノ大学（イタリア）とも2012年度覚書締結に向け準備中である。

◯自己評価活動

2011年度における本センターの基幹プロジェクトGCOE「生存学」創成拠点では、執行部を除く事業推進担当者（本センター研究メンバー）5名からなる自己評価委員会を設置し、内部評価報告書を作成した。その結果を踏まえて学外有識者（アーサー・フランク カルガリ大学教授、コリン・バーンズ リーズ大学教授、趙源逸（チョ・ウォンイル）京畿大学教授、石川准 静岡県立大学教授、上野千鶴子 東京大学名誉教授、川本隆史 東京大学教授）による外部委員会を設置し、これらの外部評価委員による書類審査と教員および院生を含む若手研究者へのヒヤリングを実施した。具体的な課題が指摘されると共に、生存学の意義と独自性が高く評価された。自己評価委員会では内部評価と外部評価を総合し、自己評価報告書としてとりまとめた。

Ⅱ．研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 赤阪麻由・日高友郎・サトウタツヤ,「『見えない障害』とともに生きる当事者の講演による高校生の障害観の変容」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号,pp.49～62, (2011)
2. 飯田奈美子,「在住外国人および医療観光目的の訪日外国人に対する医療通訳の現状と課題」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.47～57, (2011)
3. 大谷いづみ,「いのちの教育：臓器提供を『訓育』する装置？――カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』を『豚のＰちゃん』の教育実践とともに読み解く」,『立命館産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会, 第 47 巻 1 号, pp.237～258, (2011)
4. 佐藤浩子,「医療的ケアを必要とする障害児・者の実態把握の必要性――東日本大震災における首都圏の事例から」,『Core Ethics』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科,8 号,pp.183～194, (2011)
5. 崎山治男,「『心』を求める社会」,『社会学評論』,日本社会学会,61 巻 4 号,pp.440～454, (2011)
6. 破田野智己・斎藤進也・山田早紀・滑田明暢・木戸彩恵・若林宏輔・山崎優子・上村晃弘・稲葉光行・サトウタツヤ,「政策決定過程の可視化と分析にむけて：議論過程のシミュレーションとその KTH キューブによる表現」,『立命館人間科学研究』, 24 号, pp.21～33, (2011)
7. 山本由美子,「現代フランスにおける医学的人工妊娠中絶（IMG）と「死産」の技法」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,23 号, pp.25～36, (2011)
8. 若林宏輔・サトウタツヤ ,「同一の出来事を異なる方向から見た目撃者間の一方向的同調効果」,『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所,24 号, pp.21～33, (2011)
9. サトウタツヤ,「司法臨床の可能性――もう一つの法と心理学の接点をもとめて」,『法と心理』, 日本評論社, 11, pp.26-37, (2011)
10. 白井美穂・サトウタツヤ・北村英哉,「複線径路・等至性モデルからみる加害者の非人間化プロセス――「Demonize」と「Patientize」」,『法と心理』, 日本評論社, 11, pp.40-46, (2011)
11. 有松玲,「障害者政策の現状と課題――制度改革の現況分析を通して」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp. 1-11, (2012)
12. 飯田奈美子,「対人援助場面のコミュニティ通訳における「逸脱行為」の分析――事例報告分析を通して」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp. 24-39, (2012)
13. 一宮茂子,「生体肝移植ドナーが経験したインフォームド・コンセント――ドナーインタビューの分析より」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp. 53-62, (2012)
14. イム・ドクヨン,「1960 年代韓国における「浮浪児」の生成と実態」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp. 63-74, (2012)
15. 植村要,「中途失明した女性が女性性の主体となることの可能性と困難――スティーブンス・ジョンソン症候群患者へのインタビュー調査から」,『女性学年報』, 日本女性学研究会, 32 号, pp. 113-137, (2011)
16. 大野真由子,「難病者の就労をめぐる現状と課題――CRPS 患者の語りからみえる『制度の谷間』とは」,『障害学研究』, 障害学会, 第 7 号, pp.219-248, (2011)
17. 大野真由子,「難病者の「苦しみとの和解」の語りからみるストレングス・モデルの可能性――複合性局所疼痛性症候群患者の一事例を通して」,『人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 第 23 号, pp.11-24 (2011)
18. 片山知哉, "Cultural Bias in the Medical-Ethical Discussion of Health Care Proxy: What Difficulties do Gays and Lesbians Confront in Japan?," Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine, Japanese Association for Philosophical and Ethical Researches in Medicine, vol.5, pp.76-91, (2011)
19. 片山知哉,「文化の分配、所属の平等――デフ・ナショナリズムの正当化とその条件」,『障害学研究』, 障害学会, 第 7 号, 明石書店, pp.185-218, (2011)

20. クァク･ジョンナン, 「なぜ、重度障害者は学校に行けなかったのか―― 障害者夜学に通っている障害者事例をもとに」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院・先端総合学術研究科, 8 号, pp 113-122, (2012)
21. 小林宗之・小辻寿規, 「新聞報道に見る高齢者所在不明問題」, 『生存学』, 生活書院, 4 号, pp.208-219, (2011)
22. 近藤宏, 「鳥の声を聞く――パナマ東部先住民エンベラにおける動物をめぐる言説の諸相」, 『生存学』, 生活書院, 4 号, pp.196-206, (2011)
23. 小林宗之, 「戦争と号外（１）」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.123-132, (2012)
24. 渋谷光美, 「介護の源流としての寮母と家庭奉仕員に関する、養老事業関係者の動向を通じた検討」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.195-206, (2012)
25. 田中壮泰, 「グレーゴルと女性たち――介護文学としての『変身』」, 『生存学』, 生活書院, 5 号, pp.166-181, (2012)
26. 鄭喜慶, 「韓国障害者運動を担う障害者たち――1990 年から 1998 年における組織の統合を巡って」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp. 221-231, (2012)
27. 鄭喜慶, 「部分運動」としての韓国障害者運動――パラリンピック反対運動と２つの法案制定闘争を中心に――（1988 年－1989 年）」, 『障害学研究』, 障害学会, 8 号 (2011)
28. 西沢いづみ, 「地域医療における住民組織の役割の歴史的検討――白峯診療所および堀川病院の事例を中心に」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 7 号, pp. 211-220 (2011)
29. 西中一幸, 「養護学校の義務制をめぐる諸問題の考察――1979 年小中養護学校に関する政令施行後の動きに焦点をあてて」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.305-315, (2012)
30. 萩原浩史, 「精神障害者と相談支援――精神障害者地域生活支援センターの事業化の経緯に着目して」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.317-327, (2012)
31. 三野宏治, 「対人支援関係における専門家の権力性に関する考察」, 『対人援助学研究』, 1 号, pp.1-10, (2012)
32. 三野宏治, 「知的障害者の地域生活移行の事例からみる支援の強制力の発動についての考察」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.375-383, (2012)
33. 由井秀樹, 「非配偶者間人工授精によって出生した人のライフストーリー」, 『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 24 号, pp.35-48, (2011)
34. 由井秀樹, 「日本初の人工授精成功例に関する歴史的考察――医師の言説を中心に」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.423-432, (2012)
35. 吉田幸恵, 「統治下朝鮮におけるハンセン病政策に関する一考察――小鹿島慈恵医院設立から朝鮮癩予防令発令を中心に」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 号, pp.433-443, (2012)
36. 吉田一史美, 「菊田医師事件と優生保護法改正問題―― 『産む自由』をめぐって」, 『医学哲学・医学倫理』, 日本医学哲学・倫理学会, 第 29 号, pp.53-62, (2011)
37. 村上潔, 「労働基準法改定の動静における女性運動内部の相克とその意味――「保護」と「平等」をめぐる陥穽点を軸として」, 『現代社会学理論研究』, 人間の科学新社, 第 6 号 (2012)
38. 長谷川唯, 「難病相談・支援センターの実際の支援活動と役割にみる地域の現状」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp.329-340, (2012)
39. 片山知哉, 「文化の分配、所属の平等――デフ・ナショナリズムの正当化とその条件」, 『障害学研究』, 明石書店, 7, pp.185-218, (2011)
40. 番匠健一, 「北大植民学における内国植民論と社会政策論――高岡熊雄のドイツ内国植民研究の再検討―」, 『Core Ethics』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, vol.8, pp.351-362, (2012)
41. 濱本真男, 「「電通事件」判決の黙示――労働時間・精神医学診断・被害者家族」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp.341-350, (2012)
42. 蔡正倫, 「抵抗戦略としての戦後の台湾鉄道」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp. 135-148, (2012)
43. 田島明子, 「作業療法学における理論化の動向――特に 1992 年以降に着目して」, 『コア・エシックス』, 立命館

大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 245-256, (2012)

44. 白杉眞,「訪問介護事業所の運営の実情と課題」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 233-244, (2012)

45. 安孝淑,「韓国 ALS 患者の意思伝達をめぐる状況と課題」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 13-26, (2012)

46. 齊藤拓,「政策目的としてのベーシックインカム――ありがちな BI 論を然るべく終わらせる―」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 149-160, (2012)

47. 齊藤拓,「リベラルな中立性と小さな政府――社会的ミニマム極小化とベーシックインカム極大化―」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 161-170, (2012)

48. 酒井美和,「ALS 患者におけるジェンダーと人工呼吸器の選択について」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 171-182, (2012)

49. 山本晋輔,「医療的ケアを要する重度身体障害者の住生活実態――家族の支援がない独居 ALS 患者の事例を対象として―」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 397-410, (2012)

50. 泉川孝子・入江安子・豊田淑恵,「看護職における DV 被害者との遭遇と支援の実態―関西地区県内の調査から―」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 41-52, (2012)

51. 岡敬之助,「貧困計測の枠組みとしての潜在能力アプローチ――貧困計測手順をめぐる論点の考察」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 75-86, (2012)

52. 金澤真実,「開発途上国の女性障害者の結婚をめぐる一考察」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 101-112, (2012)

53. 下西紀子,「Digital Map を活用した『山海経』五蔵山経の成立に関する考察――「五蔵山経」の地理情報の可視化に基づく検証」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 207-220, (2012)

54. 田中慶子,「社会問題の医療化――過労自殺に対する行政施策を事例として」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 257-266, (2012)

55. 仲尾謙二,「運用方式からみたカーシェアリングの普及要因に係る考察」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 279-290, (2012)

56. 仲口路子,「PEG（胃ろう）問題――認知症高齢者への PEG の適応について」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 291-304, (2012)

57. 萩原浩史,「精神障害者と相談支援――精神障害者地域生活支援センターの事業化の経緯に着目して」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 317-328, (2012)

58. 八木慎一,「小児在宅人工呼吸療法の開始と普及において果たした親の役割について――「人工呼吸器をつけた子の親の会〈バクバクの会〉」の活動の視点から」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8,　pp. 385-396, (2012)

59. 加藤有希子, 「芸術は生存に関われるか――エネルギー論からみるアート」, 『生存学』, 生活書院, 5 号, pp.119-134, (2012)

60. 小西真理子, 「共依存と病理性――アルコホリックの妻を追う」, 『生存学』, 生活書院, 5 号, pp.150-165, (2012)

61. 秋吉大輔, 「寺山修司にみる「吃る」ということ」, 『生存学』, 生活書院, 5 号, pp.182-194, (2012)

62. 荒木重嗣, 「小澤勲の「認知症論」の精査」, 『生存学』, 生活書院, 4 号, pp. 220-229, (2011)

63. 大野光明, 「異邦人の困難な生から連帯可能性の痕跡へ―――カフカ『城』における測量の意味をめぐって」, 『生存学』, 生活書院, 4 号, pp. 133 - 138, (2011)

64. 石田智恵, 「所属をわずらう移民」, 『生存学』, 生活書院, 4 号, pp.125-128, (2011)

65. 櫻井悟史, 「殺人機械の誘惑」, 『生存学』, 生活書院, 4 号, pp. 129-132, (2011)

66. 川口有美子, 「カフカ、『変身』に見られる家族の自立」, 『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.114-117, (2011)

67. 小林勇人, 「境界線上の失踪」, 『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.118-124, (2011)

68. 鳥木圭太, 「プロレタリア文学の中の「ままならぬ身体」――葉山嘉樹「淫売婦」を起点として」, 『生存学』,

生活書院, vol.4, pp.151-167, (2011)
69. 倉本知明, 「戦場におけるセクシャリティと身体――田村泰次郎『蝗』と陳千武『猟女犯』の比較を中心に」, 『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.161-181, (2011)
70. 友田義行, 「テクノロジーと身体――安部公房のバーチャル・リアリティ」, 『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.182-195, (2011)
71. 後藤玲子, 「統合失調症をもつ人の〈家族世界〉」, 『生存学』, 生活書院, 5号, pp.134-150, (2012)
72. 崎山治夫, 「社会と感情が交錯する地点に向けて――〈生存〉との対話を通して」, 『生存学』, 生活書院, 5号, pp.206-216, (2012)
73. アーサー・W・フランク, (有馬斉訳)「生の技法としての「自分を持ちこたえること」, 『生存学』, 生活書院, 5号, pp.16-24, (2012)
74. 上野千鶴子, 「ケアの社会学――当事者主権の福祉社会へ」, 『生存学』, 生活書院, 5号, pp.25-37, (2012)
75. 小林宗之, 「大震災と号外――地震発生第一報の変遷」, 『生存学』, 生活書院, Vol.5, pp. 228-239, (2012)

図書

なし

②論文(査読なし)

雑誌論文

1. 天田城介,「個室での人々の実践を読み解く」『医療福祉建築』2011年10月号社団法人日本医療福祉建築協会発行, pp.1-5, (2011)
2. 天田城介,「団塊世代の中産階級への老後の指南書」『現代思想』, 青土社, 第39巻17号, pp.298-301, (2011)
3. 天田城介,「依存的な親子関係」に混迷する介護問題」『訪問看護と介護』, 医学書院, 第17巻2号(通巻188号), pp.113-118, (2012)
4. 栗原彬×天田城介. 20120320.「3.11 論――人間の復興のために」. 立命館大学生存学研究センター編『生存学 Vol.5』生活書院:38-64.
5. 天田城介,「歴史社会学の方法論」(天田によるコメント), 角崎洋平・松田有紀子編,『歴史から現在へのアプローチ』, 生存学研究センター報告, 17号, 立命館大学生存学研究センター, pp.18-74, (2012)
6. 天田城介,「体制の歴史を描くこと――近代日本社会における乞食のエコノミー」, 角崎洋平・松田有紀子編,『歴史から現在へのアプローチ』, 生存学研究センター報告, 17号, 立命館大学生存学研究センター, pp.408-427, (2012)
7. 天田城介,「家族の余剰と保障の残余への勾留」, 科学研究費助成事業基盤(B)[平成20～23年度]「現代社会における統制と連帯:階層と対人援助に注目して」(代表:景井充)報告書(2012)
8. 天田城介,「書評:「支援」編集委員会編『支援』vol.1」,『福祉社会学研究』, 福祉社会学会発行, 9号, (2012)
9. 天田城介,「書評:上野千鶴子『ケアの社会学――当事者主権の福祉社会へ』」,『家族研究年報』, 家族問題研究学会発行, No.36(2012)
10. 天田城介,「日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の制度と運用の変更について」『保健医療社会学論集』, 日本保健医療社会学会発行, 第23巻1号(2012)
11. 天田城介,「歴史と体制を理解して研究する――社会学会の体制の歴史と現在」,『保健医療社会学論集』, 日本保健医療社会学会発行, 第23巻1号(2012)
12. 中村桂子・遠藤彰・大村敬一・近藤和敬,「討議:生存のエコロジー」,『現代思想』39巻16号, pp.56-77, 青土社 (2011)
13. 小泉義之,「傷の感覚、肉の感覚――その後は、叫ぶ人はもういなくなるだろう。耳に栓をする人もいなくなるだろう。(サルトル)」,『現代思想』, 青土社, 39巻11号, pp. 135-147(2011)
14. 小泉義之,「田辺元のコミュニズム」,『思想』, 岩波書店, 1053号, pp. 184-196(2012)

15. 小泉義之,「経済の起源における債権債務関係の優越的地位――『道徳の系譜』と『通貨論』」,『現代思想』, 青土社, 40 巻 2 号, pp. 210-217, (2011)
16. 小泉義之,「座談会――ドゥルーズ哲学をエピステモロジーとして読む」,『VOL』, 以文社, 5 号, pp. 255-274 (2011)
17. 小泉義之,「書評――長野まゆみ『デカルコマニア』」,『新潮』, 新潮社, 7 月号, pp. 304-305, (2011)
18. 小泉義之,「インタビュー――福祉社会の桎梏――病苦がなくなることを普通に欲望できる社会へ」,『談』, JT, 92 号, pp. 61-84, (2011)
19. 小泉義之,「解説――新装版にあたって」,『方法序説』, 小場瀬卓三訳、角川ソフィア文庫, pp. 167-170, (2011)
20. 後藤玲子,「民主主義の非決定性を逆手に取る――ポジショナル評価に配慮した社会的選択手続きの可能性――」,『立命館言語文化研究』, 立命館国際言語文化研究所, 23 巻４号, pp.1-7, (2012).
21. 後藤玲子,「アマルティア・セン――社会的選択理論に福祉の視点を持ち込んだ――」,『エコノミスト』, 毎日新聞社, pp.56-7, (2011)
22. 後藤玲子,「<統合失調症と教育>への潜在能力アプローチ」,『問い続けるわれら　第二集』, 教育実践検討会 (2012)
23. 後藤玲子,「相談事業の専門性」,『生活経済政策』, 生活経済政策研究所, no.175, p.3, (2011)
24. 後藤玲子,「精神疾患をもつ思春期の子どもの暴発から犯罪への転化を防ぐ〈トリアージ・センター〉の設計――「安全保障(human security)」と「社会保障(social security)のリンケージ――」,『社会安全財団 2011 年度一般研究助成最終報告書』, 社会安全財団, pp.1-27, (2011)
25. 後藤玲子,「モービルケイパビリティの保障と地域公共交通サービス――アクセシビリティ調整方法に関する社会的選択手続きの定式化――」,『地域公共交通と連携した包括的な生活保障のしくみづくりに関する研究報告書』, IATSS（国際交通安全学会）, pp.84-101, (2011)
26. 後藤玲子,「書評　アマルティア・セン著（大門毅監訳）『アイデンティティと暴力――運命は幻想である――』」,『図書新聞』(2011)
27. 後藤玲子,「書評　松井彰彦・川島聡・長瀬修編著『障害学を問い直す』」,『季刊福祉労働』, 現代書館, 133 号, p.12, (2011)
28. 後藤玲子,「倫理的消費――持続可能な社会へのアクションを紐解くヒント」,『CEL』, 大阪ガスエネルギー文化研究所, vol. 98, p.60, (2012)
29. 立岩真也,「人工呼吸器をつけた子の親の会<バクバクの会>の成り立ちと現在（第一部）」,『季刊福祉労働』, 現代書館, 133, pp.8-31, (2011)
30. 立岩真也,「建築と所有（インタビュー）」,『建築と日常』, 長島明夫, 2, pp.42-63, (2011)
31. 立岩真也,「人工的な延命／自然な死？」,『THE LUNG Perspectives』, メディカルレビュー社, 19-4, pp.79-81, (2011)
32. 立岩真也,「税の本義から考えればすこしも難しくない」,『オルタ』, アジア太平洋資料センター, 2011 年 11・12 月号 pp.12-16, (2011)
33. 立岩真也,「書評：中沢新一『日本の大転換』」,『東京新聞』『中日新聞』, 2011-10-9, (2011)
34. 立岩真也,「シンポジウム・震災と停電をどう生き延びたかにおける取材に応えて」,『読売新聞』, 2011-09-19 朝刊, (2011)
35. 立岩真也, " On the Social Model," *Ars Vivendi Journal*, 立命館大学生存学研究センター, 1, pp.32-51, (2011)
36. 立岩真也,「もらったものについて・7」,『そよ風のように街に出よう』, りぼん社, 81, pp.38-44, (2011)
37. 立岩真也,「そろいでもってます」,『そよ風のように街に出よう』, りぼん社, 81
38. 立岩真也,「後方からの情報提供 ――障老病異とともに」,『おそい・はやい・ひくい・たかい』, ジャパンジャパンマシニスト社, 62 号, pp29〜33, (2011)
39. 立岩真也,「まともな逃亡生活を支援することを支持する」,『別冊 Niche』, 批評社, 3, pp.61-70, (2011)
40. 立岩真也,「震災について・続報」,『生存学 E-mail Magazine・韓国語版』, 立命館大学生存学研究センター,

12, (2011)

41. 立岩真也, 「指定発言」, 『障害学研究』, 明石書店, 7 (2011)
42. 立岩真也, 「センター長からのメッセージ」, 『立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点メールマガジン』, 立命館大学学生存学研究センター, 13, (2011)
43. 立岩真也, 「本年その二――唯の生の辺りに・12」, 『月刊福祉』, 全国社会福祉協議会出版部, 2011-4, (2011)
44. 立岩真也, 「社会派の行き先・６――連載 65」, 『現代思想』, 青土社, 39-5(2011-4), pp.24-36, (2011)
45. 立岩真也, 「社会派の行き先・７――連載 66」, 『現代思想』, 青土社, 39-7(2011-5), pp.8-20, (2011)
46. 立岩真也・天田城介, 「生存の技法／生存学の技法――障害と社会、その彼我の現代史・２」, 『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.6-37, (2011)
47. 立岩真也, 「社会派の行き先・８――連載 67」, 『現代思想』, 青土社, 39-8(2011-6), pp.8-19, (2011)
48. 立岩真也, 「社会派の行き先・９――連載 68」, 『現代思想』, 青土社, 39-10(2011-7), pp.18-30, (2011)
49. 立岩真也, 「社会派の行き先・10――連載 69」39-(2011-8) (2011)
50. 立岩真也, 「社会派の行き先・11――連載 70」, 『現代思想』, 青土社, 39-13(2011-9), pp. 34-45, (2011)
51. 立岩真也, 「社会派の行き先・12――連載 71」, 『現代思想』, 青土社, 39-14(2011-10), pp. 16-27, (2011)
52. 立岩真也, 「社会派の行き先・13――連載 72」, 『現代思想』, 青土社, 39-16(2011-11), pp. 14-25, (2011)
53. 立岩真也, 「わからなかったこと、なされていないと思うこと」, 『現代思想』, 青土社, 39-17(2011-12 臨時増刊), pp. 106-119, (2011)
54. 立岩真也, 「社会派の行き先・14――連載 73」, 『現代思想』, 青土社, 39-18(2011-12), pp. 22-33, (2011)
55. 立岩真也, 「どれだけをについてのまとめ・１――連載 74」, 『現代思想』, 青土社, 40-1(2012-1), pp. 22-33, (2012)
56. 立岩真也, 「どれだけをについてのまとめ・2――連載 75」, 『現代思想』, 青土社, 40-2(2012-2), pp. 24-35, (2012)
57. 立岩真也, 「どれだけをについてのまとめ・3――連載 76」, 『現代思想』, 青土社, 40-4(2012-3), pp. 24-35, (2012)
58. 立岩真也, 「はじめに―― 五年と十年の間で」, 『生存学』, 生活書院, 5 号, pp.8-15, (2012)
59. 立岩真也, 「「生存学」創成拠点を振り返って／今後に向けて (4)」, 『「生存学」創成拠点メールマガジン』, 立命館大学生存学研究センター, 24, (2012)
60. 立岩真也, 「人工呼吸器をつけた子の親の会<バイバクの会>の成り立ちと現在 (第二部)」, 『季刊福祉労働』, 現代書館, 134, pp.8-31, (2012)
61. 立岩真也, 「二〇一一年読書アンケート」, 『みすず』, みすず書房, 54-1, pp.68-69, (2011)
62. 立岩真也, 「もらったものについて・８」, 『そよ風のように街に出よう』, りぼん社, 82, pp.36-40, (2012)
63. 立岩真也, 「「いのち」というキーワードで医療のあり方を考えてみる――新たな胎動・69」, 『健康保険』, 健康保険組合連合会, 66-1, pp.42-46, (2012)
64. 西成彦, 「「非国民」としての恥を越えて—大城立裕「ノロエステ鉄道」を読む」, 『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.139-150, (2011).
65. 西成彦, 「シンポジウム《植民地と女性》コメント」, 『植民地文化研究』, 不二出版, 第 10 号, pp.39-42, (2011)
66. 西成彦, 「秋季連続講座「グローバル・ヒストリーズ――国民国家から新たな共同性へ」第 1 シリーズ「トランスアトランティック／トランスパシフィック、第 4 回「カリブは周縁か : はじめに」, 『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 23-2, pp.93-99, (2011)
67. 西成彦, 「(書評) 大崎ふみ子著『アイザック・B・シンガー研究』」, 『アメリカ文学研究』, 日本アメリカ文学会, 第 48 号 (2012)
68. 西成彦, 「(書評) 秋草俊一郎著『ナボコフ　訳すのは「私」／自己翻訳がひらくテクスト』, 『比較文学』, 日本比較文学界, pp.155-158, (2012)
69. 大谷いづみ, 「コミュニケーションの現在と未来――難病者・障害者へのコミュニケーション支援を手掛かりに」, 『2011 年度「企画研究 SC」報告書』(2011)

70. 佐藤浩子,「『ふくしま』で見棄てられた人たち――スロープがついていても使えない仮設住宅」,『マスコミ市民』, NPO法人マスコミ市民フォーラム,512号,pp. 38～42, (2011)
71. 松田亮三, 「「終末期医療」の「配給」をめぐる議論に向けて――日英の比較から」, 『生存学』, 生活書院, 5号, pp.195-205, (2012)
72. 松田亮三,「公衆衛生政策における現在知の集積・総合・共有―英国からの示唆」,『海外社会保障研究』, 国立社会保障・人口問題研究所,75巻9号,pp.695～699, (2011)
73. 松田亮三,「熟議的・反省的医療政策に向けて」,『NIRA研究報告書』,総合研究開発機構,pp.77-92
74. 松田亮三,「普遍主義的医療制度における公私混合供給の展開」,『海外社会保障研究』, 国立社会保障・人口問題研究所,178号,pp.4～20, (2011)
75. 松原洋子,「シンポジウム開催趣旨」,(特集2010年度シンポジウム報告：合成生物学・倫理・社会)『生物学史研究』, 生物学史学会, 86号, pp.43-44, (2012)
76. 林真理・加藤和人・小林傳司・齊藤博英・米本昌平・松原洋子(司会),「パネルディスカッション」『生物学史研究』, 生物学史学会, 86号, pp.63-85, (2012)
77. 松原洋子, 「パウダリーインタビュー解題」,『生存学』, 生活書院, 5号, pp.84-87, (2012)
78. 渡辺公三,「占領下に生きる――モースの一九四二年のふたつのテクスト」,『月刊百科』, 平凡社, 583号, (2011)
79. 渡辺公三, 書評『プリミティヴ　アート』ボアズ著・大村敬一訳・言叢社, 図書新聞, 3028号、(2011)
80. 渡辺公三, 書評『レヴィ=ストロース　夜と音楽』今福龍太著・みすず書房, 日本経済新聞, (2011)
81. 渡辺公三, 書評『プリミティヴ　アート』ボアズ著・大村敬一訳・言叢社, 東京新聞, (2011)
82. 渡辺公三,「現代アメリカの「博物誌」はいかにつくられたか」(ワイズマン監督へのインタヴュー),『世界』, 岩波書店 (2012)
83. Paul G. Dumouchel, “De la Méconnaissance”, *Lebenswelt,* 1, pp.93-106, (2011)
84. Paul G. Dumouchel, “Reinventing Homo Economicus?” Review essay on: Maurice Lagueux, *Rationality and Explanation in Economics* in *Oeconomia*, http://weboeconomia.org/consulter_bro.html, (2011)
85. Paul G. Dumouchel, “Economia dell’invida crisi e scarsità”, *Communitas*, 55, pp.60 -67, (2011)
86. Paul G. Dumouchel, “La genèse de l’origine ou l’origine de la genése”, Prefazione, E. Antonelli, *La Creatività degli eventi René Girard e Jacques Derrida*, Torino: L’Harmattan *Italia*, pp. 11-14, (2011)
87. Paul G. Dumouchel, “Le temps de l’aliénation”, *i.e.a. paris 2011 yearbook*, p. 18.
88. ポール・デュムシェル, 「平等と承認(金城美幸訳)」, 『生存学』, 生活書院, 5号, pp.217-227, (2012)
89. 川端美季, 「2011年夏、ベルリンで――IALMH報告・ドレスデン衛生博物館・ベルリンPublic Bath探訪」, 生活書院, 5号, pp.267-269, (2012)
90. 中嶌清美,「過労死問題と過労死家族会設立の経緯」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp. 233-244, (2012)
91. 永田美江子,「ホスピタリティと人的資源に関する考察」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp. 233-244, (2012)
92. 山口真紀,「書評　出来事を思う「位置」と「距離」―宮地尚子『環状島＝トラウマの地政学』―みすず書房、2007年、228p.」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8, pp. 233-244, (2012)
93. 荒木重嗣,「認知症ケア論再考」,『新潟青陵大学短期大学部研究報告』,新潟青陵大学短期大学,第41号,pp.85-94, (2011)
94. 飯田奈美子,「在住外国人および医療観光目的の訪日外国人に対する医療通訳の現状と課題」,『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究科, 23号, pp. 47-58, (2011)
95. 飯田奈美子,「「メディカルツーリズムと医療通訳を考えるみんなのシンポジウム」に参加して」,『生存学』, 生活書院, 4号, pp. 230-232, (2011)
96. 石田智恵,「日本人の不在証明と不在の日系人」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ』(生存学研究センター報告17), 立命館大学生存学研究センター, pp.208-241, (2011)
97. イム・ドクヨン,【翻訳】沢木勇「マスコミ報道から見える被爆労働の問題」,『情勢と労働』, 労働社会科学研

究所, 69号, pp100-102, (2011)
98. イム・ドクヨン,「安い賃金で被爆労動を強いられている日本労動者たち」,『情勢と労働』, 労働社会科学研究所, 70号, pp.72-86, (2011)
99. イム・ドクヨン,【翻訳】ラウル・カストロ「社会主義と祖国の独立を維持・発展させる-キューバ共産党第六回大会にたいする報告」,『情勢と労働』, 労働社会科学研究所, 71号, pp.101-113, (2011)
100. イム・ドクヨン,【翻訳】ラウル・カストロ「社会主義と祖国の独立を維持・発展させる-キューバ共産党第六回大会にたいする報告」,『情勢と労働』, 労働社会科学研究所、72号, pp.81-87, (2011)
101. イム・ドクヨン,【翻訳】ラウル・カストロ「社会主義と祖国の独立を維持・発展させる-キューバ共産党第六回大会にたいする報告」,『情勢と労働』, 労働社会科学研究所, 73号, pp. 99-107, (2011)
102. イム・ドクヨン,「日本での空き缶回収を禁止した条例をめぐった騒動」,『ホームレスニュース:創刊準備号』, ホームレス行動, 15号 (2011)
103. イム・ドクヨン,「原発は貧乏な人によって運営される」,『ホームレスニュース:創刊準備号』, ホームレス行動, 17号 (2011)
104. イム・ドクヨン,「釜ヵ埼での夏お祭り」,『ホームレスニュース:創刊準備号』, ホームレス行動, 18号 (2011)
105. イム・ドクヨン,「野宿現場とセクシュアルハラスメント問題」『ホームレスニュース:創刊準備号』, ホームレス行動, 19号 (2011)
106. イム・ドクヨン,「日本の野宿者に対する強制撤去——自然再生を名目として人間が退去される」,『ホームレスニュース:創刊準備号』, ホームレス行動, 20号 (2011)
107. イム・ドクヨン,「釜ヶ埼での越冬闘争」,『ホームレスニュース』, ホームレス行動、1号 (2012)
108. イム・ドクヨン,「3・11東日本大震災以降1年」,『ホームレスニュース』, ホームレス行動, 2号, (2012)
109. Kaname Uemura, “The Meaning of Self-presenting as a 'Cyborg'” “Ars Vivendi Journal” Research Center for Ars Vivendi, Vol.1, pp. 2-17, (2011)
110. 植村要,「視覚に依存する被服の機能」,『人権教育研究センター報告』, 花園大学人権教育研究センター, 19号(通巻38号), pp. 30-31, (2011)
111. 植村要,「大学が担う障害を有する学生の文字情報へのアクセシビリティの確保について-——2010年の改正著作権法施行以降の「テキストデータ」の扱いを中心に」,『人権教育研究』花園大学人権教育研究センター, 20号, pp. 121-138, (2012)
112. 大野光明,「難民化する人々への/からの音」,『インパクション』, インパクト出版会, 183号, pp. 195-196, (2012)
113. 大野光明, “Transversal Peace Movements in 1960s-70s in Japan——JATEC's Assistance to Deserters and the U.S. Army Destruction Movement”, Asia-Pacific Peace Research Association (APPRA), New Agenda for Peace Research in the Asia-Pacific, pp. 90-91, (2011)
114. Yuri Goto, Katsunori Watanabe and Kazuhisa Nishihara, "Theoretical Possibility of Social Movement: On the Thoughts of Koichi Yokozuka and 'Aoi Shiba noKai'," Colloquium: The New Horizon of Contemporary Sociological Theory, 6, pp.171-185, (2011)
115. 各務勝博,「プレイバックシアターの活用——日本の企業内研修におけるその位置」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, Vol.8, pp. 461-472, (2012)
116. 角崎洋平,「二つの貧困対策——戦後創設期社会福祉制度運用における羈束と裁量、または給付と貸付」,『歴史から現在への学際的アプローチ(生存学センター報告17号)』, 角崎洋平・松田有紀子編, 立命館大学生存学研究センター, pp,175-207, (2012)
117. 角崎洋平,「現在としての歴史——まえがきにかえて」,『歴史から現在への学際的アプローチ(生存学センター報告17号)』, 角崎洋平・松田有紀子編, 立命館大学生存学研究センター, pp.5-14, (2012)
118. 金澤真実,「バングラデシュの女性障害者」,『ノーマライゼーション——障害者の福祉』, 日本障害者リハビリテーション協会, 第32巻第2号(通巻367号), pp. 30-33, (2012)
119. クァク・ジョンナン、ソ・ヨンラン、イ・ジョンオク,「ろう児童をもつろう両親の養育経験に対する質的研

究」,『特殊教育ジャーナル：理論と実践』, 韓国特殊教育問題研究所, 12(1), pp.329-349, (2011)
120. キム・ビュンハ、パク・ギョンラン、クァク・ジョンナン,「韓国における聴覚障害教育研究の学史的考察(2)」,『特殊教育ジャーナル：理論と実践』韓国特殊教育問題研究所, 12(2), pp.157-176, (2011)
121. 郭貞蘭,「日本における障害者介助制度および現場——おどおどしながらする介助」,『隠している・息している自立探し』, 障害女性共感——障害女性自立生活センタースム(息), No.6, pp.20-23, (2011)
122. 小西真理子 (翻訳),「文化的、イデオロギー的な遭遇と衝突の条件についての現象学的考察」, ローズマリー・ラーナー著,『多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究——研究成果報告書 (2008年度—2011年度)』, 立命館大学間文化現象学センター, pp.302-335, (2011)
123. 小林宗之,「カンニングを偽計業務妨害で逮捕騒ぎの愚挙——京大当局は被害届けを取り下げよ」,『創』, 創出版、41巻5号 (通号 455), pp. 118-125, (2011)
124. 近藤宏,「変貌する集合的主体——パナマ東部先住民エンベラの現代史に関する一考察」,『歴史から現在へのアプローチ (生存学研究センター報告17)』, 生存学研究センター編, pp.333-371, (2012)
125. 近藤宏,「レヴィ＝ストロースの現在地——フレデリック・ケック講義「レヴィ＝ストロース以後の人類学」報告」,『生存学』, 生活書院, 4号, pp.240-242, (2011)
126. 権藤眞由美,「ヴェトナム北部の精神障害者における治療選択としての「民間療法」に関する一考察」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8号, pp.483-491, (2012)
127. 櫻井悟史,「死刑執行方法の変遷と物理的／感情的距離の関係」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ (生存学研究センター報告17)』, 生活書院, pp. 130-149, (2012)
128. 坂本徳仁・櫻井悟史・鹿島萌子,「音声認識エンジンを用いた情報保障の現状と課題」, 坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論——コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題 (生存学研究センター報告16)』, 生活書院, pp. 144-156, (2011)
129. 櫻井悟史,「松永寛明 書評 『死刑執行人の日本史——歴史社会学からの接近』櫻井悟史著[含 著者より]」,『犯罪社会学研究』, 現代人文社, 36巻, pp. 123-125, (2011)
130. 渋谷光美,「問い直されたホームヘルプ労働のあり方 (1970年代～1990年代) ——東京都のホームヘルパーの取組みを中心に」,『羽衣国際大学人間生活学部紀要』, 羽衣国際大学人間生活学部紀要編集委員会, 7号, pp.31-.41, (2012)
131. 天畠大輔,「地域で活躍する当事者団体」,『情報誌 障害をもつ人々の現在』, 全国障害学生支援センター機関誌, 70号, 2011年7月
132. 西嶋一泰,「限界芸術・大衆芸術・民族芸術——福田定良がわらび座にみたもの」,『日本思想史研究』, 日本思想史研究会, 28号 (2011)
133. 西嶋一泰,「プロレタリア音楽同盟における移動音楽隊の実践」,『歴史から現在への学際的アプローチ (生存学研究センター報告17)』, 生活書院, pp.284-306, (2012)
134. 俵木悟・西嶋一泰編,「民俗芸能研究文献目録 平成20年」,『民俗芸能研究』, 民俗芸能学会編集委員会, 51号, pp.1-42, (2011)
135. 松田有紀子,「芸妓という労働の再定位——労働者の権利を守る諸法をめぐって」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ (生存学研究センター報告14号)』, 生活書院, pp. 307-332, (2012)
136. 三野宏治,「福祉の概念・言葉の解釈について③—自立の支援 2」『対人援助学マガジン』対人援助学会, 8号, pp.168-78, (2012)
137. 三野宏治,「福祉の概念・言葉の解釈について②—自立の支援 1」,『対人援助学マガジン』, 対人援助学会, 7号, pp.161-71, (2011)
138. 三野宏治,「福祉の概念・言葉の解釈について①—居場所」,『対人援助学マガジン』, 対人援助学会, 6号, pp.156-66, (2011)
139. 本岡大和, "Democracy from within an Immigration Detention Center : A Hunger Strike by "Illegal" Migrants in Japan",『立命館言語文化研究』, 立命館大学, 23巻4号 (2012)
140. 梁陽日,「生きて在ることが尊く、『何とかなる社会』の構築をめざし—格差と排除に抗い、人間性(ルネッサ)

復興(ンス)の灯りをともそう」,『編集サービス』, 機関紙編集者クラブ, 2012 年新春特集号 729 号, p9, (2012)
141. 梁陽日,「私の主張」,『発達障害青年の実態調査・研究報告フォーラム報告書』社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会／大阪市発達障害者支援センター, pp.58-59, (2012)
142. 由井秀樹,「〈資料〉精子・卵子提供について」, 才村眞理編著『精子・卵子の提供により生まれた人(子ども)のためのライフストーリーブック』, 平成 23 年度科学研究費助成事業(基盤研究 C)「子どもの知る権利擁護におけるライフストーリーワークのありかた」, pp.19-22, (2011)
143. 吉田幸恵,「日本と韓国のあいだ――イクサン・ソロクト訪問と第 2 回障害学国際研究セミナー開催報告」, 生活書院, 5 号, pp.245-248, (2012)
144. 坂本徳仁,「はじめに」, 坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 5-9, (2011)
145. 坂本徳仁,「聴覚障害者の進学と就労――現状と課題」, 坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 14-30, (2011)
146. 坂本徳仁,「言語の費用負担と言語的正義の問題」, 坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 103-117, (2011)
147. 坂本徳仁,「補論 音声認識を用いた情報保障システム運用の課題」, 坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 157-159, (2011)
148. 坂本徳仁・佐藤浩子・渡邉あい子,「手話通訳事業の現状と課題――3 つの自治体調査から」坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 160-170, (2011)
149. 坂本徳仁,「補論 手話通訳制度の改善に向けて」坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 171-178, (2011)
150. 坂本徳仁,「障害者差別禁止法の経済効果」坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 179-188, (2011)
151. 坂本徳仁,「あとがき」坂本徳仁・櫻井悟史 編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 250-254, (2011)
152. 中倉智徳,「(喜びとしての)社会を創りだすこと――ガブリエル・タルド『模倣の法則』」,『現代思想』, 青土社, 39(9), pp.186-189, (2011)
153. 中倉智徳,「現実を創り出していくために――M・ラッツァラート氏を招いて」, 生活書院, 5 号, pp.272-274, (2012)
154. 村上潔, 「【自著紹介】立岩真也・村上潔『家族性分業論前哨』生活書院、2011 年」,『社会文化通信』, 社会文化学会, 42, p.18, (2012)
155. 番匠健一,「「国内植民地」をめぐる調査報告――アイルランド」,『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.242-244, (2011)
156. 渡辺克典,「書評：樫村愛子著『臨床社会学ならこう考える』」,『東海社会学会年報』, 東海社会学会, 第 3 号, pp.77-79, (2011)
157. 渡辺克典, 「障害者をめぐる日韓組織間連携への取り組み」, 生活書院, 5 号, pp.251-253, (2012)
158. 伊藤佳世子,「色々な考え方の国際シンポジウムを目の当たりにして」,『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.232-233, (2011)
159. 岡田和男,「スリランカでの選挙監視活動」,『生存学』, 生活書院, vol.4, pp.234-236, (2011)
160. 北林かや,「手話通訳者養成における『ろう者のやり方』の提示と学習者の認識」, 坂本徳仁・櫻井悟史編『聴

覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 31-55, (2011)
161. 古川優貴,「“まざる”ことば、“うごく”からだ――ケニア初等聾学校の子供と周囲の人々の日常のやりとりを事例に」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 56-102, (2011)
162. 藤井麻由,「アメリカにおける障がい者政策――実証分析のサーベイ」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 118-142, (2011)
163. 三宅初穂,「文字情報支援とインクルーシブな社会――要約筆記と字幕の活動を通して」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 191-197, (2011)
164. 高岡正,「難聴者、中途失聴者への支援」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 198-206, (2011)
165. 近藤幸一,「手話通訳制度に関する全通研からの提言――自治体委員会からの提言を踏まえて」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 207-216, (2011)
166. 松本正志,「障害者権利条約下におけるコミュニケーション支援の課題」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 217-222, (2011)
167. 近藤幸一・高岡正・立岩真也・松本正志・三宅初穂,「パネルディスカッション　障害者権利条約下におけるコミュニケーション支援の課題」坂本徳仁・櫻井悟史編『聴覚障害者情報保障論――コミュニケーションを巡る技術・制度・思想の課題』(生存学研究センター報告 16), 立命館大学生存学研究センター, pp. 223-249, (2011)
168. 福間良明,「歴史社会学の方法論」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ』(生存学研究センター報告 17), 立命館大学生存学研究センター, pp. 18-76, (2012)
169. 石原俊,「インターディシプリンな歴史叙述」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ』(生存学研究センター報告 17), 立命館大学生存学研究センター, pp. 77-127, (2012)
170. 中田喜一,「日本のセルフヘルプグループ言説の歴史社会学――1970 年から現在まで」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ』(生存学研究センター報告 17), 立命館大学生存学研究センター, pp. 263-283, (2012)
171. 大谷通高,「犯罪被害者の法的救済についての歴史的考察――明治期の新派刑法学の思想的特徴から」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ』(生存学研究センター報告 17), 立命館大学生存学研究センター, pp. 150-175, (2012)
172. 冨田敬大,「体制転換期モンゴルの家畜生産をめぐる変化と持続――都市周辺地域における牧畜定着化と農牧業政策の関係を中心に」, 角崎洋平・松田有紀子編『歴史から現在への学際的アプローチ』(生存学研究センター報告 17), 立命館大学生存学研究センター, pp. 372-407, (2012)
173. ジェイムズ・パウダリー,「アイライター――これで、麻痺した人も、あなたの街で落書きできる(聞き手：松原洋子・加藤有希子　訳：加藤有希子)」,『生存学』, 生活書院, 5 号, pp. 76-83, (2012)
174. 堀智久,「日韓障害学国際研究プログラムを振り返って」,『生存学』, 生活書院, 5 号, pp. 241-243, (2012)
175. 長谷川唯,「スイッチ研の韓国訪問」,『生存学』, 生活書院, 5 号, pp. 243-245, (2012)
176. 片岡稔,「プロジェクト・マネジメント」, 生活書院, 5 号, pp. 253-257, (2012)
177. 有馬斉,「アーサー・W・フランク先生と京都でご一緒して学んだこと幾つか」, 生活書院, 5 号, pp. 257-261, (2012)
178. 大野真由子,「躍動する韓国――CRPS(複合性所疼痛症候群)訴訟に情熱を注ぐ弁護士へのインタビュー」, 生活書院, 5 号, pp. 248-251, (2012)

179. 大野真由子，「″ナラティブ″をテーマとしてしたシンポジウムについての語り――国際シンポジウム「病の経験と語り：分析手法としてのナラティブアプローチの可能性」の参加記録」，生活書院，5号，pp. 261-264，(2012)
180. 篠木涼，「心理学史再読、映画による心理テスト、可視化――ボストン公共図書館とヒューゴー・ミュンスターバーグ・コレクション調査報告」，生活書院，5号，pp. 264-267，(2012)
181. 箱田徹，「ビッグ・ソサエティへの異議申立とフーコーの応用的な読解――ケンブリッジでのカンファレンス報告」，生活書院，5号，pp. 270-272，(2012)
183. 新山智基，「ガーナ共和国の社会調査および医療関連調査報告」，生活書院，5号，pp. 274-275，(2012)
184. 磯邉厚子，「緑に映える白い点模様――今とこれから」，生活書院，5号，pp. 275-278，(2012)
165. 栗原彬，「３・11 論――人間の復興のために（聞き手：天田城介）」，『生存学』，生活書院，5号，pp. 38-64，(2012)
186. 林達雄，「アフリカから日本へ――対等感の生まれる機会に（聞き手：新山智基）」，『生存学』，生活書院，5号，pp. 65-75，(2012)
187. 近藤宏，「グローバリズムに直面するパナマ東部の先住民エンベラ」，『生存学』，生活書院，4号，pp. 236-239，(2011)

図書

1. 天田城介，『老い衰えゆくことの発見』，角川学芸出版，254p，(2011)
2. 天田城介，「自律」「PTSD」，大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編集委員『現代社会学事典』，弘文堂，(2011)
3. 天田城介，「差異の繋争点――本書の狙い」，天田城介・村上潔・山本崇記編，『差異の繋争点――現代の差別を読み解く』，ハーベスト社，pp. 1-14，(2012)
4. 天田城介，「精神医学のエコノミー――統治システムの不断の編成」，天田城介・村上潔・山本崇記編，『差異の繋争点――現代の差別を読み解く』，ハーベスト社，pp. 267-294，(2012)
5. 天田城介・村上潔，「あとがき」，天田城介・村上潔・山本崇記編，『差異の繋争点――現代の差別を読み解く』，ハーベスト社，pp. 295-296，(2012)
6. 遠藤彰，「狩蜂の「本能」：ファーブル『昆虫記』の言葉を考える」，横山俊夫編『ことばの力：あらたな文明を求めて』京都・京都大学学術出版会 (2011)
7. 小泉義之，「出来事の時――資本主義＋電力＋善意のナショナリズムに対して」，河出書房新社編集部編，『思想としての３・11』，河出書房新社，pp. 121-130，(2011)
8. 小泉義之，「身体――結核の歴史から」，香川知晶・樫則章編，『生命倫理の基本概念』，丸善出版 (2011)
9. 小泉義之，（市田良彦他との共著）『脱原発「異論」』，作品社，211p，(2011)
10. 小泉義之，「国家の眼としての貧困調査」，天田城介・村上潔，・山本崇記編，『差異の繋争点』，ハーベスト社，pp. 241-265，(2012)
11. 後藤玲子（監訳），『正義への挑戦――セン経済学の新地平』，.310p，晃洋書房，(2011)
12. 後藤玲子，（阿部彩・斎藤拓・小林勇人との共著）「アメリカ合衆国」，宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編『世界の社会福祉年鑑 2011 年度版』，旬報社，pp. 187-224，(2011)
13. 後藤玲子，「人間の発展とケイパビリティ学会――＜多様性＞の観点にもとづく人権思想の彫塑――」，宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編『世界の社会福祉年鑑 2011 年度版』，旬報社，pp. 337-342，(2011)
14. 後藤玲子，「福祉の思想と哲学」，社会福祉士養成講座編集委員会著『新・社会福祉士養成講座４ 現代社会と福祉　第３版』，中央法規 (2011)
15. 後藤玲子，「所得政策と福祉政策」，社会福祉士養成講座編集委員会著『新・社会福祉士養成講座４ 現代社会と福祉　第３版』，中央法規 (2011)
16. 後藤玲子，（大曽根寛氏と共著）「雇用と福祉政策」，社会福祉士養成講座編集委員会著『新・社会福祉士養成講座４現代社会と福祉　第３版』，中央法規 (2011)
17. 立岩真也，「障害論」，戸田山和久・出口康夫編『応用哲学を学ぶ人のために』，世界思想社，pp. 220-231，(2011)
18. 立岩真也，「考えなくてもいくらでもすることはあるしたまには考えた方がよいこともある」，河出書房新社編

集部編『思想としての 3.11』, 河出書房新社, pp.106-120, (2011)

立岩真也,「補足——もっとできたらよいなと思いつつこちらでしてきたこと」, 新山智基著『世界を動かしたアフリカのＨＩＶ陽性者運動』, 生活書院 (2011)

19. 立岩真也, (村上潔との共著)『家族性分業論前哨』, 生活書院, 356p, (2011)
20. 西成彦,「海外の日本文学：日本語文学の越境的な読みに向けて」, 日本比較文学会編『越境する言の葉：日本比較文学会創立 60 周年記念論集』, 彩流社, pp.141-148, (2011)
21. 西成彦,『ターミナルライフ／終末期の風景』, 作品社, 348p, (2011)
22. 西成彦 (訳), イェジー・コシンスキ『ペインティッド・バード』, 松籟社, 275p, (2011)
23. 西成彦,「解題」, イェジー・コシンスキ『ペインティッド・バード』, 松籟社, pp.298-305, (2011)
24. 西成彦,「第二章・解説」, 佐藤=ロスベアグ・ナナ編『トランスレーション・スタディーズ』, みすず書房, pp. 96-97, (2011)
25. 西成彦 (訳), (岡田清鷹と共訳) クリーマン・阮・フェイ「翻訳とアジア・コスモポリタニズムの文化的消費——中国語圏における村上春樹」,『トランスレーション・スタディーズ』, みすず書房, pp.135-154, (2011)
26. 西成彦 (訳),「夜明け」ほか７篇, 関口時正・沼野充義編『チェスワフ・ミウォシュ詩集』, 成文社, 、pp.121-142, (2011)
27. サトウタツヤ・渡邊芳之,『あなたはなぜ変われないのか: 性格は「モード」で変わる 心理学のかしこい使い方』, 筑摩書房, 315p. (2011)
28. サトウタツヤ・渡邊芳之,『心理学・入門——心理学はこんなに面白い』, 有斐閣、268p., (2011)
29. サトウヤツヤ,『学融とモード論の心理学——人文社会科学における学問融合をめざして』, 新曜社, 306p.+viii, (2012)
30. 松原洋子,「妊娠と出産をめぐる医療の危機と社会」, 吉岡斉ほか編『新通史　日本の科学技術—世紀転換期の社会史１９９５年－２０１１年〈第３巻〉』, 原書房, pp.442-453, (2011)
31. 渡辺公三, 分担 (第一部、第一章、第二章、第二部、第一章)『マルセル・モースの世界』, モース研究会編, 平凡社新書 (2011)
32. 渡辺公三,「ラウンド・テーブル　"経済"を審問する—MAUSS とともに」,『"経済"を審問する—人間社会は"経済的"なのか?』西谷修, アラン・カイエ, 金子勝編, せりか書房 (2011)
33. Paul G. Dumouchel, "Schaarste en de financiële crisis", *Rond de Crisis Reflecties vanuit de Girard Studiekring* (M. Elias & A. Lascaris, eds.), Almere : Parthenon , pp. 75-85, (2011)
34. Paul G. Dumouchel, "Messianisme et mécanique" *Figures du Messie* (B. Chantre, ed.), Pais : Le Pommier, pp. 62-72, (2011)
35. Paul G. Dumouchel, "Emotions and Mimesis", *Mimesis and Science Empirical Research on Imitation and the Mimetic Theory of Culture and Religion* (S. Garrels, ed.), East Lansing: Michigan State University Press, pp. 75-86, (2011)
36. 藤健一・望月昭・武藤崇・青山謙二郎 (編),『行動分析学アンソロジー2010』, 星和書店, 320p. (2011)
37. 濱本真男,『「労動」の哲学——人を労働させる権力について』, 河出書房新社, 188p. (2011)
38. 西沢いづみ,「西陣地域における賃織労働者の住民運動-労働環境と医療保障をめぐって」天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋争点』, ハーベスト社, 2012 年 3 月, pp 41-61.
39. 梁陽日,「追憶—『異なり』支援の学校から」『差異の繋争点—現代の差別を読み解く 』天田城介・村上 潔・山本崇記編　ハーベスト社、2012 年 3 月、pp165-169
40. 吉田幸恵,「忘れられたくない／忘れたい、そのはざまで考える——「解体」する共同体のゆくえ」, 天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋争点——現代の差別を読み解く』, ハーベスト社, pp. 85-92, (2012)
41. 太田啓子,「職業訓練における指導員のジレンマ」, 横須賀俊司・松山克尚編『障害者ソーシャルワークへのアプローチ』, 明石書店, pp.221-238, (2011)
42. 村上潔, 「戦後日本の性別役割分業と女性／労働をめぐるブックガイド 90」, 立岩真也・村上潔『家族性分業論前哨』, 生活書院, pp.299-340, (2011)

43. 村上潔,「主婦の労働実践としてのワーカーズ・コレクティブの岐路――「依存」と「包摂」のあいだで」, 天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋争点――現代の差別を読み解く』, ハーベスト社, pp. 140-164, (2012)
44. 村上潔,『主婦と労働のもつれ――その争点と運動』, 洛北出版, 331p., (2012)
45. 新山智基,『世界を動かしたアフリカのＨＩＶ陽性者運動――生存の視座から』, 生活書院, 216p., (2011)
46. 加藤有希子,『新印象派のプラグマティズム――労働・衛生・医療』, 三元社, 258p., (2012)
47. 韓星民,『情報福祉論の新展開――視覚障害者用のアシスティブ・テクノロジーの理論と応用』, 明石書店, p.233, (2012)
48. 大野光明,「『沖縄問題』の入り口で――ベ平連運動の嘉手納基地前抗議行動と渡航制限撤廃闘争を事例に」,『差異の繋争点――現代の差別を読み解く』, 天田城介他編, ハーベスト社, pp. 175 - 196, (2012)
49. 金城美幸,「国家の起源にどう向き合うか――『新しい歴史家』とパレスチナ難民問題」, 臼杵陽監修、赤尾光春・早尾貴紀編『シオニズムの解剖――現代ユダヤ世界におけるディアスポラとイスラエルの相克』, 人文書院, pp. 144-164, (2011)

２）学会発表

①海外での発表

1. Yoshitaro Hotta, Hasegawa Yui, and Yamamoto Shinsuke,「Toward the bright future of communications by people with severe disabilities」, International Conference (non-refereed International Workshop): Art and Assistive Technology, Korea・Hongik University, 2011年7月2日
2. Tatsuya Sato, 「Culture, Sign and TEM.」, ブラジル・サンパウロ大学, 2012年3月2日
3. Tatsuya Sato, 「Tendencias historicas e contemporaneas no campo da Psicologia Juridica no Japao」, Os Programas de Pos-Graduacao em Saude Coletiva e em Psicologia da UFBA, Brazil・Universidade Federal da Bahia, 2012年3月1日
4. Saki Yamada and Sato Tatsuya,「The Visualization of the Statement Analysis in a single defendant case and a multiple defendants case」, The 5th Japan Korea Student Symposium, Seoul・Ewha Womans University, 2011年9月26日
5. Paul G. Dumouchel,「Naturalizing Ethics」, *International Conference Surviving our Origins*, St-John College, Cambridge University, UK, 2011年5月
6. Paul G. Dumouchel,「Revenge or Justice?" in the Annual Conference of the Colloquium on Violence & Religion *Order and Disorder in History and Politics*」, University of Messina (Salina), Italy, 2011年6月
7. Paul G. Dumouchel,「Aux sources du juste」, *2e Rencontres philosophiques d' Uriage*, Uriage, France, 2011年8月
8. Paul G. Dumouchel and Mary Baker,「Intercultural Relations and Translator Liability」, *First Tsinghua Asian-Pacific Forum on Translation & Intercultural Studies*, Zhejiang University of Finance & Economics, Hangzhou, China, 2011年11月
9. Chihoko Aoki, Uemura Kaname and Yamaguchi Sho,「Efforts made in Japan to claim the right of the visually disabled people to read」(ポスター報告), The 28th Annual Pacific Rim Conference on Disability and Diversity, Hawai Convention Center, 2012年3月26日
10. Mayuko Ono, 「The Components of Suffering and Reconciliation with Suffering for Patients with CRPS: The Analysis of their Narratives by M-GTA」, The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, 2011年7月7日
11. Jun Matsushima and Sato Tatsuya,「A history of clinical psychology in Japan: continuity and discontinuity in clinical psychology between pre and post World War Ⅱ」, The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, 2011年7月7日
12. Tatsuya Sato, 「The Real Futures of sign and promoter sign; What Trajectory Equifinality Model (TEM)

implies for cultural psychology In Symposium New ways with(in) cultural psychology (Gulerce, Aydan orginizer)」, The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, 2011年7月7日

13. Tatsuya Sato, 「Three modes of viewing the culture in the Psyche:How can we conceive the culture in psychology for an integrative theory?」, The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, 2011年7月7日
14. Akinobu Nameda, Kosuke Wakabayashi, Tomomi Hatano, Shinya Saito, Mitsuyuki Inaba and Tatsuya Sato, 「2011 Towards Social Application and Sustainability of Digital Archives: The Case Study of 3D Visualization of Large-scale Documents of the Great Hanshin-Awaji Earthquake」, The 3rd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities Conference Taipei, Taiwan. 2011年12月1日
15. Mitsuaki Ono, 「Transversal Peace Movements in 1960s-70s in Japan――JATEC's Assistance to Deserters and the U.S. Army Destruction Movement」, Asia-Pacific Peace Research Association (APPRA) 2011, Ritsumeikan University, 2011年8月16日
16. Miki Kawabata, 「The Legal Exclusion of Mental Patients from Public bath in Modern Japan」, 32nd International Academy of Law and Mental Health, Humboldt University, 2011年7月18日
17. Hitomi Tanimura, 「The Gender Role Consciousness of Parents which Made Daughters Aim at "Normal Marriage" -From Interviews with Women Who Married in the 1980s-」, The 12th European Congress of Psychology Istanbul, 2011年7月7日
18. Kainei Mori, 「Overseas Chinese Protestant Churches and the Expansion of Evangelicalism: The Case of the Change of Overseas Chinese Protestant Churches in the Mission Field Japan」, The International Society for the Study of Chinese Overseas (ISSCO), 2011 Conference Announcements "Chinese Overseas: Culture, Religions and Worldview", The Chinese University of Hong Kong, 2011年6月21日
19. Miki Nishida, 「The QoL of patients with intractable neurological diseases using the SEIQoL-DW」, The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, 2011年7月7日

②国内での発表

1. 後藤玲子, (with Naoki Yoshihara) "Securing Basic Well-being for All", 日本経済学会秋季大会, 茨城・筑波大学, 2011年10月30日
2. 西成彦,「植民地統治下の多言語状況と小説の一言語使用—呂赫若の「隣居」をめぐって—」, 日本比較文学会関西大会, 大阪・大阪大学, 2011年11月26日
3. 青木千帆子・権藤眞由美,「『福祉避難所』成立の経緯」, 障害学会第8回大会,愛知県・愛知大学,2011年10月1日
4. 有松玲,「東日本大震災と障害者政策――不公平の公平性」, 障害学会第8回大会,愛知県・愛知大学, 2011年10月1日
5. サトウタツヤ,「"情報的正義"と心理学――刑事司法過程における公正な判断」, 法と心理学会,第12回大会ワークショップ, 名古屋・名古屋大学東山キャンパス, 2011年10月2日
6. サトウタツヤ,「THE NARRATIVE PATHWAY TO AUTHENTIC CULTURE OF LIVING WELL」, The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs 2012, Tokyo・The University of Tokyo,2012年2月5日
7. サトウヤツヤ・呉宣児・高橋登・竹尾和子,「お金をめぐる規範の構造(北京)(3)ー親の教育観と人間関係ー」, 日本発達心理学会,第23回大会発表,愛知県・名古屋国際会議場, 2012年3月10日
8. ポール・デュムシェル, 「Emotions and the Extended mind」, *International Society for Research on Emotions 2011 AnnualMeeting*, Kyoto, Japan, 2011年6月
9. 立岩真也,「悲惨から新しい社会をと、言わない」, フォーラム「マイノリティ/他者の人文学――3.11以降に問い直す」,兵庫県・神戸大学, 2011年7月29日
10. 中鹿直樹・望月昭・朝野浩・サトウタツヤ・吉岡昌子・寺崎幸子・木戸彩恵・堀田正基・井上学,「障がいのあ

る個人の継続的支援について―障害児支援の強化に向けた福祉と特別支援教育における連携に関する調査―」,対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日

11. 林炫廷・太田隆士・中鹿直樹・望月昭,「障害のある人への継続的な就労支援を行うための「できること」についての情報構築―特別支援学校の教員と保護者の連携の下での「できますシート」の書式の検討―」, 対人援助学会,第3回年次大会, 京都市・立命館大学,2011年11月12日
12. 福田茉莉・サトウタツヤ,「Individual Quality of Life in person with Duchenne Muscular Dystrophy: the transformations of QOL over time」, The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs ,Tokyo・Japan,2012年2月5日
13. サトウタツヤ,「THE NARRATIVE PATHWAY TO AUTHENTIC CULTURE OF LIVING WELL」, The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs ,Tokyo・Japan,2012年2月5日
14. 日高友郎・水月昭道・福田茉莉・赤坂麻由・サトウタツヤ,「HOW ALS PATIENTS EXPERIENCE AND MAKE SENSE THE LIFE WITH ILLNESS"」, The 7th International Conference on Rare diseases & Orphan Drugs ,Tokyo・Japan,2012年2月5日
15. 木戸彩恵・若林宏輔・破田野智己・滑田明暢・斎藤進也・稲葉光行 ・サトウタツヤ,「Visualizing and Analyzing Cultural Voices in Computer-Mediated Communication through Social Gaming Simulation」, The Second International Conference on Culture and Computing, Kyoto・Japan, 2011年10月21日
16. 堀田義太郎・山本晋輔,「情報通信技術(ICT)支援の諸特徴と制度化の課題」,第25回地域福祉学会、東京都・東洋大学. 2011年6月5日
17. 望月昭・細野浩,「障がいのある個人の継続的支援のための地域連携」,対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日
18. 望月昭・中鹿直樹・イムヒョンジョン・乾明紀,「キャリアアップのための『アクティブ・シミュレーション』の場としての大学の活用」,対人援助学会,第3回年次大会,京都市・立命館大学,2011年11月12日
19. 渡辺公三,「Recherches philosophiques du jeune Levi-Strauss」, 日仏哲学会, 京都大学, 2012年3月31日
20. 荒木重嗣,「認知症ケアとブリーフコーチング」, 第2回ナイチンゲールKOMIケア学会, 学術総合センター・一ツ橋記念講堂, 2011年11月19日
21. 飯田奈美子,「対人援助場面のコミュニティ通訳における「通訳の逸脱行為」の分析―事例報告分析を通して」, 日本通訳翻訳学会, 神戸大学, 2011年9月10日
22. 一宮茂子,「生体肝移植をめぐる移植後の家族変容――ドナーインタビューの分析より」第47回日本移植学会総会, 仙台国際センター, 2011年10月4日~6日
23. 山口翔・植村要・青木千帆子,「ブラウザ・ビューア閲覧型電子書籍のアクセシビリティにおける課題」(ポスター報告), 情報通信学会第28回大会, 専修大学生田キャンパス, 2011年7月2-3日
24. 大野真由子,「CRPS患者の苦しみとの和解の語りからみるストレングス・モデルの可能性と限界」, 第37回日本保健医療社会学会, 大阪大学豊中キャンパス, 2011年5月21日
25. 大野光明,「沖縄の日本復帰を批判する運動・思想の越境性――竹中労の言説と実践を事例に」, 社会思想史学会第36回大会, 名古屋大学, 2011年10月29日.
26. 大野光明,「ベトナム反戦運動とその時代――地方ベ平連の展開」, 日本平和学会2011年度秋季研究集会・平和運動部会, 広島修道大学, 2011年10月30日
27. 角崎洋平,「世帯更生資金貸付制度の成立過程と初期実践――貸付することの福祉的意味と可能性・問題性についての考察」, 福祉社会学会第9回大会, 首都大学東京南大沢キャンパス, 2011年6月11日
28. 小西真理子,「自己紹介に嗜癖する――ギデンズ、フーコーを手掛かりに」, 第22回日本嗜癖行動学会大分大会, 大分市コンパルホール, 2011年11月26日
29. 青木千帆子・権藤眞由美,「「福祉避難所」成立の経緯」, 障害学会第8回大会 (ポスター報告), 於:愛知大学, 2011年10月1日
30. 貞岡美伸,「代理懐胎における日本の産婦人科医師の見解」, 日本生命倫理学会第23回年次大会, 早稲田大学, 2011年10 月 15 日

31. 谷村ひとみ,「中年期の子が実感した父親の老い・母親の老い」, 日本質的心理学会第 8 回大会, 安田女子大学, 2011 年 11 月 27 日
32. 松田有紀子,「お茶屋遊びのコスモロジ――実践共同体としての京都花街」, 日本文化人類学会第 45 回大会, 法政大学市ヶ谷キャンパス, 2011 年 6 月 12 日

３）省庁、学会、財団などの表彰

1. 第 9 回 日本医学哲学・倫理学会 奨励賞 :「菊田医師事件と優生保護法改正問題――「産む自由」をめぐって」吉田一史美, 日本医学哲学・倫理学会, 2011 年

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 文部科学省グローバル COE プログラム（H19-H23）「「生存学」創成拠点」, 立岩真也（代表）計 1 億 3904 万円
2. 科学研究費助成事業　基盤研究 A（海外）(H20-H24)「多文化横断ナラティヴ・フィールドワークによる臨床支援と対話教育法の開発」, 山田洋子（代表）計 3230 万円
3. 科学研究費助成事業　挑戦的萌芽研究(H22-H24)「三項関係ナラティヴ・ミーディアムの開発－糖尿病患者と医師の支援と教育」, 山田洋子（代表）計 260 万円
4. 科学研究費助成事業　挑戦的萌芽研究（H22-H21）「ナラティブと対話的自己を取り入れた難病患者ライフのぶ厚い記述-厚生心理学の提唱」, 佐藤達哉（代表）計 320 万円
5. 科学研究費助成事業　基盤研究 C（H22-H24）「マルセル・モース人類学の現代的再評価」, 渡辺公三（代表）計 195 万円
6. 科学研究費助成事業　基盤研究 C（H22-H24）「サイボーグ医療倫理の科学技術史的基盤に関する研究」, 松原洋子（代表）計 273 万円
7. 科学研究費助成事業　若手研究 B（H21-H23）「戦後日本社会における〈老い〉と〈高齢化〉をめぐる表象と記憶の政治」, 天田城介（代表）計 429 万円
8. 科学研究費助成事業　基盤研究 C（H22-H24）「障害者の継続的就労を実現する継続支援ロジックと方法の開発」, 望月昭（代表）計 338 万円
9. 科学研究費助成事業　基盤研究 C（H21-H24）「生命倫理学における安楽死・尊厳死論のキリスト的基盤に関する歴史的社会的研究」, 大谷いづみ（代表）計 377 万円
10. 科学研究費助成事業　基盤研究 B（H20-H23）「「患者の選択」をめぐる英国政策過程の分析：自由・効率・公平をめぐるダイナミズム」, 松田亮三（代表）計 1638 万円
11. 科学研究費助成事業　基盤研究 C（H21-H24）「病の総合的研究を媒介とした哲学・倫理学の再検討と再構成」, 小泉義之（代表）計 273 万円
12. 科学研究費助成事業　基盤研究 B(H21-H23)「心理主義化と再帰的主体の生成」, 崎山治男（代表）338 万円
13. ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI（研究成果の社会還元・普及事業）（日本学術振興会）「人生 with 病い」, 佐藤達哉（代表）計 34 万円
14. 科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発事業（H21-H24）「研究開発成果実装支援プログラム」, 中村正（代表）1625 万円
15. 国立大学東京大学受託研究（異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業）(H21-H25)「公共的コミュニケーションの可視化－複雑社会における政治的法的判断の構造」, 佐藤達哉（代表）計 602 万円
16. アメリカ・シエール財団受託研究（H22-H23）「monograph written on 『artificial empathy (robots) and imitation』」, PAUL DUMOUCHEL（代表）計 66 万円
17. 社会安全財団研究助成（H22-H23）「精神疾患をもつ思春期の子どもの暴発から犯罪への転化を防ぐ＜トリアージ・センター＞の設計――『安全保障（human security)』と『社会保障(social security)』のリンケージ」, 後藤玲子（代表）計 86 万円
18. トヨタ財団 2010 年度研究助成（H22-H24）「ノマド型ネットワーク組織にもとづく対人援助トリアージ・モデル

の設計――精神疾患をもつ思春期の子どもへの緊急介入の仕組み――」, 後藤玲子（代表）, 計 210 万円
19. 科学研究費助成事業　基盤研究　C（H23-H25）「潜在能力アプローチの臨床的適用プログラムの設計――福祉経済学の試み――」, 後藤玲子（代表）370 万円
20. 科学研究費助成事業　若手研究 B（H23-H25）（日本学術振興会）「女性の「労働」・「協働」の再構成に向けた実践の事例調査と課題の分析」, 村上潔（代表）
21. 科学研究費助成事業　若手研究　B（H23-H24）（日本学術振興会）「病者・障害者における当事者運動組織のネットワーク形成と「国際化」に関する研究」, 渡辺克典　（代表）
22. 科学研究費助成事業　若手研究　B（H23-H24）（日本学術振興会）「発明と資本主義社会をめぐる思想史的研究――ガブリエル・タルドの理論を中心に」, 中倉智徳（代表）
23. "Artificial Empathy and Imitation" a 2 years research project in collaboration with Dr. Luisa Damiano funded by the IMITATIO Foundation, (2010-2011), Paul G. Dumouchel, Total funding 10,000 American dollars.
24. 研究助成　勇美記念財団　平成 22 年度一般研究助成（公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団）(2011.9.-)「インターネットテレビ電話を活用した在宅療養者の社会参加について――高等教育における重度障害学生への支援の取り組みから」天畠大輔（代表）, 立岩真也, 井上恵梨子, 鈴木寛子
25. 2011 年度 第 1 次財団法人倶進会一般助成(研究　大学院生),「日本における脱精神病院に関するインタビュー調査」, 三野宏治
26. 財団法人日本科学協会　笹川科学研究助成（2011 年度）「戦前上海における学校教育と対日協力者」, 佐藤量（代表）
27. 財団法人松下幸之助記念財団研究助成（2011 年度）「英国における出生前診断の歴史と現在　出生前スクリーニングの導入と「当事者支援」, 堀智久（代表）

５）特許

①出願

なし

②取得

なし

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

1. 石田智恵," Desde lejos no se ve: una reflexión para acercarme a la denominación 'nikkei'", La Plata Hochi, Edición especial, enero 2012, Buenos Aires（新聞コラム）
2. 石田智恵, "Usos del término "nikkei" y los desarrollos de la colectividad japonesa- Entrevista a Chie Ishida", Urbanikkei, enero 2012, Buenos Aires （インタビュー記事）
3. 小林宗之,「時のひと：新聞号外を集め続ける立命館大院生・小林宗之さん」（共同通信配信）2011 年 4 月 28 日付『京都新聞』、『神戸新聞』、『北日本新聞』、『新潟日報』、『岐阜新聞』、29 日付『岩手日報』、30 日付『日本海新聞』、5 月 1 日付『徳島新聞』、4 日付『中日新聞』、『北陸中日新聞』、『宮崎日日新聞』、5 日付『佐賀新聞』、8 日付『東京新聞』、9 日付『秋田魁新報』、14 日付『静岡新聞』の各紙に掲載
4. 小林宗之,「K-MIX　キャラメル　ポケット」, K-MIX 静岡エフエム放送, 2011 年 5 月 10 日放送
5. 小林宗之,「K-MIX　キャラメル　ポケット」, K-MIX 静岡エフエム放送, 2011 年 12 月 29 日放送
6. 鈴木謙介・西嶋一泰・ほか,「"祭り"の時代」, 文化系トークラジオ Life, TBS ラジオ, 2011 年 8 月 28 日放送

②講演会

1. 後藤玲子,「人権を守る人たちを守る法」, 大阪精神保健福祉協会例会, 大阪・エルおおさか, 2011 年 10 月 8 日
2. 後藤玲子,「2011 年度日本政策学生会議　中間発表会　格差分科会報告論文へのコメント」, 京都・、同志社大学新町キャンパス, 2011 年 10 月 9 日
3. 後藤玲子,「くらしと正義 2011」京都会議 2011, 京都・京都アスニー, 2011 年 11 月 19 日
4. 後藤玲子, ” Basic Capability for All”, 東アジアにおける環境配慮型の「成熟社会」へ向けたシナリオプロジェクト研究会, 京都・総合地球環境学研究所, 2012 年 2 月 1 日
5. 後藤玲子,「アメリカン・リベラリズムと生存権」、持続可能な福祉国家システムの歴史的・理論的研究会, 京都・リツメイカンダイガク国際平和ミュージアム, 2012 年 2 月 4 日
6. 後藤玲子,「アロー・ロールズ・セン――政治経済学とリベラリズム思想の変遷」, ローカルな正義とグローバル正義研究会, 東京・東京工業大学, 2012 年 2 月 18 日
7. 後藤玲子, “Basic Capability for All,” Hitotsubashi G-COE Conference Series of Choice, Games and Welfare:Equality and Welfare, 東京・一橋大学, 2010 年 3 月 17 日
8. 後藤玲子, “Catastrophe and Public Reciprocity”, The 8th international conference ″Catastrophe and Justice″, 京都・立命館大学, 2012 年 3 月 21 日
9. 立岩真也,「障害者と労働――たしかにこれは厄介な問題だが…」, 韓国障害者自立生活センター協議会・全国障害者差別撤廃連帯, ソウル市, 2011 年 7 月 7 日
10. 立岩真也,「災厄は続く→その後方で何ができるか」, グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, ソウル市・京畿大学, 2011 年 7 月 9 日
11. 立岩真也,「家族だから（→女性）？＋女性障害者運動（抄)」, 障害女性共感, ソウル市, 2011 年 7 月 10 日
12. 立岩真也,「電子書籍普及に伴う読書バリアフリー化の総合的研究（IRIS）についての極めて短い説明」, 立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO)主催「ライスボールセミナー」, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 19 日
13. 立岩真也,「悲惨から新しい社会をと、言わない」, フォーラム「マイノリティ／他者の人文学――3.11 以降に問い直す」, 兵庫・神戸大学, 2011 年 7 月 29 日
14. 立岩真也,「コメント」, まさか！に備える情報通信技術と立命館大学, 滋賀・立命館大学琵琶湖草津キャンパス, 2011 年 8 月 31 日
15. 立岩真也,「生きやすい社会の税の役割を考える」, ラボール学園・秋の公開セミナー, 京都・ラボール学園, 2011 年 9 月 14 日
16. 立岩真也,「これまで・これから」, スリーピース主催, 京都, 2011 年 10 月 8 日
17. 立岩真也,「重度の肢体不自由者の地域生活について」, (NPO)ゆに主催・重度訪問介護従業者養成研修, 京都・立命館大学, 2011 年 10 月 29 日
18. 立岩真也,「異なる身体のもとでの交信」, (NPO)ゆに主催・重度訪問介護従業者養成研修, 京都・立命館大学, 2011 年 10 月 30 日
19. 立岩真也,「なんのために税はあるのか」, 政策フォーラム滋賀, 滋賀・滋賀県立男女共同参画センター会議室, 2011 年 11 月 26 日
20. 立岩真也,「重度の肢体不自由者の地域生活について」, (NPO)ゆに主催・重度訪問介護従業者養成研修, 京都・立命館大学, 2011 年 12 月 17 日
21. 立岩真也,「重度の肢体不自由者の地域生活について」, (NPO)ゆに主催・重度訪問介護従業者養成研修, 京都・立命館大学, 2012 年 2 月 2 日
22. 西成彦,「動物と子ども」, 熊本子どもの本研究会, 熊本・熊本市立図書館, 2011 年 4 月 20 日
23. 西成彦,「先端研の 9 年間をふりかえって」, 兵庫・神戸大学国際文化学部, 2012 年 1 月 20 日
24. 西成彦,「グローバル化と翻訳者の役割」, 大阪府立大学「グローバル移動と文化変容」研究会, 大阪・大阪府立大学, 2012 年 2 月 4 日
25. 西成彦,「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）にみる日本の「心」　～海そして津波～」, 大阪・高槻市立真上公

民館, 2012 年 2 月 27 日

③その他

1. 天田城介,「自らの仕事を異なる文脈に置きなおすこと」, 立命館大学博士キャリアパス推進室主催企画「大学教員応募のための提出書類作成セミナー」, 京都・立命館大学, 2011 年 6 月 10 日
2. 天田城介,「社会科学の主題としての団塊世代の老い」, 日本老年社会科学会第 53 回大会ワークショップ「団塊世代の老い」, 東京・ハイアットリージェンシー東京, 2011 年 6 月 16 日
3. 天田城介,「他ならぬ時間と場所で他ならぬ他者とともに学びあうこと」, 立命館大学博士キャリアパス推進室主催企画「大学教員応募のための提出書類作成セミナー」第 2 回「実践」, 京都・立命館大学, 2011 年 9 月 22 日
4. 天田城介,「『老い衰えゆくことの発見』刊行記念連続対談企画 対談 1 : 天田城介×西川勝「老い――できたことができなくなる身体」, 大阪・アートエリア B1, 2011 年 11 月 27 日
5. 天田城介,「自らの方法論として面接の技法を見出していくこと」, 立命館大学博士キャリアパス推進室主催企画「大学教員応募のための提出書類作成セミナー」第 3 回「面接対策」, 京都・立命館大学, 2011 年 12 月 7 日
6. 天田城介,『老い衰えゆくことの発見』刊行記念連続対談企画 対談 2 : 天田城介×西川勝「超高齢社会――どっちつかずの身体たちが形づくる社会」, 大阪・アートエリア B1, 2011 年 12 月 16 日
7. 天田城介,『老い衰えゆくことの発見』刊行記念連続対談企画 対談 3 : 天田城介×三井さよ「生きるための支援をめぐって」, 東京・立命館大学東京キャンパス, 2011 年 12 月 17 日
8. 天田城介,『老い衰えゆくことの発見』刊行記念連続対談企画 対談 4 : 天田城介×春日キスヨ「戦後家族とは何だったのか」, 京都・立命館大学, 2011 年 12 月 25 日
9. 天田城介,「模擬講義の技法」立命館大学博士キャリアパス推進室主催企画「大学教員応募のための提出書類作成セミナー」第 4 回「模擬面接」, 京都・立命館大学, 2012 年 2 月 8 日
10. 天田城介,「本を出すという研究戦略について」立命館大学博士キャリパス推進室主催企画・レクチャーフォーラム「"私"の本ができるまで」第 2 回「研究業績を形にすること」, 京都・立命館大学, 2012 年 2 月 15 日
11. 天田城介,「「落差問題」としての老いを考える」, 第 2 回 高齢者ケア・フォーラム「老いること、生きること、食べること」, 京都・キャンパスプラザ京都, 2012 年 2 月 19 日
12. 天田城介,「介入と非介入のあいだ――"失われた 20 年"において私たちが失ってしまったもの」, 東アジア「共生」学創成の学際的融合研究「アジアにおける「障害」と共生――教育・福祉・臨床の各視点に立脚したシステム構築に関する研究」, 富山・富山大学, 2012 年 2 月 21 日
13. 天田城介,「"セーフティネット"としての戦後日本型家族の変容」, 第 8 回日本社会福祉学会フォーラム「社会的ケアについて考える――施設・地域・家族の観点から」, 大阪・龍谷大学大阪梅田キャンパス, 2012 年 3 月 10 日
14. 天田城介,「コメント」, 第 19 回マイノリティ研究会（正式名称 : 院生プロジェクト「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」定例研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 4 月 12 日
15. 天田城介,「コメント」, 2011 年度第 1 回「現代社会における統制と連帯」研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 4 月 16 日
16. 天田城介,「司会＆コメント」, 第 17 回老い研究会（2011 年度第 1 回老い研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 4 月 23 日
17. 天田城介,「司会＆コメント」, 老い研究会公開企画「『老いを治める――老いをめぐる政策と歴史』の点検・批評・１」, 京都・立命館大学, 2011 年 4 月 23 日
18. 天田城介,「コメント」, 歴史社会学研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 4 月 29 日
19. 天田城介,「コメント」, 歴史社会学研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 5 月 12 日
20. 天田城介,「コメント」, 第 20 回マイノリティ研究会（正式名称 : 院生プロジェクト「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」定例研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 5

月 13 日

21. 天田城介,「マイノリティ研究の批判的言説の捉え方」, 第 21 回マイノリティ研究会（正式名称：院生プロジェクト「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」定例研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 5 月 20 日
22. 天田城介,「コメント」, マイノリティ研究会（正式名称：院生プロジェクト「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」定例研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 6 月 3 日
23. 天田城介,「司会＆コメント」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催公開合評会企画 ・１「『若者の労働運動――「働かせろ」と「働かないぞ」の社会学』を読む」, 京都・立命館大学, 2011 年 6 月 14 日
24. 天田城介,「司会＆コメント」, 第 29 回認知症介護研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 6 月 18 日
25. 天田城介,「戦後日本社会高齢化論――歴史と体制の見立て」, 2011 年度第 2 回「現代社会における統制と連帯」研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 6 月 24 日
26. 天田城介,「司会＆コメント」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催公開合評会企画・2「『死刑執行人の日本史――歴史社会学からの接近』を読む」, 京都・立命館大学, 2011 年 6 月 28 日
27. 天田城介,「コメント」, 歴史社会学研究会. 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 1 日
28. 天田城介,「司会＆コメント」, 第 18 回老い研究会（2011 年度第 2 回老い研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 2 日
29. 天田城介,「コメント」, 第 25 回マイノリティ研究会（正式名称：院生プロジェクト「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」定例研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 4 日
30. 天田城介,「司会＆コメント」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催公開合評会企画・3「『関西障害者運動の現代史――大阪青い芝の会を中心に』を読む」, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 12 日
31. 天田城介,「ゴフマンの方法論の使い方」, ゴフマンの方法論を再検討する研究会公開企画, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 16 日
32. 天田城介,「コメント」, 第 23 回マイノリティ研究会（正式名称：院生プロジェクト「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」定例研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 25 日
33. 天田城介,「司会＆コメント」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催公開合評会企画・4「『連帯の挨拶――ローティと希望の思想』を読む」, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 26 日
34. 天田城介,「司会」, 2011 年度第 3 回「現代社会における統制と連帯」研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 8 月 20 日
35. 天田城介,「一般報告部会の司会」, 日本社会学理論学会一般報告 2, 東京・東京女子大学, 2011 年 9 月 3 日
36. 天田城介,「コメント」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催『生存学』第 5 号特集論文草稿検討会, 京都・立命館大学, 2011 年 8 月 24 日
37. 天田城介,「司会＆コメント」, 第 19 回老い研究会（2011 年度第 3 回老い研究会）, 京都・立命館大学, 2011 年 8 月 27 日
38. 天田城介,「体制の歴史」, 歴史社会学研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 9 月 8 日
39. 天田城介,「司会＆コメント」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催公開合評会企画・5「『ガブリエル・タルド――贈与とアソシアシオンの体制へ』を読む」, 京都・立命館大学, 2011 年 9 月 13 日
40. 天田城介,「大会シンポジウムの司会」, 第 84 回日本社会学会大会シンポジウム 3. 兵庫・関西学院大学, 2011 年 9 月 18 日
41. 天田城介,「司会＆コメント」, 第 30 回認知症介護研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 10 月 16 日
42. 天田城介,「司会」, 2011 年度第 4 回「現代社会における統制と連帯」研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 10 月 21 日
43. 天田城介,「（司会＆コメント）」, 第 20 回老い研究会（2011 年度第 3 回老い研究会）, 京都・立命館大学, 2011

年 10 月 29 日
44. 天田城介,「『3.11』論」, 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催『生存学』vol.5 特別公開企画 栗原彬インタビュー企画, 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 17 日
45. 天田城介,「(コメント)」, 第 21 回老い研究会(2011 年度第 4 回老い研究会), 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 19 日
46. 天田城介,「司会」, 立命館大学大学院先端総合学術研究科主催 上野千鶴子特別招聘教授着任記念学術シンポジウム, 京都・立命館大学, 2011 年 12 月 23 日
47. 天田城介,「司会&コメント」, 第 31 回認知症介護研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 12 月 25 日
48. 天田城介,「司会&コメント」, 第 22 回老い研究会(2011 年度第 5 回老い研究会), 京都・立命館大学, 2012 年 2 月 18 日
49. 天田城介,「司会&コメント」, 福祉社会学会第 35 回研究会, 大阪・立命館大学大阪キャンパス, 2012 年 2 月 26 日
50. 天田城介,「司会&コメント」, 福祉社会学会第 36 回研究会, 大阪・立命館大学大阪キャンパス, 2012 年 3 月 11 日
51. 天田城介,「(司会&コメント)」, 第 32 回認知症介護研究会, 京都・立命館大学, 2012 年 3 月 25 日
52. 天田城介,「コメント」, 立命館大学生存学研究センター編『生存学』第 6 号「特集:教育」論文草稿検討会, 京都・立命館大学, 2012 年 3 月 27 日
53. 天田城介,「コメント」, 立命館大学生存学研究センター編『生存学』第 6 号「特集:教育」論文草稿検討会, 京都・立命館大学, 2012 年 3 月 31 日
54. 遠藤彰,「生物の世界を語りなおす-「アート生物学」の試み パート IV」(1)〜(6), 京都・NHK 文化センター京都(2011 年 11 月 4 日〜9 日)
55. 遠藤彰,「新・生物の世界を探る「自然と文化を再考する—深泥池の視点から」」, 京都・NHK 文化センター京都(2011 年 10 月〜2012 年 2 月)
56. 中村桂子・遠藤彰・大村敬一・近藤和敬,「座談会——エコロジーのポテンシャル」, 東京・生命誌研究館, 2011 年 10 月 4 日
57. 立岩真也,「講義」, 2011 年度夏期生存学セミナー, 京都・キャンパスプラザ京都, 2011 年 9 月 14 日
58. 立岩真也,「シンポジウム・震災と停電をどう生き延びたかにおける取材に応えて」, NHK京都放送局・京都府のニュース/NHK滋賀放送局・滋賀県のニュース, 2011 年 9 月 18 日
59. 立岩真也,「談話」, 京都未来まつり 2011, 京都・新風館, 2011 年 10 月 23 日
60. 立岩真也,「コメント」, アフリカ障害者の 10 年セミナー「アフリカ社会と障害者——カメルーンの都市と森で暮らす障害者の生活から」, 京都・立命館大学衣笠キャンパス, 2011 年 12 月 3 日
61. 立岩真也,「コメント」, 第 11 回癒しの環境研究会全国大会・シンポジウム2, 京都・京都大学, 2011 年 12 月 4 日
62. 西成彦,「司会&コメント」, カリチュラル・タイフーン神戸, 兵庫・神戸市海外移住と文化の交流センター, 2011 年 7 月 24 日
63. 西成彦,「研究発表司会」, 日本比較文学会関西支部例会, 兵庫・神戸大学, 2011 年 7 月 30 日
64. 西成彦,「研究発表司会」, 日本比較文学会関西支部例会, 兵庫・大手前大学, 2011 年 9 月 17 日
65. 西成彦,「コーディネーター」, 国際言語文化研究所・秋季連続講座「グローバル・ヒストリーズ②歴史のなかの感覚変容」第1回:音声をめぐる感覚変容——《声》の政治史・《音》の社会史」, 京都・立命 館大学, 2011 年10月7日
66. 西成彦,「(司会)『トランスレーション・スタディーズ』の刊行を記念して」, 立命館大学国際言語文化研究所, 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 11 日
67. 西成彦,「(司会)デーヴィッド・ダムロッシュ講演会:書物の終わり?——ポスト文学時代における文学研究 1867/1967/2067」, 立命館大学国際言語文化研究所, 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 15 日
68. 西成彦,「評論」, 日本台湾学会第 9 回関西部会・研究大会〈文学分科会〉, 大阪・関西大学, 2012 年 1 月 28 日

69. 西成彦,「コメント」, 西スラヴ学研究会・研究発表会（第1パネル「移動の文学」）北海道・北海道大学, 2012年3月15日
70. 西成彦,「コメント」, 立命館大学先端総合学術研究科・国際正義共生研究会・国際言語文化研究所主催「カタストロフィと正義」, 京都・立命館大学, 2012年3月22日
71. 松原洋子,「書籍デジタルデータ提供と読書障害学生支援ー著作権法第37条第3項への対応と今後の課題」, 大学コンソーシアム京都・2011年度障害のある学生支援に関する担当者会議, 京都市・キャンパスプラザ京都, 2011年7月13日
72. 松原洋子,「リハビリテーションロボットをめぐる倫理的検討」, 神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新規医療機器, 生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボットに関する治験準備研究班第１回班員会議, 東京女子大, 2011年8月11日
73. 松原洋子,「科学的用語としての『遺伝』・『遺伝子』の由来」, 京都大学人文科学研究所共同プロジェクト「生命知創成に向けたプラットフォームの構築」, 2011年9月8日
74. 松原洋子,「患者主導のライフサイエンス研究」,（財）ヒューマンサイエンス振興財団研究資源委員会ヒヤリング, 立命館大学, 2011年12月16日
75. 石川准（パネラー）・松原聡（コーディネーター・司会）・松原洋子（パネラー）ほか,「パネルディスカッション　電子書籍におけるアクセシビリティの今後のあり方を考える」,「電子書籍アクセシビリティに関する出版社アンケートについて」,「電子出版アクセシビリティ・シンポジウム」（電流協主催,　東洋大学特別研究「電子書籍プラットフォーム分析」（tu-Rip）・立命館大学R-GIROプログラム「電子書籍普及に伴う読書バリアフリー化の総合的研究」（IRIS）共催, 総務省後援）, 東京都千代田区・如水会館, 2012年2月13日
76. IRIS出版社アンケート実施チーム（松原洋子・青木千帆子・植村要・山口翔）,「電子書籍アクセシビリティに関する出版社アンケートについて」,「電子出版アクセシビリティ・シンポジウム」（電流協主催,　東洋大学特別研究「電子書籍プラットフォーム分析」（tu-Rip）・立命館大学R-GIROプログラム「電子書籍普及に伴う読書バリアフリー化の総合的研究」（IRIS）共催, 総務省後援）, 東京都千代田区・如水会館, 2012年2月13日
77. 伊藤佳世子・佐藤浩子,「JDF被災地障がい者支援センターふくしまでの仮設住宅調査のボランティアレポート」, 2011年7月20日
78. 大谷いづみ,「『自分らしく、人間らしく』死にたい？――『安楽死・尊厳死』思想が内包するもの」,「難病患者・障害者の自宅療養を考える」学習会, 東京都・ホテルグランドヒル市ヶ谷, 2012年2月26日
79. 佐藤達哉,「病の経験と語り：分析手法としてのナラティブアプローチの可能性」, 国際シンポジウム, 京都市・立命館大学, 2011年8月28日
80. 佐藤達哉・村本邦子・荒木晃子,「生殖医療と里親・養親」, 家族の＜創成と再統合＞シンポジウム, 京都市・立命館大学, 2011年9月3日
81. 佐藤達哉,「震災・大学・放射能～福島大学教員をお招きして」, 原子力と生存学研究会・特別企画, 京都市・立命館大学, 2012年3月29日
82. 中村正,（協力）「私のなかのあななたち、だから私はひとりになれる『ハチミツとクローバー』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ9, 京都市・立命館大学, 2011年5月14日
83. 中村正,（協力）「私のなかのあななたち、だから私はひとりになれる『ニライカナイからの手紙』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ9, 京都市・立命館大学, 2011年6月25日
84. 中村正,（協力）「私のなかのあななたち、だから私はひとりになれる『百万円と苦虫女』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ9, 京都市・立命館大学, 2011年7月23日
85. 中村正,「子どもの育ちを促進していくためのアタッチメント理論と実践方法について」, 虐待とアタッチメント（愛着）, 大阪府・大阪市男女共同参画センター, 2011年9月24日
86. 中村正,「児童相談の過去・現在・未来」, ジェノグラム研修会, 京都市・立命館大学, 2012年1月14日～15日
87. 中村正, JST実装プログラム「スター・ペアレンティング研修会」, 大阪府・大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2012年2月18日～19日
88. 中村正,「たたかず甘やかさず子育てする方法」, スター・ペアレンティング研修会, 大阪府・大阪府立男女共同

参画・青少年センター,2012年2月18日～19日
89. 中村正, JST実装プログラム「こどもの現場の変え方」,大阪市・子育ていろいろ相談センター,2012年3月3日
90. 野田正人・中村正・斎藤真緒,「ユース・スタディーズ事始め！」,ユースワーカー養成公開研究会,京都市・立命館大学,2011年11月23日
91. 堀田義太郎・長谷川唯・山本晋輔,「重度障害者・難病者コミュニケーション支援について」,重度訪問介護従業者養成研修, 京都・立命館大学,2011年2月2日
92. 松田亮三,「保健医療における選択:イギリスと日本における論争と経験」,比較ケア制度・政策研究セミナー,立命館大学,2012年3月28日
93. 松原洋子,「書籍デジタルデータ提供と読書障害学生支援—著作権法第37条第3項への対応と今後の課題」, 障害のある学生支援に関する担当者会議,京都市・大学コンソーシアム京都キャンパスプラザ京都,2011年7月13日
94. 望月昭・坂本真紀,「『見本合わせ課題』から考える特別支援教育」,ワークショップ「学校を「より楽しく」するための応用行動分析,京都市・立命館大学,2011年2月18日
95. 望月昭・上田陽子, ファースト・ステップ・ジョブグループ「ひきこもり当事者本人に対しての家族の対応を学ぶ連続講座」,京都市・立命館大学,2011年6月11日
96. 望月昭・上田陽子, ファースト・ステップ・ジョブグループ「ひきこもり当事者本人に対しての家族の対応を学ぶ連続講座」,京都市・立命館大学,2011年6月25日
97. 望月昭・本間正人・乾明紀,「対話：本間正人×望月昭 - 学習学という視点と可能性」,R-GIRO プロジェクト「対人援助学の展開としての学習学の創造」,第 1 回公開研究会,京都市・立命館大学, 2011年12月18
98. 渡辺公三, “Forclosion du sacrifice chez Levi-Strauss ?”, Recherche mimetique, Paris, Ecole Normale Superieure, 2012年1月27日
99. 渡辺公三,「モース『贈与論』の歴史的文脈」, 日本文化人類学会近畿地区研究懇談会「初期フランス人類学と社会主義」, 立命館大学, 2012年3月29日
100. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『チチカット・フォーリーズ』」,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編, 京都市・立命館大学, 2011年11月5日
101. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『最後の手紙』 ,朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編, 京都市・立命館大学, 2011年11月5日
102. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『福祉』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編, 京都市・立命館大学, 2011年11月6日
103. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『法と秩序』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編, 京都市・立命館大学,2011年11月6日
104. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『ボクシング・ジム』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編, 京都市・立命館大学,2011年11月7日
105. 渡辺公三,「ワイズマン作品と出合う『監督講演』」, 朱雀キャンパス公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編, 京都市・立命館大学,2011年11月8日
106. Paul G. Dumouchel, “The Barren Sacrifice”, Department of French and Italian, Stanford University, California, USA , 2011年5月
107. Paul G. Dumouchel, “Mimesis, créativité et conversion chez Girard” , Meiji University, Tokyo, Japan, 2011年6月
108. Paul G. Dumouchel, “Mimetic Theory and Jalousy”, *Imitatio Jalousy Workshop*, Arsenal de Paris, France, 2011年8月
109. Paul G. Dumouchel, “La morale ouverte et la notion de catastrophe morale” , *Bergson et le désastre*, Hosei University, Tokyo, Japan, 2011年10月
110. Paul G. Dumouchel, “Extreme Poverty is Violence” , International Colloquium *Breaking the Silence, Searching for Peace*, Paris (France) Maison de l’UNESCO, 2012年1月

111. Paul G. Dumouchel, “De la Méconaissance”, *Imitatio Misrecognition Workshop*, École Normale Supérieure, Paris, France, 2012 年 1 月
112. Paul G. Dumouchel, “Le Sacrifice et la chasse aux têtes”, *Le Sacrifice Aujourd’hui, Girard et Lévi-Strauss*, École Normale Supérieure, Paris, France, 2012 年 1 月
113. Paul G. Dumouchel, “Justice and Catastrophe” in International Symposium *Catastrophe and Justice*, Ritsumeikan University, Kyoto, Japan, 2012 年 3 月 21 日・22 日
114. Paul G. Dumouchel, “Organizes”, with Professor R. Gotoh, the Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences’ 8th international conference *Catastrophe and Justice,* Ritsumeikan University, 2012 年 3 月 21 日・22 日.
115. 阿部あかね, 「学術シンポジウム企画運営　コーディネート　 生存学院生プロジェクト「精神保健・医療と社会」研究会企画「全国「精神病」者集団　山本眞理氏　招聘公開インタビュー企画――差別に抗する現代史――」」, 立命館大学, 2011 年 10 月 8 日
116. 荒木重嗣, 「介護におけるコミュニケーション技術の特性とその訓練」, 平成 23 年度コミュニケーションスキルアップ研修会, 新潟県社会福祉協議会福祉人材課 社会福祉研修センター主催, 2011 年 10 月 12 日
117. 荒木重嗣, 「解決志向コミュニケーション技法によるコーチングの基本」, 平成 23 年度コミュニケーションスキルアップ研修会, 新潟県社会福祉協議会福祉人材課 社会福祉研修センター主催, 2011 年 11 月 2 日
118. 荒木重嗣, 「〈老人介護文学(映画)でみる惚け・痴呆・認知症ケアの歴史〉認知症が治るということ －薬やリハビリへの期待と過剰反応」, 新潟青陵大学・短期大学部エクステンションセンター公開講座, 2011 年 12 月 13 日
119. 荒木重嗣, 「老いを柔らかく支える社会と介護職の役割――福祉の仕事セミナー講演」, 富山県健康・福祉人材センター主催, 富山, 2012 年 2 月 22 日
120. 飯田奈美子, 「医療通訳倫理規定作成の意義とその課題について」, 第 18 回多文化間精神医学会, 東京丸の内, 2011 年 9 月 30 日
121. 李旭, 「日本における福祉用具制度の現状と問題」, グローバル COE「生存学」創成拠点 国際プログラム 第 2 回障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
122. 石田智恵, 「ニセイを名乗ること――アルゼンチン日本人移民社会の総称に関する考察」, 日本移民学会第 21 回年次大会, JICA 横浜, 2011 年 6 月 26 日
123. 石田智恵, 「アルゼンチン日系社会における「日本人」の継承をめぐる問題：二世とニセイのあいだ」, マイグレーション研究会例会, 阪南大学サテライト, 2011 年 5 月 7 日
124. 石田智恵, 「「われらニセイなり」――ブエノスアイレス日系社会の世代交代と呼称の変化の関係」, アジアン・ディアスポラ研究会（先端総合学術研究科 2011 年度公募研究会）, 立命館大学, 2011 年 5 月 16 日
125. 石田智恵, 「1980-90 年代アルゼンチン「邦人社会」の転化――施設 - 組織と共同体」, R-GIRO 研究プログラム「第二次世界大戦による在外日本人の強制退去・収容・送還と戦後日本の社会再建に関する研究」定例研究会, キャンパスプラザ京都, 2012 年 1 月 21 日
126. イム・ドクヨン, 「日本における障害者の住宅政策、現況と示唆点」, グローバル COE「生存学」創成拠点　国際プログラム　障害学国際研究セミナー, 京畿[キョンギ]大学, ソウル, 2011 年 7 月 9 日
127. イム・ドクヨン, 「『無住居者』の歴史、『浮浪者』から『ホームレス』へ」, 「反貧困運動の歴史を語る」セミナー, 韓国都市研究所, 2011 年 9 月 9 日
128. イム・ドクヨン, 「1950 年代韓国におけるハンセン病者に対する虐殺と社会的視線――飛兎里(ビトリ)事件を中心に」, グローバル COE「生存学」創成拠点　国際プログラム　第２回 障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
129. 岩田京子, 「風景整備政策の成立過程――1920 年代～30 年代の京都における風致地区を中心に」, 科研費研究「近現代日本の宗教とナショナリズム――国家神道論を軸にした学際的総合検討の試み」第 5 回研究会, 関西学院大学大阪梅田キャンパス, 2012 年 3 月 23 日
130. 植村要・山口翔・青木千帆子, 「日本におけるスクリーンリーダー開発の歴史と情報保障」, グローバル COE「生存学」創成拠点 国際プログラム 第 2 回障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日

131. 植村要,「視覚障害者の書籍アクセシビリティを確保する方法と現状について」, 花園大学人権教育研究会第 78 回例会, 花園大学, 2011 年 12 月 2 日
132. IRIS 出版社アンケート実施チーム（松原洋子・青木千帆子・植村要・山口翔）「電子書籍アクセシビリティに関する出版社アンケートについて」電子出版アクセシビリティ・シンポジウム、如水会館 スターホール、2012 年 2 月 13 日
133. IRIS 出版社アンケート実施チーム（松原洋子・青木千帆子・植村要・山口翔),「立命館大学 IRIS 出版社アンケート中間報告および意見交換の会」, JEPA 会議室, 2012 年 3 月 1 日
134. 大野真由子,「意味づけしようのない病いと語り――CRPS（複合性局所疼痛症候群）患者の 3 つの語りと「生の技法」」, 国際シンポジウム「病の経験と語り：分析手法としてのナラティヴアプローチの可能性」, 立命館大学, 2011 年 8 月 29 日
135. 大野 真由子,「本邦における「障害」の射程と身体障害者手帳をめぐる問題」, グローバル COE「生存学」創成拠点　国際プログラム　第 2 回障害学国際研究セミナー, 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
136. Mayuko Ono,「The Supportive Viewpoint Gained by Analyzing Emotional Experience in Time: From Narratives of Patients with Complex Regional Pain Syndrome」, International Academic Meeting of Disability Studies in South Korea, Kyonggi University, Korea, 2011 年 7 月
137. 大野真由子,「「外在化」せざるを得ない病いとしての CRPS（複合性局所疼痛症候群）――慢性疼痛と生きる患者と家族の事例から」, グローバル COE「生存学」創成拠点　国際プログラム　第 2 回障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
138. 大野光明,「繋がり／争いとしての共感とその外――原発と沖縄の基地問題をめぐって」, ワークショップ「繋争する〈共感〉をめぐって――酒井直樹氏とともに 2011 年を考える」, 立命館大学研究会「東アジアの近代と帝国主義的人種主義の批判的再考」, 2011 年 12 月 22 日
139. 大野光明,「日本復帰をめぐる「沖縄闘争」の論理と実践――沖縄・本土・海外の運動の混成・交流をめぐって」, 復帰 40 年沖縄国際シンポジウム「これまでの沖縄学、これからの沖縄学」, 早稲田大学, 2012 年 3 月 30 日
140. 大野光明,「72 年日本『復帰』――本土からの「応答」の軌跡」, 生・労働・運動 net 沖縄セミナー・2011 in 富山　第 2 回, 富山, 2011 年 6 月 18 日
141. 大野光明,「『見えない』世界にかかわるシゴト――人とつながり社会を変える」, 京都市・(財)京都市ユースサービス協会主催「“あたりまえ”じゃない生き方実践講座」, 京都市中京青少年活動センター, 2011 年 9 月 15 日
142. 大野光明,「〈1968 年〉の神話化に抗して――西川長夫『パリ五月革命 私論―転換点としての 68 年』を読む」, 立命館大学植民地主義研究会, 2011 年 11 月 18 日.
143. 大野光明,「緊急ゆんたく！辺野古・高江と私・たち――沖縄の激動の今をつなぐ」, 緊急ゆんたく有志, 2012 年 2 月 19 日
144. 各務勝博,「援助すること・されること」, 対人援助学会第３回年次大会 企画ワークショップ, 立命館大学, 2011 年 11 月 12 日
145. 角崎洋平,「Double Loan Payment and Justice: Does Liberalism silent on Catastrophe?（「二重ローン」と正義――リベラリズムはカタストロフィに沈黙するか）」, Catastrophe and Justice: 8th International Conference (Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences), Ritsumeikan University, Kyoto, Japan, 2012 年 3 月 21 日
146. 角崎洋平,「フェミニズムとリベラリズムの「和解」可能性について」, リベラリズム研究会（立命館大学先端総合学術研究科公募研究会）・ケア研究会（立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト）・規範×秩序研究会（立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト）合同公開研究会「『フェミニズムの政治学――ケアの倫理をグローバル社会へ』をめぐって――岡野八代先生を迎えて」, 立命館大学衣笠キャンパス, 2012 年 3 月 27 日
147. 金城美幸,「イスラエルにおける『独立戦争』の集合的記憶――『新しい歴史家』以降の展開」, 人間文化研究機構（NIHU）イスラーム地域研究東京大学拠点グループ 2「中東政治の構造変容」パレスチナ研究班第 2 回研究会,

東京大学東洋文化研究所, 2012 年 6 月 26 日

148. 川端美季,「近代日本の法規制における「精神病者」の排除――公衆浴場を中心に」, グローバル COE「生存学」創成拠点 第 2 回障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
149. 川端美季,「近代日本における公衆浴場の衛生史的研究」, 第 20 回医療・社会・環境研究会, 大阪大学, 2012 年 2 月 4 日
150. 川端美季,「近代日本における精神障害者の法的排除について」, 第 2 回近現代精神医療史ワークショップ, 名古屋国際センター, 2012 年 3 月 25 日
151. 郭貞蘭,「養護学校義務化制度をめぐる社会運動と政策――日本・韓国の比較考察」, グローバル COE「生存学」創成拠点　国際プログラム, 京畿[キョンギ]大学, ソウルキャンパス, 2011 年 7 月 9 日
152. 郭貞蘭,「韓国の人口内耳をめぐる制度と実態」, 障害学会第 8 回大会, 愛知大学車道キャンパス, 本館コンベンションホール, 2011 年 10 月 1 日（土）・2 日（日）
153. 郭貞蘭,「ろう児童を持つろう両親の人工内耳選択」, 第２回 障害学国際研究セミナー, 立命館大学衣笠キャンパス, 2011 年 11 月 9 日
154. 小林宗之,「アジア・太平洋戦争期の新聞号外」, 20 世紀メディア研究所第 60 回研究会, 早稲田大学, 2011 年 5 月 28 日
155. 小林宗之,「新聞展示とトークセッション「東日本大震災　～号外～展」」,「震災から考える京都　～いのち・生活・未来～」, 京都市未来まちづくり 100 人委員会, 2011 年 7 月 23 日
156. 権藤眞由美・青木千帆子,「被災地障がい者支援センターふくしまの活動」, グローバル COE「生存学」創成拠点 国際プログラム, 京畿[キョンギ]大学, 韓国, 2011 年 7 月 9 日
157. 青木千帆子・権藤眞由美,「被災した障害者の避難をめぐる困難について」, グローバル COE「生存学」創成拠点 国際プログラム第 2 回 障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
158. 権藤眞由美・有松玲・青木千帆子,「岩手・宮城・福島における「被災地障がい者支援センター」の活動経過」, グローバル COE「生存学」創成拠点 国際プログラム, 京畿[キョンギ]大学, 韓国, 2011 年 7 月 9 日
159. 権藤眞由美,「「福祉避難所」成立の経緯とゆめ風基金の提言」, グローバル COE「生存学」創成拠点 国際プログラム　第 2 回 障害学国際研究セミナー, 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
160. 櫻井悟史,「殺人と〈殺人〉――『死刑執行人の日本史――歴史社会学からの接近』を書いて」,『原稿の余白に』, http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/yohakuni/blank100.html, 青弓社, 2011 年 4 月.
161. 櫻井悟史,「死刑執行を思考する」,『研究の現場』(http://www.ritsumei-arsvi.org/news/read/id/438)、立命館大学生存学研究センター（英語版「Considering Execution」『Research Highlights』(http://www.ritsumei-arsvi.org/en/news/read/id/143), Research Center for Ars Vivendi at Ritsumeikan University), 2011 年 5 月
162. 渋谷光美　, 第 19 回日本介護福祉学会大会、自主企画シンポジウム企画「介護労働を問う」, 大妻女子大学、2011 年 9 月 3･4 日
163. 田中壮泰,「デボラ・フォーゲルの作品におけるユダヤ的モティーフについて」, 西スラヴ学研究会 2011 年度 3 月研究発表会, 北海道大学スラヴ研究センター, 2012 年 3 月 15 日
164. 谷村ひとみ,「The Gender Role Consciousness of Parents which Made Daughters Aim at “Normal Marriage” -From Interviews with Women Who Married in the 1980s」, グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト　第 2 回多様な「生」を描く質的研究会, 立命館大学, 2011 年 6 月 22 日
165. 谷村ひとみ,「1980 年代の 20 歳代女性が目指せられた「ふつうの結婚」」, グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト　第 3 回多様な「生」を描く質的研究会, 立命館大学, 2011 年 8 月 10 日
166. 谷村ひとみ,「婚姻関係の違いがもたらす女性の老後展望と介護期待」, グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト　第 19 回老い研究会, 立命館大学, 2011 年 8 月 27 日
167. 谷村ひとみ,「中年期の子が実感した父親の老い・母親の老い」, グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロイジェクト　第 4 回多様な「生」を描く質的研究会, 立命館大学, 2011 年 10 月 26 日
168. 谷村ひとみ,「婚姻関係の解消の違いがもたらす女性の住まいと老後展望の違い」, グローバル COE プログラム

「生存学」創成拠点院生プロイジェクト　第 20 回老い研究会，立命館大学，2011 年 10 月 29 日

169. 谷村ひとみ，「団塊世代で生きたシングルマザー女性の老いの戦略――子ども・住まい・就労」，グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロイジェクト　第 22 回老い研究会，立命館大学，2012 年 2 月 18 日

170. 西嶋一泰，「青森の荒馬踊り」，郷土芸能 STREAM ビデオライブ，社団法人全日本郷土芸能協会，2011 年 7 月 13 日

171. 西嶋一泰，「南部神楽体験ツアーレポート」，郷土芸能 STREAM ビデオライブ，社団法人全日本郷土芸能協会，2011 年 12 月 14 日

172. 西嶋一泰，「坂部の冬祭り・新野の雪祭りレポート」，郷土芸能 STREAM ビデオライブ，社団法人全日本郷土芸能協会，2011 年 2 月 8 日

173. 萩原浩史，「地域活動支援センターにおける相談支援業務の実際」，関西福祉科学大学「精神保健福祉援助実習指導Ｉ」ゲスト講師，関西福祉科学大学，2011 年 6 月 9 日

174. 萩原浩史，「精神保健福祉基礎講座――精神障害の理解から具体的支援まで」，NPO 法人 Flat・きた　自立生活センターFlat・きた職員研修，自立生活センターFlat・きた，2011 年 6 月 20 日

175. 萩原浩史，大阪精神保健福祉士協会定例会「これからの精神保健福祉に期待すること」司会，エル・おおさか，2011 年 10 月 8 日

176. 原佑介，하라 유스케 “고바야시 마사루과 최규하”，한양대학교 비교역사연구소 목요 강좌，，2011 年 9 月 7 日

177. 原佑介，「小林勝と崔圭夏」，第 7 回アジアン・ディアスポラ研究会，立命館大学，2011 年 11 月 19 日

178. 本岡大和，司会「繋争する〈共感〉をめぐって――酒井直樹氏とともに 2011 年を考える」，立命館大学先端総合学術研究科公募研究会「東アジアの近代と帝国主義的人種主義の批判的再考」，立命館大学，2011 年 12 月 22 日

179. モリカイネイ，「華人系教会研究の視座――「福音主義」のもとで」，現代キリスト教思想研究会「アジアと宗教的多元性」分科会第 103 回研究会，京都大学吉田キャンパス，2011 年 5 月 28 日

180. モリカイネイ，「「キリスト教と華人」を研究するための試み――「世界華人福音運動」を通して」，現代キリスト教思想研究会「アジアと宗教的多元性」分科会第 109 回研究会，京都大学吉田キャンパス，2012 年 1 月 21 日

181. 山口真紀，「つまづきを語る――自閉者の手記による病名診断の隘路」，ＲＩＳＴＥＸ大阪研究会，2011 年 10 月 2 日

182. 矢野亮，「『住吉地区に関する実態調査目録』を作成して」，財団法人住吉隣保館　市民交流センター住吉北，大阪，2011 年 5 月 25 日

183. 矢野亮，「戦後部落問題における当事者／運動／制度の歴史的接合点――大阪Ａ地区におけるＡ市議闘争を事例に」，マイノリティ研究会，立命館大学，2011 年 7 月 4 日

184. 矢野亮，「1960 年代の住吉地区における部落解放運動の（分）起点――『統一と団結』を読み直すことを通じて」，大阪市立大学 12 地区資料研究会，旧浅香人権文化センター，大阪，2011 年 3 月 21 日

185. 梁陽日，「学校教育におけるエンパワメントの可能性と限界Ⅱ―社会的困難を抱える生徒への臨床教育実践から―」，グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト『地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究』（マイノリティ研究会）第 24 回定例研究会，立命館大学，2011 年 6 月 17 日

186. 梁陽日，「私の主張」，発達障害青年の実態調査・研究報告フォーラム（主催：社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会／大阪市発達障害者支援センター大阪市職業リハビリテーションセンター／大阪市障害者就業・生活支援センター）第 3 部パネルディスカッション，大阪市中央公会堂，2012 年 3 月 10 日

187. 梁陽日，「青少年のエンパワメント（生きる力）のための教育を考える――多様性を尊重する自立と共生のコミュニティづくりをめざして」，在日大韓基督教大阪教会 90 周年記念事業教育講演会講師，在日大韓基督教大阪教会，2011 年 4 月 3 日

188. 梁陽日，「援助職から始まるエンパワメント～ちがいを豊かさに多様性重視の組織文化の構築をめざして～①」，豊中市地域就労支援事業コーディネーター研修講師豊中市生活情報センターくらしかん，2011 年 4 月 11 日

189. 梁陽日，「ちがいを豊かさに！！――子どものエンパワメントと共に生きる学校文化の創造をめざして」，東大阪市立荒川小学校教職員研修講師，東大阪市立荒川小学校，2011 年 4 月 13 日

190. 梁陽日,「ちがいを豊かさに～在日外国人と企業による多民族・多文化共生社会の創造をめざして」, 大阪府商工労働部「公正採用選考人権啓発推進員」新任・基礎研修講師, 大阪府立労働センター, 2011 年 4 月 15 日
191. 梁陽日,「援助職から始まるエンパワメント――ちがいを豊かさに多様性重視の組織文化の構築をめざして②」, 豊中市地域就労支援事業コーディネーター研修講師, 豊中市生活情報センターくらしかん, 2011 年 5 月 16 日
192. 梁陽日,「教育支援のエンパワメントから『力のある学校』づくりを考える」, 東大阪市立柏田中学校教職員研修講師, 東大阪市立柏田中学校, 2011 年 5 月 18 日
193. 梁陽日,「人権って何ですか？――生きる力の源＝エンパワメントを学ぶ」, 泉南市人権入門講座 1「豊かな人間関係づくり講座①」講師, 泉南市総合福祉センター, 2011 年 6 月 9 日
194. 梁陽日,「援助職から始まるエンパワメント――ちがいを豊かさに多様性重視の組織文化の構築をめざして③」, 豊中市地域就労支援事業コーディネーター研修講師, 豊中市生活情報センターくらしかん, 2011 年 6 月 13 日
195. 梁陽日,「ちがいを豊かさに――在日外国人と企業による多民族・多文化共生社会の創造をめざして」, 大阪府商工労働部「公正採用選考人権啓発推進員」新任・基礎研修講師, 大阪府立労働センター, 2011 年 6 月 15 日
196. 梁陽日,「ちがいを豊かさにするグループダイナミックス』, 泉南市人権入門講座 1「豊かな人間関係づくり講座②」講師, 泉南市総合福祉センター, 2011 年 6 月 16 日
197. 梁陽日,「わたしやあなたを活かす聴く力」, 泉南市人権入門講座 1「豊かな人間関係づくり講座③」講師, 泉南市総合福祉センター2011 年 6 月 23 日、於
198. 梁陽日,「マイノリティ女性のエンパワメントと『ケアする人のケア』を考える――ちがいを豊かさに多様性重視のエンパワメントと組織文化の構築をめざして」, 在日大韓基督教会全国教会女性連合会指導者研修講師, シーパル須磨, 2011 年 6 月 28 日
199. 梁陽日,「大切なわたしから始まる　エンパワメントライフ――多様性を尊重する共生社会の創造をめざして」, 泉南市人権入門講座 1「豊かな人間関係づくり講座④」講師, 泉南市総合福祉センター, 2011 年 6 月 30 日
200. 梁陽日,「当事者支援からの課題と展望――支援プロセスでの気づきと対応を考える」, 豊中市若者仕事準備室＆アウトリーチ事業合同研修講師, 豊中市立労働会館, 2011 年 7 月 20 日
201. 梁陽日,「学生・教員のための実践心理Ⅰ」,「学生・教員のための実践心理Ⅱ」, 大阪府専修学校各種学校連合会新任教員研修会講師, 大阪市立総合生涯学習センター, 2011 年 8 月 5 日
202. 梁陽日,「学生・教員のための実践心理Ⅲ」,「不登校生への指導のあり方と教育におけるメンタルサポートを学ぶ」, 大阪府専修学校各種学校連合会新任教員研修会講師, 大阪市立総合生涯学習センター, 2011 年 8 月 8 日
203. 梁陽日,「教育のエンパワメントから『力のある学校』づくりを考える」, 東大阪市立柏田中学校教職員夏季研修講師, アウィーナ大阪, 2011 年 8 月 17 日
204. 梁陽日,「地域連携で創る教育のエンパワメント～“学び・つながり・育む”柏田中学校校区のネットワークづくりを考える～」, 東大阪市立柏田中学校校区教職員研修, 東大阪市立柏田中学校, 2011 年 8 月 30 日
205. 梁陽日,「ちがいを豊かさに――在日外国人と企業による多民族・多文化共生社会の創造をめざして」, 大阪府商工労働部「公正採用選考人権啓発推進員」新任・基礎研修講師, 大阪府立労働センター, 2011 年 9 月 15 日
206. 梁陽日,「私たちは愛されるために生まれた～ちがいを豊かさに私から始まるエンパワメント実現のために～」, 在日大韓基督教神戸教会講演講師, 在日大韓基督教神戸教会, 2011 年 9 月 18 日
207. 梁陽日,「私からはじまるエンパワメント～不登校・梁陽日 ひきこもり等の人たちの支援と展望を考える①～」, 豊中市家庭訪問総合支援士養成講座講師, 豊中市立青年の家いぶき, 2011 年 10 月 5 日
208. 梁陽日,「私からはじまるエンパワメント～不登校・ひきこもり等の人たちの支援と展望を考える②～」, 豊中市家庭訪問総合支援士養成講座講師, 豊中市立青年の家いぶき, 2011 年 10 月 19 日
209. 梁陽日,「信じる力・生きる力～教会女性のエンパワメントを考える～」, 在日大韓基督教会関西地方女性会研修講師, 在日大韓基督教大阪教会, 2011 年 10 月 20 日
210. 梁陽日,「箕面市ひきこもりのこどもを持つ保護者向けサロン①講師」, 於箕面市立萱野中央人権文化センター, 2011 年 10 月 21 日

211. 梁陽日,「私から始まるエンパワメント～共に生きる仲間づくりの学びへようこそ～」, 大阪女学院大学人権教育講座「いじめ」分科会講師於大阪女学院大学, 2011 年 10 月 27 日～28 日
212. 梁陽日,「人権としての若者支援の課題と展望を考える～ちがいを豊かさに『「何とかなる社会』の構築をめざして～」, 大阪市立大学創造都市研究科共生社会創造研究分野＆（財）アジア太平洋人権情報センター合同講演会講師, 大阪市立大学文化交流センター, 2011 年 10 月 29 日
213. 梁陽日,「グループナミックスを活用した集団作り～エンパワメントを基盤にした自立と共生の学校文化をめざして～」, 大阪府専修学校各種学校連合会第 6 回人権ファシリテーター養成講座講師, 大阪市立総合生涯学習センター, 2011 年 11 月 10 日
214. 梁陽日,『ちがいを豊かさに～在日外国人と企業による多民族・多文化共生社会の創造をめざして』, 大阪府商工労働部「公正採用選考人権啓発推進員」新任・基礎研修講師大阪府立労働センター, 2011 年 11 月 16 日
215. 梁陽日,『エンパワメント志向の人権プログラムを学ぶ』, 平成 23 年度大阪府人権教育・啓発指導者養成セミナー第一回講師大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2011 年 11 月 17 日
216. 梁陽日,『プラスのグループダイナミックス（集団力学）づくり～ちがいを豊かさに変える関係・環境を創る～』, 平成 23 年度大阪府人権教育・啓発指導者養成セミナー第二回講師, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2011 年 11 月 24 日
217. 梁陽日,「箕面市ひきこもりのこどもを持つ保護者向けサロン②」講師, 箕面市立萱野中央人権文化センター 2011 年 11 月 25 日
218. 梁陽日,「セルフアウェアネス～ 心と向き合う～エンパワメントを基盤にした助産指導と『ケアする人のケア』をめざして～」,『ケアする人のケア～ワークショップを通してエンパワメント実現の意識化・組織化を学ぶ～』, 全国助産師教育協議会助産学臨床指導者／専任教員研修会大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2011 年 11 月 26 日
219. 梁陽日,『わたしから始まるエンパワメント～多様性重視の組織文化・共生社会の創造をめざして～』, 平成 23 年度大阪府人権教育・啓発指導者養成セミナー第三回講師, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2011 年 11 月 30 日
220. 梁陽日,『エンパワメント志向の人権を学ぶ～多様性重視の組織文化・共生社会の創造をめざして～』,（株）東洋紡労務担当者人権問題推進員研修講師, 在日大韓基督教大阪教会, 2011 年 12 月 2 日
221. 梁陽日,『エンパワメント志向の人権の学びから、CSR・多様性の組織文化創りを考える』, 富士通関西中部ネットテック株式会社役員/幹部社員人権研修講師, 富士通関西中部ネットテック本社, 2011 年 12 月 15 日
222. 梁陽日,「箕面市ひきこもりのこどもを持つ保護者向けサロン③」講師, 箕面市立萱野中央人権文化センター 2011 年 12 月 16 日
223. 梁陽日,『違いを豊かさに/エンパワメント志向の学び創り～グループダイナミックス(集団力学)の視点で多文化共生を考えます～』, 大阪市教育委員会「地域で識字・日本語学習や多文化共生を支えているボランティアのための講座」講師, 市民活動プラザおおさか西館, 2011 年 12 月 17 日
224. 梁陽日,『エンパワメント志向の若者支援の課題と展望について～グループダイナミックス(集団力学)の視点での若者支援を考える～』, コネクションズおおさか（大阪市若者サポートステーション）スタッフ研修講師, 大阪市立青少年センター, 2011 年 12 月 21 日
225. 梁陽日,『「私から始まるエンパワメント～ちがいを豊かさに共に生きる教育を考える～』, 宝塚市 PTA 協議会人権研修講師宝塚市立東公民館, 2012 年 1 月 16 日
226. 梁陽日,「箕面市ひきこもりのこどもを持つ保護者向けサロン④」講師, 箕面市立萱野中央人権文化センター, 2012 年 1 月 27 日
227. 梁陽日,『発達障害の子どもの支援と共に生きる保育園の展開を考える～多様性を尊重する保育と組織文化の創造をめざして～』, 愛信保育園職員研修講師, 愛信保育園, 2012 年 1 月 28 日
228. 梁陽日,『私から始まるエンパワメント～ちがいを豊かさに共に生きる学校をめざして～』, 東大阪市立柏田中学校生徒会リーダー研修講師, 東大阪市立柏田中学校, 2012 年 2 月 6 日
229. 梁陽日,『私から始まるエンパワメント～ちがいを豊かさに共に生きる社会をめざして～』, 大阪市立北中道小

学校 6 年生人権学習講師, 大阪市立北中道小学校, 2012 年 2 月 16 日

230. 梁陽日,『若者居場所工房ぐーてんの活動から相談・支援の課題と展望を考える』, 豊中市自立・就労にかかわる相談・支援に関する研修講師, 豊中市生活情報センターくらしかん, 2012 年 2 月 20 日

231. 梁陽日,「私から始まるエンパワメント～エンパワメントを基盤にした臨床指導と『ケアする人のケア』をめざして～」,「『ケアする人のケア』～ワークショップを通してエンパワメント実現の意識化・組織化を学ぶ～」, 独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック内看護教員フォローアップ研修会講師, 独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック事務所, 2012 年 3 月 3 日

232. 梁陽日,「自分を大切にするライフスタイルを共に創る～支え合いによるエンパワメント実現の学び～」, 豊中市ひきこもり支援のためのピアサポーター体験セミナー講師, 豊中市立とよなか男女共同参画推進センター, 2012 年 3 月 9 日

233. 梁陽日, 大阪市発達障害青年の実態調査・研究報告フォーラム/パネルディスカッションパネラー, 大阪市中央公会堂, 2012 年 3 月 10 日

234. 梁陽日,『ちがいを豊かさに！！～子どものエンパワメントと共に生きる学校文化の創造をめざして～』, 東大阪市立楠根中学校教職員研修講師, 東大阪市立楠根中学校, 2012 年 3 月 11 日

235. 梁陽日,『ちがいを豊かさに～在日外国人と企業による多民族・多文化共生社会の創造をめざして』, 大阪府商工労働部「公正採用選考人権啓発推進員」新任・基礎研修講師, 大阪府立労働センター, 2012 年 3 月 14 日

236. 梁陽日,「ワークショップによる問題提起～エンパワメントを基盤にした『支援と人権』の連結をめざして～」, 一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター「『支援と人権』を考えるワークショップ－当時者の人権をまもるため」講師, アジア・太平洋人権情報センター事務所, 2012 年 3 月 18 日

237. 梁陽日,『障害者のエンパワメント支援から就労の課題と展望を考える』, 大阪市職業リハビリテーションセンターワーキングスキル科職員研修講師, 大阪市職業リハビリテーションセンター, 2012 年 3 月 21 日

238. 由井秀樹,「日本における人工授精史の検討」, 日本科学史学会西日本 2011 年度中国支部年会・第 15 回西日本研究大会, 広島大学, 2011 年 12 月 10 日

239. 吉田幸恵,「韓国ハンセン病施策の実情――日本統治下から解放までの小鹿島」, 2011 年度グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「障害学研究交流セミナー」(主催：京畿大学・立命館大学生存学研究センター), 韓国・ソウル, 2011 年７月９日

240. 吉田幸恵,「統治下朝鮮におけるハンセン病政策成立過程に関する一考察」, 2011 年度グローバル COE「生存学」創成拠点　国際プログラム「第 2 回障害学国際研究セミナー」(主催：韓国障害学研究会・立命館大学生存学研究センター), 立命館大学, 2011 年 11 月 9 日

241. 吉田一史美,「『里親』の近代化」, 第 3 回生命倫理研究会, 立命館大学, 2012 年 2 月 23 日.

242. 吉田一史美,「『パーソン論』を受容する日本の歴史的社会的背景について」, 第 20 回出生をめぐる倫理研究会, 立命館大学, 2012 年 3 月 3 日.

243. 村上潔,「成長戦略の道具とならない女性の「働き」とは？」, 京都自由大学 2011 年度特別講座, 京都, 2011 年７月 30 日

244. 村上潔,「主婦の労働実践としてのワーカーズ・コレクティブの岐路――「依存」と「包摂」のあいだで」, 労働問題・不安定生活・保証所得をめぐる国際的研究, 京都・立命館大学, 衣笠キャンパス創思館 416

245. 村上潔,「｢ワーキング・プア」はみんなの問題――働き方・生き方をどう（助けあいながら）変えていけるのか」, 大阪府立西成高等学校 2011 年度 2 年生人権総合学習講座, 大阪・西成高校, 2011 年９月 30 日

246. 村上潔,　2012/01/15　［報告］「働ききれない若者の労働運動が生み出す世代・地域・運動のつながり――京都の〈ユニオンぼちぼち〉の活動から」, ナゴヤ駅西 サンサロ＊サロン・オープンミーティング, 愛知・名古屋, 2012 年１月 15 日

247. 村上潔, 「「消費者」から先に進んだ主婦たちの協同労働実践から 30 年――顕在化した課題の指摘」, 同時代史学会第 3 回関西研究会, 大阪・関西学院大学, 2012 年 2 月 19 日

248. 長谷川唯,「日本の独居 ALS 患者が地域生活で必要な制度について」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日

249. 長谷川唯,「地域生活を送る重度障害者の制度的諸課題――独居 ALS 患者の生活支援活動を通して」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」, 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
250. 長谷川唯・山本晋輔,「重度身体障害者に対する IT コミュニケーション支援の諸課題と可能性」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
251. 長谷川唯・安孝淑,「重度障害者の地域生活」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」, 京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
252. 片山知哉（林義拓名義),「日本型 LGBT 共生社会の作り方」セクシュアルマイノリティを理解する週間公式シンポジウム, 東京・明治学院大学, 2011 年 5 月 14 日
253. 渡辺克典・後藤悠里,「中部圏の障害者運動――1960 年代から 1980 年代のゆたか福祉会、わっぱの会、AJU を中心に」　立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
254. 渡辺克典,「ゴフマン再検討の課題」, ゴフマンの方法論を再検討する研究会 2011 年度第 1 回 研究会, 京都・立命館大学,　2011 年 6 月 17 日
255. 渡辺克典,「相互行為論とコミュニティ通訳」, 多言語コミュニティ通訳ネットワーク（mcinet）第 21 回事例検討会, 京都・立命館大学,　2011 年 6 月 18 日
256. 渡辺克典,「言語障害者の当事者運動――吃音者「言友会」の歴史と現在」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
257. 渡辺克典,「中途障害を語り紡ぎ、それを＜学＞とすること――『ボディ・サイレント』を読む」, 障害学研究会 第 3 回研究会, 京都・立命館大学, 2011 年 7 月 18 日
258. 渡辺克典,「愛知の／から障害者運動を考える」, 障害学会第 8 回大会シンポジウム, 愛知・愛知大学. 2011 年 10 月 2 日
259. 渡辺克典,「吃音の社会文化的研究とその影響」立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
260. 渡辺克典,「（指定討論者）デモクラシーのためのアーキテクチャ、アーキテクチャをめぐるデモクラシー」, 第 25 回グローバル社会理論フォーラム, 愛知・名古屋大学, 2011 年 11 月 29 日
261. 渡辺克典,「（司会）観光、大衆消費、ナショナリズム――日独比較への試論」, 東海社会学会第 6 回研究例会, 愛知・椙山女学園大学,　2011 年 12 月 3 日
262. 渡辺克典,「言友会の歴史と現在――吃音者宣言から SHG、社会的支援への取り組みへ」, 障害学研究会 第 8 回研究会, 京都・立命館大学, 2012 年 2 月 3 日
263. 渡辺克典,「吃音者による当事者運動の歴史とこれから」, 第 43 回くすのき研, 大阪・大阪市立青少年センター・ココプラザ,　2012 年 2 月 9 日
264. 森下直紀,「水俣病史における公害被害者への社会的抑圧の構図」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
265. 森下直紀,「水俣病史における公害被害者への社会的抑圧の構図」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
266. 安孝淑,「韓国の ALS 患者の意思伝達道具関連制度及び状況」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
267. 安孝淑,「日本の ALS 患者の意思伝達方法について」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
268. 有松玲,「ゆめ風基金――設立背景と理念」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
269. 有松玲,「ゆめ風基金――東日本大震災における活動」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
270. 有松玲,「障害者制度改革の現状と課題」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第

２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
271. 有松玲,「障害者手帳制度とサービス認定」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
272. 堀智久,「障害者・家族の運動の歴史――高度経済成長期／国際障害者年以降」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
273. 堀智久,「日本の障害者運動と家族」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
274. 白杉眞,「わが国における自立生活センターの課題と今後の動き」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
275. 山本晋輔,「日本において一人で暮らす ALS 患者の住空間」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
276. 酒井美和,「ALS 患者におけるジェンダーと人工呼吸器の選択について」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
277. 甲斐更紗,「日本における聴覚障害児をもつ家族への心理的支援」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
278. 李旭,「日本における福祉用具制度の現状と問題」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
279. 田尻雅美,「水俣病被害の地域集積性と補償・救済制度――医学モデルからの脱却に向けて」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
280. 利光恵子,「日本における受精卵診断導入をめぐる論争――産婦人科医団体と障害者団体・女性団体の議論を中心に」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
281. サトウタツヤ,「死より悪い QOL など無い――EQ5D の QOL 算出の仕組みと目的を批判する」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム「第２回 障害学国際研究セミナー」京都・立命館大学, 2011 年 11 月 9 日
282. 堀田義太郎,「日本の四肢麻痺障害者情報通信技術支援――歴史・現状・課題」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
283. 高橋慎一,「性同一性障害は「障害」か？――医療と社会問題の間にある問い」, 立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点国際プログラム, 韓国・ソウル市, 2011 年 7 月 9 日
284. 小西真理子,「What is Enabling: A Study of Support Groups of the Tohoku Earthquake」, The 8th International Conference of the Faculty of Core Ethics and Frontier Sciences, Kyoto, Japan, Soshikan Conference Room, Ritsumeikan University, 2012 年 3 月 22 日

以上

2011 年度　研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
研究センター長名	谷　徹　（文学部・教授）

Ⅰ．研究実績の概要　(公開項目)

本年度（2011年度）の個別の研究活動を、時系列に沿って記述する。

5月～6月に、リトアニア大学の研究者 GiedreSmitiene 氏が来日し、本研究センターを中心にして、研究活動を行った。本研究センターは、その研究を支援するとともに、氏の研究テーマのひとつである和辻哲郎に関するワークショップを開催した。

7月には、同様に、台湾・高雄の国立中山大学の研究者、廖欽彬氏が来日し、本研究センターを中心にして、研究活動を行った。本研究センターは、その研究を支援するとともに、氏の研究テーマのひとつである田邊元に関するワークショップを開催した。この時、科研費プロジェクトのメンバーである山形大学の田口茂氏も、パネリストとして参加した。

９月には、センター長（谷）ほか２名のメンバー（小林琢自、青柳雅文）が、スペイン・セゴヴィアでの Organization of Phenomenological Organizations の大会（OPO Ⅳ）に参加し、それぞれ基調講演、研究発表を行った。

10月には、東洋大学の武内大氏を招待して、間文化現象学講演会を開催した。

11月には、科研費による間文化現象学プロジェクトと連携し、３月の震災によって延期された第3回と、第4回を合同させる形で、第3回＆第4回間文化現象学シンポジウムを開催した。テーマは「精神と共存」、提題者は、野間俊一氏（京都大学）、Lau Kwok-ying 氏（香港中文大学）、村井則夫氏（明星大学）、Georg Stenger 氏（ウィーン大学）、Lanai Rodemeyer 氏（デュケイン大学）であった。

3月初旬には、間文化現象学ワークショップを開催した。テーマは「間文化性の未来に向けて――精神／共存から時間・歴史へ」、提題者は、小林琢自氏（立命館大学）、村上靖彦氏（大阪大学）、廣瀬浩二氏（筑波大学）、吉川孝氏（高知県立大学）、古荘真敬氏（東京大学）であった。

3月中旬には、GesellschaftfürinterkulturelleGermanistik (GiG)の大会を共催した。

3月には、科研費および学内予算によって展開されてきた間文化現象学の3年間（2008～2010年度）の成果を「報告書」の形にまとめあげた。

その他、院生メンバー（池田裕輔）の海外研究を支援した。

今年度の研究活動の全体については、３月の震災による研究活動の延期に対応して、今年度の企画との合同シンポジウム（11月）を開催することによって、かつまた、この合同シンポジウムを補い、新たな展開を図るためのワークショップ（3月）を開催することによって、一定程度まで、災いを転じることができたと考える。しかし他方で、震災の問題は、現代の文明・文化に絡んでおり、間文化現象学研究にとっても避けて通れない問題であることが、より鮮明になったと言えよう。これについては、2012年度の研究テーマ（時間）のなかに組み込まれるだろう。

また、「報告書」の作成は、成果――すでに一部は雑誌などをつうじて公刊されているが――を発信することにつながった。

以上のように、今年度の研究計画は、新たな課題を含みつつも、大きな成果をともなって遂行された。

Ⅱ．研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 亀井大輔,「二つの痕跡の交差――デリダとレヴィナスのあいだで」,『倫理学研究』, 関西倫理学会, 第 41 号, pp. 102-112, (2011)
2. 青柳雅文,「内在的批判への道程――アドルノのイギリス滞在期間におけるフッサール研究――」,『現象学年報』, 日本現象学会, 第 27 号, pp. 97-104, (2011)
3. 池田裕輔,「アンリとフィンクにおける現象概念の展開について」,『ミシェル･アンリ研究』第 1 号, pp. 115-135, (2011)
4. 池田裕輔, 「前期フィンクにおける間主観性の現象学」, 『立命館哲学』, 立命館大学哲学会, 第 23 集, pp. 39-66, (2012)

図書

なし

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. Toru Tani, “Das Ich, der Andere und die Urtatsache”, *Aufnahme und Antwort, Phänomenologie in Japan*, Königshausen & Neumann, pp. 97-117, (2011)
2. 谷徹, 「暴力の現象学」, 『応用哲学を学ぶ人のために』, 世界思想社, pp. 136-147, (2011)
3. Toru Tani, “Interkulturalität, Krisis und Phänomenologie”, *Globalisierung des Denkens in Ost und West*, Verlag Traugott Bautz GmbH, S. 83-101, (2011)
4. 谷徹, 「身体と混血」, 『西田哲学会年報』第８号, 西田哲学会（燈影舎）, pp. 50-68, (2011)
5. 谷徹, 「危機における生と生活世界」, 『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第 625 号, pp, 66-78, (2012)
6. 亀井大輔,「歴史・出来事・正義――後期デリダへの一視点」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第 625 号, pp. 115～126, (2011)
7. 亀井大輔,「哲学の言語と翻訳――デリダにおける翻訳の問題」,『科研費基盤研究 (B)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』, pp. 483～494, (2012)
8. 青柳雅文,「コルネリウスの思想とフランクフルト学派への影響」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第 625 号, pp. 261-270, (2012)
9. 青柳雅文,「管理と逸脱――管理社会における間文化性」,『科研費基盤研究 (B)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』, pp. 288～301, (2012)
10. 佐藤勇一, 「出来た作品と完成した作品――ボードレール、マルロー、メルロ＝ポンティ――」, 『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第 625 号, pp. 250-260, (2012)
11. 神田大輔, 「フッサール現象学における〈厳密な学としての哲学〉という理念のなす要求について」, 『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第 625 号, pp. 236-249, (2012)
12. 田邉正俊,「ハイデガーにおける気づかい (Sorge) をめぐる一考察」,『立命館文学』, 立命館大学人文学会, 第 625 号, pp. 271-282, (2012)
13. Yusuke Ikeda, “Vergegenwärtigung und Bild- Eugen Finks BeiträgezurPhänomenologie der Welt und Erneuerung des Phänomenbegriffes”, *Philosophy, Culture, History*, Russian State University for the Humanities, pp. 98-103, (2011)（※ドイツ語論文のロシア語訳が掲載されたが、便宜上ドイツ語原文の題目と、英語の書名を記す）
14. 池田裕輔, 「世界、有限性、構成――三十年代フィンク思想の世界性概念、有限性の問題および構成概念についての考察」, 『立命館文学』, 第 625 号, 立命館大学人文学会, pp. 318-331, (2012)

15. Yusuke Ikeda, “Selbstgegebenheit und „Erleben des Erlebnisses” - eineVorgeschichte des Problems des „Erscheinensalssolchen””, 『科研費基盤研究 (B)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』, pp. 197-205, (2012)

図書

なし

２）学会発表

①海外での発表

1. Toru Tani, “Life and the Life-world in Crisis”, The Organization of Phenomenological Organizations, OPO VI World Conference on Phenomenology: Reason and Life, The Responsibility of Philosophy, IE Universidad, Segovia, Spain, 2011年9月20日

2. Masafumi Aoyagi, “Phenomenological Antinomy and Holistic Idea -Adorno’s Husserl-studies and influences from Cornelius”, The Organization of Phenomenological Organizations, OPO VI World Conference on Phenomenology: Reason and Life, The Responsibility of Philosophy, IE Universidad, Segovia, Spain, 2011年9月20日

3. Takuji Kobayashi, “The Rational Construction and the Life-World on Husserl's Phenomenology”, The Organization of Phenomenological Organizations, OPO IV World Conference on Phenomenology: Reason and Life. The Responsibility of Philosophy, Segovia, Spain, 2011年9月20日.

4. Yusuke Ikeda, “Die Verwandlung des Phänomenbegriffes im Hinblick auf die Tradition der Logik- Ein Vor-Fragen anhand des Weltbegriffes bei Kant und Husserl”, Die Institution der Philosophie, University of Wuppertal, Germany, 2011年5月6日

5. Yusuke Ikeda, “Phenomenology of intersubjectivity in the early Fink”, 5thSimposiaPhaenomenologicaAsiatica, Chinese University of Hong-Kong, Hong-Kong, 2011年8月4日

6. Yusuke Ikeda, “Vergegenwärtigung und Bild - Eugen Finks Beiträge zur Phänomenologie der Welt und Erneuerung des Phänomenbegriffes”, Philosophy, Culture, History, Russian State University for the Humanities, Moscow, Russian Federation, 2011年12月12日

7. Yusuke Ikeda, “Phänomenologie der Welt und Phänomenbegriff in der frühen Philosophie Eugen Finks”, Contemporary Problems on the Ontology, Saint Petersburg State University, Russian Federation, 2011年12月20日

②国内での発表

1. 谷徹, 「間文化現象学――日中欧の文化的混血のなかで」, 第３回日中哲学フォーラム, 「日中の哲学者は現代と世界をどう捉えるか」（日本哲学会・中国社会科学院哲学研究所）, 慶應義塾大学（日吉キャンパス）, 2011年11月19日

2. 小林琢自, 「尾高朝雄と超越論的現象学――文化的対象性の現象学的考察」, 間文化現象学研究会, 「間文化現象学プロジェクトワークショップ間文化性の未来に向けて―精神／共存から時間・歴史へ―」, 立命館大学, 2011年3月10日

3. 田邉正俊, 「ケアリングの基礎づけをめぐる一考察――ハイデガーとメイヤロフを手がかりとして」, 日本現象学会, 第33回研究大会, 立命館大学, 2011年11月5日

4. 池田裕輔, 「フィンクにおける超越論的仮象について」, 日本現象学会, 第33回研究大会, 立命館大学, 2011年11月6日

5. 池田裕輔, 「前期フィンクにおける間主観性の現象学」, 立命館哲学会, 立命館大学, 2011年11月26日

３）省庁、学会、財団などの表彰

なし

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 科学研究費補助金 基盤研究（B）(H20～24)「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」，谷徹（代表）計 390 万円（2011 年度）

５）特許

①出願

なし

②取得

なし

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

なし

②講演会

なし

③その他

1. 張　燦輝（**佐藤勇一・青柳雅文**訳），「中国と西洋の愛の観念――〈エロス〉と〈情〉の現象学に向けて――」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 100-124，（2012）

2. ペク・ジン（**青柳雅文**訳），「風土、持続可能性、空間の倫理――和辻哲郎における文化的風土学と住宅建築――」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 471-482，（2012）

3. エマニュエル・ドゥ・サントベール（**佐藤勇一**訳），「メルロ＝ポンティ現象学の統一性と連続性：未公刊草稿の観点」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 8-27, (2012)

4. マウロ・カルボーネ（**佐藤勇一**訳），「沈黙、さまざまな沈黙」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 460-470, (2012)

5. トーマス・ニーノン（**小林琢自**訳），「生活世界における文化的差異の源泉と解決をめぐるフッサールの思想」，『文部科学省科学研究費補助基盤研究（B）　「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」　研究成果報告書』, pp. 508-519, (2012)

6. カレル・ノヴォトニー（**池田裕輔**訳），「「現出すること」の所与性という問題――現象性をめぐるヤン・パトチカとミシェル・アンリの構想について」，『科研費（基盤 B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 206-233，(2012)

7. カレル・ノヴォトニー(**池田裕輔**訳)，「ヨーロッパとポスト・ヨーロッパ――ヤン・パトチカの哲学的反省における」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 258-273，(2012)

8. ジャコブ・ロゴザンスキー（**亀井大輔**訳），「肉と時間　触覚的交差配列の現象学のために」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 42-49，(2012)

9. ピエール・ロドリゴ著（**亀井大輔**訳），　「芸術、地平、「浮かんでいる世界（浮世絵）」」，『科研費基盤研究（B）「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」研究成果報告書』，pp. 483-494，(2011)

10. ビヨルン・ソルステインソン（**亀井大輔**訳），「差延から正義へ――デリダとハイデガーの「アナクシマンドロスの言葉」」，『現象学年報』，日本現象学会，第 27 号，pp. 49-61，(2011)

以上

2011 年度　研究センター事業報告書

研究センター名	立命館大学ゲーム研究センター
研究センター長名	上村 雅之 (映像学部･教授)

Ⅰ. 研究実績の概要 (公開項目)

【1】定例研究会およびカンファレンスの主催

本センターは、これまで学内の複数学部・複数キャンパスに点在してきたゲーム関連研究者（教員、大学院生、学部生）の連携と情報交換を促進する目的で設立されたが、そのいわば「屋台骨」となるのが、毎月一回程度の頻度で開催される「定例研究会」である。本センターでは、2011 年度に七回の定例研究会を開催した。それを通じて、当初の目標であった他キャンパス（BKC 理工学部）との連携（第６回）や、大学院先端総合学術研究科（第４回、第５回）および映像学部（第２回、第３回）の教学との連携が達成された。以下に各回の詳細を示す。

(1)第 1 回定例研究会
日時:2011 年 4 月 12 日(火)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート･リサーチセンター
報告者:尾鼻崇
報告内容:｢ビデオゲーム展――電子化された｢遊び｣の世界｣の報告
(2)第 2 回定例研究会
日時:2011 年 5 月 17 日(火)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート･リサーチセンター
報告者:岡田翔･片山貴文(映像学部四回生)
報告内容:ビデオゲーム関連研究文献調査講読会#01
(3)第 3 回定例研究会
日時:2011 年 6 月 28 日(火)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート･リサーチセンター
報告者:立命館大学映像学部 上村雅之･尾鼻崇ゼミナール生
報告内容:市販玩具を利用した新たな遊びの創作とその映像化の試み
(4)第 4 回定例研究会
日時:2011 年 7 月 27 日(水)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート･リサーチセンター
報告者:小孫康平(先端総合学術研究科一貫制博士課程六回生)
報告内容:ビデオゲームに関する心理学的研究――ゲームプレイヤーの心理状態とボタン操作行動を中心に
(5)第 5 回定例研究会
日時:2011 年 11 月 15 日(火)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート･リサーチセンター
報告者:福田一史(先端総合学術研究科一貫制博士課程五回生)
報告内容:ビデオゲーム産業のイノベーション――アクター・ネットワーク理論の視座から
(6)第 6 回定例研究会
日時:2011 年 12 月 16 日(金)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート･リサーチセンター
報告者:立命館大学理工学部 道関隆国研究室ゼミナール生

報告内容:マイクロパワーシステム研究室の紹介
(7)第 7 回定例研究会
日時:2012 年 3 月 23 日(金)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)学而館
報告者:吉田寛
報告内容:ゲームにおける行為と問題解決――ゲームの〈リアリティ〉再考のために

また、本センターでは年に(最低)一度の「カンファレンス」を開催して、学外の研究者や技術者、実務家等との連携を図ることを目標にしているが、2011 年度には「研究の国際化推進プログラム」の助成を得て、さらに立命館大学アート・リサーチセンターの共催のもと、「ゲーム研究の現在形」というテーマでバイリンガルのカンファレンスを行った。ゲーム研究の分野はとりわけ海外の研究者の関心も高いことから、本センターとしては今後もカンファレンス等の機会を通じて研究成果の国際発信を行っていきたいと考えている。

(8)立命館大学ゲーム研究センター(RCGS)キックオフカンファレンス〈ゲーム研究の現在形〉
(主催:立命館大学ゲーム研究センター/共催:立命館大学アート・リサーチセンター)
日時:2011 年 10 月 14 日(金)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)アート・リサーチセンター
内容:
オープニングスピーチ/センター紹介(上村雅之)
カンファレンス 1「ゲーム研究の現在――その課題と展望」(パネリスト:井上明人、七邊信重、高橋志行、ファシリテーター:吉田寛)
カンファレンス 2「ビデオゲームとグローバリゼーション――文化/産業/研究」(パネリスト:ヤッコ・スオミネン、ジェフリー・マーティン・ロックウェル、中村彰憲、ファシリテーター:稲葉光行)
クロージングスピーチ(細井浩一)

【2】本学他研究センターや学外研究組織との連携企画
本研究センターは 2011 年度に、立命館大学国際言語文化研究所との共同企画による「グローバリゼーションのなかのビデオゲーム」というバイリンガルのシンポジウムを開催した他、日本デジタルゲーム学会(DiGRA JAPAN)の年次大会を共催した。学内の他研究センターや学外の研究組織との連携は、今後も本センターの中核的事業として続けていきたいと考えている。

(1)立命館大学国際言語文化研究所連続講座「歴史のなかの感覚変容」第 4 回
(主催:立命館大学国際言語文化研究所/共催:立命館大学ゲーム研究センター)
日時:2011 年 10 月 28 日(金)
場所:2011 年度立命館大学(衣笠キャンパス)末川記念会館
内容:「グローバリゼーションのなかのビデオゲーム」(報告者:ヤッコ・スオミネン、コメンテーター:天野圭二、コーディネーター:吉田寛)

(2)日本デジタルゲーム学会 2011 年次大会「デジタルゲーム研究の地平~ゲームある日常のこれまでとこれから~」
(主催:日本デジタルゲーム学会/共催:立命館大学ゲーム研究センター)
日時:2012 年 2 月 25 日(土)~26 日(日)
場所:立命館大学(衣笠キャンパス)

【3】研究プロジェクトの推進
本センターは、ゲーム研究を中心テーマとする日本国内で最初にして唯一の学術機関として、ゲーム関連企業や IT 関連企

業、教育機関、政府・公的機関等と連携したプロジェクトや委託研究を推進することを設置理念に掲げている。2011 年度は以下の研究プロジェクトを行った。

(1)米アタリ訴訟の裁判記録の整理と研究
委託元:任天堂株式会社
プロジェクト推進者:宮脇正晴
同社との秘密保持契約により、研究成果の詳細はここでは公開しない。

(2)文化庁メディア芸術祭京都展
委託元:文化庁、京都芸術センター
プロジェクト推進者:吉田寛、渡辺修司
期間:2011 年 11 月 5〜6 日
場所:京都国立近代美術館
平成 23 年度文化庁メディア芸術祭京都展のエンターテイメント部門のモデレーターを吉田寛が務め、「ゲームってアートなの？――エンターテイメントのいま・これから」を開催した。その中で開催されたシンポジウム「メディア芸術の中のゲーム――これまでとこれから」には渡辺修司がパネリストとして参加した。

(3)防災教育コンテンツとしてのゲームデザインとその制作
連携先:関西学院大学サイエンス映像研究センター(SVR)、独立行政法人防災科学技術研究所ほか
プロジェクト推進者:渡辺修司、細井浩一
稲葉光行が責任者を務める「ゲームの社会的・教育的応用可能性の研究」のサブプロジェクト②として位置づけられる。
関西学院大学サイエンス映像研究センター(SVR)、独立行政法人防災科学技術研究所、および複数の民間企業と本センターの共同プロジェクトとして、子どもから大人まで世界中の誰もが利用できる汎用的な防災学習の教材であり、災害リスクという避けられない不確実性と上手につきあうためのリスクリテラシーについて効果的に学べる電子防災図鑑(防災マルチプル電子図鑑)を共同開発する。今年度は、RCGS が担当するゲームコンテンツ部分について、プリミティブイメージの企画書を完成させ、共同開発チームと検討を行った。また、これらの共同研究に伴う環境を整備するため、「立命館大学ゲーム研究センターと関西学院大学サイエンス映像研究センターとの学術交流協定」を 2012 年 3 月 5 日に締結した。

(4)ゲームニクスの教育教材における効果の研究
委託元:株式会社ベネッセコーポレーション
プロジェクト推進者:細井浩一、サイトウ・アキヒロ
稲葉光行が責任者を務める「ゲームの社会的・教育的応用可能性の研究」のサブプロジェクト③として位置づけられる。
株式会社ベネッセコーポレーションとの産学協同により過年度より実施しているゲームニクス理論による学習行為の促進についての研究テーマを継続し、(1)学習者をアフォードする次世代型メニュー画面のユーザーインタフェイス、ゲームシステム、およびポイントシステムの開発、(2)それに基づき作成したプロトタイプの効果検証、(3)当該開発でのゲームニクス効果についての検証と考察、について実施した。当該研究成果が同社製品「2012 年版得点力学習DSシリーズ」に搭載されることになったことに伴い、以後の研究が同社との委託研究に発展したため、研究成果の詳細については受託研究契約書第 10 条の定めに基づきここでは公開しない。本委託研究の成果に基づき、「2012 年版得点力学習DSシリーズ」は 2012 年 3 月に製品化されている。

(5)快適さ・楽しさの設計技術に関る研究
委託元:株式会社 KDDI 研究所
プロジェクト推進者:細井浩一、サイトウ・アキヒロ
稲葉光行が責任者を務める「ゲームの社会的・教育的応用可能性の研究」のサブプロジェクト④として位置づけられる。
株式会社 KDDI 研究所からの委託研究であり、本研究チームが蓄積しているゲーム性の社会的応用研究の成果を、携帯電

話、スマートフォン、及びタブレット端末等の機器操作に快適さ、楽しさを意図的に作り出す設計技術に応用するための基礎研究を実施した。具体的には、画面（ディスプレイ）の奥行き方向の情報を積極的に利用した情報提示方法とそれを扱う新たな 3D ユーザーインタフェイスの研究開発を行い、新たな知見と複数の要素技術を成果として提出した。研究成果の詳細については受託研究契約書第7条の定めに基づきここでは公開しない。

(6) 文化学習のためのインタラクションデザインと学習実践
プロジェクト推進者：稲葉光行、細井浩一、ラック・ターウォンマット、中村彰憲、上村雅之
稲葉光行が責任者を務める「ゲームの社会的・教育的応用可能性の研究」のサブプロジェクト①として位置づけられる。本プロジェクトでは、科学研究費・基盤 B「メタバースを利用した日本文化に関する『状況学習』の支援環境に関する総合的研究」（代表：稲葉光行）のグループと共同で、米国リンデンラボ社が運営するメタバース提供サービス SecondLife を基盤とした、文化学習のためのインタラクションデザインと学習実装に取り組んでいる。これまでに、SecondLife 内に、着物の仮想展示空間や能楽体験のための舞台を設置し、また神社の境内といった日本文化に関わる多様なコンテンツや建物を構築してきた。
本年度は、これらの環境を用いて、外国人参加者（留学生および研究者）と日本人参加者のペアによる学習実験に取り組んだ。この実験は、神社参拝の典型的なシナリオに基づいて、参加者が共同でアバターを操作しながら、具体的な参拝の作法を体験し、またその作法の意味や背景について語り合うというスタイルで行われた。実験後のインタビューでは、外国人参加者から「本ではわからなかった日本の習慣がよく理解できた」という意見があった。日本人参加者からは、「現実に近い環境で説明をすることで自文化がより深く理解できた」という意見が出された。さらに、仮想空間内でのアバター操作やおみくじによる占いといったプロセスが、ネットゲームでの遊びに近い感覚を生み出し、「ゲームを使って日本文化を楽しく学ぶことができた」という意見を述べる参加者もいた。
これらの結果から、メタバースを媒介としたネットゲーム的なインタラクションが、「楽しみながら文化を学ぶ」ことを支援する環境として大きな可能性を持つことが示唆された。今後も、メタバースを媒介とした多様な文化学習実践を行うことで、仮想空間における没入感やゲーム性を生かした新しい文化学習モデルの構築に取り組んでいく予定である。

(7) ゲームアーカイブ参照モデルの確立と暫定アーカイブの構築
プロジェクト推進者：細井浩一、上村雅之、中村彰憲、尾鼻崇、福田一史
細井浩一が責任者を務める「ゲームのアーカイブ構築」のサブプロジェクト①として位置づけられる。過年度より継続して研究を進めてきたゲームアーカイブの基本デザイン（アーカイブの対象、目的、手段の組み合わせを構成する参照モデル＝reference model）について、それに基づく暫定アーカイブの構築を進めつつ検証を行った。暫定アーカイブの中核をなすのは、ゲーム関連のメタデータ、ソフトウェア情報、資料、素材、映像等を総合したデータベースとして構築している「Ludoly」であり、今年度もさらなるデータ追加を行い総タイトル数は3000を超過した。
また、この Ludoly に独自のデータ項目である外部情報（ユーザーの投稿動画、通販サイトのレビュー等）を情報学的に集合知として位置づけた場合の、ゲームアーカイブにとっての意味、有用性、課題について検討を行い、ゲームアーカイブの包括的なモデル提示とともに学術論文として取りまとめた。
以上の活動、およびこれまでのゲームアーカイブ研究の総合的な蓄積を踏まえて、デジタルゲームの文化的な背景、プレイヤーの評価や感覚なども同時にアーカイブ化する方法や、知的財産権保護のためのデータベース設計、国際的なゲームアーカイブのネットワーク構築などを盛り込んで、新しい次元のゲーム保存および利活用を目指す方向性を整理した提案にまとめ、RCGS として他の共同事業者とともに文化庁の「平成 24 年度メディア芸術デジタルアーカイブ事業」に応募し、採択された（2012 年 3 月 29 日）。

(8) 国際的なゲームアーカイブの動向と日米欧連携の可能性
プロジェクト推進者：中村彰憲、細井浩一
細井浩一が責任者を務める「ゲームのアーカイブ構築」のサブプロジェクト②として位置づけられる。国際的なゲームアーカイブ（Game Preservation）の動向について、フィールドワークおよびインタビューを含めた現地調査を行い、それぞれの取り組みの特徴や背景について研究するとともに、RCGS でのゲームアーカイブ構築との連携、協力可能性を検討した。今年度は、過年度にすでに調査を実施の上人的ネットワークを構築している米国・スタンフォード大学に続いて、文化庁「メディア芸術に

関する海外先行事例調査」として、「英国・国立ビデオアーカイブ(NVA)」について集中的に現地調査を行った。この調査を通じて、(1)所在地であるブラッドフォード市がユネスコ創造都市スキームにおいて「映画都市」の認定を受けることも含めて、「メディア」の歴史を体現する地として専門の施設「国立メディア博物館」を地元大学とともに設置してきたこと、(2)ビデオゲームが、英国における映画、テレビ、映像メディアの発展の大きな流れの中で、最も新しい「ニューメディア」としての位置づけを与えられ、インターネットやホームコンピューティングの歴史と並列して収集されていること、(3)「メディア」としてのゲームという位置づけを先行させせることによって、大英図書館が保存すべき図書、文字情報としてのゲーム文化と産業の記録に対して、物理的なゲームハードとソフトの収集保存については、専門機関としての国立ビデオゲームアーカイブが対置され、英国全体としてゲームについて必要な収集と保存のための道筋が明確になりつつこと、等が知見として得られた。

また、調査を通じて、同国のゲームアーカイブを推進してきた主要組織およびキーパーソンとのネットワークを構築し、先の米国とあわせて、ゲームアーカイブの成り立ちと現状、将来についての各国の取り組みの相違は相違としつつ、相互の現状についての理解を深め、より包括的なゲームアーカイブの構築(ゲームアーカイブ・アライアンス)を展望したグローバルな議論とアクションを開始する条件を整えることができた。

【4】海外からの客員研究員の受け入れ

本センターは、ゲーム研究を希望して来日する海外の研究者を積極的な受け入れを行っている。2011 年度は以下の二名を海外からの客員研究員として受け入れた。

(1)ヤッコ・ヘイッキ・スオミネン(Jaakko Heikki Suominen)
所属:トゥルク大学(フィンランド)教授
受入期間:2011 年 9 月 1 日～2012 年 3 月 31 日
(2)ジェフリー・マーティン・ロックウェル(Geoffrey Martin Rockwell)
所属:アルバータ大学(カナダ)教授
受入期間:2011 年 10 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

１）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 尾鼻崇,「GAME&WATCH」のビデオゲーム史的視座——ルール・サウンド・インターフェイス」,『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 8 巻, pp.87～100, (2012)
2. 福田一史, 「ビデオゲーム開発企業による創発的イノベーションと戦略形成」, 『コア・エシックス』, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 第 8 巻, pp.363-374, (2012)
3. 福田一史, 「ビデオゲーム産業におけるイノベーションと企業家の役割——ベネッセコーポレーションのデジタル教材事業を事例として」, 『生存学』, 生活書院, 第 5 号, pp.103-118 , (2012)
4. Inaba, M., Tamai, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., and Nakamura, A., “Implementing Situated Learning of Japanese Traditional Culture in 3D Metaverse,” Proceeding of Digital Humanities Australia 2012, p.64, Canberra, Australia, Mar. 26-28, 2012.
5. 破田野智己, 斎藤進也, 山田早紀, 滑田明暢, 木戸彩恵, 若林宏輔, 山崎優子, 上村晃弘, 稲葉光行, サトウタツヤ,「政策決定過程の可視化と分析にむけて—議論過程のシミュレーションとその KTH キューブによる表現—」, 『立命館人間科学研究』, No. 24, pp. 63-72, 2011 年 12 月.
6. Tamai, M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., and Nakamura, A., “Constructing Situated Learning Platform for Japanese Language and Culture in 3D Metaverse,” Proceedings of 2nd International Conference on Cultural and Computing (Cultural and Computing 2011), pp. 189-190, Kyoto, Japan, Oct. 20-22, 2011.

7.Kido, A., Wakabayashi, K., Hatano, T., Saito, S., Nameda, A., Inaba, M., and Sato, T., “Visualizing and Analyzing Cultural Voices in Computer-Mediated Communication through Social Gaming Simulation,” Proceedings of the 2nd International Conference on Cultural and Computing (Cultural and Computing 2011), pp. 181-182, Kyoto, Japan, Oct. 20-22, 2011.
8.Tamai, M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., and Nakamura, A. (2011). “Constructing a Platform for Situated Learning of Japanese Traditional Culture in the 3D Metaverse,” Proceedings of Osaka Symposium on Digital Humanities 2011, pp. 7-8, Osaka, Japan, Sep. 13, 2011.

図書

1.Saito,S., Ohno, S., and Inaba, M., “Structures and Evolution of Digital Humanities: An Empirical Research based on Correspondence Analysis and Co-word Analysis,” In Jieh Hsiang ed., From Preservation to Knowledge Creation: The Way to Digital Humanities, NTU Press, pp.169-182, Nov. 2011.

②論文（査読なし）

雑誌論文

1.細井浩一,福田一史,浅田恵祐,「大学アーカイブズの応用研究〜仮想空間＜バーチャル広小路＞の構築と運用」,『立命館百年史紀要』, 学校法人立命館, 第20号, pp.7-26, 2012年3月.
2.稲葉光行,「人文科学における e-リサーチのための Web 環境」『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』, ナカニシヤ出版, pp.1-24, 2012年3月.
3.細井浩一,中村彰憲,上村雅之,福田一史,大野晋,「ビデオゲームアーカイブと集合知：ゲームアーカイブ・プロジェクトの活動と成果」,『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』, ナカニシヤ出版, pp.45-67, 2012年3月.
4.尾鼻崇,上村雅之,「遊びしてのビデオゲーム研究―「ゲームプレイ」のビジュアライゼーションとアーカイビング」, 稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, pp.68-87,2012年3月.
5.尾鼻崇,上村雅之,「尾鼻崇・上村雅之「ゲーム・スタディーズのための研究基盤創生―ビデオゲームソフトウェア付属取扱説明書のオンラインデータベース構築」, 稲葉光行編『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』ナカニシヤ出版, pp.88-108,2012年3月.
6.玉井未知留, 稲葉光行, 細井浩一, Ruck Thawonmas, 上村雅之, 中村彰憲,「3D メタバースを用いた日本語・日本文化学習環境の構築」,『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』, ナカニシヤ出版, pp.109-126, 2012年3月.
7.浅田恵佑・細井浩一,「コミュニケーション支援環境としての仮想空間とその応用」,『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』, ナカニシヤ出版, pp.127-157, 2012年3月.
8.Sookhanaphibarn, K., Thawonmas, R., & 稲葉光行,「コミュニケーション支援環境としての仮想空間とその応用」,『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』, ナカニシヤ出版, pp.158-174, 2012年3月.
9.Inaba, M., ″Web Environment for e-Research in Humanities, ″Digital Humanities Research and Web Technology″, Nakanishiya Publishing, pp.175-196. (2012)
10.Hosoi, K., Nakamura, A., Uemura, M., Fukuda, K., and Ohno, S., ″Video Game Archive and Collective Knowledge: Practice and Achievement of Game Archive Project, ″Digital Humanities Research and Web Technology″, Nakanishiya Publishing, pp. 215-235. (2012)
11.Obana. T., and Uemura, M., ″Study of Video Game as Play: The Visualization and Archiving of 'Game Play', ″Digital Humanities Research and Web Technology″, Nakanishiya Publishing, pp. 236-255.(2012)
12.Obana. T., and Uemura, M., ″The Creation of Research Infrastructure for Game Status Building online database of user's guides provided with video game software, ″Digital Humanities Research and Web Technology″, Nakanishiya Publishing, pp. 256-273. (2012)
13.Tamai. M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., and Nakamura, A., ″Constructing Japanese Language/Culture Learning Environment Using 3D Metaverse, ″Digital Humanities Research and Web Technology″, Nakanishiya Publishing, pp. 274-292. (2012)
14.Asada, K., and Hosoi, K., ″A Metaverse as a Communication Support Environment and its Applications,

"Digital Humanities Research and Web Technology", Nakanishiya Publishing, pp. 293-319. (2012)
15.Sookhanaphibarn, K., Thawonmas, R., and Inaba, M., "Visual Analytics Tool for Visitor Circulation in Virtual Environments: A Case Study from a Gallery in Second Life, "Digital Humanities Research and Web Technology", Nakanishiya Publishing, pp. 320-334. (2012)
16.上村雅之,河村吉章,サイトウ・アキヒロ,尾鼻崇,吉田寛「〈老化〉するゲーム文化――ビデオゲームの三つのエイジングをめぐって」,立命館大学生存学研究センター編『生存学』Vol. 4, pp. 40-93, 2011 年 5 月.

図書

1.稲葉光行（編），『デジタル・ヒューマニティーズ研究と Web 技術』, ナカニシヤ出版, 2012 年 3 月.

２）学会発表

①海外での発表

1.Inaba, M., Tamai, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., & Nakamura, "A. Implementing Situated Learning of Japanese Traditional Culture in 3D Metaverse," Digital Humanities Australia 2012, Mar. 28-30, 2012. Canberra, Australia.【査読有】
2.Inaba, M., "Research and Development on Web-based Platforms for Scholarly Communication and Learning," Harvard-Ritsumeikan Symposium on Digital Humanities, Harvard University, Mar. 2, 2012. MA, USA.
3.Inaba, M., "Research Challenges and Opportunities for Digital Humanities," panel presentation with Peter K. Bol, Yung-fa Chen, and Jieh Hsiang), 3rd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities. Dec. 1-2, 2011. Taipei, Taiwan.
4.Nameda, A., Wakabayashi, K., Hatano, T., Saito, S., Inaba, M., & Sato, T., "Towards social application and sustainability of digital archives: The case study of 3D visualization of large-scale documents of the great Hanshin-Awaji earthquake," 3rd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities. Dec. 1-2, 2011. Taipei, Taiwan. 【査読有】

②国内での発表

1.尾鼻崇,「家庭用ビデオゲーム黎明期の「ゲームマニュアル」のデジタル・アーカイブ構築とその活用に関する総合的研究」,中山隼雄科学技術文化財団第 18 回研究成果発表会, 海運クラブ国際会議場, 2011 年 10 月 21 日.
2.白井史人, 尾鼻崇, 柴田康太郎, 高岡智子,「映画音楽研究のアクチュアリティ」, 日本音楽学会第 62 回大会, 東京大学, 2011 年 11 月 5 日.
3.尾鼻崇,「ゲームオーディオ機能論」, 日本デジタルゲーム学会第二回大会, 立命館大学, 2011 年 2 月 25 日.
4.Tamai, M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., and Nakamura, A., "Constructing a Platform for Situated Learning of Japanese Traditional Culture in the 3D Metaverse," Osaka Symposium of Digital Humanities 2011, Osaka(Japan), Osaka University, Mar.28-29, 2011
5.Tamai, M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., and Nakamura, A., "Constructing Situated Learning Platform for Japanese Language and Culture in 3D Metaverse", Culture and Computing 2011, Kyoto(Japan), Kyoto University, Oct.20-22, 2011
6.大森雅之, 片岡宏隆, 木谷紀子, 八重樫文, サイトウ・アキヒロ, 細井浩一,「ゲーム要素を用いた教材開発と学校での実践事例：得点力学習 DS シリーズとゲームニクス」, 日本デジタルゲーム学会, 2011 年次大会, 京都市・立命館大学, 2012 年 2 月 26 日.
7.福田一史,「ビデオゲーム産業におけるイノベーションと企業家の役割」, 日本デジタルゲーム学会, 2011 年次大会, 立命館大学, 2012 年 2 月 26 日.
8.渡辺修司, 中村彰憲,「ゲーム性の最小単位ルドと、世界の観察からゲーム性を見出す手法アソビタイズの提案」, 日本デジタルゲーム学会, 2011 年次大会, 京都市・立命館大学, 2012 年 2 月 26 日.
9.Inaba, M., and Rockwell, M. G., Joint sessions on "Web Technology Research Group", the 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011), Ritsumeikan University, 2011 年 11 月 19 日.
10.Tamai, M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., & Nakamura, A., "Constructing Situated

Learning Platform for Japanese Language and Culture in 3D Metaverse," 2nd International Conference on Cultural and Computing (Cultural and Computing 2011).Oct. 20-22, 2011. Kyoto, Japan.【査読有】

11.Kido, A., Wakabayashi, K., Hatano, T., Saito, S., Nameda, A., Inaba, M., & Sato, T., "Visualizing and Analyzing Cultural Voices in Computer-Mediated Communication through Social Gaming Simulation," 2nd International Conference on Cultural and Computing (Cultural and Computing 2011). Oct. 20-22, 2011. Kyoto, Japan.【査読有】

12.Inaba, M., Akama, R., Hachimura, K., Yano, K., Tomita, M., and Suzuki, K., "Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures at Ritsumeikan University," Osaka Symposium on Digital Humanities 2011, Osaka University, Sep. 14, 2011. Osaka, Japan.【査読有】

13.Tamai, M., Inaba, M., Hosoi, K., Thawonmas, R., Uemura, M., & Nakamura, A., "Constructing a Platform for Situated Learning of Japanese Traditional Culture in the 3D Metaverse," Osaka Symposium on Digital Humanities 2011, Sep. 13, 2011. Osaka, Japan.【査読有】

14.稲葉光行，「子どもを中心とした街づくりのための活動システムの構築」，活動理論学会・第1回大会，関西大学,大阪，2011年8月6日.

15.Inaba, M., "Collaborative activities for transcultural learning," The 7th International Symposium 'New Learning Challenges' (NLC2011), Jul. 30-31, 2011. Osaka, Japan.【査読無】

16.稲葉光行,「バーチャル空間を用いた日本文化理解支援」，パネルディスカッション「ICTが拓く多文化共生の未来」(重野亜久里，吉野孝，稲葉光行の共同発表)，多文化関係学会第１０回全国大会，青山学院大学，東京2011年9月17日.

17.稲葉光行,「子どもを中心とした街づくりのための活動システムの構築」，活動理論学会・第1回大会，関西大学，大阪、2011年8月6日.

18.吉田寛,「ビデオゲームの画面の独自性はどこまで記号学的方法によって定義・記述できるのか？」,日本記号学会第31回大会「ゲーム化する世界」，二松學舍大学，東京，2011年5月15日.

３）省庁、学会、財団などの表彰

なし

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1.競争的資金　メディア芸術デジタルアーカイブ事業（2012.4〜2013.3）（文化庁）
「ゲームアーカイブのための調査研究およびデータベース構築」　計2,000万円

2.競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ（H22〜H26）（日本学術振興会）
「メタバースを用いた日本文化に関する状況学習の支援環境に関する総合的研究」，稲葉光行（代表），細井浩一，中村彰憲，上村雅之，Ruck Thawonmas（分担），計1,930万円

3. 競争的資金　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ（H24〜H26）（日本学術振興会）
「子どもを中心とした地域創造のための協働学習活動―活動理論にもとづく研究開発―」，山住勝広（代表），稲葉光行，伊藤大輔，蓮見二郎（分担），計1,070万円

4.委託研究　（株）ベネッセコーポレーション（2011.12.2）
「ゲームニクスの教育教材における効果の研究」　735万円

5.委託研究　（株）KDDI研究所（2011.11.10）
「快適さ・楽しさの設計技術に関わる研究」　100万円

５）特許

①出願

なし

②取得

なし

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

なし

②講演会

1. 細井浩一, 「コンテンツ産業の新しいカタチと地域振興モデル」, 『中野コンテンツネットワーク設立プレイベント』, 東京都・東京テクニカルカレッジ, 2011 年 11 月 14 日.
2. 吉田寛, 「文化庁メディア芸術祭の歴史にみるゲーム」, シンポジウム「メディア芸術の中のゲーム――これまでとこれから」, 文化庁メディア芸術祭京都展エンターテイメント部門「ゲームってアートなの?――エンターテイメントのいま・これから」, 京都, 京都国立近代美術館, 2011 年 11 月 5 日.
3. 吉田寛, 「〈カジュアル革命〉とゲーム文化のこれから」、シンポジウム「カジュアル化・ソーシャル化するゲーム――エンターテインメントの未来」, 文化庁メディア芸術祭京都展エンターテイメント部門「ゲームってアートなの?――エンターテイメントのいま・これから」, 京都, 京都国立近代美術館, 2011 年 11 月 6 日.

③その他

なし

以上

2011 年度　研究センター事業報告書

研究センター名	立命館サステイナビリティ学研究センター
研究センター長名	中島 淳 （理工学部・教授）

Ⅰ. 研究実績の概要 (公開項目)
1. 外部研究資金による研究活動 ・「デジタル技術の活用によるサステイナビリティの振興を図るための基礎的研究」受 託 先：株式会社オーリッド、研究担当者：モンテ・カセム 政策科学部・教授、研究経費：31,500 千円、受託期間：2011 年 8 月 9 日～2016 年 3 月 31 日 ・「気候変動による水資源環境影響評価分析と統合的水管理」、科研費補助金基盤 B、研究代表者：仲上健一政策科学部教授、研究経費総額：17,550 千円、研究期間：2008 年度～2011 年度 ・「低炭素社会に向けての各種経済的手法の短・中・長期的及びポリシーミックス効果の評価」、環境省・環境と経済の政策研究（滋賀大学から再委託）、研究代表者：竹濱朝美産業社会学部教授、小杉隆信政策科学部准教授、研究経費：3,000 千円 ・"Revitalizing Communities Imperiled by Agro-forestry Transformations Caused by Climate Change"、トヨタ財団、モンテ・カセム政策科学部教授、研究期間：2009.11～2012.4 2. 学内資金による研究活動 ・「低炭素社会実現のための基盤技術開発と戦略的イノベーション」、R-GIRO 研究推進プログラム、研究代表者：周瑋生政策科学部教授、研究経費：50,000 千円、研究期間：2008 年度～2012 年度 ・「岩手県宮古市を対象とする生活域と産業域における浸水被害からの復興と創造的地域づくりの研究」、東日本大震災研究推進プログラム、研究代表者：中島淳理工学部教授 ・「低炭素社会実現のための基盤技術開発と戦略的イノベーション」、東日本大震災研究推進プログラム、研究代表者：周瑋生政策科学部教授 3. RCS フォーラムの開催 学際的研究をさらに推進し、新しい共同研究の萌芽の場として、RCS フォーラムを下記のスケジュールで開催した。 (1)第 1 回 RCS フォーラム（2011.11.19） 小杉隆信・政策科学部准教授、Wang Tao・総合理工学研究機構 PD、赤堀次郎・理工学部教授、Andrea Macrina 氏による研究報告。 (2)第 2 回 RCS フォーラム（2011.12.19 立命館地球環境委員会第3回シンポジウムと共催）-立命館を変える、地球を変える- 仲上健一・政策科学部教授による開会挨拶。森岡泰雄・管財課課長補佐、下田吉之・大阪大学工学研究科教授、学生起業団体 AIO、小谷善行・文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課専門官による研究報告。小谷善行・文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課専門官、久保久志・東畑建築事務所名古屋事務所設計部技師、島田幸司・経済学部教授、上杉兼司・立命館中学校・高等学校副校長によるパネルディスカッション（コーディネーター：近本智行・理工学部教授）。 (3)第 3 回 RCS フォーラム（2012. 1.27） RCS における森林プロジェクトの推移と今後の展開 酒井達雄・総合理工学研究機構教授、三浦逸朗・ミウラノパートナーシップ有限会社、加藤久明・総合地球環境学研究所プロジェクト研究推進支援員による研究報告。 (4)第 4 回 RCS フォーラム（2012. 2.29, 2012. 3. 2）The economics of pollution control Luca Taschini, Research Fellow, Grantham Research Institute on Climate Change onad Environment, London School of Economics による研究報告。 4. RCS ワークショップの開催 領域にとらわれない多分野の専門家を招き、院生や学外者を含めた自由闊達なワークショップを、下記のスケジュールで開

催した(政策科学研究科オープンリサーチとの共同開催)。

(1)第21回RCSワークショップ (2011.04.28)

周瑋生・立命館大学政策科学部教授、平澤圭市郎・NPO 法人中日文化経済交流協会プロジェクト管理総括、坂本和一・立命館大学名誉教授;初代立命館アジア太平洋大学学長による研究報告。

(2)第22回RCSワークショップ (2011.05.26)

大瀧正子・立命館大学非常勤講師、小泉国茂・RCS客員研究員による研究報告。

(3)第23回RCSワークショップ (2011.06.23)

原圭史郎・大阪大学環境イノベーションデザインセンター特任准教授、濱崎加奈子・伝統文化プロデュ ス連REN代表による研究報告。

(4)第24回RCSワークショップ (2011.07.28)

秋山道雄・滋賀県立大学環境科学部教授、春名攻・総合理工学研究機構・特別任用教授、脇澤學・PM 工房/RCS 客員研究員、山田幸一郎・CAP/RCS客員研究員による研究報告(後者3名は共同研究者)。

5. その他

(1)江南大学との研究交流(2011.5.26)

水循環型生存の研究領域の一環として継続的に行われてきた、中国・太湖の水質浄化・環境再生研究をさらに発展させるため、江南大学と研究交流についての備忘録を作成した。また、研究ワークショップ「太鼓環境再生と低炭素社会」を江南大学発展研究院にて開催し、仲上健一・政策科学部教授、周瑋生・政策科学部教授及び徐立青・江南大学江南発展研究院教授が研究発表を行った。

(2)SSC研究集会(2011.6.10)

IR3S の研究教育・普及啓発活動をさらに発展させる目的で設立された社団法人サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)のシンポジウム「震災復興とサステイナビリティ学の役割」において、仲上健一・政策科学部教授が報告を行った。

(3)大連理工大学能源研究院との学術交流協定締結(2011.10.13)

経済・エネルギー・環境と国際関係分野の教育や学術研究などの交流協力活動を積極的に推進することを目的として、(1)研究プロジェクトの共同推進、(2)国際研究会の共催、(3)その他、教員・学生間の交流、を推進するため、協定書を締結した。

(4)サステイナビリティ学講座の開催(2011.10.20、2011.10.28、2011.11. 7)

テキスト作成を通じたサステイナビリティ・サイエンスとサステイナビリティ・スタディの整理、若手研究者のコミュニティの拡大、サステイナビリティ学の学問としての体系化、学生のサステイナビリティ学に対する理解増進(特に留学生)などを目的として、下記内容にて講座を開催した(全て英語)。

Monte Cassim, Professor of Policy Science, "Sustainability Science, What is it? Why is it important? What can we do? module 1- overview, concept, definition, -module 2- the underlying science, -module 3- methodologies, indicators, -module 4- measurement, policy guidelines-1, -module 5- action, policy guidelines 2"

(5)WHO 安全コミュニティ月報の編集者による被災地での自殺予防プログラムの講演会実施(2011.11.17)

タイトル:Community Approach for Suicide Prevention: A Global Perspective.

講 師:Dr. Koustuv Dalal, Associate Professor, linköping university.

(6)アジア太平洋国際学会(IAAPS)の開催(APUと共催、下記2セッションをRCSが担当)(2011.11.27)

・Climate Change and Sustainable Agriculture (座長:中島淳・理工学部教授)

６件の研究発表のうち、次の７名のRCS研究者が研究発表に関わった。

Nishanta Giguruwa, Kojo Amano, Koji Shimada, Motoki Kubo, Xuepeng Qian, Ken Arai, Monte Cassim.

・Sustainable Tourism and Urban Sustainable Development (座長:仲上健一・政策科学部教授)

3件の研究発表のうち、次の4名のRCS研究者が研究発表に関わった。

Jung-Hwan Park, Monte Cassim, G.D. Nishantha GIGURUWA, Malcolm COOPER。

(7)エコプロダクツ2011出展(2011.12.15～2011.12.17の3日間)

RCSの研究発信を目的として、共通教育課、琵琶湖Σ研究センターとともに出展。高能率多連式エコ疲労試験機の現物展示(酒井達雄・総合理工学研究機構教授・株式会社山本金属製作所)、国際低炭素総合モデルパーク事業のパネル展示(周瑋生・政策科学部教授)、カーボンフットプリントを算定した「はなふじ米」の現物展示(理工学部環境システム研究室)を行った。

Ⅱ. 研究業績（公開項目）

1）論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 小杉隆信「太陽光発電システムの最適普及経路と電力固定買取価格に関する定量分析」,『政策科学』, 19 巻 2 号, 1-13 頁（2012 年 2 月）
2. Md. Mahmudul Hasan, Md. Shafiquzzaman, Md. Shafiul Azam, Jun Nakajima: Application of a simple ceramic filter to membrane bioreactor, *Desalination*, Vol. 276, 272-277, 2011
3. Shafiquzzaman, Md., Md. Shafiul Azam,Jun Nakajima, Quazi H. Bari: Investigation of arsenic removal performance by a simple iron removal ceramic filter in rural households of Bangladesh, *Desalination*, Vol. 265,60-66, 2011
4. 中村裕紀、酒井達雄、菊池将一、平野秀夫、戸本隆道「アルミニウム合金の超高サイクル域回転曲げ疲労特性に及ぼすめっきおよび溶射の影響」、『設計工学』、Vol.46, No.8 (2011), pp.468-475.
5. Yanbin ZHANG, Tatsuo SAKAI, Hiroki OSUKI, Taizo YAMAMOTO and Akio KOKUBU, "Very High Cycle Fatigue Characteristics of Zr-base Bulk Amorphous Alloy in Rotating Bending", *Journal of Solid Mechanics and Materials Engineering*, Vol.5, No.10, (2011), pp.519-533.
6. Wei LI, Tatsuo SAKAI, Qiang LI, Tao L. LU and Ping WANG, "Effect of Loading Type on Fatigue Properties of High Strength Bearing Steel in Very High Cycle Regime", *Materials Science and Engineering*, A, Vol.528, No.15, (2011), pp.5044-5052.
7. Weijun Gao and Hongbo REN, An Optimization Model Based Decision Support System for Distributed Energy Systems Planning, *International Journal of Innovative Computing, Information and Control*, Vol. 7(5), pp 2651-2668, May. 2011
8. 花木　聡、岡田憲司、境田彰芳、菅田　淳、西川　出、上野　明、酒井達雄「金属材料疲労強度データベースによる機械構造用鋼の疲労信頼性に関する解析結果」、『材料』、Vol.61、 No.2、pp. 98-105、2012.
9. Hongbo REN, Weisheng ZHOU and Weijun GAO, Optimal Option of Distributed Energy Systems for Building Complexes in Different Climate Zones in China, *Applied Energy*, Vol.91,No. 1, pp 156-165, 2012-3.
10. Hongbo Ren, Weisheng Zhou, Weijun Gao and Qiong Wu, Promotion of Energy Conservation in Developing Countries through the Combination of ESCO and CDM: A Case Study of Introducing Distributed Energy Resources into Chinese Urban Areas, *Energy Policy,* Vol.39, No.12, pp 8125-8136, 2011-12.
11. Md. Shafiquzzaman, Md. Mahmudul Hasan, Jun Nakajima, Iori Mishima, Development of a Simple, Effective Ceramic Filter for Arsenic Removal, *J. Water and Environment Technology*, Vol.9, No.3, pp 333-347, 2011.
12. Md. Mahmudul Hasan, Md. Shafiquzzaman, Md. Shafiul Azam, Jun Nakajima, Application of a simple ceramic filter to membrane bioreactor, *Desalination*, Vol. 276, pp 272-277, 2011.
13. 仲上健一、加藤久明、濱崎宏則「環境イノベーションと社会経済」、『国際公共経済研究』、Vol.22、pp.54-60、2011-11.
14. 酒井達雄「すぐに役立つ材料強度と疲労寿命データの解析方法」、『トライボロジスト』、Vol.56、No.11、pp.659-664、2011.
15. 酒井達雄、菅田　淳、西川　出、首藤俊夫、上野　明「我国の ICT 技術の発達・普及と材料系電子データベース構築の原点」、『材料』、Vol.61, No.3, pp.308-315, 2012.
16. Xuanming Su, Weisheng Zhou, Ken'Ichi Nakagami, Hongbo Ren, Hailin Mu, Capital Stock-Labor-Energy Substitution and Production Efficiency Study for China, *Energy Economics*.2012.
17. Xuanming Su、Weisheng Zhou、 Hongbo Ren、 Ken'ichi Nakagami、「Co-benefit Analysis of Carbon Emission Reduction Measures for China, Japan and Korea」、『政策科学』、Vol.19、No.2、pp.99-112、2012-2.

18. Yanbin ZHANG, Tatsuo SAKAI, Hiroki OSUKI, Taizo YAMAMOTO and Akio KOKUBU, Very High Cycle Fatigue Characteristics of Zr-base Bulk Amorphous Alloy in Rotating Bending, *Journal of Solid Mechanics and Materials Engineering*, Vol.5, No.10, pp.519-533, 2011.
19. 中村裕紀、酒井達雄、菊池将一、平野秀夫、戸本隆道「アルミニウム合金の超高サイクル域回転曲げ疲労特性に及ぼすめっきおよび溶射の影響」、『設計工学』、Vol.46, No.8 (2011), pp.468-475.

図書

1. Ken'ichi Nakagami, Hironori Hamasaki and Myat New Khin. "Resource-circulating Society and Water Security". *IR3S-UNU Book Series Sustainability Science Vol.3, Establishing a Resource-Circulating Society in Asia Challenges and Opportunities*. Edited by Tohru Morioka, Keisuke Hanaki and Yuichi Moriguchi, United Nations University Press, 2011, pp.235-246
2. Ken'ichi Nakagami, Kazuyuki Doi, Yoshito Yuyama and Hidetsugu Morimoto. "4-1 Biomass town development and opportunities for integrated biomass utilization". *Designing our future: Local perspectives on bioproduction, ecosystems and humanity*. United Nations University Press, 2011, pp.148-162
3. W. Zhou, K. Koizumi, "Propriety of the trans-boundary trade of recyclable waste and contribution to realize the Low-carbon society - Study on the Construction of win-win Global Recycling System between Japan and China –", *IR3S-UNU Book Series Sustainability Science Vol.3, Establishing a Resource-Circulating Society in Asia Challenges and Opportunities*, United Nations University Press, 2011.
4. 酒井達雄『金属疲労の基本と仕組み』. 秀和システム, 2011
5. 仲上健一「はじめに」「"第 10 章サステイナブル社会の構築と環境政策情報の意味」中道寿一, 仲上健一編『サステイナブル社会の構築と政策情報学: 環境情報の視点から』、福村出版, 2011 年 8 月
6. 周　瑋生 「第 8 章　戦略的な環境計画と政策のマネジメントシステムの構築」、『サステナブル社会の構築と政策情報学』、中道寿一, 仲上健一編、福村出版、2011 年 8 月。
7. 山崎雅人「業種細分化モデルによる CO2 排出規制の産業影響評価」、『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、pp63-80、日本評論社、2012-3.
8. 武田史郎、杉野誠、有村俊秀、山崎雅人「排出量取引の国際リンク及び CDM の経済分析」、『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、pp41-61、日本評論社、2012-3.
9. 高尾克樹「第 13 章　外部費用としての原子力発電所災害－風評被害の検討のために」和泉潤編『東日本大震災復旧・復興への提言』技報堂出版、2012 年
10. 薬師寺公夫「国連国家免除条約の起草過程及び条約内容の特徴－法典化及び漸進的発達との関連でー」、『変革期の国際法委員会』（新山社）453－507 頁、2011
11. 薬師寺公夫「国際機構の利用に供された国家機関の行為の帰属問題と派遣国の責任」松田竹男・田中則夫・薬師寺公夫・坂元茂樹編集代表『現代国際法の思想と構造　I 歴史、国家、機構、条約、人権』（東信堂）183－235 頁、2011

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 竹濱朝美・梶山恵司「再生可能エネルギー買い取り制度（FIT）の費用と効果」, 植田和弘・梶山恵司編著, 『国民のためのエネルギー原論』, 日本経済新聞社, 2011 年, pp.195-223.
2. 竹濱朝美「再エネ普及のカギは買い取り価格、参考になるドイツの先進性」, 『エコノミスト』, 2011 年 9 月 6 日号、pp.84-86.
3. 小杉隆信「太陽光発電および定置用燃料電池システムに関する量産効果を考慮した技術開発・普及戦略」, 『季刊環境研究』, 161 号, 150～155 頁, 2011 年 5 月.
4. 小杉隆信「太陽光発電システムの最適普及経路と電力固定買取価格に関する定量分析」、『政策科学』、Vol.19、No. 2、pp.1-13、2012-2.
5. 小松秀徳、杉山昌広、小杉隆信、杉山大志「地球温暖化の不確実性と気候工学の役割」、『エネルギー・資源学

会論文誌』、Vol.33、No.2、pp.16-25、2012-3.

6. 仲上健一「「脱ダム宣言」政策の挑戦と第3の道の模索」、『環境技術』、Vol.40、No.10 pp.578-582、2011-10.
7. 仲上健一、濱崎宏則、野中淳子「メコン河流域開発と気候変動への戦略的適応策」、『環境技術』、Vol.40、No.9 pp.525-530、2011-9.
8. 周瑋生、銭学鵬、大家允文「中国気候変動政策の歴史的変遷に関する研究―ローカル環境問題からグローバル環境問題へ」、『政策科学』、Vol.19、No.2、2012-2.
9. Xuepeng Qian、Koichiro Yamada、Weisheng Zhou、Study on Win-Win International Cooperation for East Asia Low Carbon Community、『2011年日中科学技術シンポジウム論文集』、2011-10.
10. Qiong Wu, Weijun Gao, Hongbo Ren, A simulation-based analysis of photovoltaic system adoption for residential buildings in Asian countries, Proceedings of AIRAH Building Simulation Conference 2011: driving better design through simulation, 2011-11.
11. Qunyin GU, Hongbo REN, Weijun Gao, Jiangxing REN, Yongwen YANG, Adoption analysis of distributed energy resource with the climate consideration in hospital facilities of Japan, Proceedings of AIRAH Building Simulation Conference 2011: driving better design through simulation, 2011-11.
12. Tatsuo SAKAI, Wei LI, Benning LIAN and Noriyasu OGUMA, "Review on Fatigue Crack Initiation Mechanisms of Interior Inclusion-induced Fracture of Metallic Materials in Very High Cycle Regime", Proceedings of ICCES'11, (2011), CD-ROM, Nanjing, China.
13. Tatsuo SAKAI, Wei LI, Benning LIAN and Noriyasu OGUMA, "Review and New Analysis on Fatigue Crack Initiation Mechanisms of Interior Inclusion-induced Fracture of High Strength Steels in Very High Cycle Regime", Proceedings of VHCF-5, (2011), pp.19-26.
14. Noriyasu OGUMA, Tatsuo SAKAI, Kouichi WATANABE and Yasuhiro ODAKE, "Influence of Martensitic Quenching on Fatigue Property of High Carbon Chromium Bearing Steel under Rotating Bending", Proceedings of VHCF-5, (2011),pp.95-100.
15. Noriyuki NINOMIYA, Yosuke NAKAMORI, Tatsuo SAKAI, Shoichi KIKUCHI, Yuki NAKAMURA and Mitsuji UEDA, "A Study on Very High Cycle Fatigue Property of Low Flamability Magnesium Alloy in Rotating Bending and Axial Loading", Proceedings of VHCF-5, (2011),pp.309-314.
16. Akira UENO, Tatsuo SAKAI, Akiyoshi SAKAIDA, Kazuo ISONISHI, Toshio SHUTO and T. OYATSU, "Current JSMS Factual Fatigue Database and Database System Including VHCF Data", Proceedings of VHCF-5, (2011), pp.603-608.

図書

２）学会発表

①海外での発表

1. Efendi Agus Waluyo, Taku Terawaki, 「Environmental Kuznets Curve for Deforestation in Indonesia: An ARDL Bounds Testing Approach」, The 2nd Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics, Bandung, Indonesia, 2012年2月4日
2. Takanobu Kosugi: "A simple feedback control approach for economic measures to deploy new energy technologies," The First International 100% Renewable Energy Conference and Exhibition, Türkan Saylan Cultural Center, Turkey (October 8, 2011)
3. Takanobu Kosugi. "Climate-economy modeling considering solar radiation management and its termination risk," The First International Conference on Simulation and Modeling Methodologies, Technologies and Applications, Noordwijkerhout, The Netherlands, 29-31 July, 2011.
4. 加藤久明「統合的水資源管理に求められるガバナンス: 水土を支えてきた知、コンヴィヴィアルな組織論という視点から.」Shanghai Water Security Workshop 2011, Tongji University(Shanghai, China), 2011年08月30日

5. 仲上健一「気候変動による水資源環境影響と戦略的適応策」 Shanghai Water Security Workshop 2011, Tongji University(Shanghai, China), 2011 年 08 月 30 日
6. 仲上健一「太湖の環境再生と循環型社会の構築-日本の経験と教訓」、『「太湖環境再生と低炭素社会」ワークショップ』, 2011 年 5 月 16 日, 江南大学発展研究院（中国・無錫市）
7. 周瑋生「環太湖経済圏と経済特区構想」、『「太湖環境再生と低炭素社会」ワークショップ』、江南大学（無錫）、2011.05.16.
8. 周瑋生「気候変動対策と国際低炭素戦略構築」、『低炭素戦略研究国際ワークショップ』、基調講演、大連理工大学、2011.6.26.
9. 銭学鵬「実証モデル事業に関するエコデザイン」『低炭素戦略研究国際ワークショップ』, 2011 年 6 月 26 日, 大連理工大学（中国・大連市）
10. Ken'ichi Nakagami, Water Resources and Environment Impact caused by Climate Change and Strategic Adaptation, International Conference on Sustainability Science in Asia (in Bali), 2012.1.12.
11. Ken'ichi Nakagami, Water Resources and Environment Impact caused by Climate Change and Strategic Adaptation - Towards for the Great East Japan Earhquake -, Bangladesh Water Security Workshop 2011 (in Dhaka), 2011.12.26.
12. Takanobu Kosugi, A simple feedback control approach for economic measures to deploy new energy technologies, The First International 100% Renewable Energy Conference and Exhibition (in Turkey), 2011.10.8.

②国内での発表

1. 寺脇拓「地域環境質への自発的労働貢献とその経済的誘因」、環境経済・政策学会 2011 年大会、長崎大学、長崎市、2011 年 9 月 23 日
2. 小泉國茂　「中小企業の事業継続計画（BCP）の普及活動の有効性の検証-支援組織とのコラボレーションによる BCP 作成研修実践を通じて-」、工業経営研究学会・第 26 回全国大会摂南大学、2011.9.3
3. 花木聡、岡田憲司、境田彰芳、菅田淳、西川出、上野明、酒井達雄「金属材料疲労強度データベースによる機械構造用鋼の回転曲げ疲労特性解析の試み」、日本材料学会創立 60 周年記念総会講演会、講演論文集、(2011-5), CD-ROM.
4. 中村裕紀、望田修也、菊池将一、酒井達雄「アルミニウム合金の超高サイクル域回転曲げ疲労特性に及ぼすアルマイト被膜厚さの影響」、日本機械学会 M&M2011 カンファレンス,(2011.7.16-18), OS0611
5. 丹治直之、脇田将見、三村真吾、上野明、菊池将一、酒井達雄「高清浄度弁ばね鋼の超高サイクル回転曲げ疲労特性に関する研究」、日本機械学会 M&M2011 カンファレンス,(2011.7.16-18), OS0611 (2011), OS0605
6. 王新輝, 加藤久明, 仲上健一「節水型都市構築のための国際水安全協力事業の展望」. 水資源・環境学会 2011 年度研究大会, 2011 年 06 月 04 日, 長岡京市中央生涯学習センター
7. 仲上健一「震災復興とソーシャル・セキュリティの構築：学会連携・震災対応プロジェクトの活動より」サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム, サステイナビリティ学連携研究機構, サステイナビリティ学教育研究センター研究集会,2011 年 06 月 10 日, 北海道大学クラーク会館大集会室
8. 仲上健一「震災復興とサステイナビリティ学の役割(パネルディスカッション「SSC は何ができるのか？」)」, サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム、サステイナビリティ学連携研究機構, サステイナビリティ学教育研究センター研究集会, 2011 年 06 月 10 日, 北海道大学クラーク会館大集会室
9. 仲上健一 WATER RESOURCES AND ENVIRONMENT IMPACT CAUSED BY CLIMATE CHANGE AND STRATEGIC ADAPTATION, Ritsumeikan Asia Pacific University,Graduate GP Program,Environmental Opinion Leaders for Asia Pacific(ENVOL)Program,2011 ENVOL International Symposium, 2011 年 9 月 22 日、立命館アジア太平洋大学
10. Du Le Thuy Tien, Xuepeng Qian and Ken Arii. THE CHALLENGES AND OPPORTUNITIES OF BAMBOO INDUSTRY IN JAPAN, Ritsumeikan Asia Pacific University,Graduate GP Program,Environmental Opinion Leaders for Asia Pacific (ENVOL) Program, 2011 ENVOL International

Symposium, 2011 年 9 月 22 日、立命館アジア太平洋大学

11. 金本紗季、得地勇亮、Supattra Jiawkok、Md. Mahmudul Hasan、中島　淳「洗剤を含む生活雑排水再利用のための再生処理」、第 46 回日本水環境学会年会、2012.3.14-16.
12. 加藤久明、仲上健一「『水土の知』としての統合的水資源管理：その再検討に向けた視点の検討」、政策情報学会第 7 回研究大会、2011.11.12.
13. Ken'ichi Nakagami, Water Resources and Environment Impact caused by Climate Change and Strategic Adaptation 'New Paradigm' of Integrated Water Resources Management, Side Event in the Japanese Pavilion of WWF6 "Designing Framework of Local Water Management under the Context of Integrated Water Resources Management", 2012.3.16.
14. Ken'ichi Nakagami, Sustainable Tourism and Sustainable Urban Development, International Association for Asia Pacific Studies 2nd Annual Conference, 2011.11.27.
15. LI Fan, QIAN Xuepeng and ZHOU Weisheng, Potential Assessment of Residential Solar Power System Utilization in Japanese Regional Central Cities, The 48th Japan Section of the Regional Science Association Conference, 2011.10.8-10.
16. Md. Mahmudul Hasan, Md. Shafiquzzaman, Jun Nakajima and Quazi Hamidul Bari, Application of a Simple Arsenic Removal Filter in a Rural Area of Bangladesh, the 4th ASPIRE Conference, 2011-10.
17. 仲上健一「震災復興と日本再生のための政策対応・制度改革」、国際公共経済学会第２６回研究大会、2011.12.4.
18. 仲上健一「市民の基本的日常サービスを満たす公共・社会・協同的経済－２０１２年ＣＩＲＩＥＣウィーン大会に向けてー」、国際公共経済学会第２６回研究大会、2011.12.3.
19. 奥谷真衣、冨村隼平、Tuyet Thi Tran、Md. Mahmudul Hasan、中島　淳「粒径の異なる汚泥炭化物による MBR 膜ファウリングの抑制」、第 46 回日本水環境学会年会、2012.3.14-16.
20. 得地勇亮、Jiawkok Supattra、中島　淳、Ittisupornrat Suda、Chittima Charudacha「バンコク近郊地域における生活雑排水の特性と再生・再利用の可能性」、日本水処理生物学会第 48 回大会、2011.11. 16-18.
21. Xuepeng Qian、Weisheng Zhou, Study on Pairing Support System for Disaster Recovery, 政策情報学会第 7 回研究大会、2011.11.12.
22. Xuepeng Qian、Ken Arii、Study on Bamboo Forest and Industry in Japan as One Possible Solution for Low-carbon Society、2nd Annual Conference of International Association for Asia Pacific Studies, 2011.11.27.
23. 仲上健一、李建華、 Mr. Giasuddin Ahmed Choudhury （Executive Director, CEGIS） Dr.HAN Ji(Nagoya University) 濱崎宏則, Water Security in Asia -Case Study of Japan,China and Bangladesh-, Ritsumeikn Asia Pacific University Grduate GP Program Environmental Opinion Leaders for the Asia Pacific(ENVOL)Program 2012 ENVOLInternational Round Table, 2012 年 1 月 29 日

３）省庁、学会、財団などの表彰

1. 日本地域学会「優秀発表賞」(受賞者 : LI Fan,発表者： LI Fan, QIAN Xuepeng and ZHOU Weisheng, 論文：Potential Assessment of Residential Solar Power System Utilization in Japanese Regional Central Cities.)

４）外部資金獲得（競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等）

1. 住友財団「琵琶湖・淀川水系の流域管理の再考─住民参加・地域主権の視点から─」仲上健一、2011 年 10 月～2012 年 9 月、１百万円
2. 科研費基盤 B「気候変動による水資源環境影響評価分析と統合的水管理 」仲上健一、2008 年度～2011 年度、17,550 千円
3. 環境省・環境と経済の政策研究（滋賀大学から再委託）「低炭素社会に向けての各種経済的手法の短・中・長期的及びポリシーミックス効果の評価」、竹濱朝美・小杉隆信、2011 年度、3,000 千円
4. 受託研究「デジタル技術の活用によるサステイナビリティの振興を図るための基礎的研究」受 託 先：株式会社オーリッド、研究担当者：モンテ･カセム、2011 年 8 月 9 日～2016 年 3 月 31 日、31,500 千円、
5. トヨタ財団 "Revitalizing Communities Imperiled by Agro-forestry Transformations Caused by Climate

Change"、モンテ・カセム、2009.11～2012.4、6,500 千円
6. 受託研究:「垂直軸型風力発電機の実機による発電特性の解析」、生田産機工業（株)、735,000 円
7. 受託研究：「自然エネルギー総合利用のための基盤技術確立に関する研究」、生田産機工業(株)、265,000 円

５）特許

①出願

②取得

６）その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

1. Weisheng Zhou, Powering Japan's future, The Japan Times、Sunday, July 24, 2011.

②講演会

1. 周瑋生、「気候枠組みにおける日米中連携の可能性」、環境省国際環境研究会、特別講演、東京環境省、2011.05.09
2. 周瑋生、「中国の第 12 次 5 カ年計画について—エネルギーと自動車の政策を中心に」、第 253 回科学技術展望懇談会、招待講演、科学技術展望懇談会、東京帝国ホテル、2011.5.20.
3. 周瑋生、「環境協力と戦略的互恵型日中関係への展望」、京都府日中友好協会 2011 年度定期総会、記念講演、京都、2011.05.21.
4. 周瑋生、「実装研究事業—国際低炭素総合モデルパーク事業構想」、第 10 回立命館低炭素戦略研究会、立命館大学、20111.05.28.
5. 周瑋生、「「東アジア低炭素共同体」の具現化に向けて—国際低炭素総合モデルパーク事業構想」、京都府中小企業技術センター主催、特別講演、京都、2011.6.8.
6. 周瑋生、「中国におけるエネルギー情勢・政策とエネルギーニーズ」、近畿経済産業局主催「省エネビジネス海外展開セミナー」、基調講演、追手門学院、2011.7.19。
7. Ritsumeikan Asia Pacific University Graduate GP Program Environmental Opinion Leaders for the Asia Pacific(ENVOL) Program - 2012 ENVOL International Round Table, 2012.1.29.
8. Ken'ichi Nakagami, Wisdom of Land and Water Management Framework on Bali and Strategic Adaptation towards Climate Change, Workshop of the Research Project on Wisdom of Land and Water Management, 2011.11.14.
9. Ken'ichi Nakagami, Water Resources and Environment Impact caused by Climate Change and Strategic Adaptation, Ritsumeikan Asia Pacific University, Graduate GP Program, Environmental Opinion Leaders for Asia Pacific(ENVOL)Program, 2011 ENVOL International Symposium,2011.9.23.
10. 仲上健一、「GMS 開発とヴェトナムにおける環境保全」、立命館大学国際セミナー ASEAN・Divide の克服とメコン川地域開発(GMS)、2012.3.9.
11. 仲上健一、「水危機に対応するウォーター・ビジネスの可能性」、関西経済連合会・立命館大学「インフラビジネス講演会」、2011.11.29.
12. 仲上健一、「今後のカーボン・クレジットの行方」、シンポジウム「今後のカーボン・クレジットの行方、2011.11.27.
13. 仲上健一、「中国崇明島と水土の知」、智の木協会ワークショップ、2011.11.8.
14. 仲上健一、「震災復興 一国の役割と地方の役割, 公の役割と民の役割一」、学会連携シンポジウム「震災復興 一国の役割と地方の役割, 公の役割と民の役割一」、2010.10.9.
15. 周瑋生、「環太湖低炭素経済圏構想と日中協力」、無錫国際フォーラム(無錫市政府主催)、2011.11.19.
16. 周瑋生、「原子力政策と東アジア原発安全保障枠組みの構築」、国際ロータリー第 2650 地区洛中クラブ、2011.11.15.
17. 周瑋生、「東アジア低炭素共同体」構想と日中韓３国の戦略互恵型協力、日中韓フォーラム（同済大学アジア太平洋研究センター主催)、2011.11.11.
18. 周瑋生、「複合型災害の救援復興のための『政策特区構想』」、複合型災害の救援復興日中シンポジウム（四川大

学災害復興と管理学院・立命館大学政策科学部共催)、2011.11.08.

19. 周瑋生、「気候変動枠組みにおける中国の内的課題」、2011 日中科学技術シンポジウム「持続可能な社会を目指して一科学技術者は何ができるか」(（社）日本技術士会近畿支部主催)、2011.10.29.
20. 山崎雅人、「貿易自由化と日本農業-応用一般均衡モデルによる定量評価」、立命館グローバルイノベーション研究機構(R-GIRO)シンポジウム「立命館が考える農業の六次産業化」（ショートプレゼンテーションおよびポスター発表)、2012.3.16.

③その他

1. 寺脇拓、「書評：柘植隆宏・栗山浩一・三谷羊平編著『環境評価の最新テクニックー表明選好法・顕示選好法・実験経済学ー』」、『経済セミナー』、日本評論社、664 号、p.129、(2012)
2. 小杉隆信「地球温暖化の抑制と再生可能エネルギーの利用」，エコひょうご（財団法人ひょうご環境創造協会情報誌），62 号，1-2 頁（2011 年 12 月）

以上